

第10回八千代市市民意識調査

報 告 書

平成28年 3 月



は じ め に

本市では、まちづくりを進めていく上での総合的な行政運営の指針となる第4次総合計画（基本構想、基本計画、実施計画）を平成23年度からスタートさせ、前期基本計画（平成23年度～平成27年度）に基づいて諸施策を展開、推進してまいりました。

このたび実施いたしました「第10回八千代市市民意識調査」は、本年3月策定予定の後期基本計画（平成28年度～平成32年度）の中に、市民の皆様のご意見やご要望を反映させていくとともに、日常の行政運営の基礎資料として活用させていただくことを目的に行いました。

本調査は昭和47年から継続的に実施され、今回で第10回目となりますが、従前は別に行っていた、前期基本計画で設定した指標のうち、数量で計れない定性的なものについての満足度調査も併せて行い、市民のみなさまの市政に対する貴重なご意見やご提言を伺うことができました。

本報告書は、調査の回答内容、分析結果を収録したものであります。本市の将来都市像の実現に向けて、貴重な資料として十分活用を図ってまいりたいと思います。

最後に、この調査の実施にあたりまして、ご協力いただきました皆様に厚く御礼申し上げます。

平成28年3月

八千代市長 秋 葉 就 一

目 次

I	調査実施の概要	3
1	調査目的	3
2	調査設計	3
3	調査実施機関	3
4	調査内容	4
5	居住地区分	6
6	回収結果	7
7	報告書の見方	7
8	標本誤差	10
II	調査回答者の属性	13
1	性別	13
2	年齢	13
3	家族構成	13
4	職業	14
5	住居形態	14
6	居住地	15
III	単純集計結果	19
1	単純集計結果	19
IV	調査結果の要約	43
1	八千代市のイメージについて	43
2	定住意向について	43
3	「地域との関わり合い」について	43
4	「行政サービスの在り方」について	44
5	八千代市が力を入れて取り組むべき施策について	44
6	高齢化社会について	44
7	環境問題について	45
8	交通に関することについて	45
9	安心で安全なまちづくりについて	45
10	情報化の推進に関することについて	45
11	国際化推進に関することについて	46
12	食育について	46
13	余暇の過ごし方について	46
14	生涯学習や文化活動、スポーツ活動について	47
15	施策の重要度・事業主体	48
16	前期基本計画における指標について	50
V	調査結果の分析	57
1	八千代市のイメージについて	57
(1)	市のイメージ	57
2	定住意向について	59
(1)	市への愛着心	59
(2)	居住継続意識	61
3	「地域との関わり合い」について	68
(1)	自治会への加入状況	68
(2)	自治会の必要性	72

4	「行政サービスの在り方」について	76
(1)	行政サービスの在り方	76
(2)	市民と市役所の関係	80
(3)	市民参加の条件整備	94
5	八千代市が力を入れて取り組むべき施策について	97
(1)	市が力を入れて取り組むべき施策	97
6	高齢化社会について	99
(1)	高齢者が安心して暮らしていくために大切なこと	99
7	環境問題について	101
(1)	環境問題	101
(2)	環境行政への期待	104
8	交通に関することについて	107
(1)	交通バリアフリー化の優先策	107
9	安心で安全なまちづくりについて	109
(1)	安心で安全なまちづくりのために取り組むべきこと	109
10	情報化の推進に関することについて	112
(1)	市行政情報の入手方法	112
(2)	情報化施策への希望	115
11	国際化推進に関することについて	118
(1)	国際化に関する施策	118
12	食育について	120
(1)	食育という言葉の認知度	120
(2)	食育への関心度	122
13	余暇の過ごし方について	126
(1)	余暇時間の過ごし方	126
14	生涯学習や文化活動、スポーツ活動について	128
(1)	生涯学習や文化活動、スポーツ活動の有無	128
15	施策の重要度・事業主体	142
(1)	施策の重要度	142
(2)	施策の事業主体	149
16	前期基本計画における指標について	152
(1)	健康状態	152
(2)	健康診断や人間ドックの受診	154
(3)	かかりつけ医の有無	156
(4)	地域医療体制の整備状況	158
(5)	子どもの健やかな発育・発達	160
(6)	子育てしやすいまち	162
(7)	高齢者福祉サービスの充実	164
(8)	幼稚園教育内容の充実	166
(9)	学校教育内容の充実	168
(10)	生涯学習情報の得やすさ	170
(11)	男女共同参画社会の進展	172
(12)	まちのきれいさ	174
(13)	消費生活情報の得やすさ	176
(14)	災害時の避難場所	178
(15)	犯罪の多さ	180
(16)	鉄道の利用しやすさ	182
(17)	バスの利用しやすさ	184
(18)	市内・市外間の移動のしやすさ	186
(19)	交通弱者にやさしい交通環境	188
(20)	緑豊かなまち	190
(21)	市街地整備	192
(22)	ふるさと親子祭	194

(23) 透明性の高い市政運営	196
(24) 市民の意見の反映	198
(25) 自立した市政運営	200
(26) 自治会活動が活発に行われているか	202
(27) ボランティア・NPO活動	204
(28) 国際交流・協力	206
17 回答者の地域について	208
18 自由回答	212

I 調査実施の概要

I 調査実施の概要

1 調査目的

八千代市第4次総合計画後期基本計画等の策定にあたり、市民が市政に対してどのような意識を持っているか、市政全般に亘る考えを広く伺い、その意向を計画策定に反映させるとともに、市政運営や政策立案の基礎資料とすることを目的とする。

2 調査設計

(1) 調査地域 八千代市内全域

(2) 調査対象 八千代市に在住する満18歳以上の男女

(3) 標本数と調査方法

標本数	3,500人を住民基本台帳から確率比例層化抽出法により抽出し、最終的に3,483人を調査対象とした
調査方法	郵送法（郵送配布－郵送回収）

(4) 調査期間 平成27年9月7日（月）～9月24日（木）

3 調査実施機関

株式会社 サーベイリサーチセンター

4 調査内容

調査項目	新規項目 (○印)
1. 八千代市のイメージについて	
(1) 市のイメージ	
2. 定住意向について	
(1) 市への愛着心	
(2) 居住継続意識	
(2-1) 居住継続の理由	
(2-2) 転居希望の理由	
3. 「地域との関わり合い」について	
(1) 自治会への加入状況	
(1-1) 自治会に加入しない理由	
(2) 自治会の必要性	
(2-1) 自治会が必要だと思う理由	
4. 「行政サービスの在り方」について	
(1) 行政サービスの在り方	
(2) 市民と市役所の関係	
(3) 市民参加の条件整備	
5. 八千代市が力を入れて取り組むべき施策について	
(1) 市が力を入れて取り組むべき施策	
6. 高齢化社会について	
(1) 高齢者が安心して暮らしていくために、大切なこと	
7. 環境問題について	
(1) 環境問題	
(2) 環境行政への期待	
8. 交通に関することについて	
(1) 交通バリアフリー化の優先策	
9. 安心で安全なまちづくりについて	
(1) 安心で安全なまちづくりのために取り組むべきこと	
10. 情報化の推進に関することについて	
(1) 市行政情報の入手方法	
(2) 情報化施策への希望	
11. 国際化推進に関することについて	
(1) 国際化に関する施策	
12. 食育について	
(1) 食育という言葉の認知度	
(2) 食育への関心度	
(2-1) 食育に関心がある理由	
13. 余暇の過ごし方について	
(1) 余暇時間の過ごし方	
14. 生涯学習や文化活動, スポーツ活動について	
(1) 生涯学習や文化活動, スポーツ活動の有無	
(1-1) 生涯学習や文化活動, スポーツ活動で使用した場所	
(1-2) 生涯学習を充実させるために望むこと	○
(1-3) スポーツ活動を充実させるために望むこと	○
(1-4) スポーツ活動の回数	
(1-5) 生涯学習や文化活動, スポーツ活動を行っていない理由	
15. 施策の重要度・事業主体	
(1) 施策の重要度	
(2) 施策の事業主体	○

調査項目	新規項目(○印)
16. 前期基本計画における指標について	
(1) 健康状態	○
(2) 健康診断や人間ドッグの受診	○
(3) かかりつけ医の有無	○
(4) 地域医療体制の整備状況	○
(5) 子どもの健やかな発育・発達	○
(6) 子育てしやすいまち	○
(7) 高齢者福祉サービスの充実	○
(8) 幼稚園教育内容の充実	○
(9) 学校教育内容の充実	○
(10) 生涯学習情報の得やすさ	○
(11) 男女共同参画社会の進展	○
(12) まちのきれいさ	○
(13) 消費生活情報の得やすさ	○
(14) 災害時の避難場所	○
(15) 犯罪の多さ	○
(16) 鉄道の利用しやすさ	○
(17) バスの利用しやすさ	○
(18) 市内・市外間の移動のしやすさ	○
(19) 交通弱者にやさしい交通環境	○
(20) 緑豊かなまち	○
(21) 市街地整備	○
(22) ふるさと親子祭	○
(23) 透明性の高い市政運営	○
(24) 市民の意見の反映	○
(25) 自立した市政運営	○
(26) 自治会活動が活発に行われているか	○
(27) ボランティア・NPO活動	○
(28) 国際交流・協力	○
17. 回答者の属性	
(1) 性別	
(2) 年齢	
(3) 家族構成	
(4) 職業	
(5) 住居形態	
(6) 居住地	

5 居住地区分

八千代市に在住する満18歳以上の男女への調査では、地域的な特性を把握するために、八千代市内を14地区に分けた。

(1) 居住地内の該当町丁目・街区

居住地名	該当町丁目・街区
大和田地区	大和田・萱田・萱田町
ゆりのき台地区	ゆりのき台1丁目～8丁目
大和田新田(A)地区	大和田新田下区等, 萱田中学校又は大和田中学校の学区の範囲内にある大和田新田地区
大和田新田(B)地区	大和田新田上区等, 高津中学校, 東高津中学校又は睦中学校の学区の範囲内にある大和田新田地区
高津・緑が丘地区	高津・高津東1丁目～4丁目・緑が丘1丁目～5丁目
八千代台東南地区	八千代台東1丁目～6丁目・八千代台南1丁目～3丁目
八千代台西北地区	八千代台西1丁目～10丁目・八千代台北1丁目～17丁目
勝田台地区	勝田台1丁目～7丁目・勝田・勝田台南1丁目～3丁目
村上地区	村上・村上南1丁目～3丁目・下市場1丁目～2丁目・上高野・勝田台北1丁目～3丁目
阿蘇地区	米本・神野・保品・下高野・堀の内
睦地区	桑納・麦丸・桑橋・吉橋・島田・神久保・小池・真木野・佐山・平戸・島田台・尾崎・大学町1丁目～6丁目
米本団地地区	米本団地1街区～5街区
高津団地地区	高津団地1街区～7街区
村上団地地区	村上団地1街区～3街区

6 回収結果

(1) 全体

標本数 (人)	有効回収数 (人)	有効回収率 (%)
3,483	1,406	40.4

(2) 居住地別

居住地名	標本数 (人)			有効回収数 (人)				有効回収率 (%)
	男性	女性	合計	男性	女性	無回答	合計	
大和田地区	168	155	323	52	71	3	126	39.0
ゆりのき台地区	88	111	199	33	35	3	71	35.7
大和田新田 ^(注)	305	313	618	111	116	2	229	37.1
高津・緑が丘地区	172	173	345	59	72	1	132	38.3
八千代台東南地区	145	152	297	51	71	2	124	41.8
八千代台西北地区	164	172	336	62	69		131	39.0
勝田台地区	145	157	302	70	68	2	140	46.4
村上地区	238	232	470	91	122	1	214	45.5
阿蘇地区	30	24	54	11	7	1	19	35.2
睦地区	74	70	144	18	28		46	31.9
米本団地地区	66	69	135	21	21	1	43	31.9
高津団地地区	59	72	131	15	29		44	33.6
村上団地地区	60	69	129	10	21		31	24.0
無回答				22	24	10	56	
合計	1,714	1,769	3,483	626	754	26	1,406	40.4

(注)「大和田新田」は、p 6で掲載した表の「大和田新田(A)地区」と「大和田新田(B)地区」を合わせたものである。

7 報告書の見方

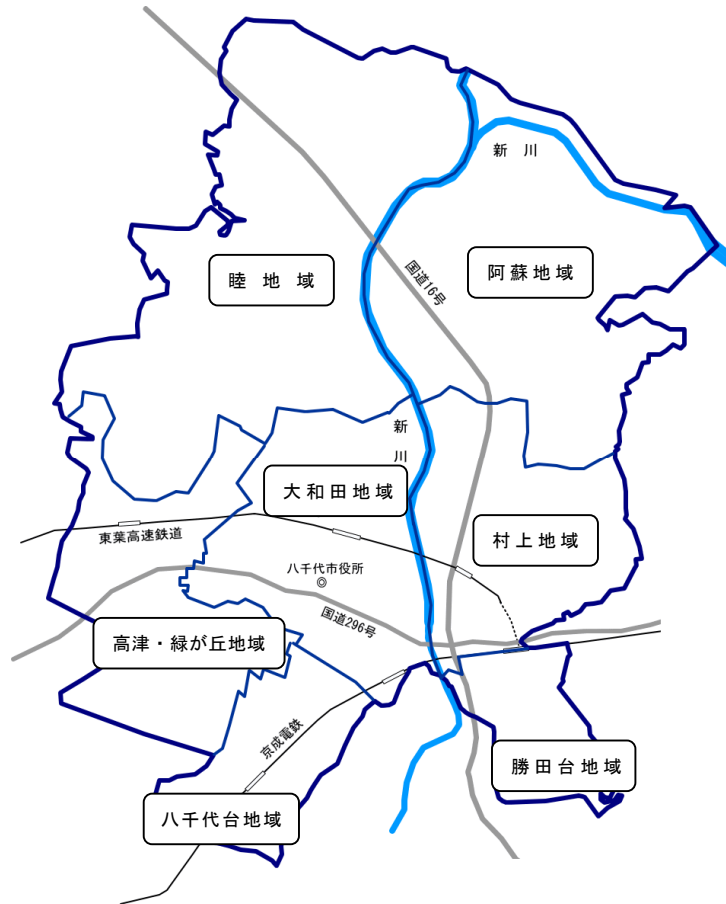
- (1) 集計は、小数点第2位を四捨五入してある。したがって、数値の合計が100.0%ちょうどにならない場合がある。
- (2) 回答の比率(%)は、その質問の回答者数を基数として算出した。したがって、複数回答の設問はすべての比率を合計すると100.0%を超えることがある。
- (3) 基数となるべき実数は、(n)として表示した。その比率は、基数を100%として算出した。
- (4) 統計数値を考察するにあたっては、表現をおおむね以下の通りにしている。

例	表現
17.0～19.9%	約2割
20.0～20.9%	2割
21.0～22.9%	2割を超える
23.0～26.9%	2割台半ば
27.0～29.9%	約3割

- (5)本文中で百分率の比較をする際には、ポイント（小数点以下第1位を四捨五入している）と表記している。
- (6)本文や図表中の選択肢表記は、場合によっては語句を短縮・簡略化している場合がある。
- (7)図表中の比率の小さい項目については、省略しているところもある。
- (8)集計は、全て単純集計、調査回答者の属性別（性別や年齢別など）のクロス集計を行った。
- (9)クロス集計の図表では、側面に掲載されている調査回答者の属性（性別や年齢別など）に無回答だった人は、図表に掲載していない。
- (10)クロス集計の分析の軸（＝表側）とした回答者の属性や設問で、基数が20を下回るものについては、項目の先頭に※印をつけ注釈をつけている。
- (11)市内在住者調査の居住地域別のクロス集計は、『八千代市地域コミュニティ推進計画』を参考にし、次のように集約して分析の軸としている。

居住地名		集約後の居住地名
大和田地区	┌ ├───▶ └	大和田地域
ゆりのき台地区		
大和田新田(A)地区		
大和田新田(B)地区	┌ ├───▶ └	高津・緑が丘地域
高津・緑が丘地区		
高津団地地区		
八千代台東南地区	┌ ├───▶ └	八千代台地域
八千代台西北地区		
勝田台地区	┌───▶	勝田台地域
村上地区	┌ ├───▶ └	村上地域
村上団地地区		
阿蘇地区	┌ ├───▶ └	阿蘇地域
米本団地地区		
睦地区	┌───▶	睦地域

■集約後の居住地



(12) 市内在住者調査の質問間クロス集計は、分析を明確にするため、次のように集約して分析の軸としている。

(i) 市への愛着心別

選択肢名		集約後の選択肢名
愛着がある	┌───┐	“愛着がある”
どちらかといえば愛着がある		
どちらかといえば愛着がない	┌───┐	“愛着がない”
愛着がない		
わからない	───▶	わからない

(ii) 居住継続意識別

選択肢名		集約後の選択肢名
ずっと住み続けたい	┌───┐	“居住継続”
当分の間住み続けたい		
いずれ転居するつもりである	┌───┐	“転居希望”
すぐにでも転居したい		
わからない	───▶	わからない

8 標本誤差

標本誤差は次式で得られ、①比率算出の基数（n）、②回答数の比率（p）によって誤差幅が異なる。

$$\text{標本誤差} = \pm 2 \sqrt{\frac{N - n}{N - 1} \times \frac{p(1 - p)}{n}}$$

N = 母集団数(八千代市の18歳以上人口)
 n = 比率算出の基数(回答者数)
 p = 回答の比率(%)

今回の調査結果の標本誤差は下記のようなになる。

回答比率(P) n	90%または 10%程度	80%または 20%程度	70%または 30%程度	60%または 40%程度	50%程度
1,406	±1.60%	±2.13%	±2.44%	±2.61%	±2.67%
1,000	±1.90%	±2.53%	±2.90%	±3.10%	±3.16%
800	±2.12%	±2.83%	±3.24%	±3.46%	±3.54%
600	±2.45%	±3.27%	±3.74%	±4.00%	±4.08%
400	±3.00%	±4.00%	±4.58%	±4.90%	±5.00%
200	±4.24%	±5.66%	±6.48%	±6.93%	±7.07%
150	±4.90%	±6.53%	±7.48%	±8.00%	±8.16%
100	±6.00%	±8.00%	±9.17%	±9.80%	±10.00%

※ 上表は $\frac{N - n}{N - 1} = 1$ として算出している。なお、この表の計算式の信頼度は95%である。

注/この表の見方

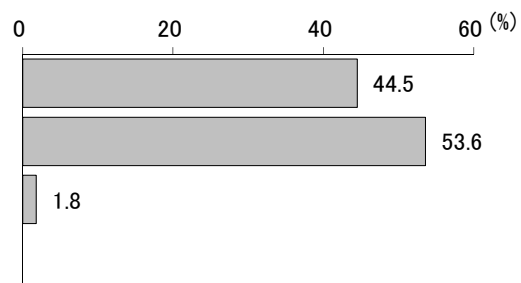
標本誤差とは・・・今回のように全体（母集団）の中から一部を抽出して行う標本調査においては、全体を対象に行った調査と比べ、調査結果に差が生じることがあり、その誤差のことをいう。この誤差は、標本の抽出方法や標本数によって異なるが、その誤差を数学的に計算することが可能である。その計算式を今回の調査に当てはめて算出したのが、上記の表である。見方としては、例えば、「ある設問の回答数が1,406であり、その設問中の選択肢の回答比率が60%であった場合、その回答比率の誤差の範囲は最高でも±2.61%以内（57.39～62.61%）である」とみることができる。

II 調査回答者の属性

II 調査回答者の属性

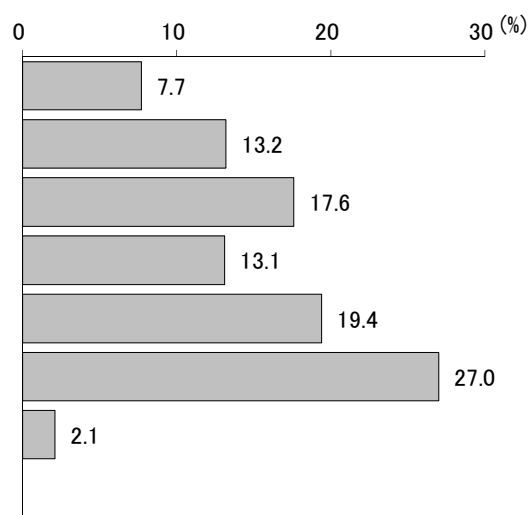
1 性別

	基数	構成比
男性	626	44.5%
女性	754	53.6%
無回答	26	1.8%
全体	1,406	100.0%



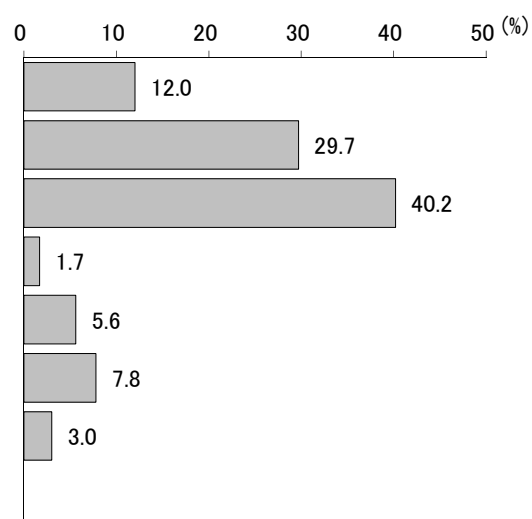
2 年齢

	基数	構成比
29歳以下	108	7.7%
30歳代	185	13.2%
40歳代	247	17.6%
50歳代	184	13.1%
60歳代	273	19.4%
70歳以上	379	27.0%
無回答	30	2.1%
全体	1,406	100.0%



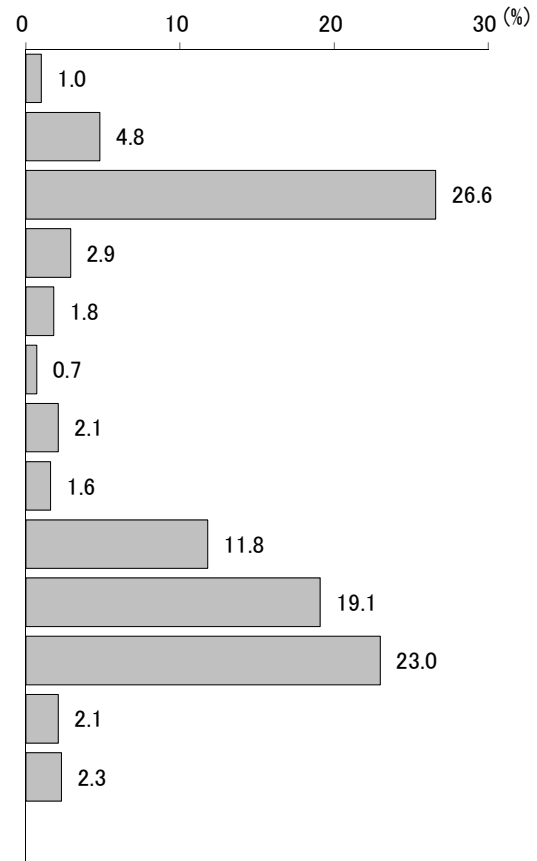
3 家族構成

	基数	構成比
単身	169	12.0%
夫婦のみ(一世代世帯)	417	29.7%
夫婦と未婚の子ども(二世帯世帯)	565	40.2%
夫婦と親(二世帯世帯)	24	1.7%
夫婦と子どもと親(三世帯世帯)	79	5.6%
その他	110	7.8%
無回答	42	3.0%
全体	1,406	100.0%



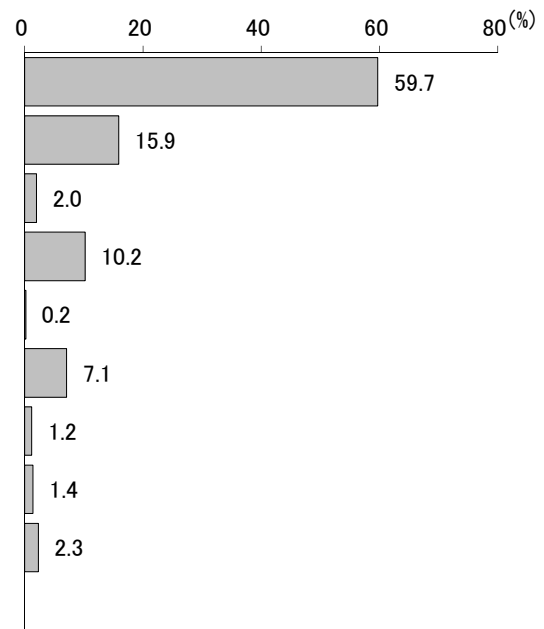
4 職業

	基数	構成比
農業	14	1.0%
自営業	68	4.8%
会社員	374	26.6%
公務員	41	2.9%
専門職(医師・弁護士など)	26	1.8%
自由業(著述・芸術・芸能など)	10	0.7%
学生	30	2.1%
派遣	22	1.6%
パートタイマー・アルバイト	166	11.8%
専業主婦(夫)	268	19.1%
無職	324	23.0%
その他	30	2.1%
無回答	33	2.3%
全体	1,406	100.0%



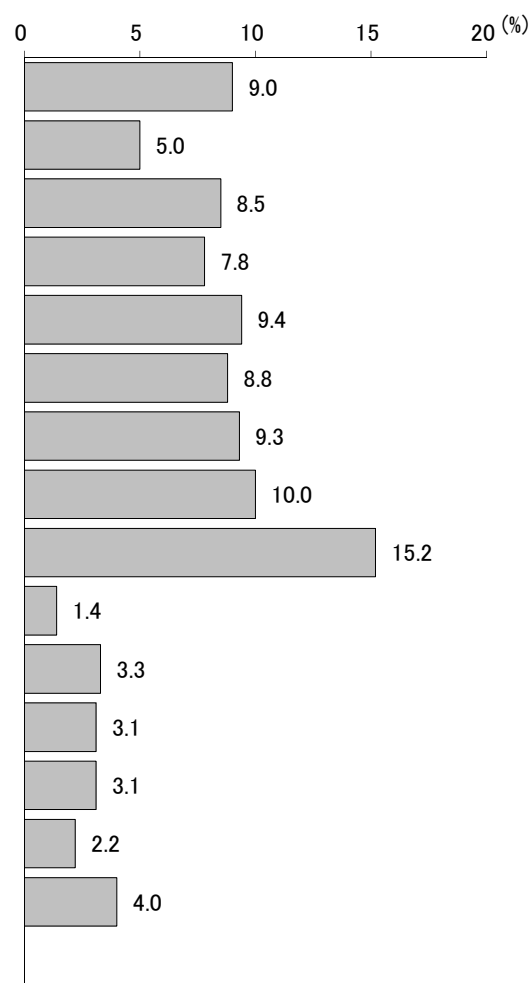
5 住居形態

	基数	構成比
戸建て(持ち家)	839	59.7%
マンション(持ち家)	224	15.9%
戸建て(賃貸)	28	2.0%
アパート・マンション(民間賃貸)	143	10.2%
市営住宅	3	0.2%
UR賃貸住宅	100	7.1%
社宅・寮など	17	1.2%
その他	20	1.4%
無回答	32	2.3%
全体	1,406	100.0%



6 居住地

	基数	構成比
大和田地区	126	9.0%
ゆりのき台地区	71	5.0%
大和田新田(A)地区	119	8.5%
大和田新田(B)地区	110	7.8%
高津・緑が丘地区	132	9.4%
八千代台東南地区	124	8.8%
八千代台西北地区	131	9.3%
勝田台地区	140	10.0%
村上地区	214	15.2%
阿蘇地区	19	1.4%
睦地区	46	3.3%
米本団地地区	43	3.1%
高津団地地区	44	3.1%
村上団地地区	31	2.2%
無回答	56	4.0%
全体	1,406	100.0%



III 单纯集計結果

Ⅲ 単純集計結果

1 単純集計結果

八千代市のイメージについてお尋ねします

問1 あなたは、八千代市にどのようなイメージをお持ちですか。(○は1つ)

1	生活に便利な都市	34.0%	2	安心して暮らせる都市	21.4
3	自然が豊富な都市	28.4	4	街並みが美しい都市	1.4
5	文化的な都市	0.4	6	人情味豊かな都市	1.3
7	活気のある都市	0.4	8	その他 ()	9.9
				(無回答)	2.9

定住意向についてお尋ねします

問2 あなたは、八千代市に愛着を持っていますか。(○は1つ)

1	愛着がある	29.0%	2	どちらかといえば愛着がある	46.4
3	どちらかといえば愛着がない	10.4	4	愛着がない	4.6
5	わからない	8.5		(無回答)	1.1

問3 あなたは、今後も八千代市を住み続けたいとお考えですか。(○は1つ)

1	ずっと住み続けたい	→	(問3-1へ)	45.0%
2	当分の間住み続けたい	→		34.8
3	いずれ転居するつもりである	→		10.0
4	すぐにでも転居したい	→	(問3-2へ)	1.2
5	わからない			7.5
	(無回答)			1.4

(問3で「1 ずっと住み続けたい」「2 当分の間住み続けたい」とお答えの方にお尋ねします)

問3-1 あなたが住み続けたいと思われる理由を次の中から選んでください。

(○は3つまで)

1	通勤・通学に便利だから	28.0%
2	福祉の施設・制度が充実しているから	1.7
3	保健や医療の施設・体制が充実しているから	5.2
4	公民館、図書館などの社会教育・文化施設が充実しているから	4.1
5	スポーツ・レクリエーション施設が充実しているから	1.4
6	道路、下水道などの都市基盤が整備されているから	6.9
7	自然環境に恵まれているから	19.0
8	長年住み慣れており愛着があるから	39.8
9	自分の家・土地があるから	60.9
10	教育・文化の程度が高いから	0.3
11	買い物など日常生活が便利だから	32.7
12	治安が良いから	6.7
13	近所との人間関係が良好だから	11.8
14	自然災害が比較的少ないから	34.7
15	支所、連絡所などの市役所本庁以外でのサービス窓口が充実しているから	1.8
16	その他 ()	2.5
	(無回答)	0.1

(問3で「3 いずれ転居するつもりである」「4 すぐにでも転居したい」とお答えの方にお尋ねします)

問3-2 あなたが転居したいと思う理由は何ですか。(○は3つまで)

1	通勤・通学に不便だから	28.5%
2	福祉の施設・制度が十分ではないから	23.4
3	保健や医療の施設・体制が十分ではないから	25.3
4	公民館、図書館などの社会教育・文化施設が十分ではないから	7.6
5	スポーツ・レクリエーション施設が十分ではないから	5.1
6	道路、下水道などの都市基盤の整備が十分ではないから	15.2
7	自然が少ないから	3.8
8	教育・文化の程度が低いから	13.3
9	買い物など日常生活に不便だから	19.0
10	治安が悪いから	10.1
11	近所との人間関係がうまくいっていないから	5.1
12	将来は故郷に帰りたいから	20.9
13	自然災害に弱い地域があるから	2.5
14	支所、連絡所などの市役所本庁以外でのサービス窓口が十分でないから	10.1
15	その他 ()	24.7

「地域との関わり合い」についてお尋ねします

問4 あなたは、自治会に加入していますか。(○は1つ)

1	加入している	70.6%
2	加入していない → (問4-1へ)	23.7
3	わからない	4.8
	(無回答)	0.9

(問4で「2 加入していない」とお答えの方にお伺いします)

問4-1 自治会に加入しない理由は何ですか。(○は1つ)

1	自治会の必要性を感じないから	12.0%
2	当番などを負担に感じるから	12.0
3	近所付き合いがわずらわしいから	3.6
4	自治会費などの金銭的な負担をしたくないから	3.0
5	自治会加入のメリットを感じないから	9.0
6	自治会への加入や行事参加の誘いを受けたことがないから	19.8
7	地域に関心がないから	1.5
8	自分が住んでいるところに自治会がないから	22.8
9	自治会の必要性は感じるが、自治会を通じて他の団体との関係が発生するから	1.5
10	その他 ()	13.5
	(無回答)	1.2

問5 一般的に言って自治会はあった方がよいと思いますか。(○は1つ)

1	あった方がよい	→ (問5-1へ)	42.1%
2	どちらかといえばあった方がよい		30.0
3	どちらかといえば必要ない		10.0
4	必要ない		4.6
5	わからない		10.2
	(無回答)		3.1

(問5で「1 あった方がよい」「2 どちらかといえばあった方がよい」とお答えの方にお尋ねします)

問5-1 なぜ自治会はあった方がよいと思いますか。(○は1つ)

1	地域の親睦・交流に必要だから	33.5%
2	防犯・防災活動など生命や財産を守るために必要だから	33.3
3	環境美化など生活環境の維持・向上のために必要だから	14.9
4	地域や市役所などからの文書の回覧ができるから	11.3
5	住民が団結して市に陳情や要望を出すことができるから	4.9
6	その他 ()	0.9
	(無回答)	1.1

「行政サービスの在り方」についてお尋ねします

問6 あなたは、八千代市が生活に必要な行政サービスを実施するのに、どのような形式がよいと思いますか。(○は1つ)

1	できるだけ市が直接行うべきである	18.6%
2	原則として市が行うべきだが、民間でできる業務は民間に移管すべきである	32.6
3	市民の協力(ボランティアなど)を得られる分野は、市と市民が連携して行うべきである	19.7
4	民間活力を活用できる分野は、PFI(公共サービス等に民間企業の資金やノウハウを導入し実施する)等、積極的にすべきである	17.4
5	その他 ()	0.9
6	わからない	8.6
	(無回答)	2.3

問7 あなたは、次のような仕事について、市民か市役所のどちらが中心になって行うべきだと思いますか。(○は1つずつ)

(※「市民」には「市民」個人だけではなく、自治会などのコミュニティ組織を含みます。)

	市民中心	市民中心 どちらかという と	市役所中心 どちらかという と	市役所中心	無回答
(1) 家の前の道路の掃除	49.1%	33.9	6.8	5.7	4.6
(2) 家の近くの公園、遊び場の草取りなど	6.7	23.2	41.3	23.3	5.6
(3) 登下校時の子どもの見守り	33.9	51.6	5.5	3.6	5.4
(4) 近所の一人暮らしの高齢者の話し相手	10.1	37.1	34.6	12.4	5.8
(5) リサイクルや緑化活動の推進	3.2	14.2	44.1	32.9	5.6
(6) 地域のイベントの運営	10.2	37.6	30.3	16.1	5.8

問8 今後、市民と市役所が一体となって、八千代市の問題を考え行動していくことが多くなっていくと考えられています。そこで、あなたはそのための条件づくりとして何が**必要だ**と思いますか。(○は2つまで)

1 市役所が行っている施策や事業内容のPR	23.8%
2 情報公開(制度)の充実	29.9
3 市民の立場から見て、市の抱えている課題を分かりやすくする仕組みをつくる	41.7
4 市内を細かく分けて、それぞれの地域ごとに課題を担当する市役所の職員を任命するなどのきめ細かい対応	22.5
5 市長と直接対話できる機会を増やすこと	9.1
6 市民活動を活発化させるための場所、情報、資金の提供	19.7
7 市の政策形成過程への市民参画(審議会委員の公募、パブリックコメント、市民参加型のフォーラムやワークショップの開催など)の拡大	11.9
8 インターネットやメールを利用した市と市民の間の双方向型情報サービスの展開	8.3
9 シチズンシップ教育※の実施・充実	5.7
10 その他()	1.8
11 わからない(無回答)	3.4 2.3

※シチズンシップ教育とは、他人を尊重すること、個人の権利と責任、人種・文化の多様性の価値など、社会の中で円滑な人間関係を維持するために必要な能力を身につけさせ、市民としての資質・能力を育成するための教育のことをいいます。

八千代市が力を入れて取り組むべき施策についてお尋ねします

問9 今後、八千代市が力を入れて取り組むべきであると思う施策は何だと思えますか。
(○は3つまで)

1 高齢者施策	61.9%	2 環境問題に関する施策	13.7
3 障害者（児）施策	11.0	4 道路・下水道等に関する施策	19.8
5 子育て支援施策	37.4	6 防犯・防災に関する施策	32.4
7 市民の健康に関する施策	15.6	8 産業・観光振興に関する施策	8.4
9 学校教育に関する施策	16.9	10 生涯学習・文化・スポーツに関する施策	13.7
11 公共施設の更新（老朽化対応・耐震化）	21.6	12 男女共同参画に関する施策	0.9
13 住環境に関する施策	10.1	14 その他（ ）	2.6
15 わからない	1.1	(無回答)	1.4

高齢化社会についてお尋ねします

問10 あなたは、高齢者が安心して暮らしていくには、今後どのようなことが大切だと思いますか。(○は3つまで)

1 介護が必要になったときのための福祉サービスの充実	70.3%
2 年金の充実	38.8
3 病気にかかったときのための医療対策の充実	33.2
4 病気にかからないよう、生活指導や健康診断などの充実	19.8
5 老人ホームなど高齢者福祉施設の充実	37.8
6 老後の生活を支える安心で歩きやすい道路や公共施設の整備	19.2
7 文化・スポーツ活動、老人クラブへの参加など生きがいをもつこと	16.8
8 働く場の確保	18.6
9 子や孫との同居など、一人暮らしを避けること	9.0
10 高齢者の財産管理制度の充実	4.1
11 自治会や社会福祉協議会の支会など、コミュニティ・福祉活動の充実	10.7
12 その他（ ）	1.5
13 わからない (無回答)	0.5 0.9

環境問題についてお尋ねします

問11 あなたが特に興味を持っている環境問題は何ですか。(〇はいくつでも)

1	工場や自動車の排ガスなどによる大気汚染	26.7%
2	産業排水や生活排水などによる水質汚濁	26.7
3	ダイオキシン類, 環境ホルモンなどの化学物質による環境汚染	24.8
4	道路・工場などからの騒音・振動	18.6
5	悪臭	12.9
6	地下水汚染	18.0
7	土壌汚染(放射性物質によるものを除く)	10.5
8	地盤沈下	9.7
9	ごみの減量・再資源化	40.9
10	廃棄物の不法投棄	36.1
11	身近な自然環境の減少	25.6
12	エネルギーの有効利用・省エネルギーに関すること	24.3
13	地球温暖化やオゾン層の破壊, 酸性雨などの地球環境問題	34.1
14	生物多様性の保全(稀少な動植物の保全)	10.0
15	放射性物質による汚染や放射性廃棄物の保管・最終処分	34.8
16	鳥の大量飛来による騒音等被害	11.5
17	イノシシなどによる被害	2.3
18	その他()	2.3
19	特にない	3.3
	(無回答)	2.0

問12 あなたは, 環境行政に何を期待しますか。(〇は3つまで)

1	環境保全計画等長期ビジョンの策定	19.3%
2	規制法令の整備・強化	12.6
3	環境監視体制の整備・充実	22.3
4	自然環境保全対策の整備・充実	23.5
5	ごみ処理施設・リサイクル施設等の整備・充実	34.9
6	ごみの分別やリサイクルの推進	19.8
7	環境情報の提供(環境問題に関する測定結果の公表等, 放射性物質によるものを除く)	7.8
8	学校や生涯学習などでの環境教育・学習の充実	23.0
9	座談会, シンポジウム等イベントの開催	0.9
10	NPO等, 環境活動団体への連携	4.1
11	新たな環境問題に対応できる組織づくり	9.0
12	地球温暖化対策の推進	23.6
13	エネルギー問題への対応強化(省エネルギーの推進や再生可能エネルギーの普及支援など)	17.3
14	空間放射線量の測定・公表や放射性廃棄物の安全な保管	15.7
15	その他()	1.7
16	わからない	3.9
	(無回答)	2.8

交通に関することについてお尋ねします

問 13 交通バリアフリー化を進める上で優先的に取り組む対策は何だと思えますか。

(○は3つまで)

1	鉄道駅へのエレベーターの設置	31.7%
2	鉄道駅へのエスカレーター	23.0
3	鉄道駅への身体障害者用トイレ	11.5
4	ノンステップ(低床)バスの導入	17.9
5	車いす対応型タクシーの導入	11.7
6	視覚障害者誘導用ブロックの整備	9.7
7	歩道の改良(段差や勾配の解消・拡幅など)	66.0
8	歩道が未整備の道路の解消(歩道の設置)	55.3
9	音響信号機など障害者や高齢者などに対応した信号機の設置	18.9
10	その他()	2.6
11	わからない (無回答)	1.6 2.0

安心で安全なまちづくりについてお尋ねします

問 14 安心で安全なまちづくりを進めるうえで特に取り組むべきことは何だと思えますか。(○は3つまで)

1	災害時におけるライフラインの確保	64.3%
2	防災倉庫等災害関連施設の整備(備蓄含む)	18.8
3	消防・救急体制の整備	21.6
4	防災訓練の実施	2.8
5	市民の防災意識の高揚(家具の転倒防止や家庭での備蓄)	8.3
6	防災無線や防災情報メール等の情報伝達手段の整備	16.2
7	自主防災組織など共助の担い手となる組織の結成・育成	8.0
8	建築物の耐震化の促進	12.6
9	犯罪情報の提供	13.2
10	地域防犯活動の推進	12.1
11	市民の防犯意識の高揚	6.8
12	防犯施設の整備(防犯灯, 防犯カメラ等)	35.9
13	通学路の安全確保	19.4
14	ゴミ屋敷・空き家対策の強化	16.8
15	救命講習の実施	2.3
16	水害対策(河川の改修, 下水道の整備)	12.6
17	その他()	1.7
18	わからない (無回答)	0.6 1.4

情報化の推進に関することについてお尋ねします

問 15 あなたは、市の事業やイベントなどの情報をどのような手段で入手していますか。
(○は2つまで)

1 広報やちよ	80.4%	2 市役所や公共施設	10.8
3 友人・知人などからの口コミ	27.4	4 市が発行するリーフレット等	9.1
5 市のホームページ	16.2	6 市のイベント情報メール	4.1
7 市のツイッター（やっちツイッターを含む）	1.8	8 市長との対話や市の会議等	0.1
9 その他（ ）	3.6	(無回答)	2.8

問 16 今後、市に取り組んでほしい情報化施策は何ですか。(○は3つまで)

1 『広報やちよ』の充実	58.4%	2 冊子やパンフレット等の充実	17.6
3 公共施設の掲示板の充実	15.6	4 電話による情報サービスの充実	4.6
5 FAXによる情報提供	1.4	6 CATVやハイビジョン放送の充実	
7 携帯電話への情報提供の充実（情報メールの配信等）	16.7	8 申請・届出等手続きのオンライン化	4.8
9 パソコン講座等の充実	3.9		22.2
11 インターネット（ホームページ）やツイッターによる情報の充実	23.5	10 個人情報保護対策の充実	25.3
13 特にない	5.8	12 その他（ ）	2.7
		(無回答)	3.6

国際化推進に関することについてお尋ねします

問17 八千代市は、アメリカ合衆国テキサス州タイラー市と国際姉妹都市提携、タイ王国バンコク都と友好都市提携をしています。また、市内に住む外国人は、7月末現在、3,900人を超えています。このように、国際化が進む中で、今後、市としてどのような施策を行っていくべきだと思いますか。(○は3つまで)

1 外国人のための相談窓口の設置	43.5%
2 外国人向けの表示、案内などの整備	31.2
3 外国語による生活情報の提供	20.3
4 外国人及び外国人児童・生徒への日本語学習機会の提供	24.5
5 国際理解を深めるための講座や講演会の開催	8.7
6 国際姉妹都市交流など市民レベルでの交流の推進	14.4
7 外国人との交流機会の提供	19.3
8 留学生・研修生などの派遣・受入の推進	13.8
9 市職員への外国人の積極的採用	8.3
10 市民への外国語学習機会の充実	13.2
11 国際協力事業の推進	6.4
12 その他（ ）	3.0
13 特にする必要はない	8.7
(無回答)	6.5

食育についてお尋ねします

問 18 あなたは、食育という言葉やその意味を知っていますか。(○は1つ)

1 言葉も意味も知っている	66.9%
2 言葉は知っているが、意味は知らない	21.2
3 言葉も意味も知らない	9.5
(無回答)	2.3

問 19 食育に関心がありますか。(○は1つ)

1 関心がある	→ (問19-1へ)	34.7%
2 どちらかといえば関心がある	└──┘	37.8
3 どちらかといえば関心がない		10.7
4 関心がない		5.5
5 わからない		7.9
(無回答)		3.4

(問 19で「1 関心がある」「2 どちらかといえば関心がある」とお答えの方にお尋ねします)

問 19-1 あなたが、食育に関心がある理由は何ですか。(○は3つまで)

1 食生活の乱れが問題になっているから	41.8%
2 生活習慣病の有病者の増加が問題になっているから	39.1
3 子どもの心身の健全な発育のために必要だから	67.9
4 自然の恩恵や食に対する感謝の念がうすれているから	26.3
5 食料を海外からの輸入に依存しすぎることが問題だから	21.6
6 作物の残留農薬など食の安全が問題になっているから	16.3
7 大量の食べ残しなどの食品廃棄物が問題だと思うから	26.3
8 肥満ややせすぎが問題になっているから	12.5
9 家族がいるのに1人で食べる個食が増えているのは問題だから	10.7
10 その他 ()	1.4
(無回答)	0.3

余暇の過ごし方についてお尋ねします

問 20 余暇時間の過ごし方として、よく行っていることは、何ですか。(〇はいくつでも)

1	家のまわりや近くの公園などの散歩	35.7%
2	家族とのだんらん	42.5
3	友人や知人と過ごす	29.4
4	釣り, 将棋, ガーデニングなどの趣味	15.5
5	本や雑誌などを読む	30.4
6	音楽, 映画, 絵画, 演劇などの観(鑑)賞	25.3
7	自宅でテレビなどを見て1人でのんびり過ごす	41.6
8	パチンコ, 競馬などの娯楽	4.2
9	野球, テニス, ゴルフなどのスポーツ	17.8
10	各種のボランティア活動に参加する	4.0
11	インターネットやパソコン	25.0
12	仕事や勉強に役立つ習いごと	5.1
13	教養を高めるための学習やサークル活動	8.1
14	ハイキング, ドライブなどの行楽や旅行	25.0
15	買い物	49.1
16	子どもの文化・スポーツ活動の支援(送迎など)	7.4
17	その他()	3.9
	(無回答)	1.1

生涯学習や文化活動、スポーツ活動についてお尋ねします

問21 あなたは、仕事や学業以外で趣味や教養、自己の能力を高めるための学習時間(スポーツ活動を含む)をとっていますか。(〇は1つずつ)

(1)生涯学習・文化活動	1 とっている	2 とっていない	(無回答)
	29.7%	63.2	7.2
(2)スポーツ活動	1 とっている	2 とっていない	(無回答)
	34.2	59.7	6.1

(問 21 で (1) か (2) のどちらか1つでも「1 とっている」とお答えの方にお尋ねします)

問21-1 あなたが、学習や文化、スポーツ活動をするために使っている場所はどのようなところですか。(〇はいくつでも)

1	公民館や図書館など公共の社会教育施設	37.4%	2	市民体育館や野球場など公共のスポーツ施設	20.8
3	学校開放の体育館やグラウンド	6.1	4	公園や遊歩道など	21.9
5	民間のカルチャーセンター	14.5	6	民間のスポーツクラブ	26.8
7	自宅	30.2	8	その他()	9.2
				(無回答)	1.2

(問21の(1)で「1 とっている」とお答えの方にお尋ねします)

問 21-2 生涯学習・文化活動の推進のために必要なことはどのようなことだと思いますか。(〇は3つまで)

1	老朽化した市の施設の改修・建て替え(施設の複合化も含む。バリアフリー化は除く)	21.6%
2	老朽化した市の施設の備品や設備の交換・改修・充実(バリアフリー化は除く)	23.7
3	講座など無料での学習機会を増やす(市の施設で)	31.4
4	自己負担があってもいいから、よりすぐれた講座を多く開催する(市の施設で)	38.6
5	講師バンクの整備・公開(有料の講師を含む)	7.7
6	学習会・講座などの開催情報の提供(民間主催でも市の後援事業等は網羅)	27.3
7	市の施設のバリアフリー化(エレベーターの設置等)	8.9
8	駐車場を増やす(自己負担を導入しないで)	25.4
9	駐車場の増設・充実(自己負担を導入してでも)	9.1
10	施設利用予約・支払・継続更新の手続きの簡略化	22.3
11	民間のサービス利用に対する補助	10.6
12	その他()	6.2
	(無回答)	2.4

(問 21 の (2) で「1 とっている」とお答えの方にお尋ねします)

問 21-3 スポーツ活動の推進のために必要なことはどのようなことだと思いますか。(〇は3つまで)

1	老朽化した市の施設の改修・建て替え(施設の複合化も含む。バリアフリー化は除く)	25.6%
2	老朽化した市の施設の備品や設備の交換・改修・充実(バリアフリー化は除く)	23.7
3	講習など無料での学習機会を増やす(市の施設で)	21.6
4	自己負担があってもいいから、よりすぐれた講習を多く開催する(市の施設で)	27.2
5	講師バンクの整備・公開(有料の講師を含む)	5.0
6	学習会・講習などの開催情報の提供(民間主催でも市の後援事業等は網羅)	14.8
7	市の施設のバリアフリー化(エレベーターの設置等)	3.3
8	駐車場を増やす(自己負担を導入しないで)	22.2
9	駐車場の増設・充実(自己負担を導入してでも)	8.1
10	施設利用予約・支払・継続更新の手続きの簡略化	19.3
11	民間のサービス利用に対する補助	18.3
12	無料施設の一部(学校開放体育館等)での一部自己負担の導入(有料の体育館を使っている方との公平性の確保,電気代の財源の一部として)	10.4
13	その他()	5.8
	(無回答)	7.7

(問 21 で (2) で「1 とっている」とお答えの方にお尋ねします)

問21-4 1週間のうち、30分以上のスポーツ活動を何回ぐらい行っていますか。
(○は1つ)

1	1回	33.9%	2	2回	31.4
3	3回以上	27.0	4	その他 ()	4.2
				(無回答)	3.5

(問 21 で (1) か (2) のどちらか1つでも「2 とっていない」とお答えの方にお尋ねします)

問21-5 あなたが、学習や文化、スポーツ活動を行っていない理由は何ですか。
(○はいくつでも)

1	仕事や家事、学業が忙しくて時間がない	39.3%
2	家族や職場など周囲の理解が得られない	0.6
3	子どもや親などを世話してくれる人がいない	6.1
4	適切な指導者がいない	3.0
5	身近なところに施設や教室などが無い	15.8
6	自分の希望に合う内容の講座や教室などが無い	15.3
7	自分の参加できる日時に開催される講座や教室などが無い	13.6
8	一緒に学習や活動する仲間がいない	8.1
9	必要な情報がなかなか入手できない	11.1
10	費用がかかる	21.4
11	きっかけがつかめない	21.6
12	生涯学習 (スポーツ活動を含む) に興味がない (好きではない)	9.0
13	その他 ()	6.6
	(無回答)	21.8

八千代市が取り組んでいる施策の重要度と事業主体についてお尋ねします

問22 下の表に示した各項目について、あなたの生活にとってどのくらい重要だと思いますか。また、事業主体について誰が中心となって行うべきだとお考えですか。あてはまるものを1つずつ選び、番号に○印をつけてください。

	重要度						事業主体					
	重要である	やや重要である	普通	重要ではない	あまり重要ではない	無回答	国が中心	県が中心	市が中心	市民が中心	民間が中心	無回答
《健康福祉都市づくり》												
(1) 健康を保つための病気の早期発見・予防体制が整備されている	60.5	15.1	17.6	0.4	0.6	5.8	22.8	13.8	46.5	4.9	1.6	10.5
(2) 地域の医療体制が充実している	62.7	14.1	15.6	0.6	-	7.0	6.8	19.3	58.8	1.1	2.6	11.5
(3) 救急医療体制が充実している	64.7	13.8	13.8	0.7	0.1	6.9	9.7	23.8	52.6	1.1	1.1	11.5
(4) 子育てを支援するサービス体制が充実している	44.0	20.2	22.5	2.6	1.7	8.9	20.1	10.5	51.4	3.8	2.1	12.2
(5) ひとり親家庭を支援するサービス体制が充実している	34.3	23.5	26.5	4.6	2.6	8.5	21.2	11.5	47.5	4.7	2.6	12.6
(6) 高齢者福祉サービスが充実している	47.3	23.4	18.3	2.3	1.4	7.3	25.5	13.9	44.1	1.9	3.0	11.6
(7) 障害者の自立を支援するサービス体制が充実している	38.1	25.1	23.5	2.4	1.6	9.2	27.2	18.3	38.3	1.6	2.2	12.4
《教育文化都市づくり》												
(8) 小中学校の施設・設備が充実している	39.0	22.3	24.7	2.1	1.8	10.1	12.2	24.5	49.6	0.5	0.1	13.1
(9) 図書館、公民館、博物館、文化伝承館などの社会教育施設が充実している	26.4	26.2	31.9	4.6	1.8	9.1	3.5	20.2	61.2	1.4	1.1	12.7
(10) スポーツ、レクリエーション施設が充実している	19.9	26.0	37.0	4.7	3.1	9.2	2.2	13.7	61.0	4.6	5.8	12.7
(11) コミュニティづくりのための施設が充実している	14.9	23.8	42.5	5.8	2.9	10.2	1.8	6.0	64.9	10.0	3.8	13.4
(12) 性別に捉われず、心豊かに暮らすこと	30.3	20.7	33.4	3.8	2.5	9.3	21.2	5.0	29.4	24.4	6.3	13.6
(13) 地域の文化活動が活発で、文化に接する機会がある	15.6	21.1	44.1	6.0	2.9	10.3	2.8	6.5	49.6	20.6	6.4	14.1
《安心安全都市づくり》												
(14) 災害に強い安全なまちづくりができています	63.3	14.3	13.4	0.4	0.1	8.5	16.9	22.5	47.4	0.9	0.2	12.2
(15) 火災・救急等から市民の生命や財産を守るための消防体制が充実している	60.2	17.5	13.3	0.4	0.1	8.5	10.6	21.2	55.4	0.9	0.1	11.8
(16) 市民、警察、防犯関係団体等による地域防犯体制が整備されている	57.3	19.2	14.1	0.6	0.3	8.5	10.2	23.5	49.6	4.0	0.6	12.0
(17) 犯罪が少なく安心して暮らせるまちである	65.3	14.1	11.3	0.5	0.4	8.5	10.9	20.3	49.4	6.8	0.3	12.4
(18) 安全に通行するための交通安全施設が充実している	54.0	19.1	16.0	1.4	0.4	9.2	13.4	27.8	44.5	1.3	0.4	12.7
(19) 安全で安心な消費生活を送るための消費者の保護対策が充実している	42.8	21.3	24.7	1.6	0.6	9.0	32.3	14.4	34.6	3.0	3.4	12.3

	重要度					
	重要である	やや重要である	普通	あまり重要ではない	重要ではない	無回答
《環境自然共生都市づくり》						
(20) 大気汚染・水質汚濁・騒音・振動などのない快適な生活環境である	59.5	20.2	11.0	0.4	0.3	8.6
(21) 緑や水辺などの自然環境が保全されている	41.5	31.4	17.1	1.1	0.2	8.7
(22) いろいろな人達が協力して環境を重視したまちづくりが行われている	26.0	31.4	31.0	1.3	0.8	9.5
(23) リサイクルを含めたごみ処理体制が充実している	38.1	28.2	23.8	0.9	0.2	8.8
(24) 地域ぐるみの清掃活動など市民・事業者・市の連携のもと、きれいなまちづくりが推進されている	29.0	28.9	31.3	1.6	0.4	8.8
(25) 公園や緑地などが整備されている	32.1	29.2	26.9	1.1	0.4	10.4

事業主体					
国が中心	県が中心	市が中心	市民が中心	民間が中心	無回答
45.5	21.0	20.1	1.1	1.2	11.1
10.0	28.3	45.8	3.5	1.1	11.3
2.8	9.5	45.4	26.7	3.5	11.9
4.3	14.5	60.6	5.5	3.4	11.7
1.6	4.2	52.1	27.3	3.2	11.6
3.6	10.1	67.3	4.3	2.0	12.7

《快適生活空間都市づくり》						
(26) 鉄道・バス路線などの公共交通網が整備されている	52.6	22.2	14.1	0.9	0.6	9.6
(27) 安全で安心して利用できる、渋滞解消等を担う都市計画道路等の新規路線の整備がすすんでいる	39.0	29.3	19.8	1.8	0.8	9.2
(28) 安全で安心して利用できる、既存道路の修繕・改築や段差の解消、点字ブロックの設置等の道路整備がすすんでいる	40.6	28.0	20.3	1.4	0.4	9.2
(29) 公共下水道が整備されている	49.5	22.5	18.0	0.5	0.3	9.2
(30) 安全でおいしい水道水が安定的に供給されている	63.7	15.6	11.4	0.1	0.1	9.0
(31) 市の計画的な土地利用の誘導によって、無秩序な開発が防がれている	39.5	24.8	22.9	1.6	0.8	10.4
(32) 公園、街路樹の整備などによる緑あるまちが形成されている	32.9	29.7	26.3	1.1	0.8	9.2
(33) 地域特性に応じた良好な都市景観が形成されている	25.0	28.4	33.7	2.0	1.0	9.9
(34) 利便性、安全性、快適性に富んだ良好な市街地が形成されている	35.1	27.4	26.1	1.4	0.4	9.6
(35) 障害者や高齢者などが公共公益施設、交通機関、歩行空間を不自由を感じないで利用できる	44.5	26.0	18.5	1.3	0.5	9.2

17.6	34.2	23.3	0.5	10.0	14.4
24.5	41.6	21.1	0.2	0.9	11.8
14.6	32.6	40.0	0.4	0.6	11.9
10.7	28.9	47.6	0.2	0.6	11.9
12.3	30.2	44.7	0.1	0.6	12.1
6.1	15.2	64.1	1.0	1.1	12.4
3.1	12.2	68.8	1.8	2.3	11.7
3.2	14.3	64.9	3.1	2.3	12.2
3.6	15.9	63.9	1.9	2.8	11.9
17.8	20.6	47.9	0.8	1.5	11.5

	重要度					
	重要である	やや重要である	普通	あまり重要ではない	重要ではない	無回答
《産業活力都市づくり》						
(36) 生産性の高い都市型農業を振興している	24.5	28.0	30.6	4.2	1.6	11.1
(37) 市民農園や農業体験講座など、農家と市民が交流できる場が整備されている	12.7	21.0	43.4	7.9	3.6	11.5
(38) 地域に買い物に行きたいと思う商店・商店街がある	34.3	26.3	24.8	2.8	1.4	10.4
(39) 市内には製造業の事業所数が多く工業の活力がある	16.1	23.0	39.5	6.8	2.5	12.1
(40) 就業希望者に対する職業相談などの支援業務が充実している	28.1	26.9	29.3	2.8	1.4	11.5
(41) ふるさと親子祭は、市民相互の親睦と観光客の誘引など地域の活性化に役立っている	18.8	23.3	35.8	7.8	3.9	10.3

事業主体					
国が中心	県が中心	市が中心	市民が中心	民間が中心	無回答
9.2	25.0	37.6	5.8	8.0	14.2
1.8	6.9	53.1	13.9	9.9	14.5
1.1	4.3	47.3	7.0	26.2	14.0
2.2	13.2	44.5	2.0	23.2	15.0
9.4	20.8	47.1	1.1	7.0	14.7
1.1	2.7	60.5	15.9	6.1	13.7

前期基本計画における指標についてお尋ねします

問23 下の表に示した各項目について、あてはまるものを1つずつ選び、番号に○印をつけてください。

≪健康福祉都市をめざして≫			
(1) 自分は健康だと感じていますか。	1 感じる 29.5%	2 どちらかというと感じる 47.4%	
	3 どちらかというと感じない 13.7%	4 感じない 6.6%	(無回答) 2.8%
(2) 定期的に健康診断・健康診査や人間ドックを受けていますか。	1 定期的に受けている 61.9%	2 不定期だが受けている 20.3%	
	3 受けていない 14.9%	(無回答)	2.8%
(3) かかりつけ医を決めていますか。	1 決めている 64.2%	2 決めていない 32.4%	
		(無回答)	3.5%
(4) 地域医療体制が整っていると感じますか。	1 感じる 11.9%	2 どちらかというと感じる 40.3%	
	3 どちらかというと感じない 19.9%	4 感じない 11.9%	
	5 わからない 12.8%	(無回答)	3.1%
(5) 子どもが心身ともに健やかに発育・発達していると感じますか。	1 感じる 18.2%	2 どちらかというと感じる 41.3%	
	3 どちらかというと感じない 10.1%	4 感じない 4.3%	
	5 わからない 21.7%	(無回答)	4.4%
(6) 子育てしやすいまちと感じていますか。	1 感じる 8.6%	2 どちらかというと感じる 40.5%	
	3 どちらかというと感じない 14.3%	4 感じない 9.5%	
	5 わからない 22.5%	(無回答)	4.6%
(7) 高齢者福祉サービスが充実していると感じますか。	1 感じる 3.6%	2 どちらかというと感じる 19.7%	
	3 どちらかというと感じない 26.2%	4 感じない 12.9%	
	5 わからない 34.9%	(無回答)	2.8%

《教育文化都市をめざして》				
(8) 幼稚園教育内容が充実していると感じますか。	1 感じる	6.4%	2 どちらかというと感じる	21.4
	3 どちらかというと感じない	12.1	4 感じない	6.8
	5 わからない	47.9	(無回答)	5.3
(9) 学校教育内容が充実していると感じますか。	1 感じる	3.9%	2 どちらかというと感じる	21.9
	3 どちらかというと感じない	16.6	4 感じない	8.4
	5 わからない	43.7	(無回答)	5.5
(10) 生涯学習情報を得られやすいと感じますか。	1 感じる	2.3%	2 どちらかというと感じる	17.6
	3 どちらかというと感じない	26.7	4 感じない	17.4
	5 わからない	30.7	(無回答)	5.3
(11) 男女共同参画社会が進んでいると感じますか。	1 感じる	2.1%	2 どちらかというと感じる	10.8
	3 どちらかというと感じない	21.3	4 感じない	17.6
	5 わからない	43.0	(無回答)	5.3

《環境共生都市をめざして》				
(12) まちにごみがなくきれいだと感じますか。	1 感じる	11.4%	2 どちらかというと感じる	48.2
	3 どちらかというと感じない	20.9	4 感じない	12.9
	5 わからない	3.2	(無回答)	3.5

《安心安全都市をめざして》				
(13) 消費生活情報の提供が適切に行われていると感じますか。	1 感じる	2.8%	2 どちらかというと感じる	21.1
	3 どちらかというと感じない	27.6	4 感じない	17.6
	5 わからない	26.1	(無回答)	4.8
(14) 災害時の避難場所を知っていますか。	1 知っている	77.9%	2 知らない	18.3
			(無回答)	3.8
(15) 住んでいる地域に犯罪が多いと感じますか。	1 感じる	6.8%	2 どちらかというと感じる	18.6
	3 どちらかというと感じない	39.5	4 感じない	23.2
	5 わからない	8.5	(無回答)	3.5

《快適生活都市をめざして》				
(16) 鉄道が利用しやすいと感じますか。	1 感じる	34.3%	2 どちらかというと感じる	33.9
	3 どちらかというと感じない	12.1	4 感じない	14.4
	5 わからない	1.9	(無回答)	3.5
(17) 市内のバスが利用しやすいと感じますか。	1 感じる	11.7%	2 どちらかというと感じる	24.3
	3 どちらかというと感じない	23.8	4 感じない	23.0
	5 わからない	13.4	(無回答)	3.8
(18) 市内・市外間の移動がしやすいと感じますか。	1 感じる	13.7%	2 どちらかというと感じる	31.8
	3 どちらかというと感じない	22.8	4 感じない	22.6
	5 わからない	5.8	(無回答)	3.3
(19) 交通弱者にやさしい交通環境と感じますか。	1 感じる	3.3%	2 どちらかというと感じる	15.4
	3 どちらかというと感じない	30.7	4 感じない	30.3
	5 わからない	16.3	(無回答)	3.9
(20) 緑豊かなまちと感じますか。	1 感じる	24.6%	2 どちらかというと感じる	52.1
	3 どちらかというと感じない	10.3	4 感じない	6.3
	5 わからない	3.3	(無回答)	3.4
(21) 市街地整備の誘導が適切に図られていると感じますか。	1 感じる	4.1%	2 どちらかというと感じる	19.6
	3 どちらかというと感じない	26.0	4 感じない	18.2
	5 わからない	27.9	(無回答)	4.3

《産業活力都市をめざして》				
(22) ふるさと親子祭が、市民相互の親睦と地域の活性化に役立っていると感じますか。	1 感じる	13.3%	2 どちらかというと感じる	28.7
	3 どちらかというと感じない	17.6	4 感じない	15.9
	5 わからない	20.7	(無回答)	3.8

《計画の推進のために》				
(23) 透明性の高い市政運営がなされていると感じますか。	1 感じる	1.6%	2 どちらかというと感じる	9.8
	3 どちらかというと感じない	26.8	4 感じない	28.2
	5 わからない	29.4	(無回答)	4.1
(24) 市民の意見が市政に反映されていると感じますか。	1 感じる	1.1%	2 どちらかというと感じる	6.7
	3 どちらかというと感じない	27.7	4 感じない	32.2
	5 わからない	28.5	(無回答)	3.8
(25) 自立した市政運営が行われていると感じますか。	1 感じる	1.6%	2 どちらかというと感じる	10.9
	3 どちらかというと感じない	22.8	4 感じない	21.6
	5 わからない	38.8	(無回答)	4.3
(26) 自治会活動が活発に行われていると感じますか。	1 感じる	7.4%	2 どちらかというと感じる	30.0
	3 どちらかというと感じない	20.8	4 感じない	15.4
	5 わからない	22.5	(無回答)	3.8
(27) ボランティア・NPO活動などの市民活動に参加していますか。	1 参加している	9.2%	2 参加していない	86.9
			(無回答)	3.8
(28) 国際交流・協力に関する活動を行ってみたい、参加してみたいと思いますか。	1 思う	9.3%	2 どちらかというと思う	19.9
	3 どちらかというと思わない	20.8	4 思わない	31.6
	5 わからない	14.3	(無回答)	4.1

あなたご自身のことについてお尋ねします

<性別>

F 1 あなたの性別は、どちらですか。(○は1つ)

1 男性	44.5%	2 女性	53.6	(無回答)	1.8
------	-------	------	------	-------	-----

<年齢>

F 2 あなたの年齢は、次のうちどれにあたりますか。(○は1つ)

1 29歳以下	7.7%	2 30歳代	13.2	3 40歳代	17.6
4 50歳代	13.1	5 60歳代	19.4	6 70歳以上	27.0
				(無回答)	2.1

<家族構成>

F 3 同居されているご家族の構成は、次のうちどれにあたりますか。(○は1つ)

1 単身	12.0%	2 夫婦のみ(一世代世帯)	29.7
3 夫婦と未婚の子ども(二世世代世帯)	40.2	4 夫婦と親(二世世代世帯)	1.7
5 夫婦と子どもと親(三世世代世帯)	5.6	6 その他()	7.8
		(無回答)	3.0

<職業>

F 4 あなたの職業をお尋ねします。次の中から選んでください。なお、兼業の方は主として従事している職業を選んでください。(○は1つ)

1 農業	1.0%	2 自営業	4.8
3 会社員	26.6	4 公務員	2.9
5 専門職(医師・弁護士など)	1.8	6 自由業(著述・芸術・芸能など)	0.7
7 学生	2.1	8 派遣	1.6
9 パートタイマー・アルバイト	11.8	10 専業主婦(夫)	19.1
11 無職	23.0	12 その他()	2.1
		(無回答)	2.3

<住居形態>

F 5 あなたのお住まいは、次のうちどれにあたりますか。(○は1つ)

1 戸建て(持ち家)	59.7%	2 マンション(持ち家)	15.9
3 戸建て(賃貸)	2.0	4 アパート・マンション(民間賃貸)	10.2
5 市営住宅	0.2	6 UR賃貸住宅	7.1
7 社宅・寮など	1.2	8 その他()	1.4
		(無回答)	2.3

<居住地>

F 6 あなたのお住まいの地区は、どちらですか。お住まいの町丁目や街区が該当する地区の番号を選んでください。(○は1つ)

	地区	該当町丁目・街区	
1	大和田地区	大和田・萱田・萱田町	9.0
2	ゆりのき台地区	ゆりのき台1丁目～8丁目	5.0
3	大和田新田（A）地区	大和田新田下区等，萱田中学校又は大和田中学校の学区の範囲内にある大和田新田地区	8.5
4	大和田新田（B）地区	大和田新田上区等，高津中学校，東高津中学校又は睦中学校の学区の範囲内にある大和田新田地区	7.8
5	高津・緑が丘地区	高津・高津東1丁目～4丁目・緑が丘1丁目～5丁目	9.4
6	八千代台東南地区	八千代台東1丁目～6丁目・八千代台南1丁目～3丁目	8.8
7	八千代台西北地区	八千代台西1丁目～10丁目・八千代台北1丁目～17丁目	9.3
8	勝田台地区	勝田台1丁目～7丁目・勝田・勝田台南1丁目～3丁目	10.0
9	村上地区	村上・村上南1丁目～5丁目・下市場1丁目～2丁目・上高野・勝田台北1丁目～3丁目	15.2
10	阿蘇地区	米本・神野・保品・下高野・堀の内	1.4
11	睦地区	桑納・麦丸・桑橋・吉橋・島田・神久保・小池・真木野・佐山・平戸・島田台・尾崎・大学町1丁目～6丁目	3.3
12	米本団地地区	米本団地1街区～5街区	3.1
13	高津団地地区	高津団地1街区～7街区	3.1
14	村上団地地区	村上団地1街区～3街区	2.2
		(無回答)	4.0

あなたの地域についてお尋ねします

お住まいの地区における，地域の課題やあなたが考える地域の将来像についてご自由にご記入ください。

<<地域の課題>>
<<地域の将来像>>

- ◆ 市へのご意見や要望、まちづくりについてのアイデア等があればご自由にご記入ください。

(例：商店街の活性化，商業・産業施設の誘致，スポーツ活動や健康増進，文化・芸術活動の促進，雇用・就労の促進，子育て支援の対策，美しい景観・住環境整備対策，税金を増やす施策，公共施設の複合化に関する事など)

ご協力いただきまして、ありがとうございました。

ご記入いただきました調査票は、同封の返信用封筒（切手不要）に入れて、平成27年9月24日（木）までにご投函ください。

IV 調査結果の要約

IV 調査結果の要約

1 八千代市のイメージについて

(1) 市のイメージ

市のイメージは、「生活に便利な都市」が3割台半ばで最も高く、次いで、「自然が豊富な都市」が約3割、「安心して暮らせる都市」が2割を超える。前回調査（平成21年度）と比較すると、「自然が豊富な都市」が減少している。一方、「生活に便利な都市」が増加している。性別で見ると、男女で大きな差はみられない。年齢別で見ると、「生活に便利な都市」は、30歳代が約4割で最も高く、「安心して暮らせる都市」は、70歳以上が約3割で最も高い。

2 定住意向について

(1) 市への愛着心

市への愛着は、「愛着がある」と「どちらかといえば愛着がある」を合わせた、「愛着がある」が7割台半ばである。一方、「どちらかといえば愛着がない」と「愛着がない」を合わせた、「愛着がない」は1割台半ばである。性別で見ると、男女で大きな差はみられない。年齢別で見ると、「愛着がある」は年齢が上がるほど高くなり、70歳以上で8割と最も高い。

(2) 居住継続意識

居住継続意識は、「ずっと住みたい」と「当分の間住みたい」を合わせた、「居住継続」が約8割である。一方、「いずれ転居するつもりである」と「すぐにでも転居したい」を合わせた、「転居希望」は1割を超える。性別で見ると、男女で大きな差はみられない。年齢別で見ると、「居住継続」は、年齢が上がるほど高くなり、70歳以上で約9割と最も高い。一方、「転居希望」は、29歳以下で2割台半ばと最も高い。

「ずっと住みたい」、「当分の間住みたい」と答えた方に、居住継続の理由について尋ねた結果、「自分の家・土地があるから」が6割で最も高く、次いで、「長年住み慣れており愛着があるから」が約4割、「自然災害が比較的少ないから」が3割台半ばである。

「いずれ転居するつもりである」、「すぐにでも転居したい」と答えた方に、転居希望の理由について尋ねた結果、「通勤・通学に不便だから」が約3割で最も高く、次いで、「保健や医療の施設・体制が十分ではないから」、「福祉の施設・制度が十分ではないから」が2割台半ばである。

3 「地域との関わり合い」について

(1) 自治会への加入状況

自治会への加入状況は、「加入している」が7割である。一方、「加入していない」は2割台半ばである。性別で見ると、男女で大きな差はみられない。

「加入していない」と答えた方に、自治会に加入していない理由を尋ねた結果、「自分が住んでいるところに自治会がないから」が2割を超えて最も高く、次いで、「自治会への加入や行事参加の誘いを受けたことがないから」が約2割である。

(2) 自治会の必要性

自治会の必要性は、「あった方がよい」と「どちらかといえばあった方がよい」を合わせた、「あった方がよい」が7割を超える。一方、「どちらかといえば必要ない」と「必要ない」を合わせた、「必要ない」は1割台半ばである。性別で見ると、「あった方がよい」は、男女で大きな差はみられないが、「あった方がよい」は、男性の方が女性よりも高い。

「あった方がよい」、「どちらかといえばあった方がよい」と答えた方に理由を尋ねた結果、「地域の親睦・交流に必要だから」が3割台半ばで最も高く、次いで、「防犯・防災活動など生命や財産を守るために必要だから」が3割台半ば、「環境美化など生活環境の維持・向上のために必要だから」が1割台半ばである。

4 「行政サービスの在り方」について

(1) 行政サービスの在り方

行政サービスの在り方は、「原則として市が行うべきだが、民間でできる業務は民間に移管すべきである」が3割を超えて最も高く、次いで、「市民の協力（ボランティアなど）を得られる分野は、市と市民が連携して行うべきである」、「できるだけ市が直接行うべきである」が約2割である。前回調査（平成21年度）と比較すると、「市民の協力（ボランティアなど）を得られる分野は、市と市民との協働で行うべきである」が減少している。性別で見ると、男女で大きな差はみられない。年齢別で見ると、「原則として市が行うべきだが、民間でできる業務は民間に移管すべきである」は、50歳以上で3割台半ばと高い。「市民の協力（ボランティアなど）を得られる分野は、市と市民が連携して行うべきである」は、29歳以下、60歳代で2割台半ばと高い。

(2) 市民と市役所の関係

予め6つの活動を設定し、それらの活動を行う中心は市民であるべきなのか、市役所であるべきなのかを尋ねた。「市民中心」と「どちらかという市民中心」を合わせて《市民中心》とすると、「登下校時の子どもの見守り」と「家の前の道路の掃除」が8割台半ば、「地域のイベントの運営」が約5割である。「どちらかという市役所中心」と「市役所中心」を合わせて《市役所中心》とすると、「リサイクルや緑化活動の推進」が約8割、「家の近くの公園、遊び場の草取りなど」が6割台半ば、「近所の一人暮らしの高齢者の話し相手」が約5割である。

(3) 市民参加の条件整備

市民参加の条件整備は、「市民の立場から見て、市の抱えている課題を分かりやすくする仕組みをつくる」が4割を超えて最も高く、次いで、「情報公開（制度）の充実」が約3割、「市役所が行っている施策や事業内容のPR」が2割台半ばである。性別で見ると、「市の政策形成過程への市民参画（審議会委員の公募、パブリックコメント、市民参加型のフォーラムやワークショップの開催など）の拡大」は男性の方が女性よりも高い。年齢別で見ると、「市民の立場から見て、市の抱えている課題を分かりやすくする仕組みをつくる」は、年齢が上がるほど低くなり、29歳以下が5割を超えて最も高い。「情報公開（制度）の充実」は、50歳代が3割台半ばで最も高い。

5 八千代市が力を入れて取り組むべき施策について

(1) 市が力を入れて取り組むべき施策

市が力を入れて取り組むべき施策としては、「高齢者施策」が6割を超えて最も高く、次いで「子育て支援施策」が約4割、「防犯・防災に関する施策」が3割を超える。性別で見ると、「高齢者施策」は女性の方が男性よりも高い。一方、「道路・下水道等に関する施策」は男性の方が女性よりも高い。年齢別で見ると、「子育て支援施策」は、30歳代が約7割で最も高く、「高齢者施策」は、70歳以上が7割台半ばで最も高い。

6 高齢化社会について

(1) 高齢者が安心して暮らしていくために、大切なこと

高齢者が安心して暮らしていくために大切なことは、「介護が必要になったときのための福祉サービスの充実」が7割で最も高く、次いで、「年金の充実」、「老人ホームなど高齢者福祉施設の充実」が約4割である。性別で見ると、「介護が必要になったときのための福祉サービスの充実」と「年金の充実」は、女性の方が男性よりも高い。また、「老人ホームなど高齢者福祉施設の充実」も、女性が高い。年齢別で見ると、「介護が必要になったときのための福祉サービスの充実」は、70歳以上が7割台半ばで最も高く、「年金の充実」は、29歳以下が4割台半ばで最も高い。

7 環境問題について

(1) 環境問題

関心を持っている環境問題は、「ごみの減量・再資源化」が4割で最も高く、次いで、「廃棄物の不法投棄」、「放射性物質による汚染や放射性廃棄物の保管・最終処分」で3割台半ばである。性別で見ると、「放射性物質による汚染や放射性廃棄物の保管・最終処分」は、女性の方が男性よりも高い。また、「ダイオキシン類、環境ホルモンなどの化学物質による環境汚染」も女性が高い。年齢別で見ると、「ごみの減量・再資源化」は、年齢が上がるほど高くなり、70歳以上で4割台半ばと最も高い。「廃棄物の不法投棄」は50歳代が4割台半ばで最も高い。

(2) 環境行政への期待

環境行政に期待していることは、「ごみ処理施設・リサイクル施設等の整備・充実」が3割台半ばで最も高く、次いで、「地球温暖化対策の推進」、「自然環境保全対策の整備・充実」が2割台半ばである。性別で見ると、「環境保全計画等長期ビジョンの策定」は、男性の方が女性よりも高く、「環境監視体制の整備・充実」も、男性が高い。一方、「地球温暖化対策の推進」は、女性の方が男性よりも高い。年齢別で見ると、「ごみ処理施設・リサイクル施設等の整備・充実」は、50歳代が4割を超えて最も高く、「地球温暖化対策の推進」は、70歳以上が約3割で最も高い。

8 交通に関することについて

(1) 交通バリアフリー化の優先策

交通バリアフリー化の優先策は、「歩道の改良（段差や勾配の解消・拡幅など）」が6割台半ばで最も高く、次いで、「歩道が未整備の道路の解消（歩道の設置）」が5割台半ば、「鉄道駅へのエレベーターの設置」が3割を超える。性別で見ると、「歩道が未整備の道路の解消（歩道の設置）」は、男性の方が女性よりも高い。一方、「鉄道駅へのエレベーターの設置」は、女性の方が男性よりも高い。年齢別で見ると、「歩道の改良（段差や勾配の解消・拡幅など）」は、50歳代が7割を超えて最も高く、「歩道が未整備の道路の解消（歩道の設置）」も、50歳代が6割台半ばで最も高い。

9 安心で安全なまちづくりについて

(1) 安心で安全なまちづくりのために取り組むべきこと

安心で安全なまちづくりのために取り組むべきことは、「災害時におけるライフラインの確保」が6割台半ばで最も高く、次いで、「防犯施設の整備（防犯灯、防犯カメラ等）」が3割台半ば、「消防・救急体制の整備」が2割を超える。性別で見ると、「防犯施設の整備（防犯灯、防犯カメラ等）」は、男性の方が女性よりも高い。一方、「災害時におけるライフラインの確保」は、女性の方が男性よりも高い。年齢で見ると、「災害時におけるライフラインの確保」は、40歳代が約7割で最も高いが、どの年齢も6割以上である。「防犯施設の整備（防犯灯、防犯カメラ等）」は、40歳代以下が2割台半ばから約3割であるが、50歳代以上は4割を超えて高い。

10 情報化の推進に関することについて

(1) 市行政情報の入手方法

市行政情報の入手方法としては、「広報やちよ」が8割で最も高く、次いで、「友人・知人などからの口コミ」が約3割、「市のホームページ」が1割台半ばである。性別で見ると、「市のホームページ」は、男性のほうが女性よりも高い。年齢別で見ると、「広報やちよ」は、おおむね年齢が上がるほど増加し、60歳以上では9割以上である。「市のホームページ」は、40歳代が2割台半ばで最も高い。

(2) 情報化施策への希望

情報化施策への希望は、「『広報やちよ』の充実」が約6割で最も高く、次いで、「個人情報保護対策の充実」、「インターネット（ホームページ）やツイッターによる情報の充実」が2割台半ばである。性別でみると、「インターネット（ホームページ）やツイッターによる情報交流の充実」は、男性の方が女性よりも高い。一方、「個人情報保護対策の充実」は、女性の方が男性よりも高い。年齢別でみると、「『広報やちよ』の充実」は、年齢が上がるほど増加し、70歳以上で7割台半ばである。逆に、「インターネット（ホームページ）やツイッターによる情報交流の充実」は、年齢が下がるほど増加し、29歳以下が最も高く約4割である。

11 国際化推進に関することについて

(1) 国際化に関する施策

国際化に関する施策は、「外国人のための相談窓口の設置」が4割台半ばで最も高く、次いで、「外国人向けの表示、案内などの整備」が3割超え、「外国人及び外国人児童・生徒への日本語学習機会の提供」が2割台半ばである。性別でみると、男女で大きな差はみられない。年齢別でみると、「外国人のための相談窓口の設置」は、70歳以上が約5割で最も高く、次いで、50歳代が4割台半ばである。「外国人向けの表示、案内などの整備」は、29歳以下が3割台半ばで高い。

12 食育について

(1) 食育という言葉の認知度

食育という言葉の認知度は、「言葉も意味も知っている」と「言葉は知っているが、意味は知らない」を合わせた、「知っている」は約9割である。一方、「言葉も意味も知らない」は1割未満である。性別でみると、「知っている」は、女性の方が男性よりも高い。年齢別でみると、「知っている」は、30歳～50歳代が9割台半ばで並んでいる。

(2) 食育への関心度

食育への関心度は、「関心がある」と「どちらかといえば関心がある」を合わせた、「関心がある」は7割を超える。一方、「どちらかといえば関心がない」と「関心がない」を合わせた、「関心がない」は1割台半ばである。性別でみると、「関心がある」は、女性の方が男性よりも高い。年齢別でみると、「関心がある」は、40歳代と50歳代が約8割で最も高い。一方、29歳以下と70歳以上は6割台半ばから約7割と低い。

「関心がある」、「どちらかといえば関心がある」と答えた方にその理由を尋ねた結果、「子どもの心身の健全な発育のために必要だから」が約7割で最も高く、次いで、「食生活の乱れが問題になっているから」が4割を超え、「生活習慣病の有病者の増加が問題になっているから」が約4割である。

13 余暇の過ごし方について

(1) 余暇時間の過ごし方

余暇時間の過ごし方は、「買い物」が約5割と最も高く、次いで、「家族とのだんらん」、「自宅でテレビなどを見て1人でのんびり過ごす」が4割を超え、「家のまわりや近くの公園などの散歩」が3割台半ばである。性別でみると、差の大きいものが多く、中でも、「友人や知人と過ごす」は女性の方が男性よりも高い。年齢別でみると、「買い物」は、40歳代が6割を超えて最も高く、次いで、30歳代が6割である。「家族とのだんらん」は、30歳代が6割台半ばで最も高く、次いで、40歳代が約6割である。

14 生涯学習や文化活動、スポーツ活動について

(1) 生涯学習や文化活動、スポーツ活動の有無

生涯学習や文化活動、スポーツ活動の有無は、“生涯学習や文化活動”の「とっていない」が6割台半ば、“スポーツ活動”の「とっていない」が約6割と高い。

生涯学習・文化活動は、性別で見ると、「とっていない」は、男性の方が女性よりも高い。年齢別で見ると、「とっている」は、60歳以上で3割台半ばと高い。「とっていない」は、20歳代で約8割と最も高い。次いで、30歳代で7割台半ばである。

スポーツ活動は、性別で見ると、「とっている」は、男性の方が女性よりも高い。年齢別で見ると、「とっている」は60歳代で4割を超えて最も高い。一方、「とっていない」は20歳代、30歳代で7割を超えて高い。

生涯学習や文化活動かスポーツ活動のどちらか1つでも「とっている」と答えた方に、使用している場所について尋ねた結果、「公民館や図書館など公共の社会教育施設」が約4割で最も高く、次いで、「自宅」が3割、「民間のスポーツクラブ」が2割台半ばである。

生涯学習や文化活動で「とっている」と答えた方に、生涯学習や文化活動の推進のために必要なことについて尋ねた結果、「自己負担があってもいいから、よりすぐれた講座を多く開催する(市の施設で)」が約4割で最も高く、次いで、「講座など無料での学習機会を増やす(市の施設で)」が3割超え、「学習会・講座などの開催情報の提供(民間主催でも市の後援事業等は網羅)」が約3割である。性別で見ると、「老朽化した市の施設の備品や設備の交換・改修・充実を(バリアフリー化は除く)」は、男性の方が女性よりも高い。一方、「講座など無料での学習機会を増やす(市の施設で)」は、女性の方が男性よりも高い。年齢別で見ると、「自己負担があってもいいから、よりすぐれた講座を多く開催する(市の施設で)」は40歳代、60歳代で4割台半ばと高い。

スポーツ活動で「とっている」と答えた方に、スポーツ活動の推進のために必要なことについて尋ねた結果、「自己負担があってもいいから、よりすぐれた講習を多く開催する(市の施設で)」が約3割で最も高く、次いで、「老朽化した市の施設の改修・建て替え(施設の複合化も含む。バリアフリー化は除く)」、「老朽化した市の施設の備品や設備の交換・改修・充実(バリアフリー化は除く)」が2割台半ばである。性別で見ると、「講習など無料での学習機会を増やす」は、女性の方が男性よりも高い。「自己負担があってもいいから、よりすぐれた講習を多く開催する(市の施設で)」も女性の方が高い。年齢別で見ると、「自己負担があってもいいから、よりすぐれた講習を多く開催する(市の施設で)」は60歳代で3割を超えて最も高い。

スポーツ活動を「とっている」と答えた方に、スポーツ活動の回数について尋ねた結果、「1回」が3割台半ばで最も高く、次いで、「2回」が3割超え、「3回以上」が約3割である。性別で見ると、男女で大きな差はみられない。年齢別で見ると、「1回」は30歳代で6割と最も高く、「2回」は50歳代で3割台半ばである。「3回以上」は、70歳以上で約4割と最も高い。

生涯学習や文化活動かスポーツ活動のどちらか1つでも「とっていない」と答えた方に、生涯学習や文化活動かスポーツ活動を行っていない理由について尋ねた結果、「仕事や家事、学業が忙しくて時間がない」が約4割で最も高く、次いで、「きっかけがつかめない」が2割超える。

15 施策の重要度・事業主体

(1) 施策の重要度

施策の重要度を41の項目に分け、それぞれの評価を尋ねた。

「重要である」と「やや重要である」の評価を《重要》、「あまり重要ではない」と「重要ではない」の評価を《非重要》と仮定して、それぞれの上位5項目を列挙すると次のようになる。

◎《重要》

①	20	快適な生活環境	79.7
②	17	安心して暮らせるまち	79.4
③	30	水道水が安定的に供給されている	79.3
④	3	救急医療体制が充実している	78.5
⑤	15	消防体制が充実している	77.7

×《非重要》

①	41	ふるさと親子祭	11.7
②	37	農家と市民交流の場	11.5
③	39	工業の活力	9.3
④	13	文化に接する機会	8.9
⑤	11	コミュニティづくりのための施設	8.7

《健康福祉都市づくり》、《教育文化都市づくり》、《安心安全都市づくり》、《環境自然共生都市づくり》、《快適生活空間都市づくり》、《産業活力都市づくり》の6つの政策ごとに、施策重要度の分析をすると次のようになる。

《健康福祉都市づくり》では、《重要》は、「救急医療体制が充実している」が約8割と最も高く、次いで、「地域の医療体制が充実している」、「健康を保つための病気の早期発見・予防体制が整備されている」などである。《重要》がどの項目でも、5割以上である。

《教育文化都市づくり》では、《重要》は、「小中学校の施設・設備が充実している」が6割を超えて最も高い。次いで、「図書館、公民館、博物館、文化伝承間などの生涯学習施設が充実している」、「性別に捉われず、心豊かに暮らすこと」などである。

《安心安全都市づくり》では、《重要》は、「犯罪が少なく安心して暮らせるまちである」と「火災・救急等から市民の生命や財産を守るための消防体制が充実している」と「災害に強い安全なまちづくりができています」が約8割と高い。次いで、「市民、警察、防犯関係団体等による地域防犯体制が整備されている」などである。《重要》がどの項目でも、6割以上である。

《環境自然共生都市づくり》では、《重要》は、「大気汚染・水質汚濁・騒音・振動などのない快適な生活環境である」が約8割と最も高い。次いで、「緑や水辺などの自然環境が保全されている」、「リサイクルを含めたごみ処理体制が充実している」などである。《重要》がどの項目でも、5割以上である。

《快適生活空間都市づくり》では、《重要》は、「安全でおいしい水道水が安定的に供給されている」が約8割と最も高い。次いで、「鉄道・バス路線などの公共交通網が整備されている」、「公共下水道が整備されている」などである。《重要》がどの項目でも5割以上である。

《産業活力都市づくり》では、《重要》は、「地域に買い物に行きたいと思う商店・商店街がある」が6割と最も高い。次いで、「就業希望者に対する職業相談などの支援業務が充実している」、「生産性の高い都市型農業を振興している」などである。

(2) 施策の事業主体

施策の事業主体を41の項目に分け、それぞれの主体を尋ねた。

それぞれの上位5項目を挙げると次のようになる。

「国が中心」

①	20	大気汚染などのない生活環境	45.5
②	19	安全で安心な消費生活	32.3
③	7	障害者の自立支援	27.2
④	6	高齢者福祉サービスが充実している	25.5
⑤	27	新規道路の整備がすすんでいる	24.5

「県が中心」

①	27	新規路線の整備がすすんでいる	41.6
②	26	公共交通網が整備されている	34.2
③	28	道路整備がすすんでいる	32.6
④	30	水道水が安定的に供給されている	30.2
⑤	29	下水道が整備されている	28.9

「市が中心」

①	32	緑あるまちが形成されている	68.8
②	25	公園や緑地などが整備されている	67.3
③	11	コミュニティづくりのための施設が充実している	64.9
③	33	良好な都市景観が形成されている	64.9
⑤	31	無秩序な開発が防がれている	64.1

「市民が中心」

①	24	きれいなまちづくりが推進されている	27.3
②	22	環境を重視したまちづくりが行われている	26.7
③	12	性別に捉われず豊かに暮らすこと	24.4
④	13	文化に接する機会がある	20.6
⑤	41	ふるさと親子祭	15.9

「民間が中心」

①	38	買い物に行きたいと思う商店・商店街	26.2
②	39	工業の活力	23.2
③	26	公共交通網が整備されている	10.0
④	37	農家と市民が交流できる場	9.9
⑤	36	都市型農業	8.0

16 前期基本計画における指標について

(1) 健康状態

健康状態は、「感じる」と「どちらかというと感じる」を合わせた、「感じる」は7割台半ばである。一方、「どちらかというと感じない」と「感じない」を合わせた、「感じない」は2割である。過去の調査と比べると大きな差はみられない。性別でみると、男女で大きな差はみられない。年齢別でみると、「感じる」は、29歳以下で約9割と最も高く、次いで、40歳代で8割台半ばである。一方、「感じない」は、70歳以上で2割台半ばである。

(2) 健康診断や人間ドッグの受診

健康診断や人間のドッグの受診は、「定期的を受けている」と「不定期だがを受けている」を合わせた、「を受けている」は8割を超える。一方、「受けていない」は、1割台半ばである。過去の調査と比べると、「を受けている」は、平成22年度から増加している。性別でみると、「を受けている」は、男性の方が女性よりも高い。年齢別でみると、「を受けている」は、50歳代、60歳代で約9割と最も高い。

(3) かかりつけ医の有無

かかりつけ医の有無は、「決めている」が6割台半ばである。一方、「決めていない」は3割を超える。過去の調査と比べると、「決めている」は、平成22年度から増加し、「決めていない」は、平成22年度から減少している。性別でみると、「決めている」は、女性の方が男性よりも高い。年齢別でみると、「決めている」は、年齢が上がるほど高くなり、70歳以上で8割台半ばと最も高い。「決めていない」は、29歳以下で6割と最も高い。

(4) 地域医療体制の整備状況

地域医療体制の整備状況は、「感じる」と「どちらかというと感じる」を合わせた、「感じる」は5割を超える。一方、「どちらかというと感じない」と「感じない」を合わせた、「感じない」は3割を超える。過去の調査と比べると、「感じる」は、平成23年度から増加している。性別でみると、男女で大きな差はみられない。年齢別でみると、「感じる」は、70歳以上で6割を超えて最も高く、次いで、40歳代で5割台半ばである。

(5) 子どもの健やかな発育・発達

子どもの健やかな発育・発達は、「感じる」と「どちらかというと感じる」を合わせた、「感じる」は約6割である。一方、「どちらかというと感じない」と「感じない」を合わせた、「感じない」は1割台半ばである。過去の調査と比べると、「感じる」は、平成23年度から増加している。性別でみると、「感じない」は、男性の方が女性よりも高い。年齢別でみると、「感じる」は、40歳代で7割を超えて最も高く、次いで、30歳代、50歳代で6割を超える。

(6) 子育てしやすいまち

子育てしやすいまちは、「感じる」と「どちらかというと感じる」を合わせた、「感じる」は約5割である。一方、「どちらかというと感じない」と「感じない」を合わせた、「感じない」は2割台半ばである。過去の調査と比べると、「感じない」は、平成22年度から減少している。性別でみると、「感じない」は、男性の方が女性よりも高い。年齢別でみると、「感じる」は、40歳代、50歳代で5割台半ばと最も高い。

(7) 高齢者福祉サービスの充実

高齢者福祉サービスの充実は、「感じる」と「どちらかというと感じる」を合わせた、「感じる」は2割台半ばである。一方、「どちらかというと感じない」と「感じない」を合わせた、「感じない」は約4割である。過去の調査と比べると、「感じない」は、平成22年度から減少している。性別でみると、「感じない」は、男性の方が女性よりも高い。年齢別でみると、「感じる」は、70歳以上で3割台半ばと最も高い。一方、「感じない」は、60歳代で4割台半ばと最も高い。

(8) 幼稚園教育の充実

幼稚園教育の充実は、「感じる」と「どちらかというと感じる」を合わせた、「感じる」は約3割である。一方、「どちらかというと感じない」と「感じない」を合わせた、「感じない」は約2割である。過去の調査と比べると、「感じない」は、平成22年度から減少している。性別で見ると、「感じない」は、男性の方が女性よりも低い。年齢別で見ると、「感じる」は、30歳代、40歳代、70歳代で3割を超えて高い。

(9) 学校教育内容の充実

学校教育内容の充実は、「感じる」と「どちらかというと感じる」を合わせた、「感じる」は2割台半ばである。一方、「どちらかというと感じない」と「感じない」を合わせた、「感じない」は2割台半ばである。過去の調査と比べると、「感じる」は、平成22年度から増加している。性別で見ると、「感じない」は、男性の方が女性よりも高くなっている。年齢別で見ると、「感じる」は、40歳代で3割と最も高く、次いで、70歳以上で約3割である。一方、「感じない」は、50歳代で4割と最も高い。

(10) 生涯学習情報の得やすさ

生涯学習の得やすさは、「感じる」と「どちらかというと感じる」を合わせた、「感じる」は約2割である。一方、「どちらかというと感じない」と「感じない」を合わせた、「感じない」は4割台半ばである。過去の調査と比べると、「感じない」は、平成23年度から減少している。性別で見ると、男女で大きな差はみられない。年齢別で見ると、「感じる」は、70歳以上で2割台半ばと最も高い。一方、「感じない」は、40歳代、50歳代で5割を超え、最も高い。

(11) 男女共同参画社会の進展

男女共同参画社会の進展は、「感じる」と「どちらかというと感じる」を合わせた、「感じる」は1割を超える。一方、「どちらかというと感じない」と「感じない」を合わせた、「感じない」は約4割である。過去の調査と比べると、「感じない」は、平成22年度から減少している。性別で見ると、「感じない」は、男性の方が女性よりも高い。年齢別で見ると、「感じない」は、30歳代から50歳代で4割半ばと高い。

(12) まちのきれいさ

まちのきれいさは、「感じる」と「どちらかというと感じる」を合わせた、「感じる」は約6割である。一方、「どちらかというと感じない」と「感じない」を合わせた、「感じない」は3割台半ばである。過去の調査と比べると、「感じる」は、平成23年度から増加している。性別で見ると、男女で大きな差はみられない。年齢別で見ると、「感じる」は、70歳以上で6割台半ばと最も高く、次いで、30歳代で6割である。一方、「感じない」は、50歳代で4割と最も高い。

(13) 消費生活情報の得やすさ

消費生活情報の得やすさは、「感じる」と「どちらかというと感じる」を合わせた、「感じる」は2割台半ばである。一方、「どちらかというと感じない」と「感じない」を合わせた、「感じない」は4割台半ばである。過去の調査と比べると、「感じない」は、平成23年度から減少している。性別で見ると、「感じない」は、男性の方が女性よりも高い。年齢別で見ると、「感じる」は、70歳以上で3割を超えて最も高い。一方、「感じない」は、50歳代で5割台半ばと最も高く、次いで60歳代で約5割である。

(14) 災害時の避難場所

災害時の避難場所は、「知っている」が約8割である。一方、「知らない」は約2割である。過去の調査と比べると大きな差はみられない。性別で見ると、「知らない」は、男性の方が女性よりも高い。年齢別で見ると、「知っている」は、50歳代、60歳代で8割を超えて高い。

(15) 犯罪の多さ

犯罪の多さは、「感じる」と「どちらかというと感じる」を合わせた、「感じる」は2割台半ばである。一方、「どちらかというと感じない」と「感じない」を合わせた、「感じない」は6割を超える。過去の調査と比べると、「感じない」は、平成19年度から増加している。性別で見ると、「感じない」は、男性の方が女性よりも高い。年齢別で見ると、「感じる」は、40歳代で3割を超えて最も高く、次いで、30歳代で約3割である。一方、「感じない」は、29歳以下で7割を超えて最も高く、次いで、50歳代で6割台半ばである。

(16) 鉄道の利用しやすさ

鉄道の利用しやすさは、「感じる」と「どちらかというと感じる」を合わせた、「感じる」は約7割である。一方、「どちらかというと感じない」と「感じない」を合わせた、「感じない」は2割台半ばである。過去の調査と比べると、「感じる」は、平成23年度から増加している。性別で見ると、男女で大きな差はみられない。年齢別で見ると、「感じる」は、70歳以上で約8割と最も高く、次いで、60歳代で7割を超える。一方、「感じない」は、30歳代で約4割と最も高い。

(17) バスの利用しやすさ

バスの利用しやすさは、「感じる」と「どちらかというと感じる」を合わせた、「感じる」は3割台半ばである。一方、「どちらかというと感じない」と「感じない」を合わせた、「感じない」は4割台半ばである。過去の調査と比べると、「感じる」は、平成22年度から減少している。性別で見ると、男女で大きな差はみられない。年齢別で見ると、「感じる」は、70歳以上で4割台半ばと最も高く、次いで、60歳代で約4割である。一方、「感じない」は、30～50歳代で5割台半ばと高い。

(18) 市内・市外間の移動のしやすさ

市内・市外間の移動のしやすさは、「感じる」と「どちらかというと感じる」を合わせた、「感じる」は4割台半ばである。一方、「どちらかというと感じない」と「感じない」を合わせた、「感じない」も4割台半ばである。過去の調査と比べると、「感じる」は、平成23年度から増加している。性別で見ると、男女で大きな差はみられない。年齢別で見ると、「感じる」は、29歳以下で5割と最も高く、次いで、70歳以上で約5割である。「感じない」は、30歳代、50歳代で5割台半ばと高い。

(19) 交通弱者にやさしい交通環境

交通弱者にやさしい交通環境は、「感じる」と「どちらかというと感じる」を合わせた、「感じる」は約2割である。一方、「どちらかというと感じない」と「感じない」を合わせた、「感じない」は6割を超える。過去の調査と比べると、「感じない」は、平成22年度から減少している。性別で見ると、「感じない」は、男性の方が女性よりも高い。年齢別で見ると、「感じない」は、50歳代で7割を超えて最も高く、次いで、30歳代で約7割と高い。

(20) 緑豊かなまち

緑豊かなまちは、「感じる」と「どちらかというと感じる」を合わせた、「感じる」は7割台半ばである。一方、「どちらかというと感じない」と「感じない」を合わせた、「感じない」は1割台半ばである。過去の調査と比べると、「感じる」は、平成23年度から増加している。性別で見ると、男女で大きな差はみられない。年齢別で見ると、「感じる」は、50歳代が8割台半ばで最も高く、次いで、60歳代が8割を超える。また、全ての年齢で7割を超える。

(21) 市街地整備

市街地整備は、「感じる」と「どちらかというと感じる」を合わせた、「感じる」は2割台半ばである。一方、「どちらかというと感じない」と「感じない」を合わせた、「感じない」は4割台半ばである。過去の調査と比べると、「感じる」は、平成22年度から減少している。性別で見ると、「感じない」は、男性の方が女性よりも高い。年齢別で見ると、「感じない」は、30歳代、40歳代が5割で最も高い。29歳以下、70歳以上では約4割と低い。

(22) ふるさと親子祭

ふるさと親子祭は、「感じる」と「どちらかというと感じる」を合わせた、「感じる」は4割を超える。一方、「どちらかというと感じない」と「感じない」を合わせた、「感じない」は3割台半ばである。過去の調査と比べると、「感じる」は、平成22年度から減少している。性別で見ると、「感じない」は、男性の方が女性よりも高い。年齢別で見ると、「感じる」は、40歳代で約5割と最も高く、次いで、70歳以上で4割台半ばと高い。一方、「感じない」は、50歳代で4割と最も高い。

(23) 透明性の高い市政運営

透明性の高い市政運営は、「感じる」と「どちらかというと感じる」を合わせた、「感じる」は、1割を超える。一方、「どちらかというと感じない」と「感じない」を合わせた、「感じない」は5割台半ばである。過去の調査と比べると、「感じる」は、平成23年度から減少している。性別で見ると、「感じない」は、男性の方が女性よりも高い。年齢別で見ると、「感じない」は、30歳代、60歳代で6割を超えて高い。

(24) 市民の意見の反映

市民の意見の反映は、「感じる」と「どちらかというと感じる」を合わせた、「感じる」は約1割である。一方、「どちらかというと感じない」と「感じない」を合わせた、「感じない」は約6割である。過去の調査と比べると、「感じない」は、平成22年度から増加している。性別で見ると、男女で大きな差はみられない。年齢別で見ると、「感じない」は、30～60歳代で6割台半ばと高い。29歳以下は4割台半ばと最も低い。

(25) 自立した市政運営

自立した市政運営は、「感じる」と「どちらかというと感じる」を合わせた、「感じる」は1割を超える。一方、「どちらかというと感じない」と「感じない」を合わせた、「感じない」は、4割台半ばである。過去の調査と比べると、「感じる」は、平成23年度から減少している。性別で見ると、「感じない」は、男性の方が女性よりも高い。年齢別で見ると、「感じない」は、50歳代が5割台半ばで最も高く、次いで60歳代が5割を超える。

(26) 自治会活動が活発に行われているか

自治会活動が活発に行われているかは、「感じる」と「どちらかというと感じる」を合わせた、「感じる」は約4割である。一方、「どちらかというと感じない」と「感じない」を合わせた、「感じない」は3割台半ばである。過去の調査と比べると、「感じる」は、平成22年度から減少している。性別で見ると、「感じない」は、男性の方が女性よりも高い。年齢別で見ると、「感じる」は、70歳以上で5割と最も高い。一方、「感じない」は、50歳代で4割台半ばと最も高い。

(27) ボランティア・NPO活動

ボランティア・NPO活動は、「参加している」が約1割である。一方、「参加していない」は8割台半ばである。性別で見ると、男女で大きな差はみられない。年齢別で見ると、「参加していない」は、50歳以下で9割を超えて高く、また、60歳代以上でも8割を超えて高い。

(28) 国際交流・協力

国際交流・協力は、「思う」と「どちらかというと思う」を合わせた、「思う」は約3割である。一方、「どちらかというと思わない」と「思わない」を合わせた、「思わない」は5割を超える。過去の調査と比べると、「思う」は、平成23年度から減少している。性別で見ると、男女で大きな差はみられない。年齢別で見ると、「思わない」は、70歳以上で約6割と最も高く、次いで50歳代、60歳代で5割台半ばである。29歳以下は4割台半ばと最も低い。

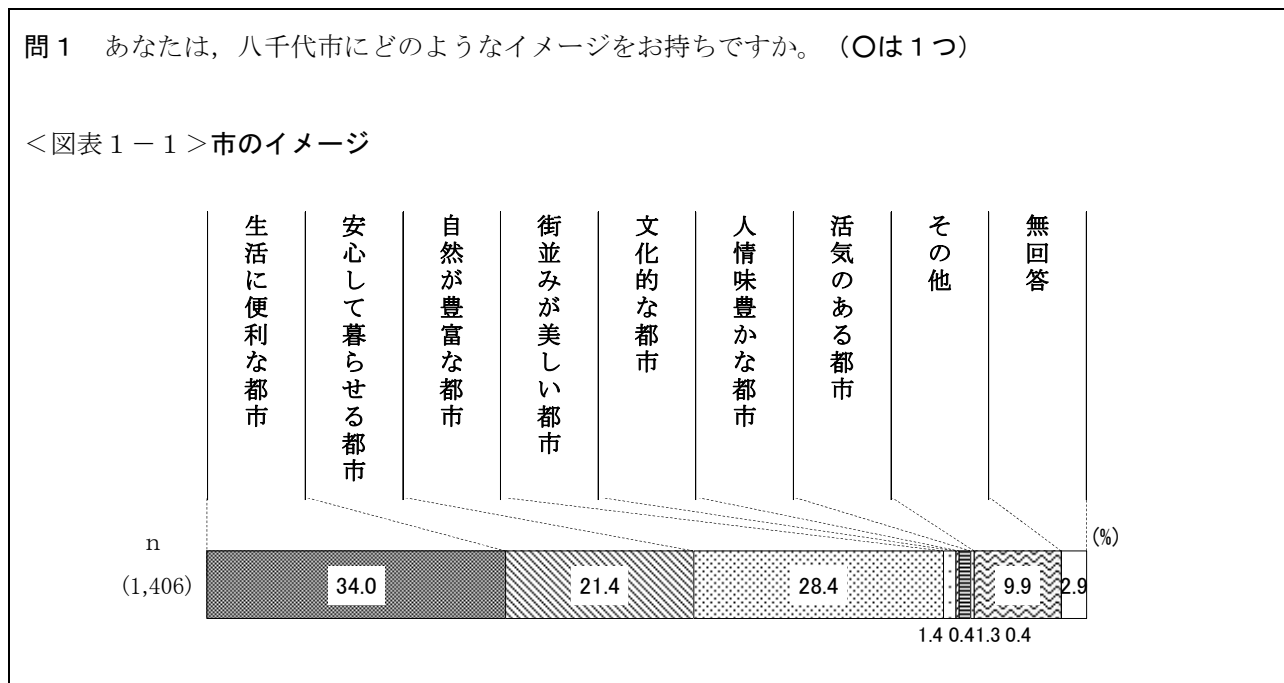
V 調査結果の分析

V 調査結果の分析

1 八千代市のイメージについて

(1) 市のイメージ

◇「生活に便利な都市」が3割台半ば

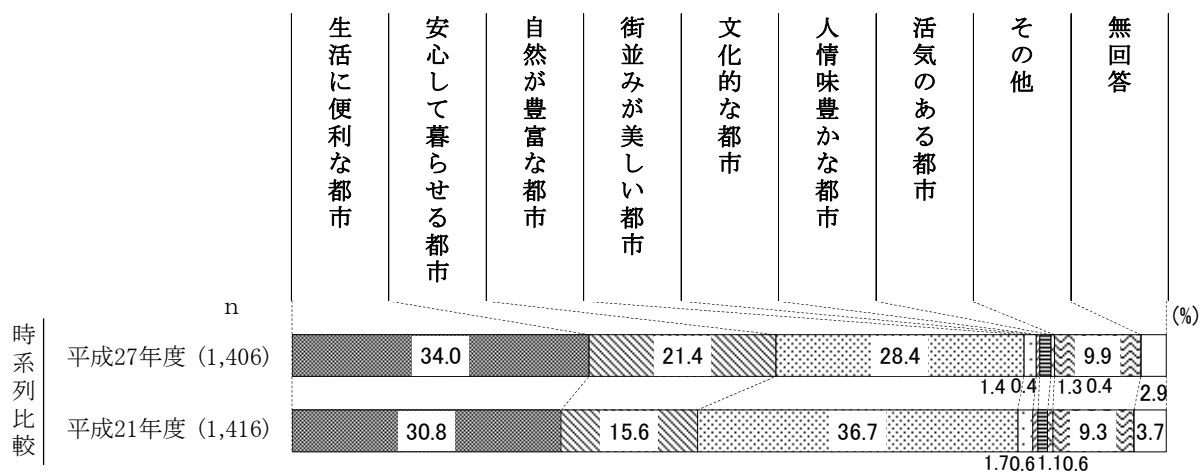


市のイメージは、「生活に便利な都市」(34.0%)が3割台半ばで最も高く、次いで、「自然が豊富な都市」(28.4%)が約3割、「安心して暮らせる都市」(21.4%)が2割を超えている。(図表1-1)

【時系列比較】

前回調査(平成21年度)と比較すると、「自然が豊富な都市」が8ポイント減少している。一方、「生活に便利な都市」は、3ポイント増加している。(図表1-2)

<図表1-2>時系列比較



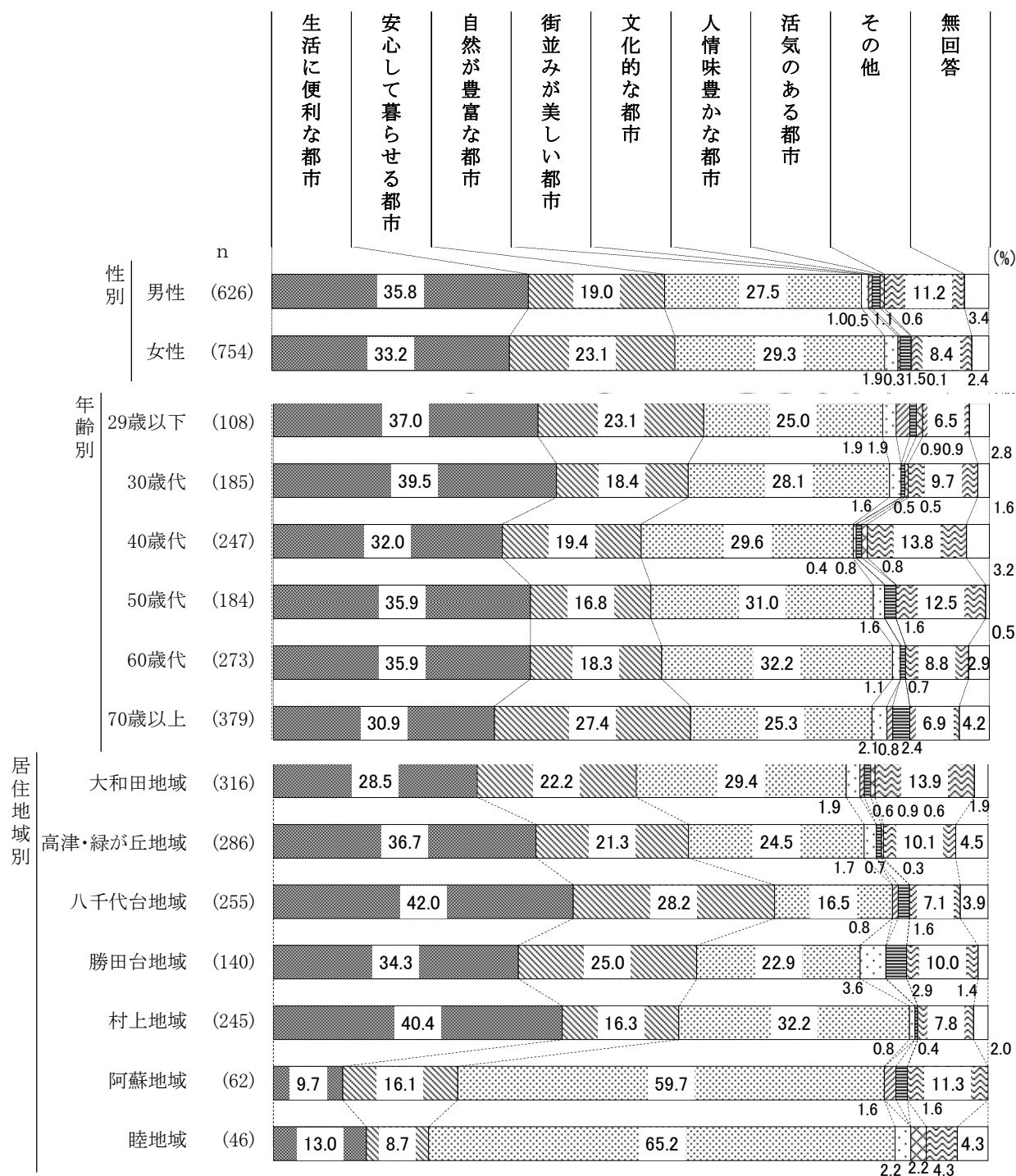
【性別・年齢別・居住地域別】

性別でみると、男女で大きな差はみられない。

年齢別でみると、「生活に便利な都市」は、30歳代が約4割で最も高く、最も低い70歳以上と比べると9ポイントの差がある。「安心して暮らせる都市」は、70歳以上が約3割で最も高く、最も低い50歳代と比較すると、11ポイントの差がある。

居住地域別でみると、「生活に便利な都市」は、八千代台地域で4割を超えて最も高く、次いで、村上地域で4割となっている。(図表1-3)

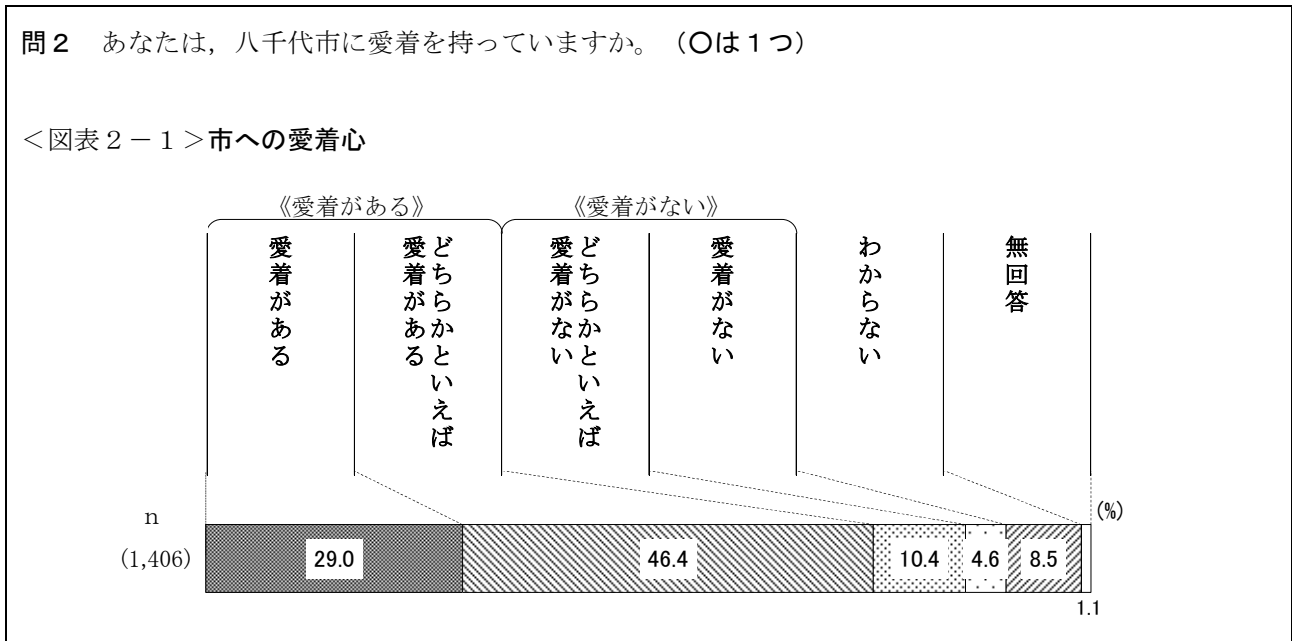
<図表1-3>性別・年齢別・居住地域別



2 定住意向について

(1) 市への愛着心

◇《愛着がある》が7割台半ば



市への愛着心は、「愛着がある」(29.0%)、「どちらかといえば愛着がある」(46.4%)となっており、これらを合わせた、《愛着がある》(75.4%)は、7割台半ばとなっている。一方、「どちらかといえば愛着がない」(10.4%)、「愛着がない」(4.6%)を合わせた、《愛着がない》(15.0%)は、1割台半ばとなっている。(図表2-1)

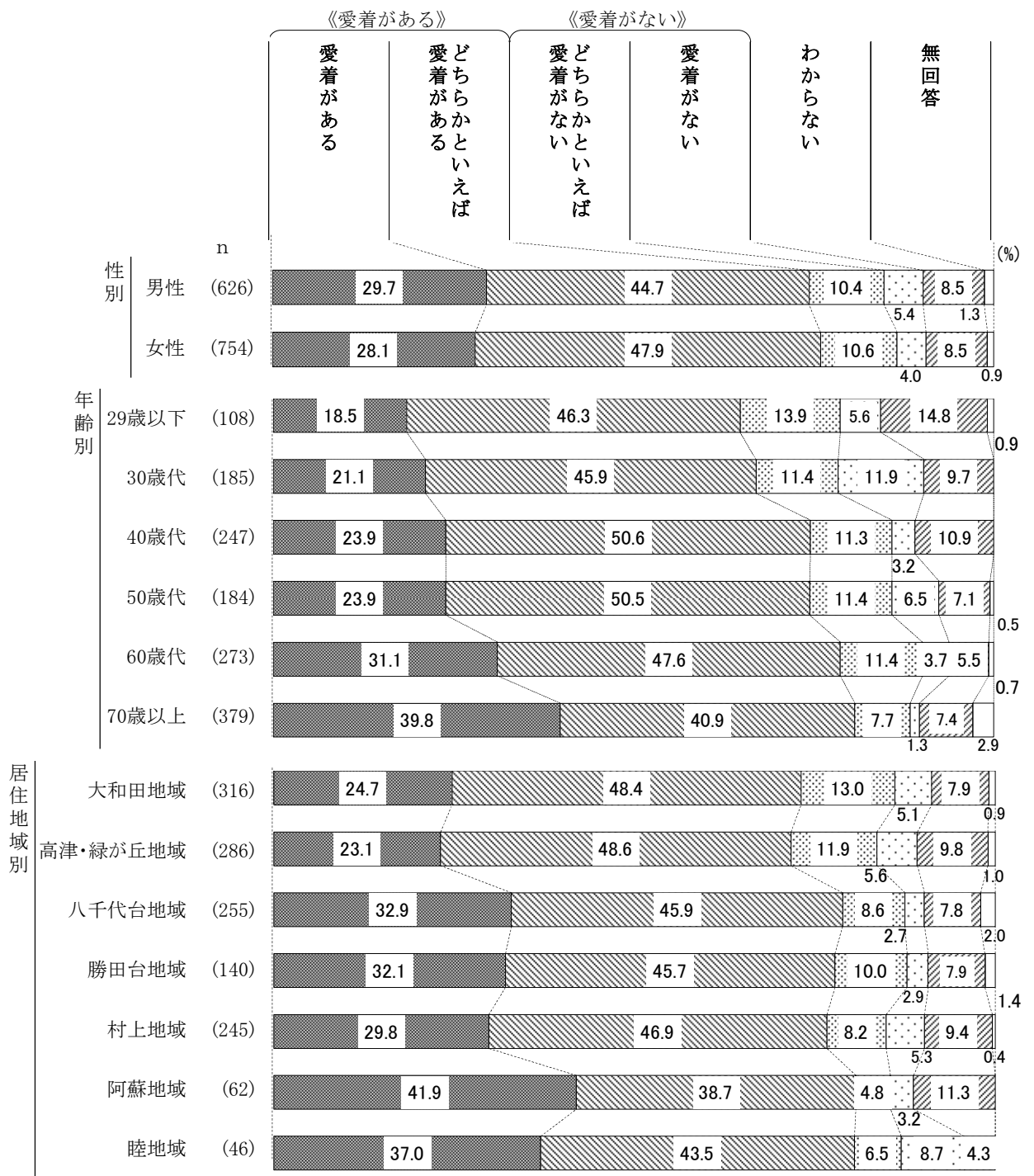
【性別・年齢別・居住地別】

性別でみると、男女で大きな差はみられない。

年齢別でみると、「愛着がある」は年齢が上がるほど高くなり、70歳以上で8割と最も高くなっている。

居住地別でみると、「愛着がある」はどの地域でも7割を超えている。中でも、阿蘇地域と睦地域で8割と高くなっている。(図表2-2)

<図表2-2>性別・年齢別・居住地別

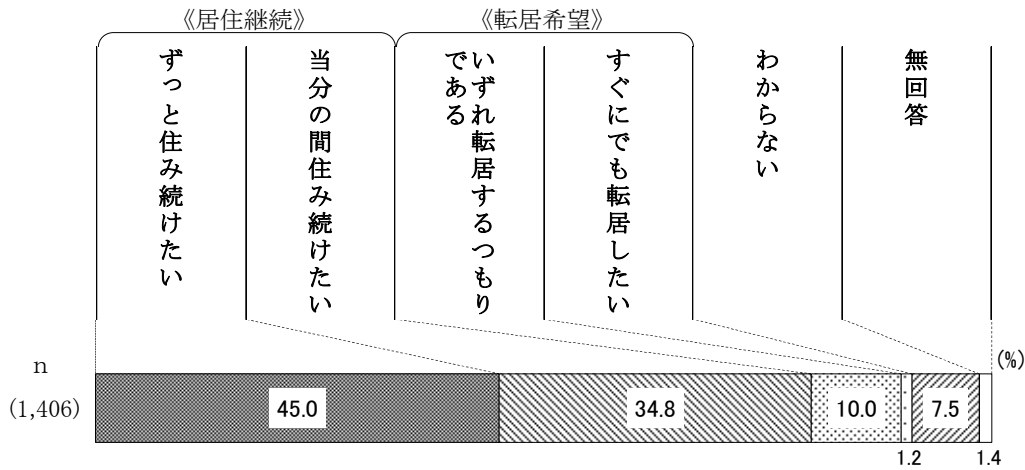


(2) 居住継続意識

◇《居住継続》が約8割

問3 あなたは、今後も八千代市に住み続けたいとお考えですか。(〇は1つ)

<図表2-3> 居住継続意識



居住継続意識は、「ずっと住み続けたい」(45.0%)、「当分の間住み続けたい」(34.8%)となっており、これらを合わせた、《居住継続》(79.8%)は、約8割となっている。一方、「いずれ転居するつもりである」(10.0%)、「すぐにでも転居したい」(1.2%)を合わせた、《転居希望》(11.2%)は、1割を超えている。(図表2-3)

【性別・年齢別・居住地域別・市への愛着心別】

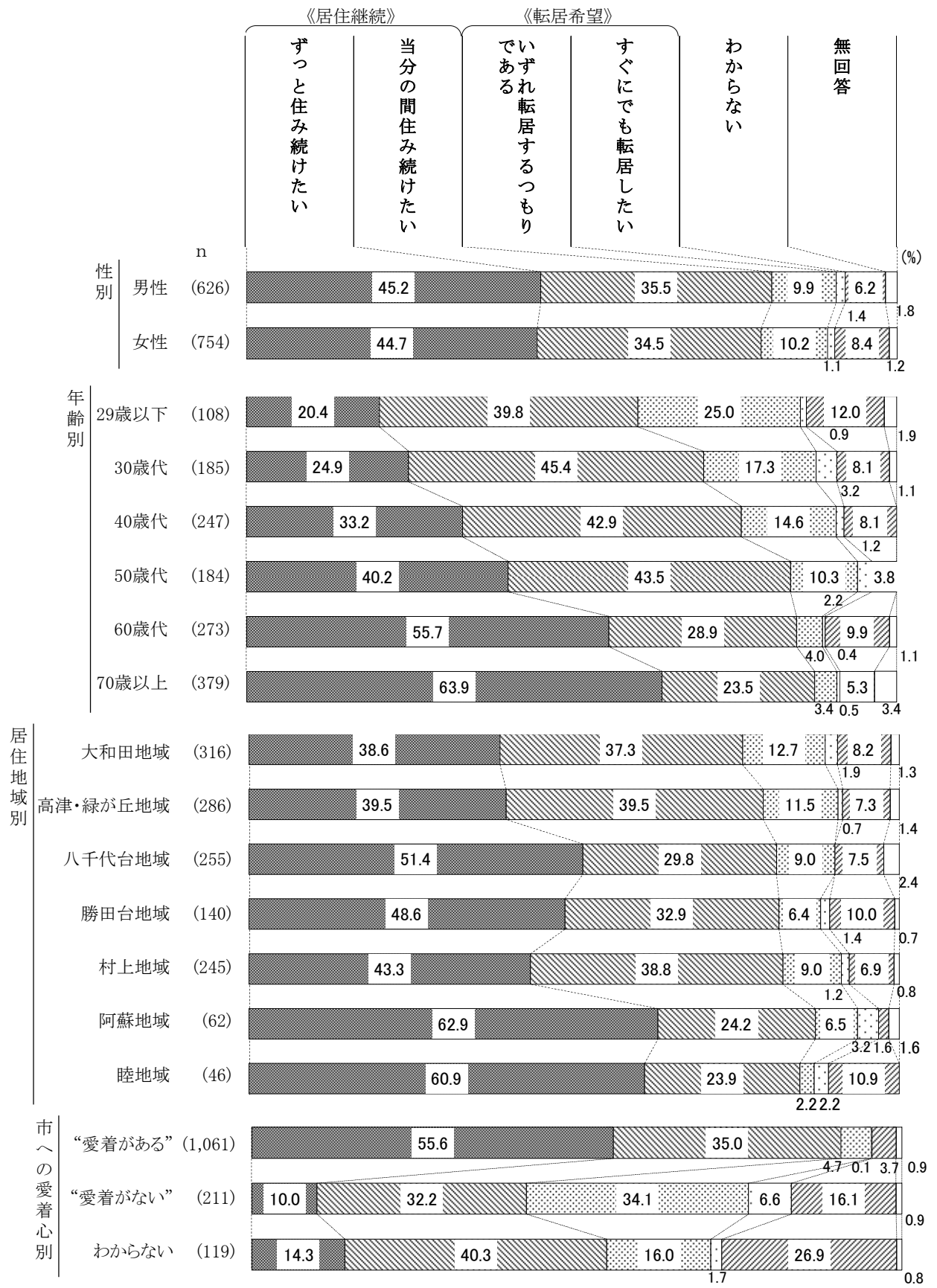
性別でみると、男女で大きな差はみられない。

年齢別でみると、《居住継続》は、年齢が上がるほど高くなり、70歳以上で約9割と最も高くなっている。一方、《転居希望》は、29歳以下で2割台半ばと最も高い。

居住地域別でみると、《居住継続》は、どの地域でも7割台半ば以上で高く、中でも、阿蘇地域で約9割と最も高くなっている。

市への愛着心別でみると、《居住継続》は“愛着がある”で9割となっており、“愛着がない”よりも48ポイント高くなっている。(図表2-4)

<図表 2-4> 性別・年齢別・居住地域別・市への愛着心別

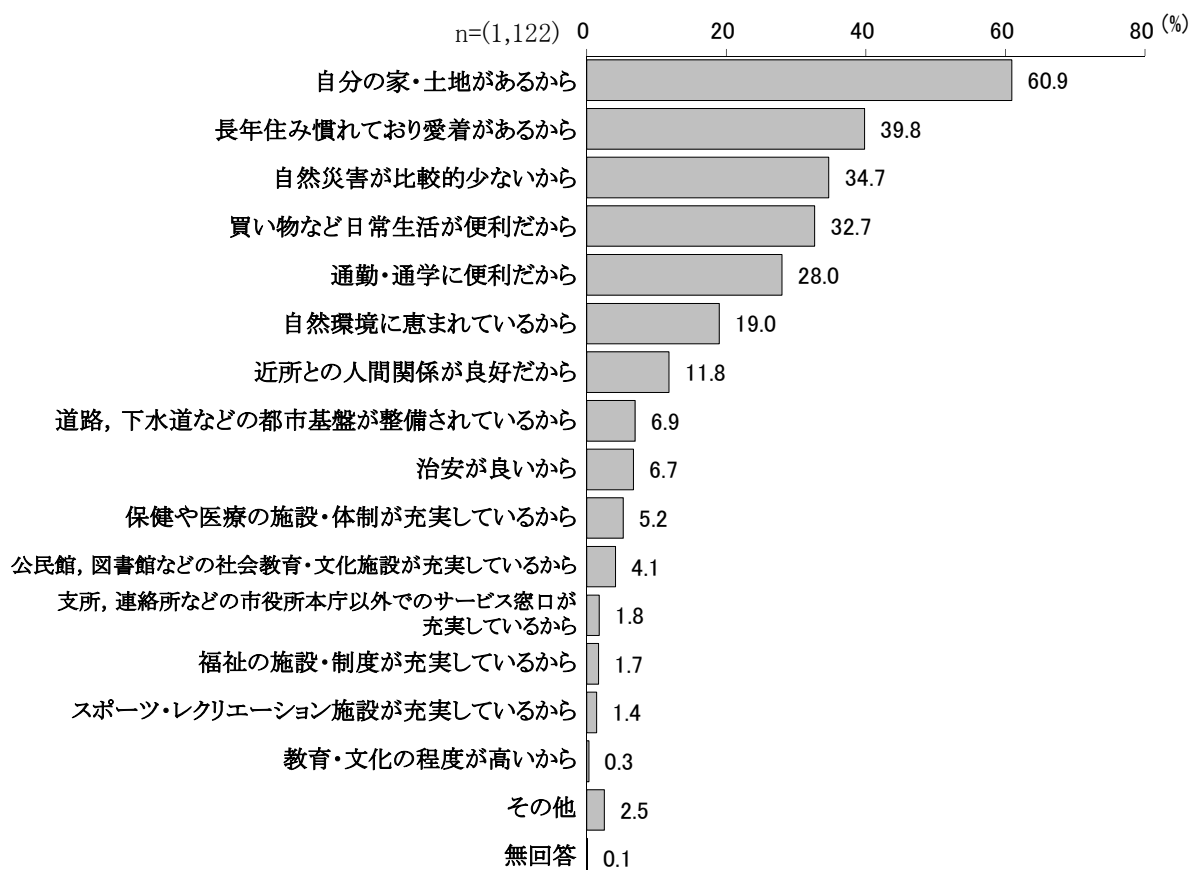


(2-1) 居住継続の理由

◇「自分の家・土地があるから」が6割

(問3で「1 ずっと住み続けたい」「2 当分の間住み続けたい」とお答えの方にお尋ねします)
問3-1 あなたが住み続けたいと思われる理由を次の中から選んでください。(〇は3つまで)

<図表2-5> 居住継続の理由 (複数回答)



問3で、「ずっと住み続けたい」、「当分の間住み続けたい」と答えた方に、居住継続の理由について尋ねた。その結果、「自分の家・土地があるから」(60.9%)が6割で最も高く、次いで、「長年住み慣れており愛着があるから」(39.8%)が約4割、「自然災害が比較的少ないから」(34.7%)が3割台半ばとなっている。(図表2-5)

【性別・年齢別・居住地域別】

性別でみると、「買い物など日常生活が便利だから」は、女性の方が男性よりも8ポイント高くなっている。一方、「通勤・通学に便利だから」は、男性の方が女性よりも8ポイント高くなっている。

年齢別でみると、「自分の家・土地があるから」は、40歳代で約7割と最も高く、最も低い29歳以下、30歳代と比較すると、22ポイントの差がある。

居住地域別でみると、「自分の家・土地があるから」は、睦地域で7割台半ばと最も高く、最も低い阿蘇地域と比較すると、42ポイントの差がある。「長年住み慣れており愛着があるから」は、阿蘇地域で約6割と最も高く、最も低い高津・緑が丘地域と比較すると、23ポイントの差がある。(図表2-6)

<図表 2-6>性別・年齢別・居住地域別

上段：人数／下段：(%)

	調査数	自分の家・土地があるから	長年住み慣れており愛着があるから	自然災害が比較的少ないから	買い物など日常生活が便利だから	通勤・通学に便利だから	自然環境に恵まれているから	近所との人間関係が良好だから	道路が整備されているから	治安が良いから	保健や医療の施設・体制が充実しているから	公民館、図書館などの社会教育施設が充実しているから	本庁以外でのサービス窓口が充実しているから	支所、連絡所などの市役所が充実しているから	福祉の施設・制度が充実しているから	スポーツ・レクリエーション施設が充実しているから	教育・文化の程度が高いから
全体	1,122 100.0	683 60.9	447 39.8	389 34.7	367 32.7	314 28.0	213 19.0	132 11.8	77 6.9	75 6.7	58 5.2	46 4.1	20 1.8	19 1.7	16 1.4	3 0.3	
男性	505 100.0	313 62.0	202 40.0	160 31.7	145 28.7	164 32.5	100 19.8	50 9.9	37 7.3	30 5.9	26 5.1	20 4.0	7 1.4	11 2.2	9 1.8	1 0.2	
女性	597 100.0	362 60.6	237 39.7	218 36.5	220 36.9	149 25.0	112 18.8	77 12.9	37 6.2	42 7.0	30 5.0	25 4.2	12 2.0	7 1.2	6 1.0	2 0.3	
29歳以下	65 100.0	30 46.2	20 30.8	12 18.5	24 36.9	30 46.2	9 13.8	3 4.6	3 4.6	9 13.8	2 3.1	6 9.2	1 1.5	-	2 3.1	1 1.5	
30歳代	130 100.0	60 46.2	36 27.7	35 26.9	49 37.7	61 46.9	15 11.5	15 11.5	3 2.3	13 10.0	4 3.1	6 4.6	2 1.5	-	1 0.8	-	
40歳代	188 100.0	128 68.1	67 35.6	58 30.9	57 30.3	80 42.6	33 17.6	20 10.6	3 1.6	9 4.8	4 2.1	3 1.6	2 1.1	-	-	-	
50歳代	154 100.0	100 64.9	46 29.9	54 35.1	52 33.8	59 38.3	36 23.4	18 11.7	3 1.9	7 4.5	5 3.2	7 4.5	3 1.9	4 2.6	4 2.6	-	
60歳代	231 100.0	142 61.5	106 45.9	104 45.0	84 36.4	42 18.2	64 27.7	25 10.8	17 7.4	14 6.1	8 3.5	7 3.0	2 0.9	1 0.4	3 1.3	-	
70歳以上	331 100.0	213 64.4	163 49.2	114 34.4	98 29.6	40 12.1	55 16.6	45 13.6	44 13.3	20 6.0	33 10.0	16 4.8	9 2.7	13 3.9	5 1.5	2 0.6	
大和田地域	240 100.0	163 67.9	97 40.4	65 27.1	72 30.0	63 26.3	55 22.9	32 13.3	14 5.8	22 9.2	12 5.0	10 4.2	2 0.8	2 0.8	4 1.7	-	
高津・緑が丘地域	226 100.0	127 56.2	77 34.1	75 33.2	106 46.9	64 28.3	30 13.3	19 8.4	14 6.2	11 4.9	10 4.4	13 5.8	3 1.3	3 1.3	3 1.3	1 0.4	
八千代台地域	207 100.0	128 61.8	91 44.0	83 40.1	69 33.3	69 33.3	20 9.7	22 10.6	12 5.8	15 7.2	9 4.3	7 3.4	5 2.4	4 1.9	2 1.0	1 0.5	
勝田台地域	114 100.0	79 69.3	48 42.1	45 39.5	27 23.7	34 29.8	15 13.2	16 14.0	19 16.7	4 3.5	6 5.3	-	2 1.8	2 1.8	1 0.9	1 0.9	
村上地域	201 100.0	110 54.7	72 35.8	69 34.3	67 33.3	75 37.3	52 25.9	26 12.9	7 3.5	14 7.0	8 4.0	11 5.5	2 1.0	3 1.5	5 2.5	-	
阿蘇地域	54 100.0	19 35.2	31 57.4	23 42.6	6 11.1	4 7.4	21 38.9	4 7.4	8 14.8	5 9.3	8 14.8	2 3.7	3 5.6	2 3.7	-	-	
睦地域	39 100.0	30 76.9	15 38.5	14 35.9	8 20.5	3 7.7	11 28.2	6 15.4	-	4 10.3	2 5.1	1 2.6	2 5.1	1 2.6	-	-	

(注) 紙面の都合上、表頭の「その他」と「無回答」は表記を省略している。

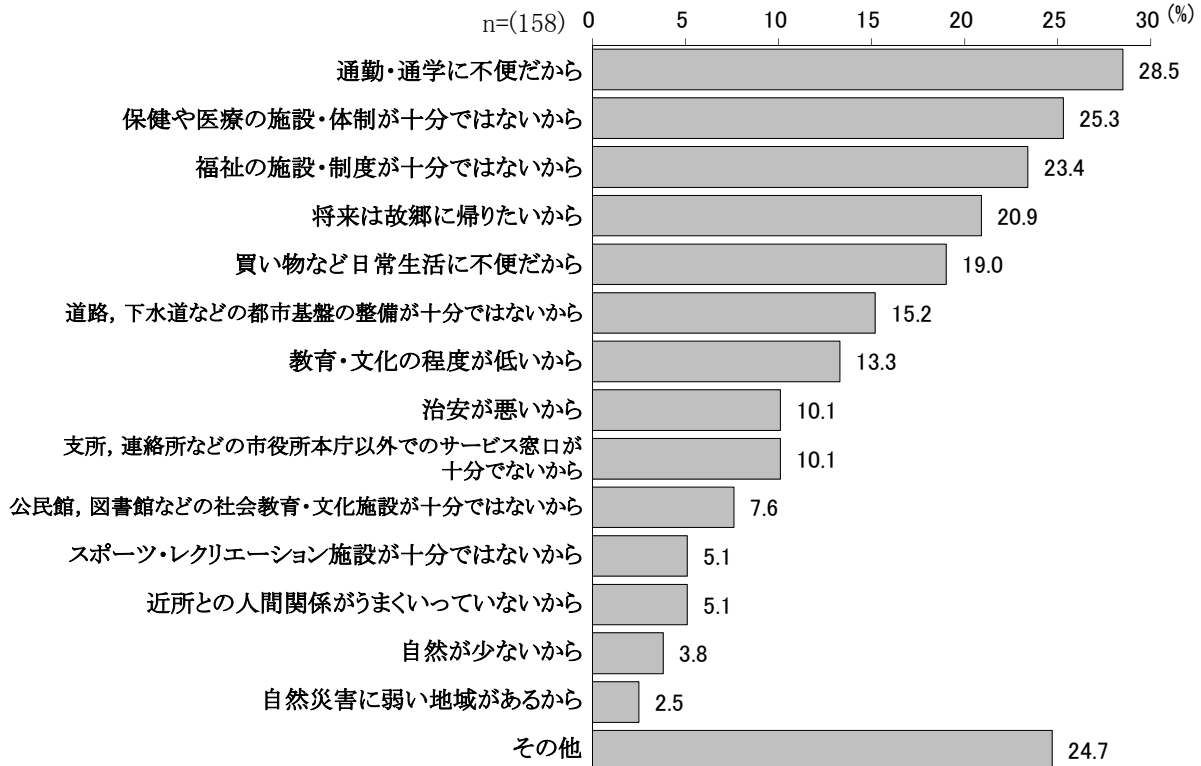
(2-2) 転居希望の理由

◇「通勤・通学に不便だから」が約3割

(問3で「3 いずれ転居するつもりである」「4 すぐにでも転居したい」とお答えの方にお尋ねします)

問3-2 あなたが転居したいと思う理由は何ですか。(〇は3つまで)

<図表2-7> 転居希望の理由 (複数回答)



問3で、「いずれ転居するつもりである」、「すぐにでも転居したい」と答えた方に、転居希望の理由について尋ねた。その結果、「通勤・通学に不便だから」(28.5%)が約3割で最も高く、次いで、「保健や医療の施設・体制が十分ではないから」(25.3%)、「福祉の施設・制度が十分ではないから」(23.4%)が2割台半ばとなっている。(図表2-7)

【性別・年齢別・居住地域別】

性別で見ると、「福祉の施設・制度が十分ではないから」は、女性の方が男性よりも11ポイント高く、「将来は故郷に帰りたいから」でも女性の方が男性よりも8ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、「通勤・通学に不便だから」は、29歳以下で5割と最も高く、次いで、30歳代で約4割となっている。

居住地域別で見ると、「通勤・通学に不便だから」は、大和田地域、八千代台地域で3割と高くなっている。

(図表2-8)

<図表2-8>性別・年齢別・居住地域別

上段：人数／下段：(%)

	調査数	通勤・通学に不便だから	保健や医療の施設・体制が十分ではないから	福祉の施設・制度が十分ではないから	将来は故郷に帰りたいためから	買い物など日常生活に不便だから	道路が十分ではないから都市基盤の整備が足りないから	教育・文化の程度が低いから	治安が悪いから	支所、連絡所などの市役所本庁以外でのサービス窓口が十分でないから	公民館、図書館などの社会教育・文化施設が十分ではないから	スポーツ・レクリエーション施設が十分ではないから	近所との人間関係がうまくいっていないから	自然が少ないから	自然災害に弱い地域があるから
全体	158 100.0	45 28.5	40 25.3	37 23.4	33 20.9	30 19.0	24 15.2	21 13.3	16 10.1	16 10.1	12 7.6	8 5.1	8 5.1	6 3.8	4 2.5
男性	71 100.0	20 28.2	19 26.8	12 16.9	12 16.9	15 21.1	13 18.3	8 11.3	9 12.7	11 15.5	4 5.6	6 8.5	6 8.5	2 2.8	1 1.4
女性	85 100.0	25 29.4	20 23.5	24 28.2	21 24.7	15 17.6	10 11.8	12 14.1	7 8.2	5 5.9	8 9.4	2 2.4	2 2.4	4 4.7	3 3.5
29歳以下	28 100.0	14 50.0	5 17.9	4 14.3	2 7.1	6 21.4	2 7.1	1 3.6	4 14.3	2 7.1	1 3.6	2 7.1	1 3.6	2 7.1	2 7.1
30歳代	38 100.0	15 39.5	8 21.1	6 15.8	11 28.9	8 21.1	9 23.7	4 10.5	4 10.5	3 7.9	2 5.3	-	1 2.6	2 5.3	-
40歳代	39 100.0	9 23.1	9 23.1	11 28.2	11 28.2	3 7.7	5 12.8	8 20.5	3 7.7	5 12.8	7 17.9	3 7.7	1 2.6	-	1 2.6
50歳代	23 100.0	5 21.7	8 34.8	3 13.0	6 26.1	4 17.4	3 13.0	3 13.0	2 8.7	1 4.3	-	1 4.3	1 4.3	1 4.3	1 4.3
※60歳代	12 100.0	1 8.3	6 50.0	6 50.0	1 8.3	2 16.7	-	3 25.0	2 16.7	1 8.3	1 8.3	1 8.3	2 16.7	1 8.3	-
※70歳以上	15 100.0	1 6.7	3 20.0	6 40.0	2 13.3	7 46.7	4 26.7	1 6.7	1 6.7	4 26.7	1 6.7	1 6.7	2 13.3	-	-
大和田地域	46 100.0	14 30.4	9 19.6	12 26.1	11 23.9	4 8.7	8 17.4	9 19.6	5 10.9	3 6.5	6 13.0	-	2 4.3	2 4.3	1 2.2
高津・緑が丘地域	35 100.0	9 25.7	12 34.3	11 31.4	9 25.7	2 5.7	7 20.0	3 8.6	5 14.3	3 8.6	2 5.7	3 8.6	1 2.9	1 2.9	1 2.9
八千代台地域	23 100.0	7 30.4	4 17.4	3 13.0	4 17.4	3 13.0	4 17.4	3 13.0	1 4.3	1 4.3	1 4.3	2 8.7	1 4.3	2 8.7	1 4.3
※勝田台地域	11 100.0	3 27.3	4 36.4	1 9.1	2 18.2	5 45.5	-	-	-	3 27.3	-	-	-	-	-
村上地域	25 100.0	6 24.0	6 24.0	7 28.0	5 20.0	10 40.0	3 12.0	3 12.0	4 16.0	3 12.0	-	1 4.0	3 12.0	1 4.0	-
※阿蘇地域	6 100.0	3 50.0	1 16.7	2 33.3	-	3 50.0	1 16.7	-	1 16.7	1 16.7	1 16.7	1 16.7	-	-	-
※睦地域	2 100.0	1 50.0	1 50.0	-	-	1 50.0	-	2 100.0	-	1 50.0	-	-	-	-	-

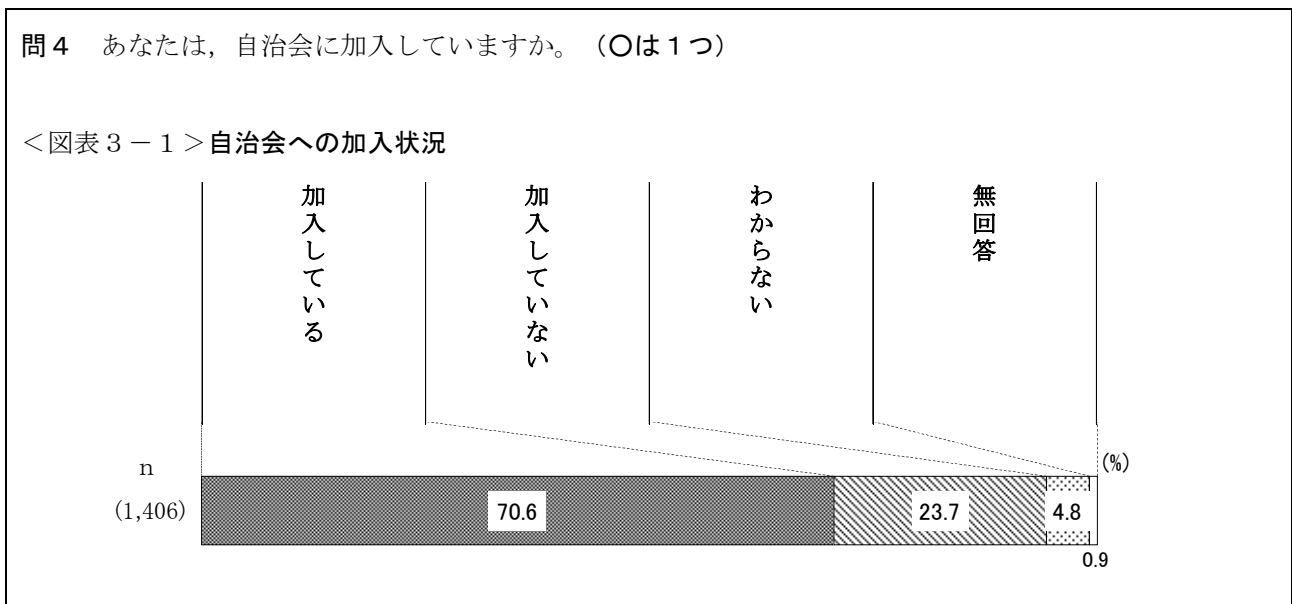
(注) 紙面の都合上、表頭の「その他」と「無回答」は表記を省略している。

(注) ※印は、調査数が少ないので参考として図示するに留め、文中では述べていない。

3 「地域との関わり合い」について

(1) 自治会への加入状況

◇「加入している」が7割



自治会への加入状況は、「加入している」(70.6%)が7割となっている。一方、「加入していない」(23.7%)は2割台半ばとなっている。(図表3-1)

【性別・住居形態別・居住地域別】

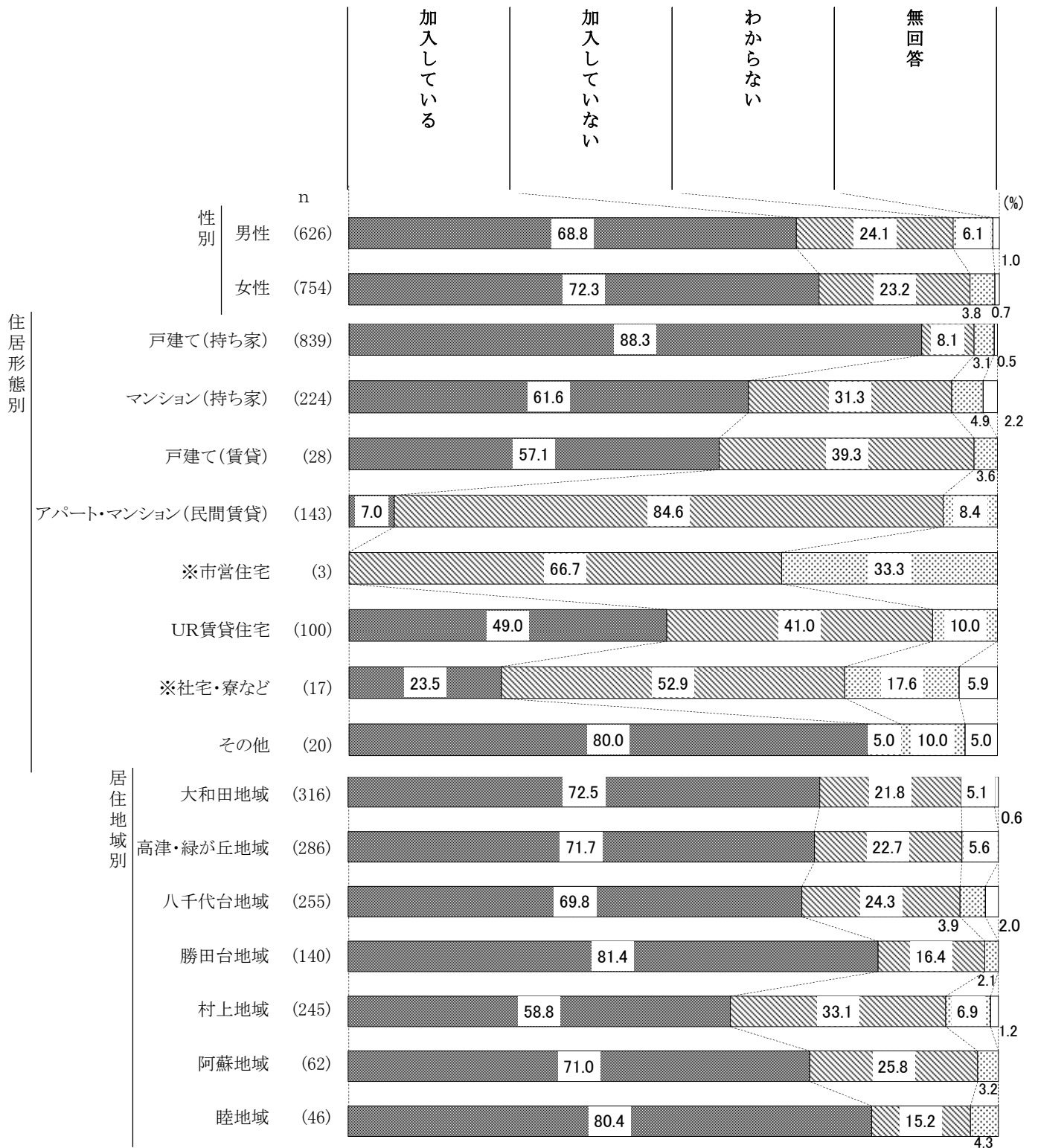
性別でみると、男女で大きな差はみられない。

住居形態別でみると、「加入している」は戸建て(持ち家)で約9割と最も高くなっている。一方、「加入していない」は、アパート・マンション(民間賃貸)で8割台半ばと最も高くなっている。

居住地域別でみると、「加入している」は勝田台地域で8割を超えて最も高く、次いで、睦地域で8割となっている。勝田台地域は、最も低い村上地域と比較すると、23ポイントの差がある。

(図表3-2)

<図表3-2>性別・住居形態別・居住地域別



(注) ※印は、調査数が少ないので参考として図示するに留め、文中では述べていない。

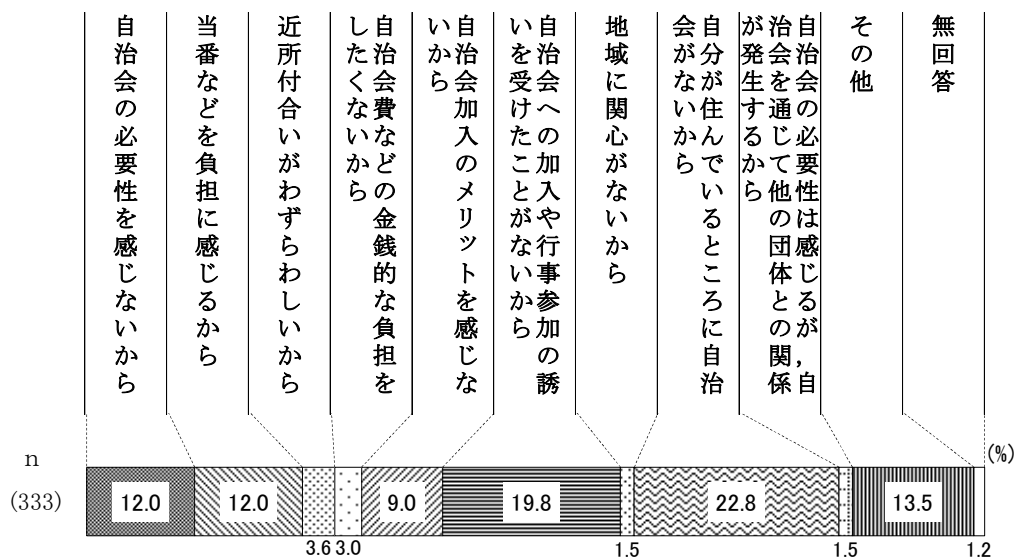
(1-1) 自治会に加入しない理由

◇「自分が住んでいるところに自治会がないから」が2割超え

(問4で「2 加入していない」とお答えの方にお尋ねします)

問4-1 自治会に加入しない理由は何ですか。(〇は1つ)

<図表3-3>自治会に加入しない理由



問4で、「加入していない」と答えた方に、自治会に加入していない理由を尋ねた。その結果、「自分が住んでいるところに自治会がないから」(22.8%)が2割を超えて最も高く、次いで、「自治会への加入や行事参加の誘いを受けたことがないから」(19.8%)が約2割となっている。(図表3-3)

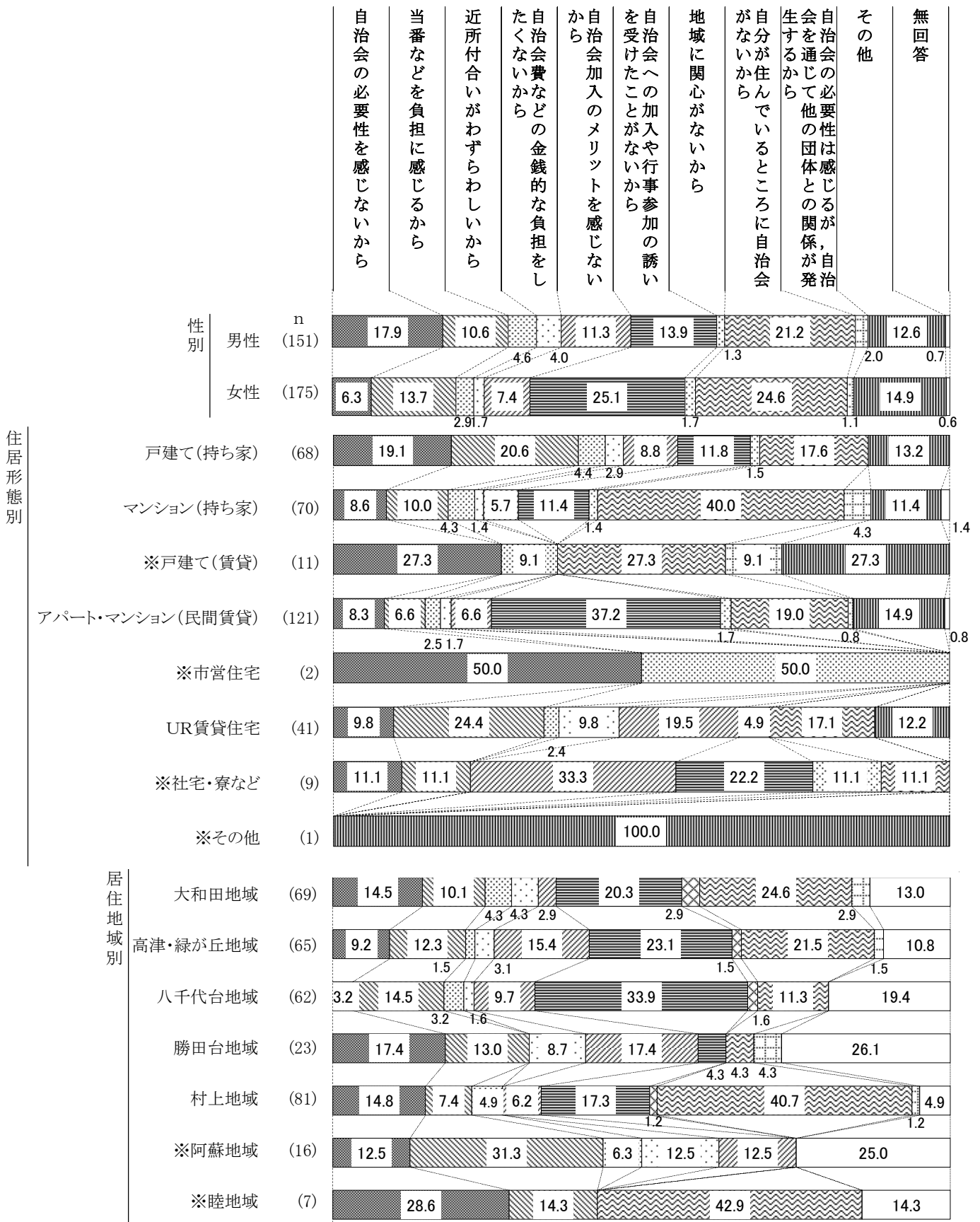
【性別・住居形態別・居住地域別】

性別でみると、「自治会への加入や行事参加の誘いを受けたことがないから」は、女性の方が男性よりも11ポイント高くなっている。

住居形態別でみると、「自分が住んでいるところに自治会がないから」は、マンション(持ち家)で4割と最も高くなっている。「自治会への加入や行事参加の誘いを受けたことがないから」は、アパート・マンション(民間賃貸)で約4割と最も高くなっている。

居住地域別でみると、「自分が住んでいるところに自治会がないから」は、村上地域で4割と最も高く、次いで、大和田地域で2割台半ば、高津・緑が丘地域で2割を超えている。(図表3-4)

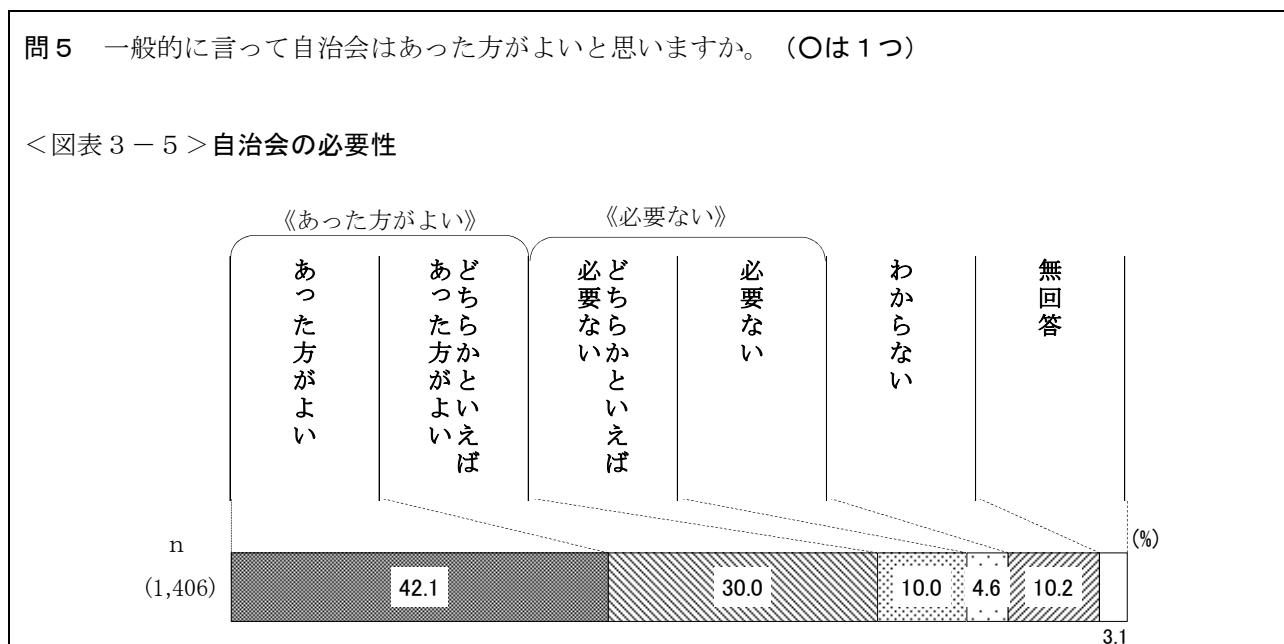
<図表3-4>性別・住居形態別・居住地域別



(注) ※印は、調査数が少ないので参考として図示するに留め、文中では述べていない。

(2) 自治会の必要性

◇《あった方がよい》が7割超え



自治会の必要性は、「あった方がよい」(42.1%)、「どちらかといえばあった方がよい」(30.0%)となっており、これらを合わせた、《あった方がよい》(72.1%)は、7割を超えている。一方、「どちらかといえば必要ない」(10.0%)、「必要ない」(4.6%)を合わせた、《必要ない》(14.6%)は、1割台半ばとなっている。(図表3-5)

【性別・住居形態別・居住地域別】

性別でみると、《あった方がよい》は、男女で大きな差はみられないが、「あった方がよい」は、男性の方が女性よりも9ポイント高くなっている。

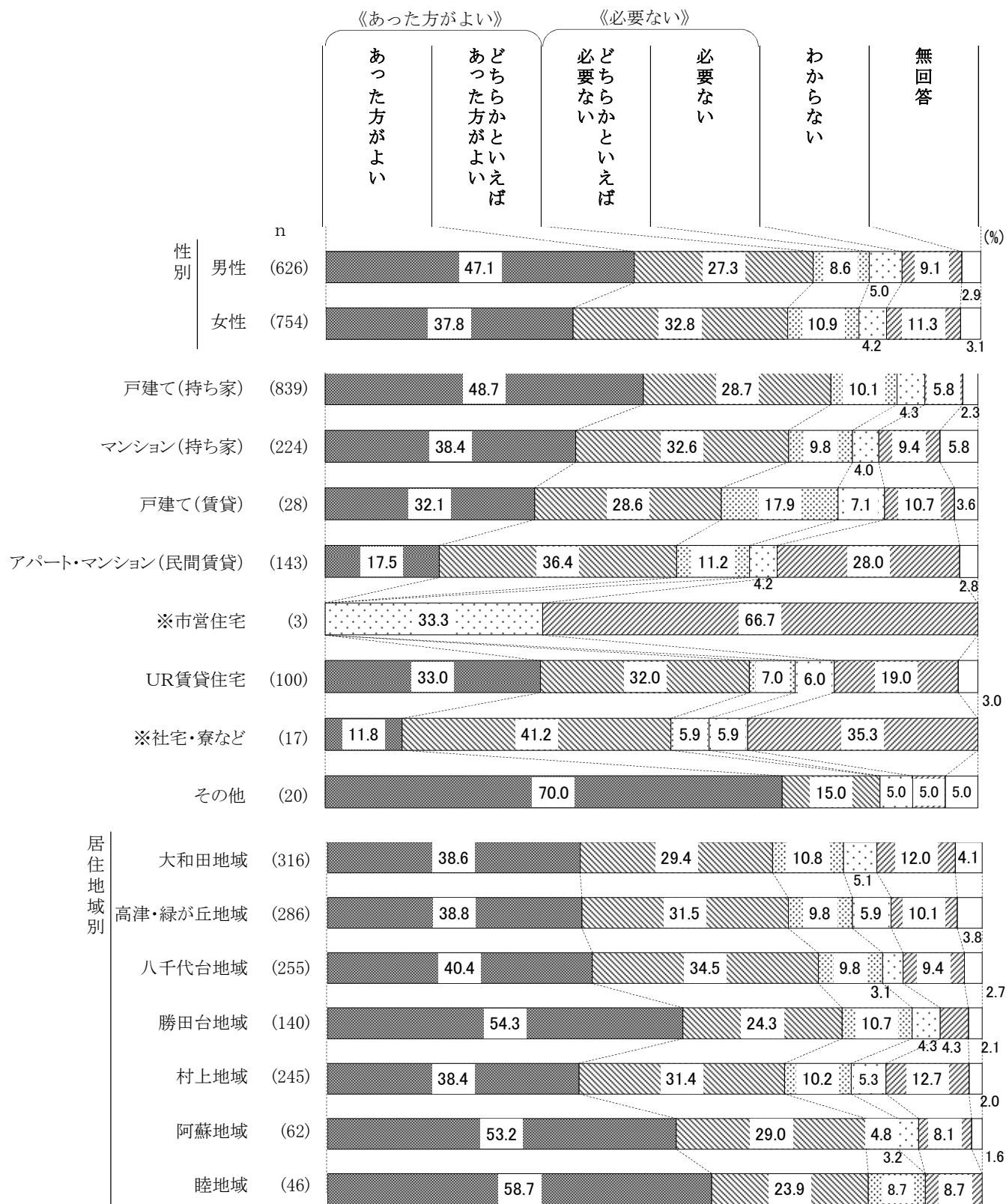
住居形態別でみると、《あった方がよい》は、その他で8割台半ばと最も高く、次いで、戸建て(持ち家)で約8割、マンション(持ち家)で7割を超えている。

居住地域別でみると、《あった方がよい》は、睦地域、阿蘇地域で8割を超えて高くなっている。

(図表3-6)

<図表3-6>性別・住居形態別・居住地域別

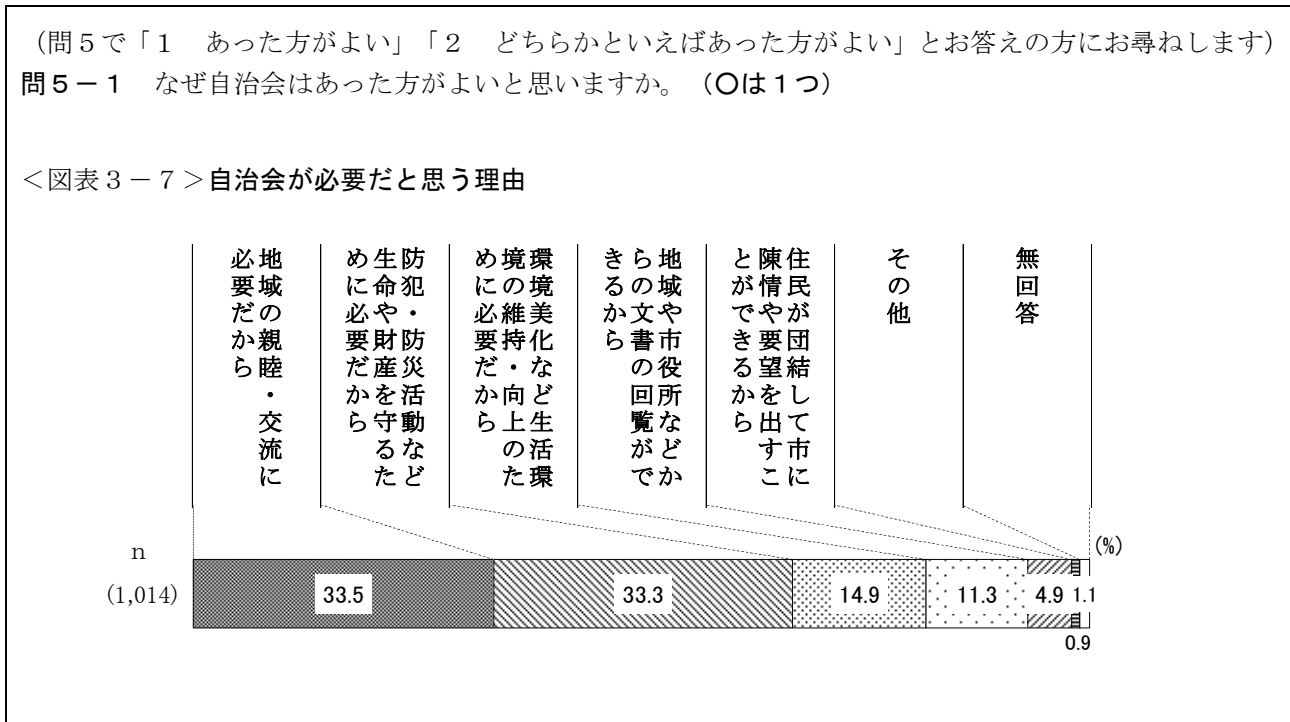
住居形態別



(注) ※印は、調査数が少ないので参考として図示するに留め、文中では述べていない。

(2-1) 自治会が必要だと思う理由

◇「地域の親睦・交流に必要だから」が3割台半ば



問5で「あった方がよい」、「どちらかといえばあった方がよい」と答えた方に、自治会が必要だと思う理由について尋ねた。その結果、「地域の親睦・交流に必要だから」(33.5%)、「防犯・防災活動など生命や財産を守るために必要だから」(33.3%)が3割台半ばで高く、次いで、「環境美化など生活環境の維持・向上のために必要だから」(14.9%)が1割台半ばとなっている。

(図表3-7)

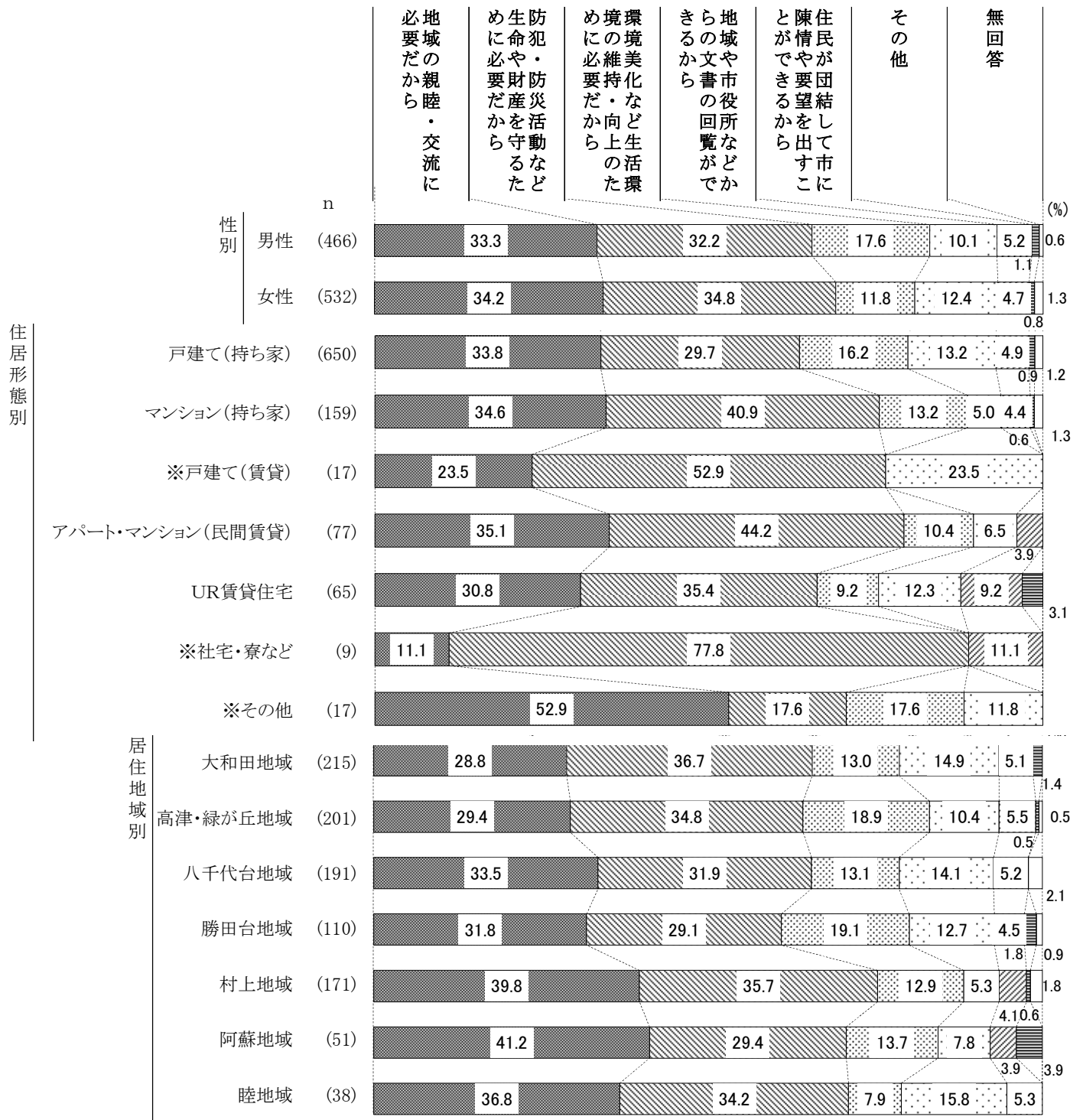
【性別・住居形態別・居住地域別】

性別でみると、「環境美化など生活環境の維持・向上のために必要だから」は、男性の方が女性よりも6ポイント高くなっている。

住居形態別でみると、「地域の親睦・交流に必要だから」は、アパート・マンション(民間賃貸)、マンション(持ち家)、戸建て(持ち家)で3割台半ばと高くなっている。また、「防犯・防災活動など生命や財産を守るために必要だから」は、アパート・マンション(民間賃貸)で4割台半ばと高くなっている。

居住地域別でみると、「地域の親睦・交流に必要だから」は、阿蘇地域で4割を超えて最も高く、最も低い大和田地域と比較すると、12ポイントの差がある。一方、「防犯・防災活動など生命や財産を守るために必要だから」は、大和田地域で3割台半ばと高くなっている。(図表3-8)

<図表3-8>性別・住居形態別・居住地域別



(注) ※印は、調査数が少ないので参考として図示するに留め、文中では述べていない。

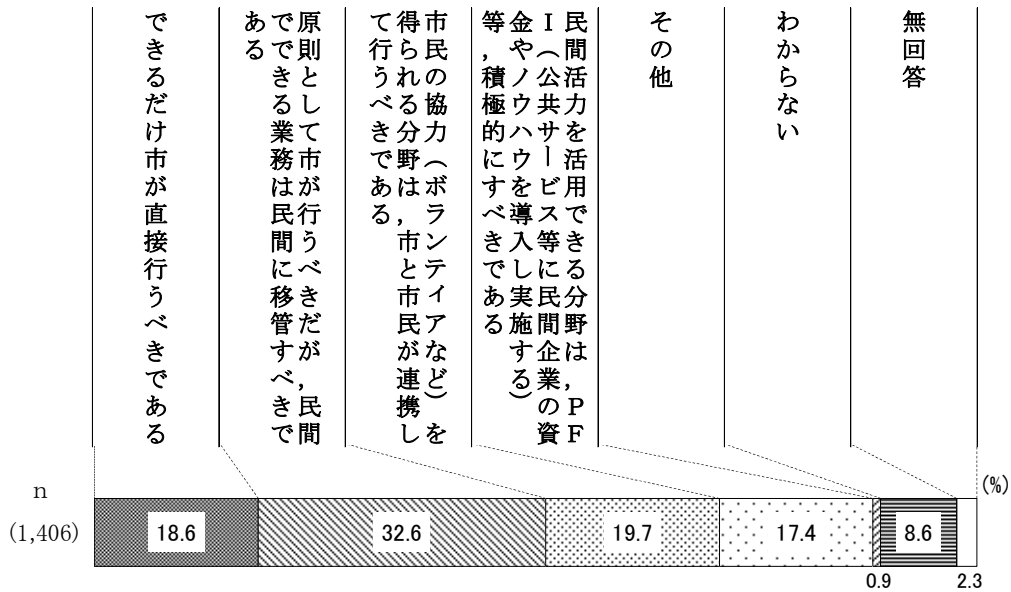
4 「行政サービスの在り方」について

(1) 行政サービスの在り方

◇「原則として市が行うべきだが、民間でできる業務は民間に移管すべきである」が3割を超える

問6 あなたは、八千代市が生活に必要な行政サービスを実施するのに、どのような形式がよいと思いますか。(〇は1つ)

<図表4-1>行政サービスの在り方

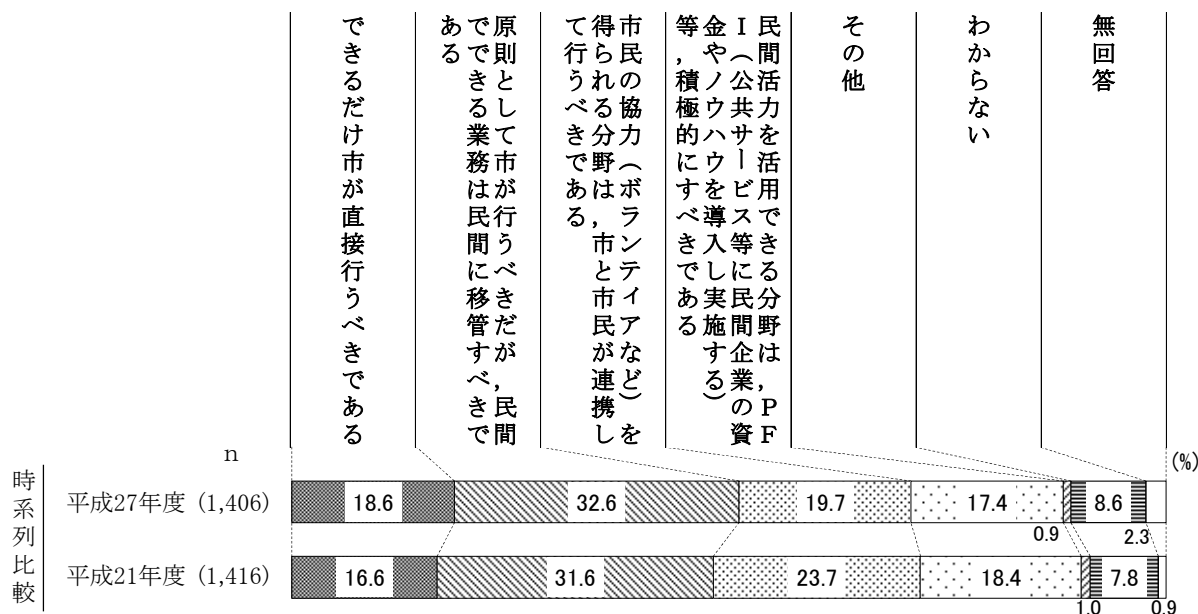


行政サービスの在り方は、「原則として市が行うべきだが、民間でできる業務は民間に移管すべきである」(32.6%)が3割を超えて最も高く、次いで、「市民の協力(ボランティアなど)を得られる分野は、市と市民が連携して行うべきである」(19.7%)、「できるだけ市が直接行うべきである」(18.6%)が約2割となっている。(図表4-1)

【時系列比較】

前回調査（平成21年度）と比較すると、「市民の協力（ボランティアなど）を得られる分野は、市と市民が連携して行うべきである」が4ポイント減少している。（図表4-2）

＜図表4-2＞時系列比較



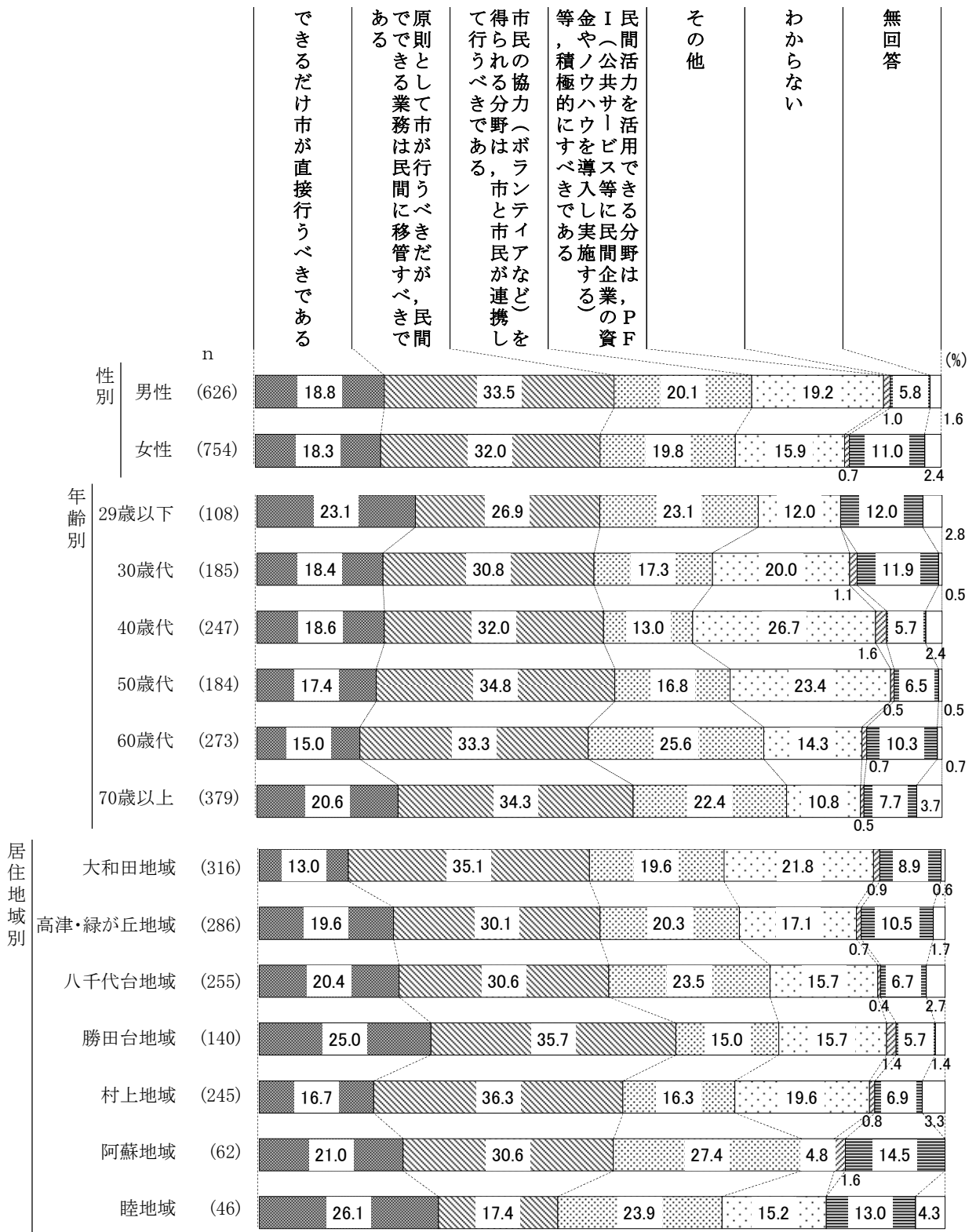
【性別・年齢別・居住地域別】

性別でみると、男女で大きな差はみられない。

年齢別でみると、「原則として市が行うべきだが、民間でできる業務は民間に移管すべきである」は、50歳以上で3割台半ばと高くなっている。「市民の協力（ボランティアなど）を得られる分野は、市と市民が連携して行うべきである」は、29歳以下、60歳代で2割台半ばと高くなっている。

居住地域別でみると、「原則として市が行うべきだが、民間でできる業務は民間に移管すべきである」は、村上地域、勝田台地域、大和田地域で3割台半ばと高くなっている。一方、「市民の協力（ボランティアなど）を得られる分野は、市と市民が連携して行うべきである」は、阿蘇地域で約3割と高くなっている。（図表4-3）

<図表4-3>性別・年齢別・居住地域別



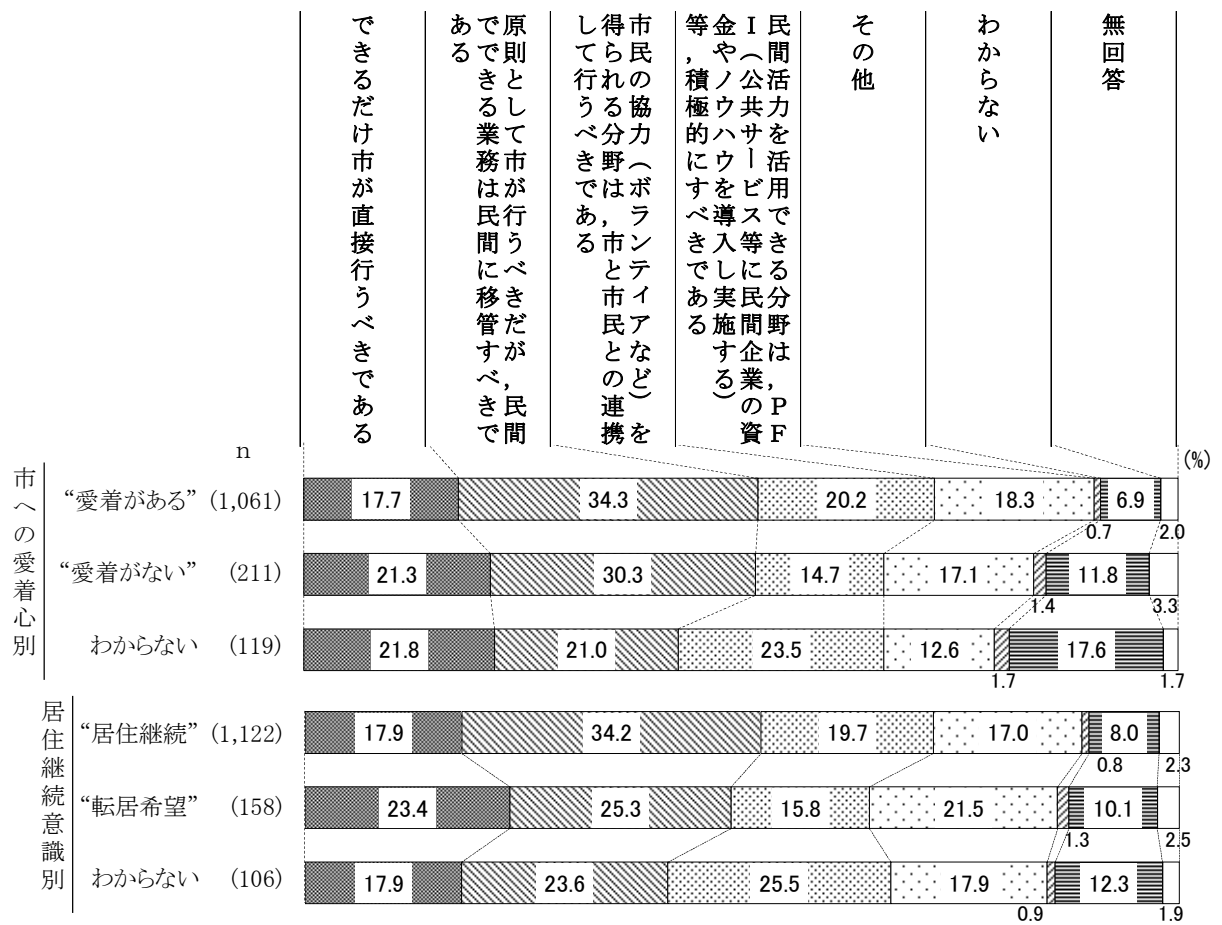
【市への愛着心別・居住継続意識別】

市への愛着心別でみると、「市民の協力（ボランティアなど）を得られる分野は、市と市民が連携して行うべきである」は、「愛着がある」の方が「愛着がない」よりも6ポイント高くなっている。

居住継続意識別でみると、「原則として市が行うべきだが、民間でできる業務は民間に移管すべきである」は、「居住継続」の方が「転居希望」よりも9ポイント高くなっている。一方、「できるだけ市が直接行うべきである」は、「転居希望」の方が「居住継続」よりも6ポイント高くなっている。

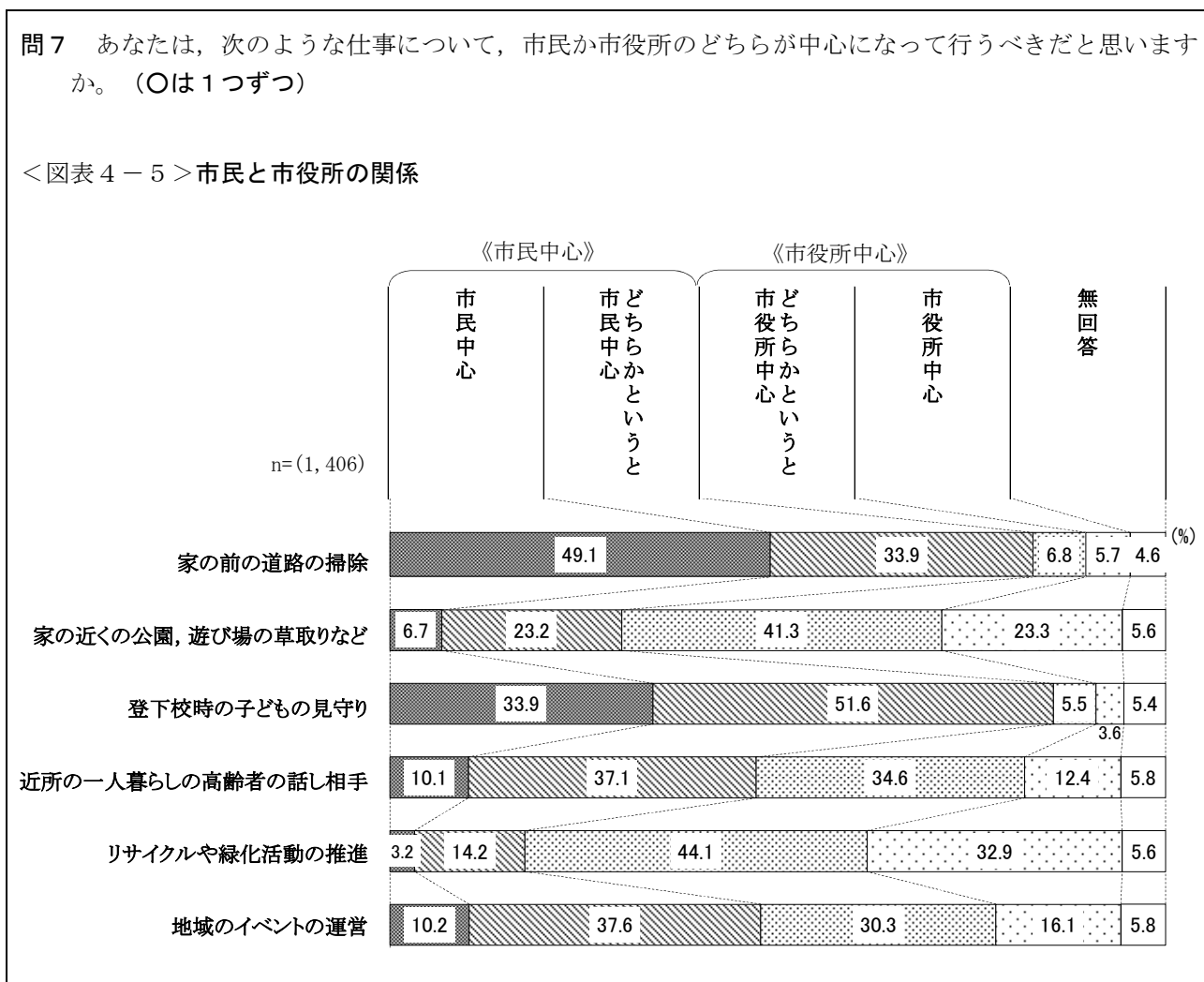
(図表4-4)

<図表4-4>市への愛着心別・居住継続意識別



(2) 市民と市役所の関係

◇《市民中心》では「登下校時の子どもの見守り」が8割台半ば



予め6つの活動を設定し、それらの活動を行う中心は市民であるべきなのか、市役所であるべきなのかを尋ねた。「市民中心」と「どちらかという市民中心」を合わせて《市民中心》、「どちらかという市役所中心」と「市役所中心」を合わせて《市役所中心》とし、比率が大きい順に並べると次のようになる。

《市民中心》		《市役所中心》	
① 登下校時の子どもの見守り	85.5%	① リサイクルや緑化活動の推進	77.0%
② 家の前の道路の掃除	83.0	② 家の近くの公園、遊び場の草取りなど	64.6
③ 地域のイベントの運営	47.8	③ 近所の一人暮らしの高齢者の話し相手	47.0

《市民中心》では、「登下校時の子どもの見守り」が85.5%、「家の前の道路の掃除」が83.0%、「地域のイベントの運営」が47.8%となっている。

《市役所中心》では、「リサイクルや緑化活動の推進」が77.0%、「家の近くの公園、遊び場の草取りなど」が64.6%、「近所の一人暮らしの高齢者の話し相手」が47.0%となっている。

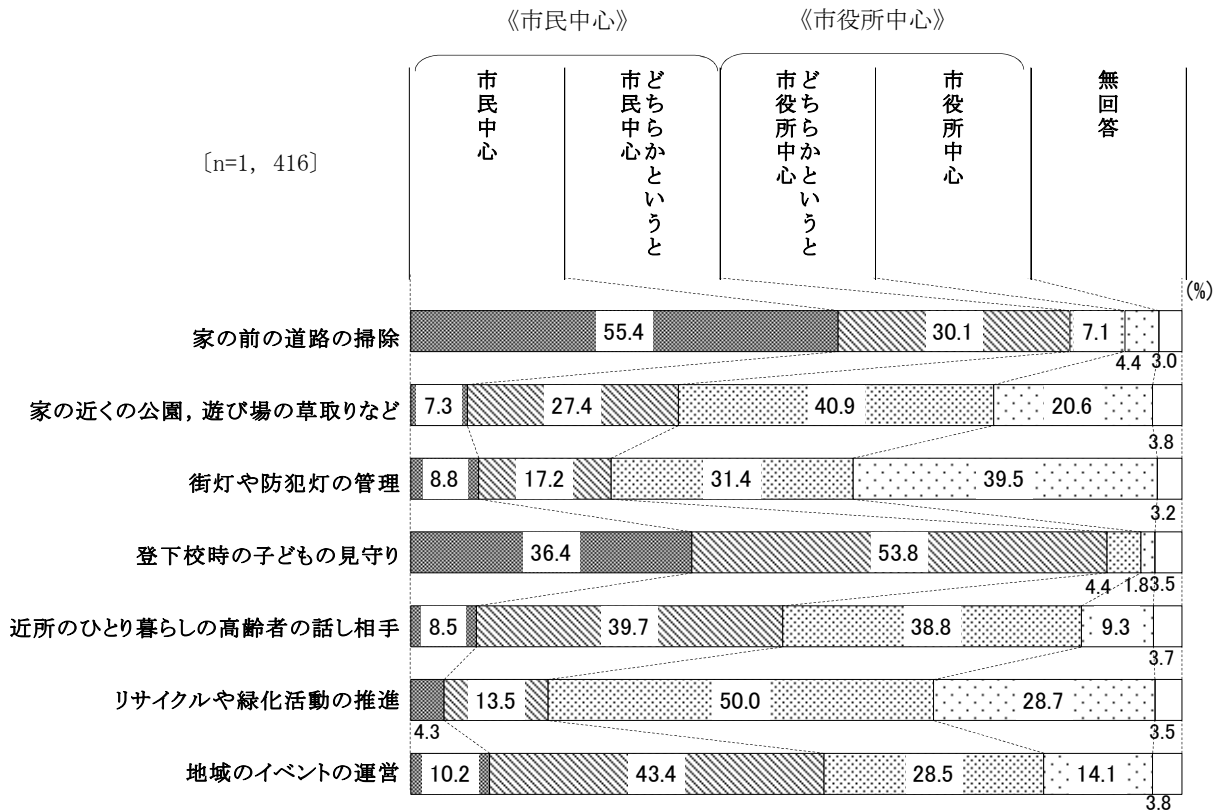
おおむね、活動を行う中心は市民であるべきなのか、市役所であるべきなのかがはっきりしているといえるが、「近所の一人暮らしの高齢者の話し相手」と「地域のイベントの運営」は、中心が市民であるべきか、市役所であるべきかはっきりしていない。(図表4-5)

【平成21年度】

前回調査（平成21年度）と比較すると、《市民中心》は“地域のイベントの運営”で6ポイント減少している。一方、《市役所中心》は、4ポイント増加している。

(図表4-6)

<図表4-6>平成21年度



(注)「街灯や防犯灯の管理」は平成27年度調査では削除した項目である。

□家の前の道路の掃除

【性別・年齢別・居住地域別】

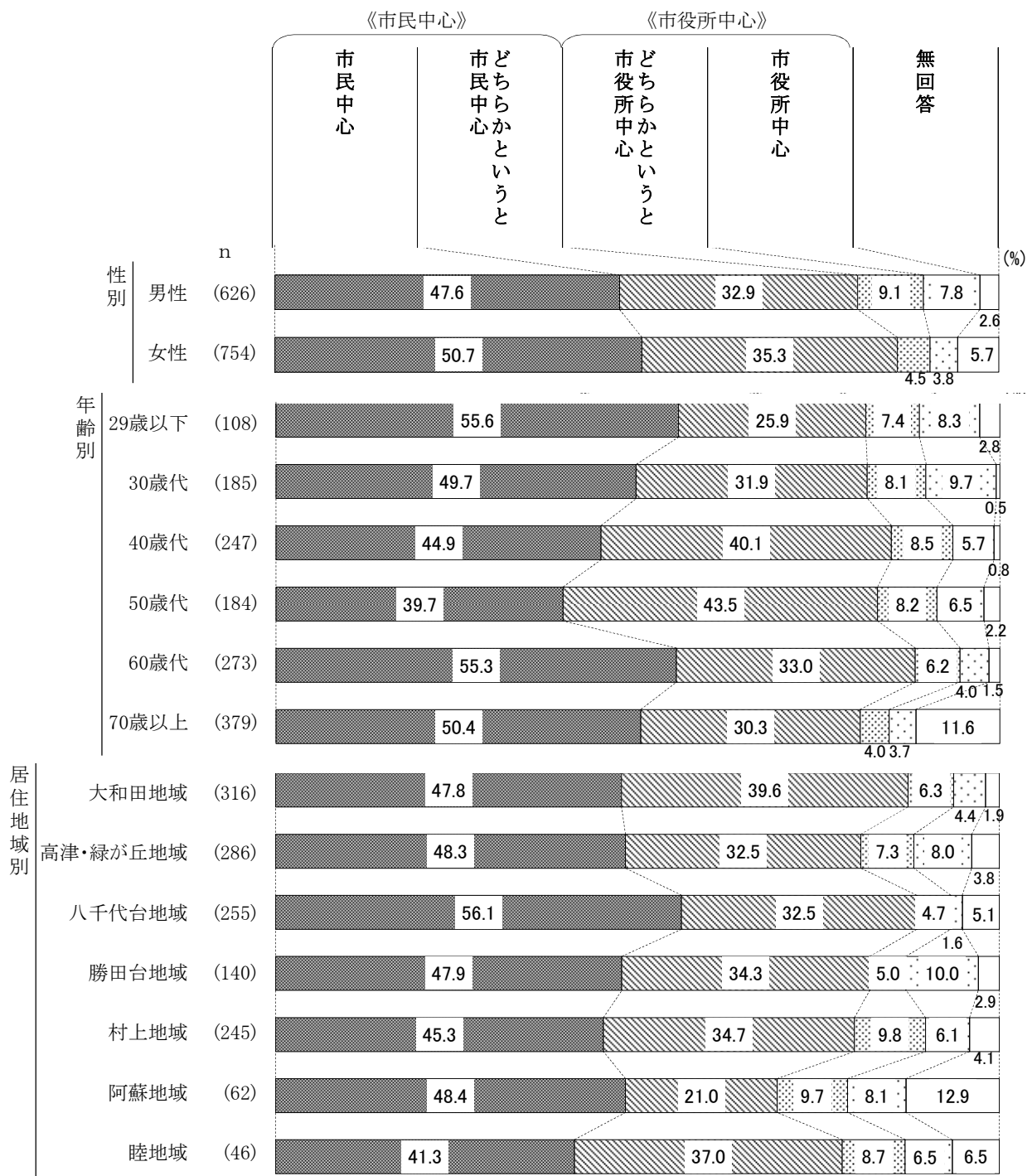
性別でみると、《市民中心》は、女性の方が男性よりも6ポイント高くなっている。

年齢別でみると、《市民中心》が、どの年齢でも8割以上と高くなっている。

居住地域別でみると、《市民中心》は、八千代台地域と大和田地域で約9割と高くなっている。

(図表4-7)

<図表4-7>性別・年齢別・居住地域別

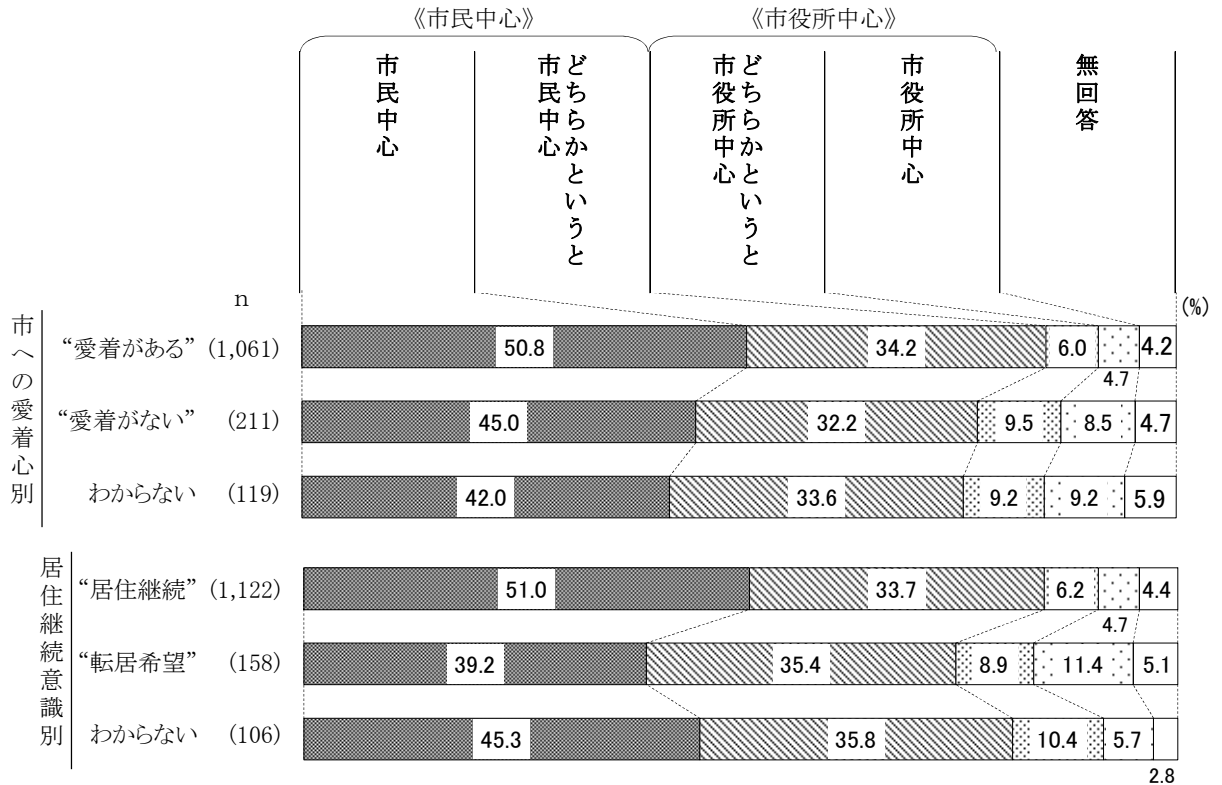


【市への愛着心別・居住継続意識別】

市への愛着心別でみると、《市民中心》は、“愛着がある”の方が“愛着がない”よりも8ポイント高くなっている。一方、《市役所中心》は、“愛着がない”の方が“愛着がある”よりも7ポイント高い。

居住継続意識別でみると、《市民中心》は、“居住継続”の方が“転居希望”よりも10ポイント高くなっている。一方、《市役所中心》は、“転居希望”の方が“居住継続”よりも9ポイント高くなっている。(図表4-8)

<図表4-8>市への愛着心別・居住継続意識別



□家の近くの公園，遊び場の草取りなど

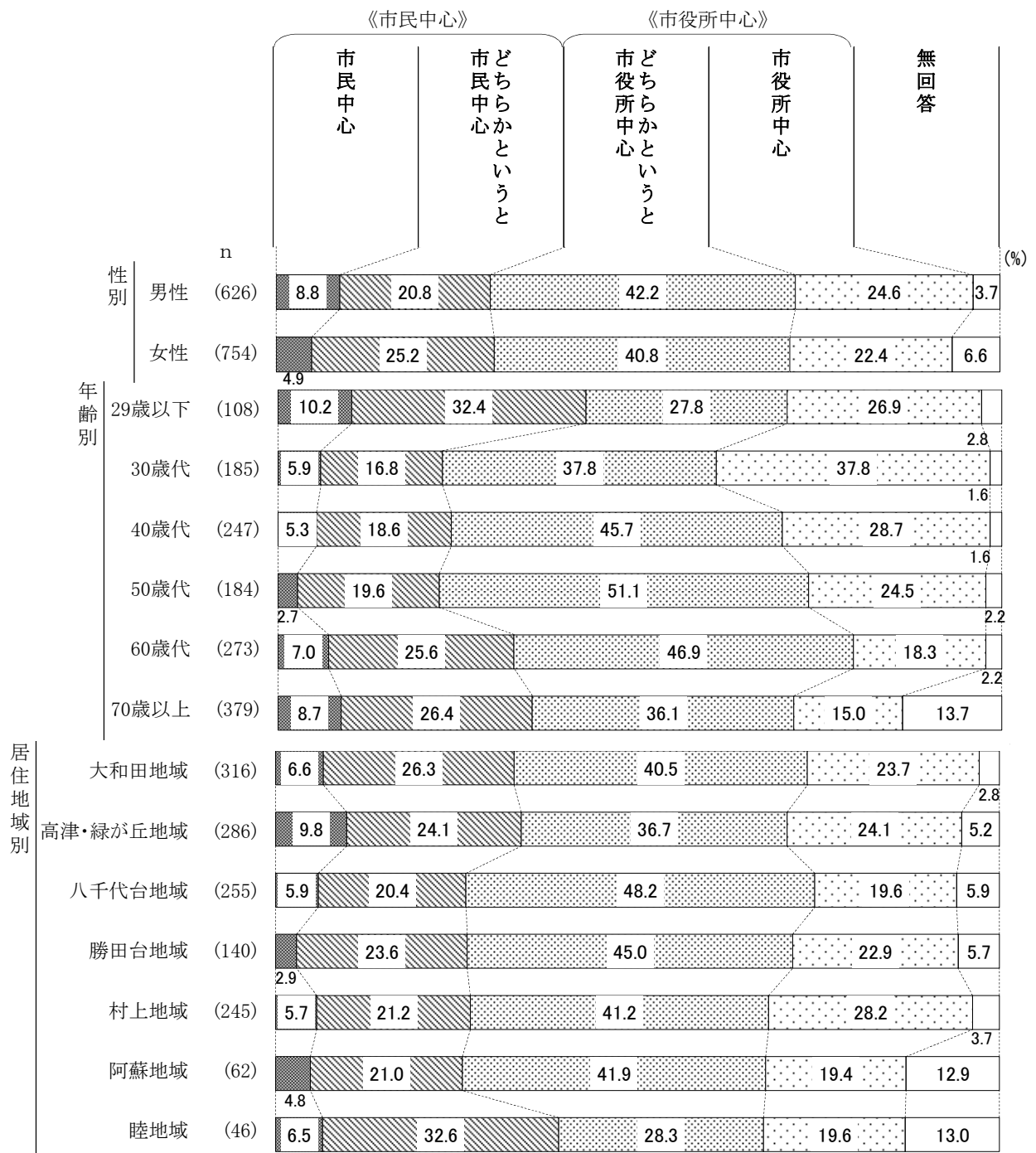
【性別・年齢別・居住地域別】

性別でみると，《市民中心》，《市役所中心》ともに，男女で大きな差はみられない。

年齢別でみると，《市民中心》は，29歳以下で4割を超えて高くなっている。一方，《市役所中心》は，30～50歳代で7割台半ばと高くなっている。

居住地域別でみると，《市民中心》は睦地域で約4割と高くなっている。一方，《市役所中心》は村上地域，勝田台地域，八千代台地域で約7割と高くなっている。（図表4－9）

<図表4－9>性別・年齢別・居住地域別

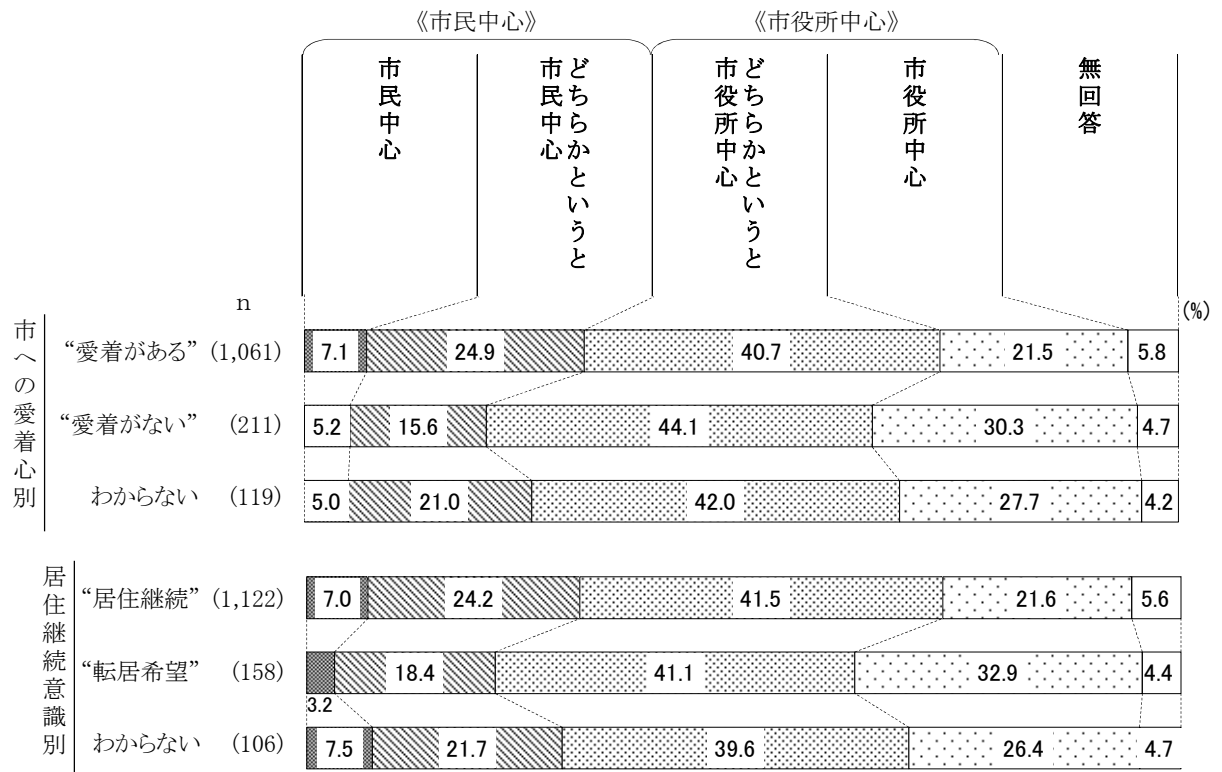


【市への愛着心別・居住継続意識別】

市への愛着心別でみると、《市民中心》は、“愛着がある”の方が“愛着がない”よりも11ポイント高くなっている。一方、《市役所中心》は、“愛着がない”が12ポイント高くなっている。

居住継続意識別でみると、《市民中心》は、“居住継続”の方が“転居希望”よりも10ポイント高くなっている。一方、《市役所中心》は、“転居希望”が11ポイント高くなっている。(図表4-10)

＜図表4-10＞市への愛着心別・居住継続意識別



□登下校時の子どもの見守り

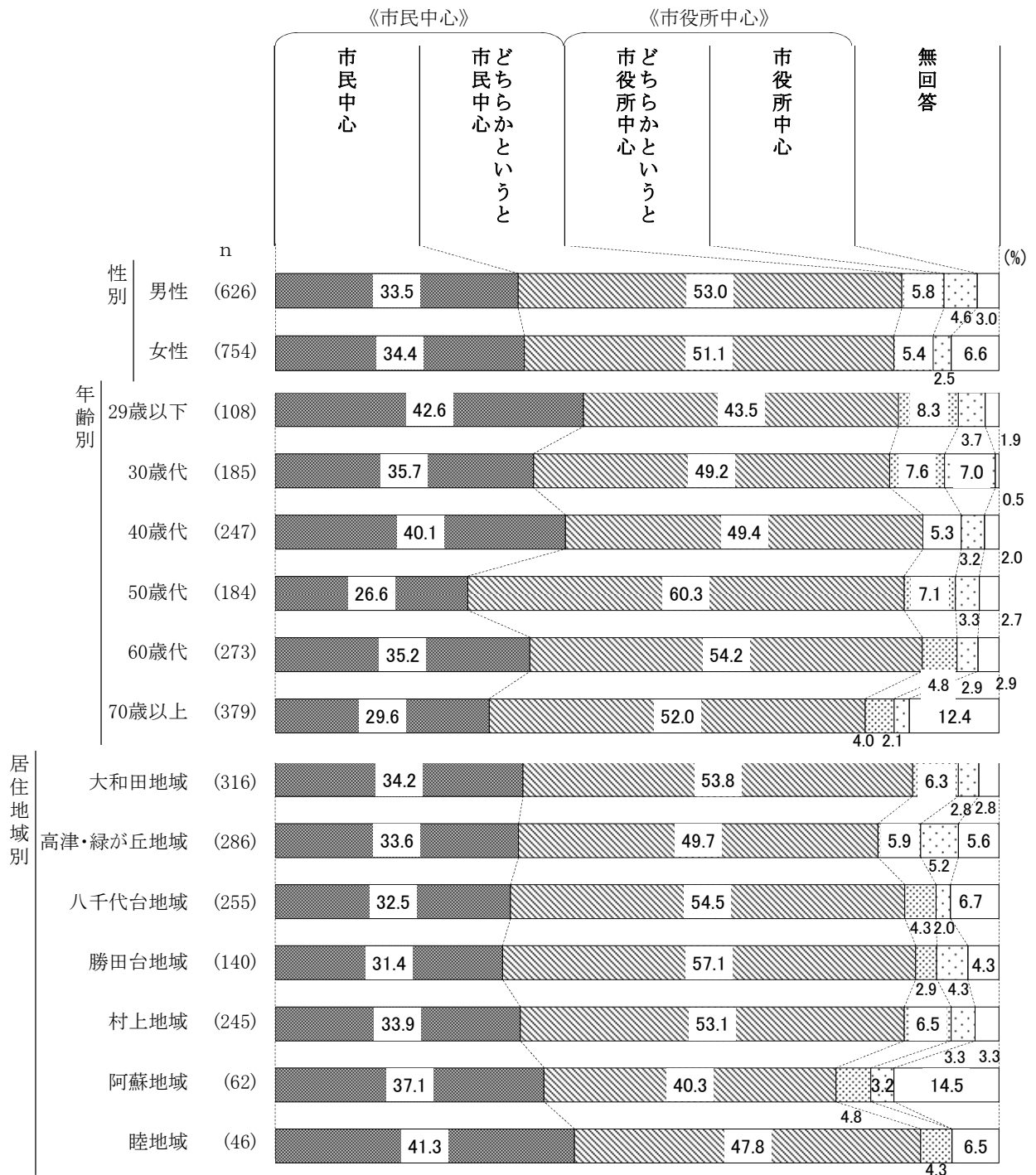
【性別・年齢別・居住地域別】

性別でみると、男女で大きな差はみられない。

年齢別でみると、《市民中心》は、40歳代、60歳代が約9割で高くなっている。

居住地域別でみると、《市民中心》は睦地域、勝田台地域、大和田地域、八千代台地域が約9割で高くなっている。(図表4-11)

<図表4-11>性別・年齢別・居住地域別

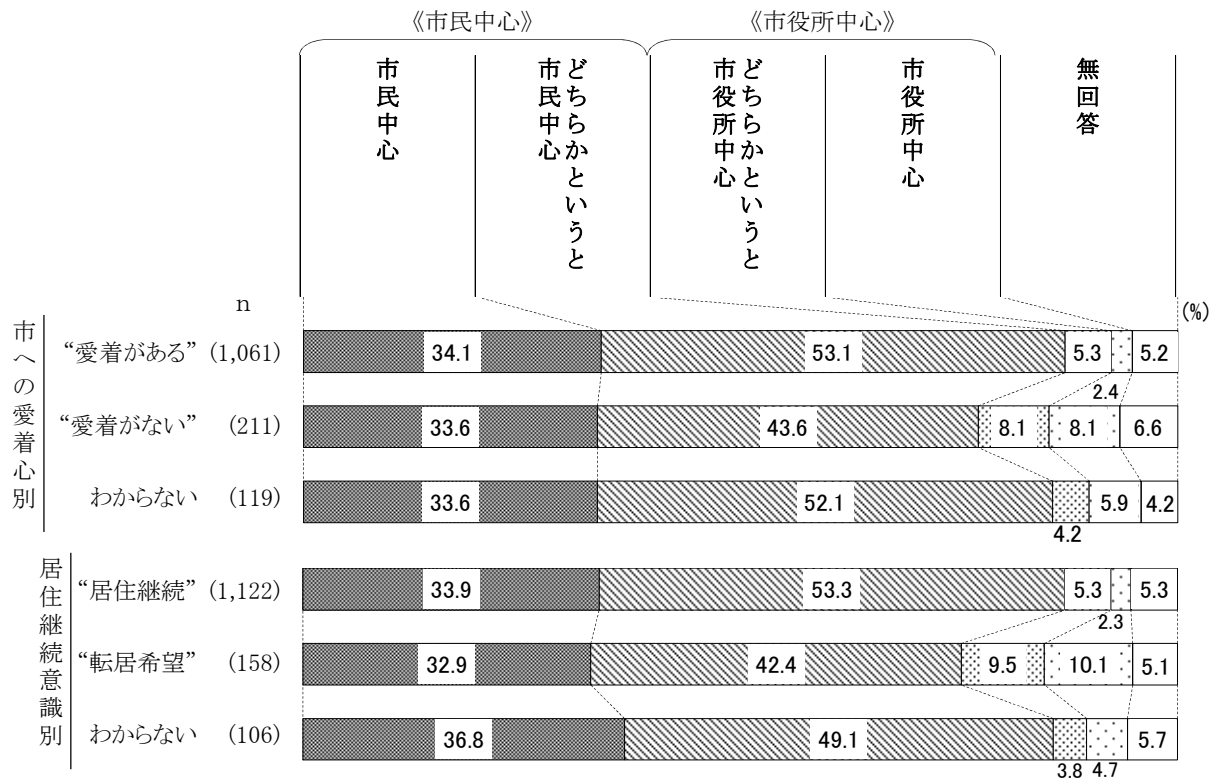


【市への愛着心別・居住継続意識別】

市への愛着心別でみると、《市民中心》は、“愛着がある”の方が“愛着がない”よりも10ポイント高くなっている。一方、《市役所中心》は、“愛着がない”の方が“愛着がある”よりも9ポイント高くなっている。

居住継続意識別でみると、《市民中心》は、“居住継続”の方が“転居希望”よりも12ポイント高くなっている。一方、《市役所中心》は、“転居希望”の方が“居住継続”よりも12ポイント高くなっている。(図表4-12)

<図表4-12>市への愛着心別・居住継続意識別



□近所の一人暮らしの高齢者の話し相手

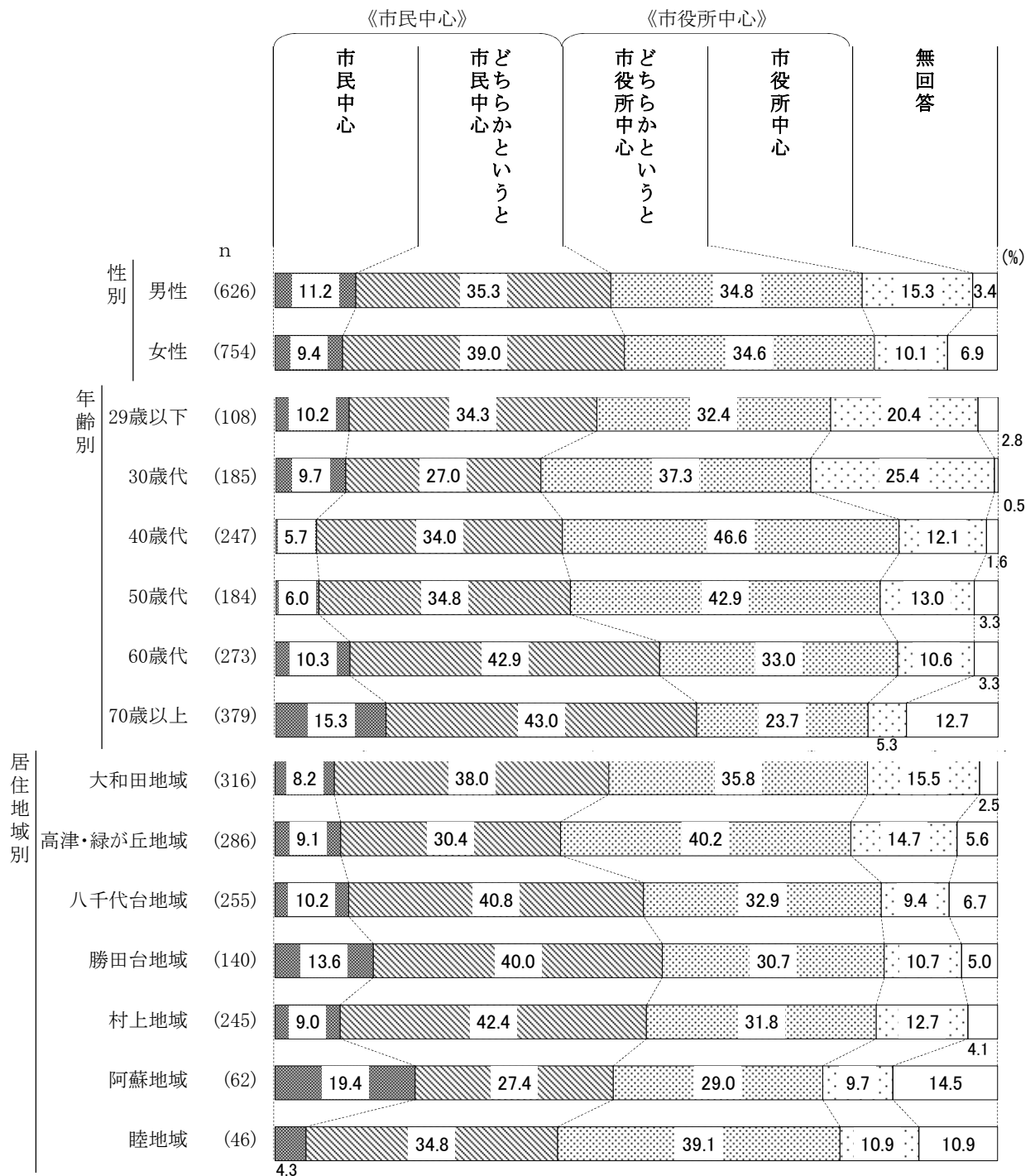
【性別・年齢別・居住地域別】

性別でみると，《市役所中心》は，男性の方が女性よりも5ポイント高くなっている。

年齢別でみると，《市民中心》は，70歳以上が約6割で最も高くなっている。一方，《市役所中心》は，30歳代が6割を超えて最も高くなっている。

居住地域別でみると，《市役所中心》は，高津・緑が丘地域が5割台半ばで最も高く，最も低い阿蘇地域と比べると，16ポイントの差がある。（図表4-13）

<図表4-13>性別・年齢別・居住地域別

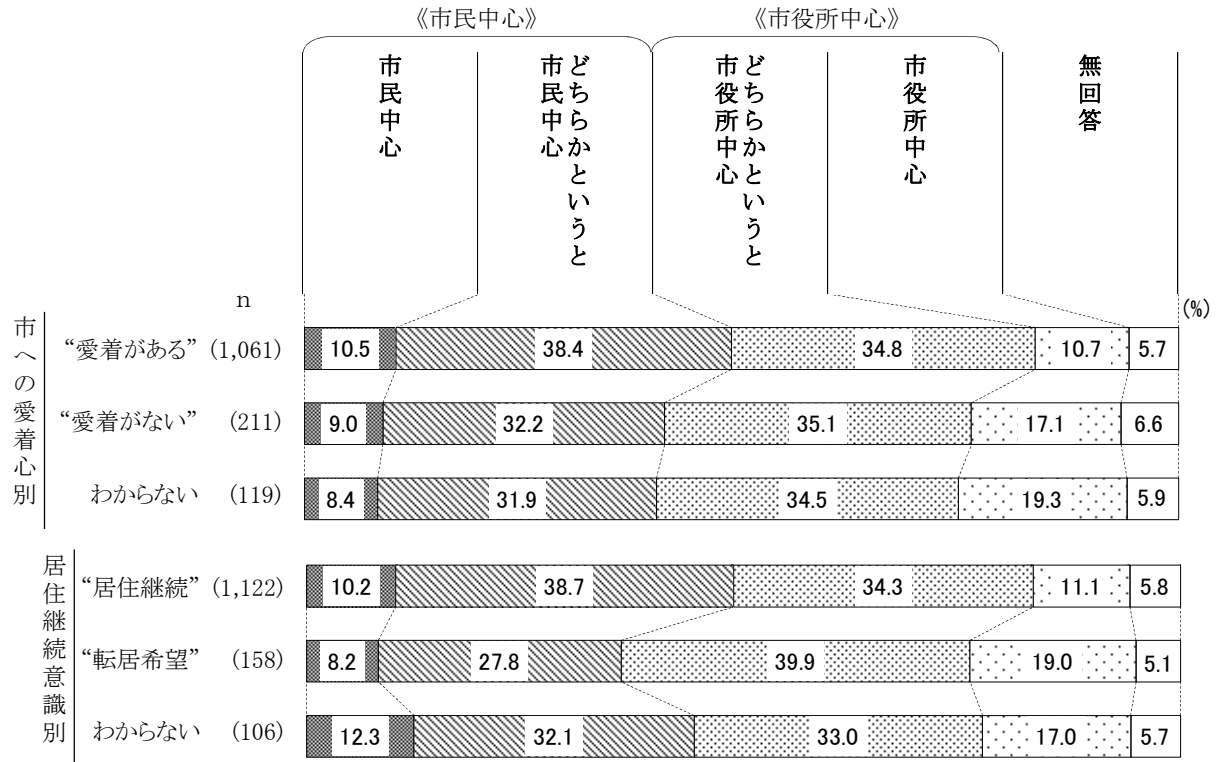


【市への愛着心別・居住継続意識別】

市への愛着心別でみると、《市民中心》は、“愛着がある”の方が“愛着がない”よりも8ポイント高くなっている。一方、《市役所中心》は、“愛着がない”が7ポイント高くなっている。

居住継続意識別でみると、《市民中心》は、“居住継続”の方が“転居希望”よりも13ポイント高くなっている。一方、《市役所中心》は、“転居希望”が14ポイント高くなっている。(図表4-14)

＜図表4-14＞市への愛着心別・居住継続意識別



ロリサイクルや緑化活動の推進

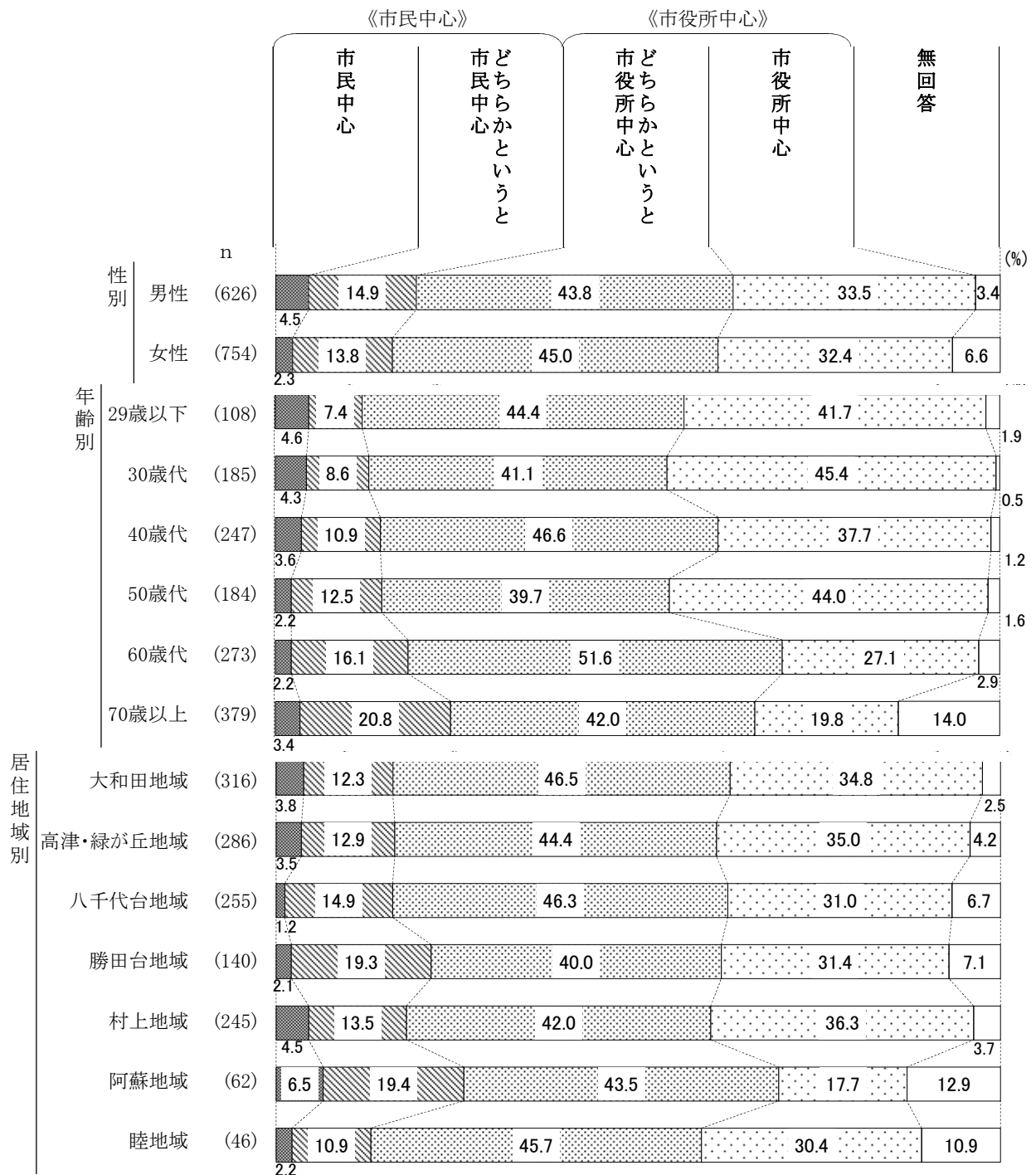
【性別・年齢別・居住地域別】

性別でみると、男女で大きな差はみられない。

年齢別でみると、《市役所中心》は、50歳代以下が8割台半ばと高くなっている。最も高い30歳代と最も低い70歳以上を比べると、25ポイントの差がみられる。

居住地域別でみると、《市役所中心》は、大和田地域が8割を超えて最も高く、最も低い阿蘇地域と比べると、20ポイントの差がみられる。(図表4-15)

<図表4-15>性別・年齢別・居住地域別

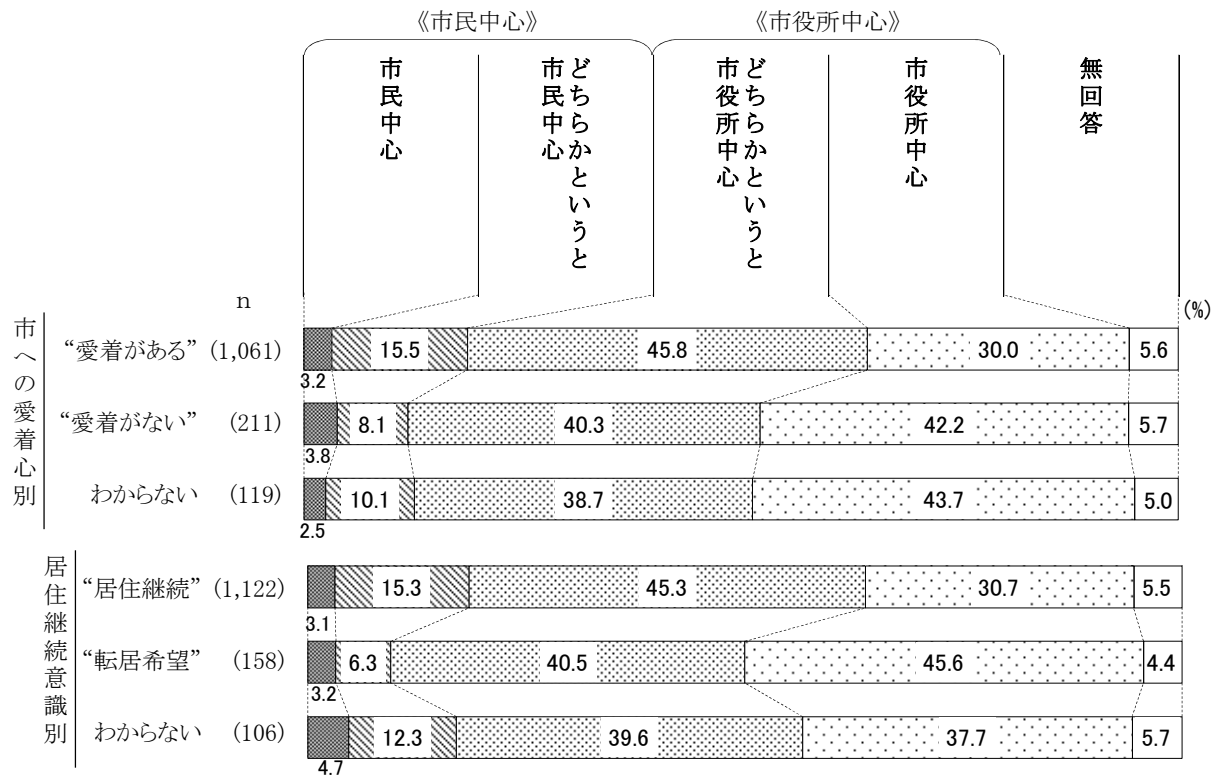


【市への愛着心別・居住継続意識別】

市への愛着心別でみると、《市民中心》は、“愛着がある”の方が“愛着がない”よりも7ポイント高くなっている。

居住継続意識別でみると、《市民中心》は、“居住継続”の方が“転居希望”よりも9ポイント高くなっている。一方、《市役所中心》は、“転居希望”が10ポイント高くなっている。(図表4-16)

＜図表4-16＞市への愛着心別・居住継続意識別



□地域のイベントの運営

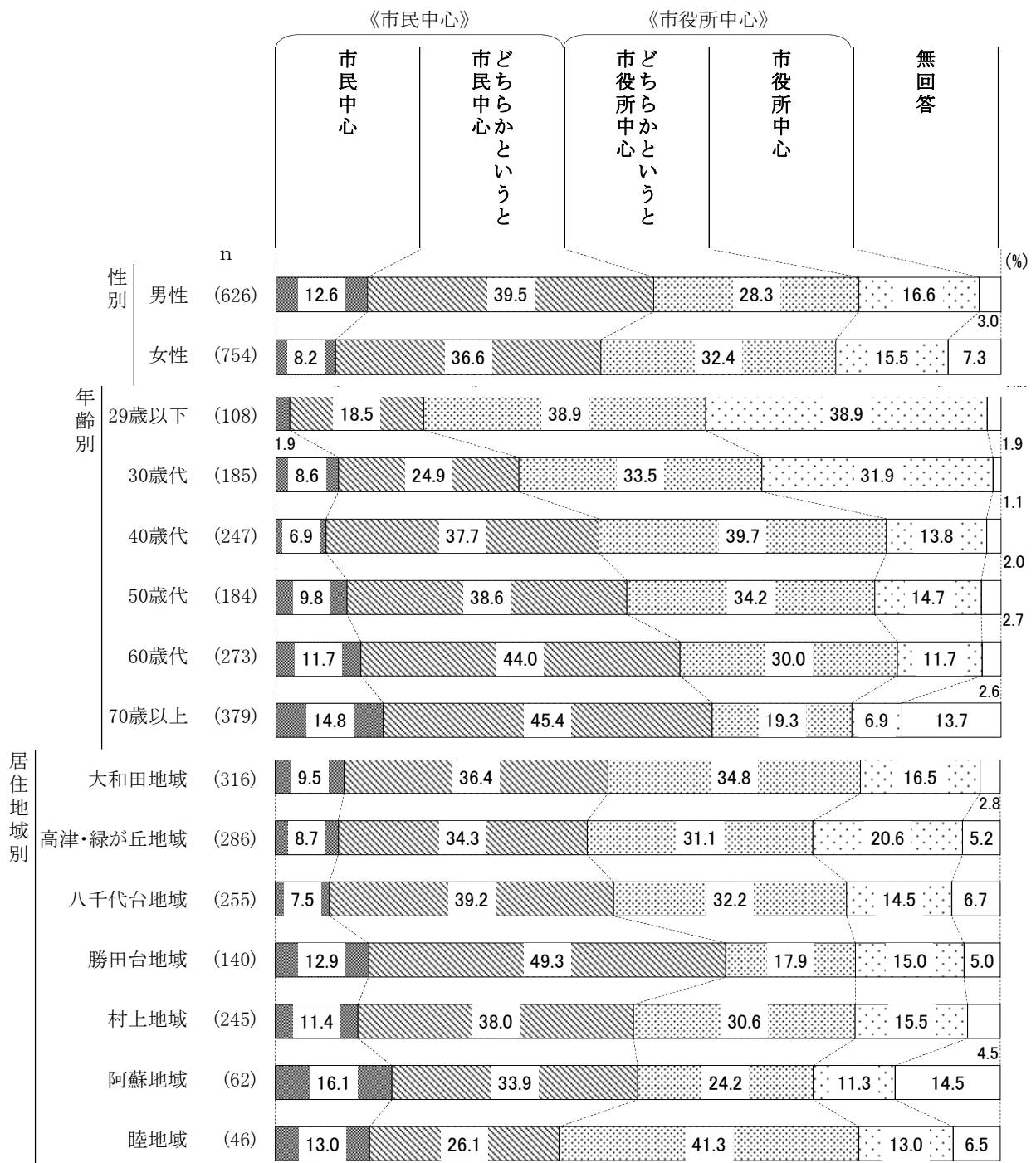
【性別・年齢別・居住地域別】

性別でみると、《市民中心》は、男性の方が女性よりも7ポイント高くなっている。

年齢別でみると、《市民中心》は、年齢が上がるほど高くなり、70歳以上で6割と最も高くなっている。

居住地域別でみると、《市民中心》は、勝田台地域が6割を超えて最も高く、最も低い睦地域と比べると、23ポイントの差がある。(図表4-17)

<図表4-17>性別・年齢別・居住地域別

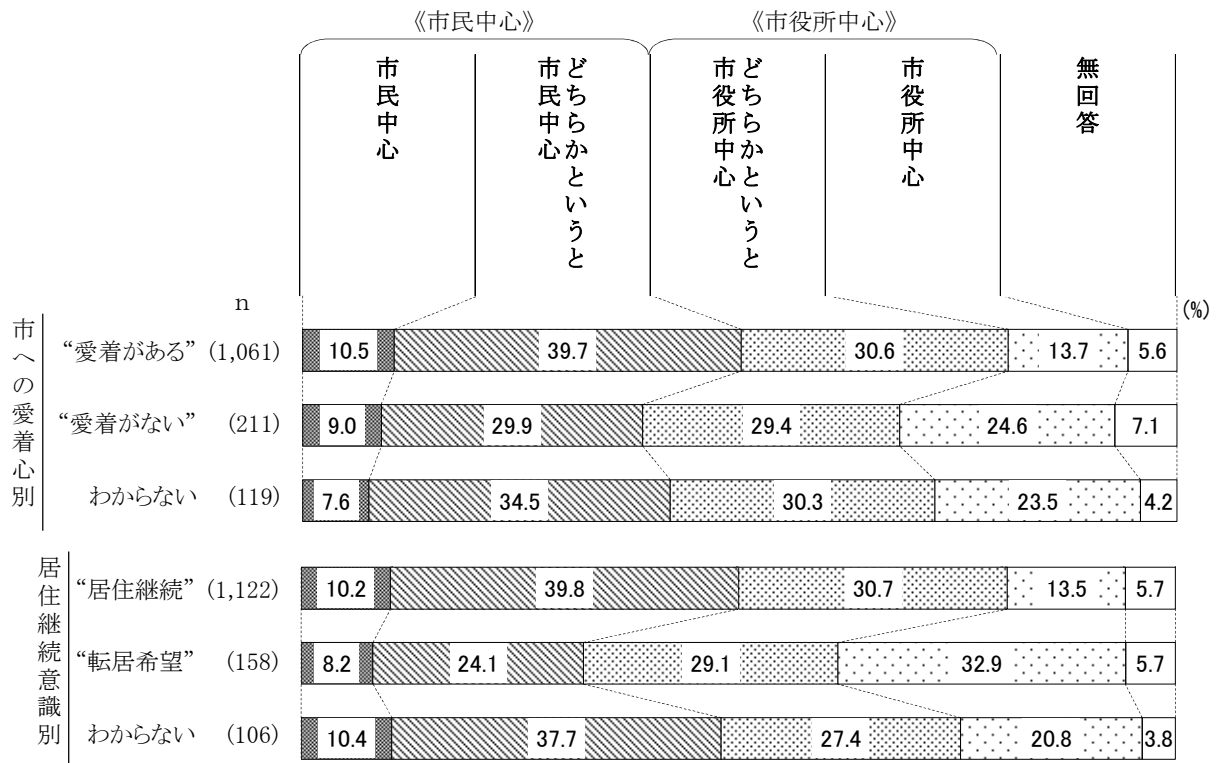


【市への愛着心別・居住継続意識別】

市への愛着心別でみると、《市民中心》は、“愛着がある”の方が“愛着がない”よりも11ポイント高くなっている。一方、《市役所中心》は、“愛着がない”が10ポイント高くなっている。

居住継続意識別でみると、《市民中心》は、“居住継続”の方が“転居希望”よりも18ポイント高くなっている。一方、《市役所中心》は、“転居希望”が18ポイント高くなっている。(図表4-18)

＜図表4-18＞市への愛着心別・居住継続意識別



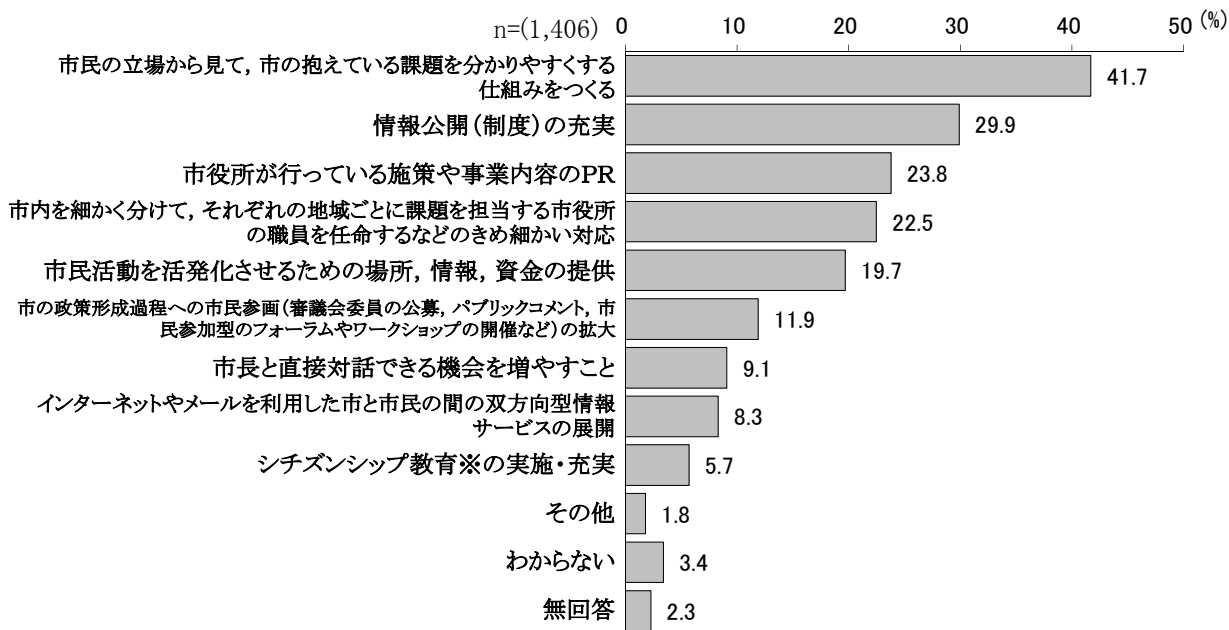
(3) 市民参加の条件整備

◇「市民の立場から見て、市の抱えている課題を分かりやすくする仕組みをつくる」が4割超え

問8 今後、市民と市役所が一体となって、八千代市の課題を考え行動していくことが多くなっていくと考えられています。そこで、あなたはそのための条件づくりとして何が必要だと思いますか。

(○は2つまで)

<図表4-19>市民参加の条件整備 (複数回答)



※シチズンシップ教育とは、他人を尊重すること、個人の権利と責任、人種・文化の多様性の価値など、社会の中で円滑な人間関係を維持するために必要な能力を身につけさせ、市民としての資質・能力を育成するための教育のことをいいます。

市民参加の条件整備は、「市民の立場から見て、市の抱えている課題を分かりやすくする仕組みをつくる」(41.7%)が4割を超えて最も高く、次いで、「情報公開(制度)の充実」(29.9%)が約3割、「市役所が行っている施策や事業内容のPR」(23.8%)が2割台半ばとなっている。(図表4-19)

【性別・年齢別・居住地域別】

性別でみると、「市の政策形成過程への市民参画（審議会委員の公募，パブリックコメント，市民参加型のフォーラムやワークショップの開催など）の拡大」は男性の方が女性よりも6ポイント高くなっている。

年齢別でみると、「市民の立場から見て，市の抱えている課題を分かりやすくする仕組みをつくる」は，29歳以下が5割を超えて最も高く，年齢が上がるほど低くなっている。「情報公開（制度）の充実」は，50歳代が3割台半ばで最も高く，最も低い70歳以上と比べると，11ポイントの差がある。

居住地域別でみると、「市民の立場から見て，市の抱えている課題を分かりやすくする仕組みをつくる」は，大和田地域，高津・緑が丘地域，阿蘇地域，睦地域が4割台半ばと高くなっている。「情報公開（制度）の充実」は，大和田地域が最も高く，最も低い睦地域と比べると，10ポイントの差がある。

（図表4-20）

<図表4-20>性別・年齢別・居住地域別

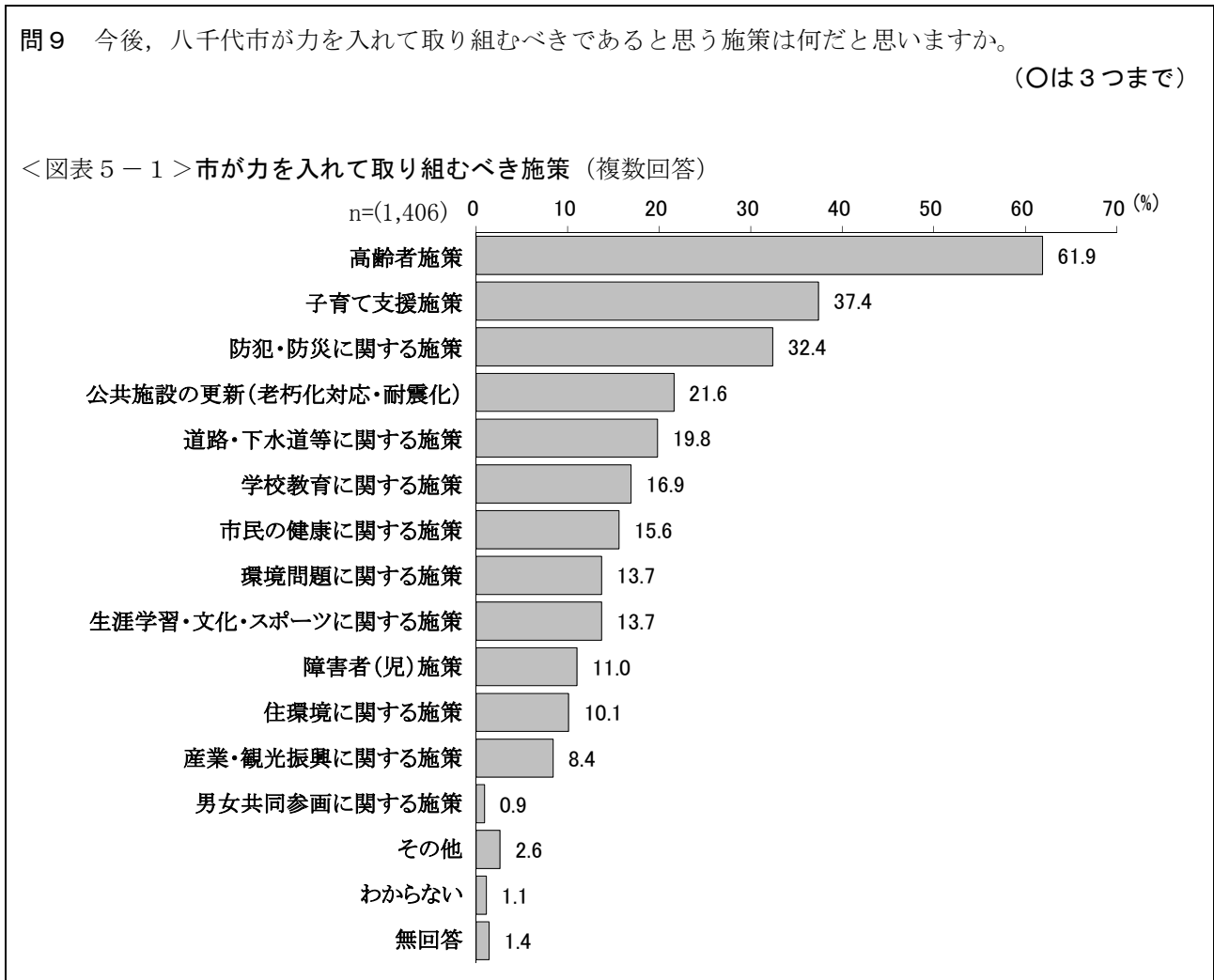
上段：人数／下段：(%)

	調査数	市民の立場から見て、市の抱えている課題を分かりやすくする仕組みをつくる	情報公開（制度）の充実	PR 市役所が行っている施策や事業内容の	市内を細かく分けて、それぞれの地域ごとに課題を担う細かい対応の職員を	市民活動を活性化させるための場所、情報、資金の提供	市の政策形成過程への市民参画（審議会委員の公募、パブリックコメント、市民参加型のワークショップの開催など）の拡大	市長と直接対話できる機会を増やすこと	インターネットやメールを利用した市展と市民の間の双方向型情報サービスの	シチズンシップ教育の実施・充実	その他	わからない	無回答
全体	1,406 100.0	587 41.7	420 29.9	335 23.8	317 22.5	277 19.7	167 11.9	128 9.1	116 8.3	80 5.7	25 1.8	48 3.4	32 2.3
男性	626 100.0	250 39.9	195 31.2	138 22.0	148 23.6	132 21.1	96 15.3	59 9.4	63 10.1	27 4.3	17 2.7	14 2.2	7 1.1
女性	754 100.0	329 43.6	215 28.5	194 25.7	166 22.0	143 19.0	71 9.4	65 8.6	53 7.0	52 6.9	8 1.1	32 4.2	19 2.5
29歳以下	108 100.0	56 51.9	29 26.9	24 22.2	18 16.7	20 18.5	10 9.3	10 9.3	10 9.3	9 8.3	3 2.8	4 3.7	1 0.9
30歳代	185 100.0	92 49.7	58 31.4	28 15.1	38 20.5	39 21.1	13 7.0	21 11.4	18 9.7	6 3.2	8 4.3	5 2.7	2 1.1
40歳代	247 100.0	112 45.3	72 29.1	55 22.3	50 20.2	50 20.2	39 15.8	17 6.9	31 12.6	17 6.9	6 2.4	5 2.0	3 1.2
50歳代	184 100.0	74 40.2	66 35.9	40 21.7	48 26.1	36 19.6	25 13.6	11 6.0	24 13.0	9 4.9	3 1.6	2 1.1	2 1.1
60歳代	273 100.0	107 39.2	88 32.2	68 24.9	60 22.0	62 22.7	40 14.7	23 8.4	19 7.0	13 4.8	2 0.7	10 3.7	5 1.8
70歳以上	379 100.0	137 36.1	95 25.1	116 30.6	100 26.4	68 17.9	39 10.3	42 11.1	14 3.7	24 6.3	3 0.8	20 5.3	12 3.2
大和田地域	316 100.0	145 45.9	114 36.1	65 20.6	64 20.3	66 20.9	42 13.3	28 8.9	25 7.9	13 4.1	4 1.3	11 3.5	4 1.3
高津・緑が丘地域	286 100.0	130 45.5	81 28.3	71 24.8	61 21.3	50 17.5	36 12.6	28 9.8	25 8.7	19 6.6	5 1.7	7 2.4	7 2.4
八千代台地域	255 100.0	103 40.4	68 26.7	60 23.5	64 25.1	47 18.4	29 11.4	22 8.6	25 9.8	22 8.6	8 3.1	6 2.4	5 2.0
勝田台地域	140 100.0	46 32.9	44 31.4	40 28.6	39 27.9	23 16.4	18 12.9	11 7.9	14 10.0	4 2.9	4 2.9	6 4.3	1 0.7
村上地域	245 100.0	101 41.2	66 26.9	60 24.5	54 22.0	62 25.3	28 11.4	22 9.0	19 7.8	16 6.5	2 0.8	9 3.7	6 2.4
阿蘇地域	62 100.0	27 43.5	18 29.0	17 27.4	12 19.4	6 9.7	6 9.7	5 8.1	2 3.2	2 3.2	1 1.6	3 4.8	3 4.8
睦地域	46 100.0	20 43.5	12 26.1	11 23.9	12 26.1	8 17.4	5 10.9	6 13.0	4 8.7	2 4.3	-	3 6.5	1 2.2

5 八千代市が力を入れて取り組むべき施策について

(1) 市が力を入れて取り組むべき施策

◇「高齢者施策」が6割を超える



市が力を入れて取り組むべき施策としては、「高齢者施策」(61.9%)が6割を超えて最も高く、次いで「子育て支援施策」(37.4%)が約4割、「防犯・防災に関する施策」(32.4%)が3割を超えている。
(図表5-1)

【性別・年齢別・家族構成別】

性別でみると、「高齢者施策」は女性の方が男性よりも6ポイント高くなっている。一方、「道路・下水道等に関する施策」は男性の方が女性よりも6ポイント高くなっている。

年齢別でみると、「子育て支援施策」は、30歳代が約7割で最も高く、最も低い70歳以上と比べると、42ポイントの差がある。一方、「高齢者施策」は、70歳以上が7割台半ばで最も高く、最も低い30歳代と比べると、40ポイントの差がある。

家族構成別でみると、「高齢者施策」は夫婦のみ(一世代世帯)で約7割、「子育て支援施策」は、夫婦と未婚の子ども(二世帯世帯)で4割台半ば、「防犯・防災に関する施策」は、単身で4割となっている。(図表5-2)

<図表5-2>性別・年齢別・家族構成別

上段：人数/下段：(%)

	調査数	高齢者施策	子育て支援施策	防犯・防災に関する施策	公共施設の更新（老朽化対応・耐震化）	道路・下水道等に関する施策	学校教育に関する施策	市民の健康に関する施策	環境問題に関する施策	生涯学習・文化・スポーツに関する施策	障害者（児）施策	住環境に関する施策	産業・観光振興に関する施策	男女共同参画に関する施策	その他
全体	1,406 100.0	871 61.9	526 37.4	455 32.4	304 21.6	278 19.8	237 16.9	219 15.6	193 13.7	193 13.7	155 11.0	142 10.1	118 8.4	12 0.9	36 2.6
男性	626 100.0	369 58.9	240 38.3	201 32.1	126 20.1	147 23.5	104 16.6	97 15.5	86 13.7	92 14.7	66 10.5	64 10.2	73 11.7	4 0.6	16 2.6
女性	754 100.0	488 64.7	279 37.0	246 32.6	174 23.1	129 17.1	130 17.2	117 15.5	105 13.9	96 12.7	83 11.0	75 9.9	44 5.8	7 0.9	18 2.4
29歳以下	108 100.0	56 51.9	49 45.4	35 32.4	32 29.6	16 14.8	22 20.4	6 5.6	15 13.9	17 15.7	5 4.6	8 7.4	13 12.0	-	2 1.9
30歳代	185 100.0	67 36.2	126 68.1	54 29.2	47 25.4	38 20.5	48 25.9	14 7.6	15 8.1	24 13.0	21 11.4	24 13.0	15 8.1	-	8 4.3
40歳代	247 100.0	132 53.4	99 40.1	87 35.2	64 25.9	56 22.7	68 27.5	22 8.9	25 10.1	32 13.0	35 14.2	23 9.3	24 9.7	0.8	6 2.4
50歳代	184 100.0	116 63.0	61 33.2	57 31.0	40 21.7	40 21.7	32 17.4	18 9.8	29 15.8	30 16.3	21 11.4	24 13.0	20 10.9	1 0.5	9 4.9
60歳代	273 100.0	197 72.2	84 30.8	96 35.2	44 16.1	48 17.6	21 7.7	64 23.4	47 17.2	38 13.9	31 11.4	28 10.3	18 6.6	4 1.5	5 1.8
70歳以上	379 100.0	287 75.7	98 25.9	117 30.9	72 19.0	78 20.6	42 11.1	90 23.7	60 15.8	47 12.4	35 9.2	32 8.4	27 7.1	4 1.1	4 1.1
単身	169 100.0	100 59.2	47 27.8	68 40.2	25 14.8	29 17.2	19 11.2	32 18.9	30 17.8	24 14.2	19 11.2	13 7.7	18 10.7	1 0.6	4 2.4
夫婦のみ （一世代世帯）	417 100.0	290 69.5	134 32.1	137 32.9	90 21.6	79 18.9	43 10.3	91 21.8	58 13.9	59 14.1	37 8.9	43 10.3	30 7.2	5 1.2	9 2.2
夫婦と未婚の子ども （二世帯世帯）	565 100.0	313 55.4	260 46.0	181 32.0	139 24.6	110 19.5	146 25.8	57 10.1	68 12.0	77 13.6	69 12.2	65 11.5	47 8.3	3 0.5	16 2.8
夫婦と親 （二世帯世帯）	24 100.0	17 70.8	9 37.5	8 33.3	3 12.5	5 20.8	-	3 12.5	4 16.7	1 4.2	4 16.7	1 4.2	3 12.5	-	1 4.2
夫婦と子どもと親 （三世帯世帯）	79 100.0	51 64.6	32 40.5	20 25.3	15 19.0	15 19.0	18 22.8	7 8.9	17 21.5	8 10.1	8 10.1	5 6.3	7 8.9	1 1.3	2 2.5
その他	110 100.0	77 70.0	35 31.8	29 26.4	25 22.7	33 30.0	8 7.3	22 20.0	13 11.8	17 15.5	9 8.2	12 10.9	12 10.9	1 0.9	2 1.8

(注) 紙面の都合上、表頭の「わからない」・「無回答」は表記を省略している。

6 高齢化社会について

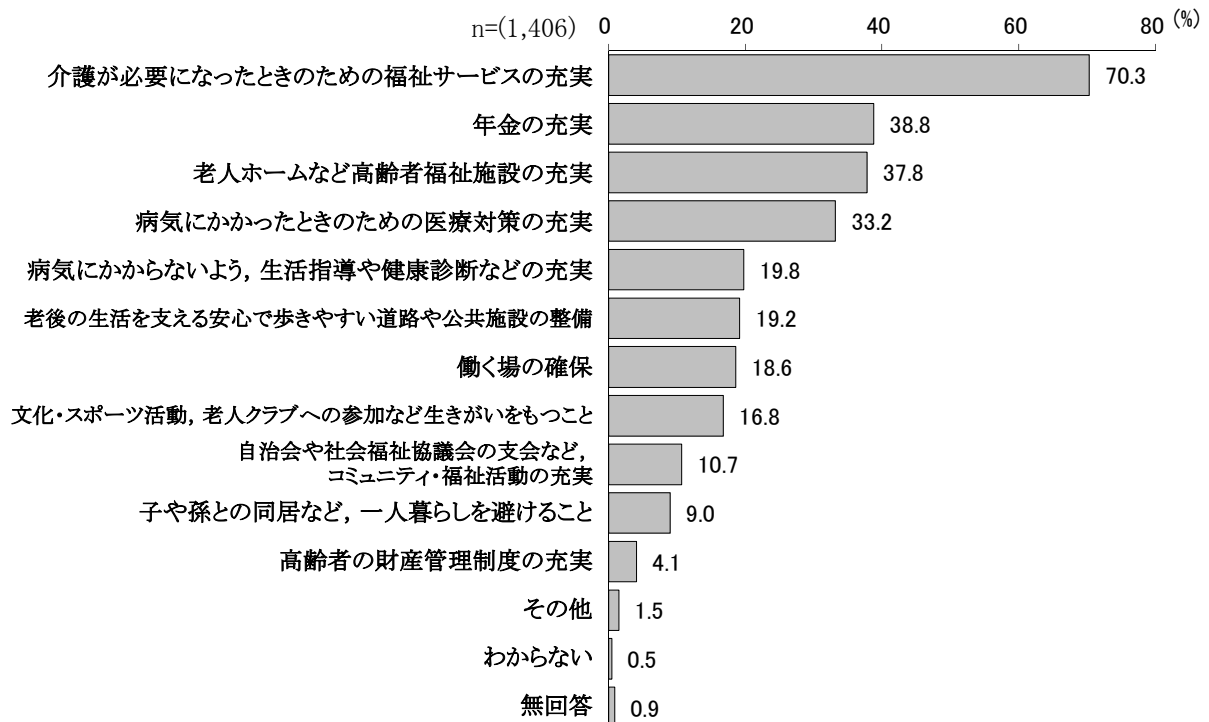
(1) 高齢者が安心して暮らしていくために大切なこと

◇「介護が必要になったときのための福祉サービスの充実」が7割

問10 あなたは、高齢者が安心して暮らしていくには、今後どのようなことが大切だと思いますか。

(○は3つまで)

<図表6-1> 高齢者が安心して暮らしていくために大切なこと (複数回答)



高齢者が安心して暮らしていくために大切なことは、「介護が必要になったときのための福祉サービスの充実」(70.3%)が7割で最も高く、次いで、「年金の充実」(38.8%)、「老人ホームなど高齢者福祉施設の充実」(37.8%)が約4割となっている。(図表6-1)

【性別・年齢別】

性別でみると、「介護が必要になったときのための福祉サービスの充実」と「年金の充実」は、女性の方が男性よりも6ポイント高くなっている。また、「老人ホームなど高齢者福祉施設の充実」も女性が5ポイント高くなっている。

年齢別でみると、「介護が必要になったときのための福祉サービスの充実」は、70歳以上が7割台半ばで最も高く、最も低い29歳以下と比べると19ポイントの差がある。一方、「年金の充実」は、29歳以下が4割台半ばで最も高く、最も低い70歳以上と比べると、15ポイントの差がある。(図表6-2)

<図表6-2>性別・年齢別

上段：人数/下段：(%)

	調査数	福祉サービスが必要になったときのための充実	年金の充実	老人ホームなど高齢者福祉施設の充実	病気がかかったときのための医療対策の充実	病気がかからないよう、生活指導や健康診断などの充実	老後の生活を支える安心で歩きやすい道路や公共施設の整備	働く場の確保	文化・スポーツ活動、老人クラブへの参加など生きがいをもつこと	実、コミュニケーション・福祉活動の充実	自治会や社会福祉協議会の支会など、コミュニティ・福祉活動の充実	子や孫との同居など、一人暮らしを避けること	高齢者の財産管理制度の充実	その他	わからない	無回答
全体	1,406 100.0	988 70.3	545 38.8	531 37.8	467 33.2	279 19.8	270 19.2	261 18.6	236 16.8	150 10.7	126 9.0	58 4.1	21 1.5	7 0.5	13 0.9	
男性	626 100.0	419 66.9	224 35.8	219 35.0	216 34.5	125 20.0	117 18.7	129 20.6	109 17.4	74 11.8	71 11.3	27 4.3	13 2.1	4 0.6	5 0.8	
女性	754 100.0	550 72.9	312 41.4	304 40.3	243 32.2	149 19.8	151 20.0	130 17.2	123 16.3	73 9.7	50 6.6	31 4.1	7 0.9	3 0.4	7 0.9	
29歳以下	108 100.0	63 58.3	50 46.3	23 21.3	27 25.0	26 24.1	26 24.1	24 22.2	31 28.7	8 7.4	14 13.0	2 1.9	3 2.8	-	1 0.9	
30歳代	185 100.0	114 61.6	80 43.2	55 29.7	59 31.9	34 18.4	41 22.2	51 27.6	33 17.8	20 10.8	18 9.7	8 4.3	3 1.6	2 1.1	1 0.5	
40歳代	247 100.0	179 72.5	100 40.5	66 26.7	81 32.8	52 21.1	44 17.8	63 25.5	50 20.2	26 10.5	24 9.7	8 3.2	7 2.8	2 0.8	-	
50歳代	184 100.0	127 69.0	73 39.7	67 36.4	59 32.1	36 19.6	26 14.1	54 29.3	29 15.8	18 9.8	13 7.1	7 3.8	2 1.1	1 0.5	2 1.1	
60歳代	273 100.0	193 70.7	113 41.4	121 44.3	95 34.8	54 19.8	46 16.8	43 15.8	30 17.2	17 11.0	12 6.2	3 4.4	1 1.1	-	2 0.7	
70歳以上	379 100.0	291 76.8	117 30.9	189 49.9	138 36.4	72 19.0	84 22.2	22 5.8	42 11.1	45 11.9	35 9.2	21 5.5	2 0.5	2 0.5	6 1.6	

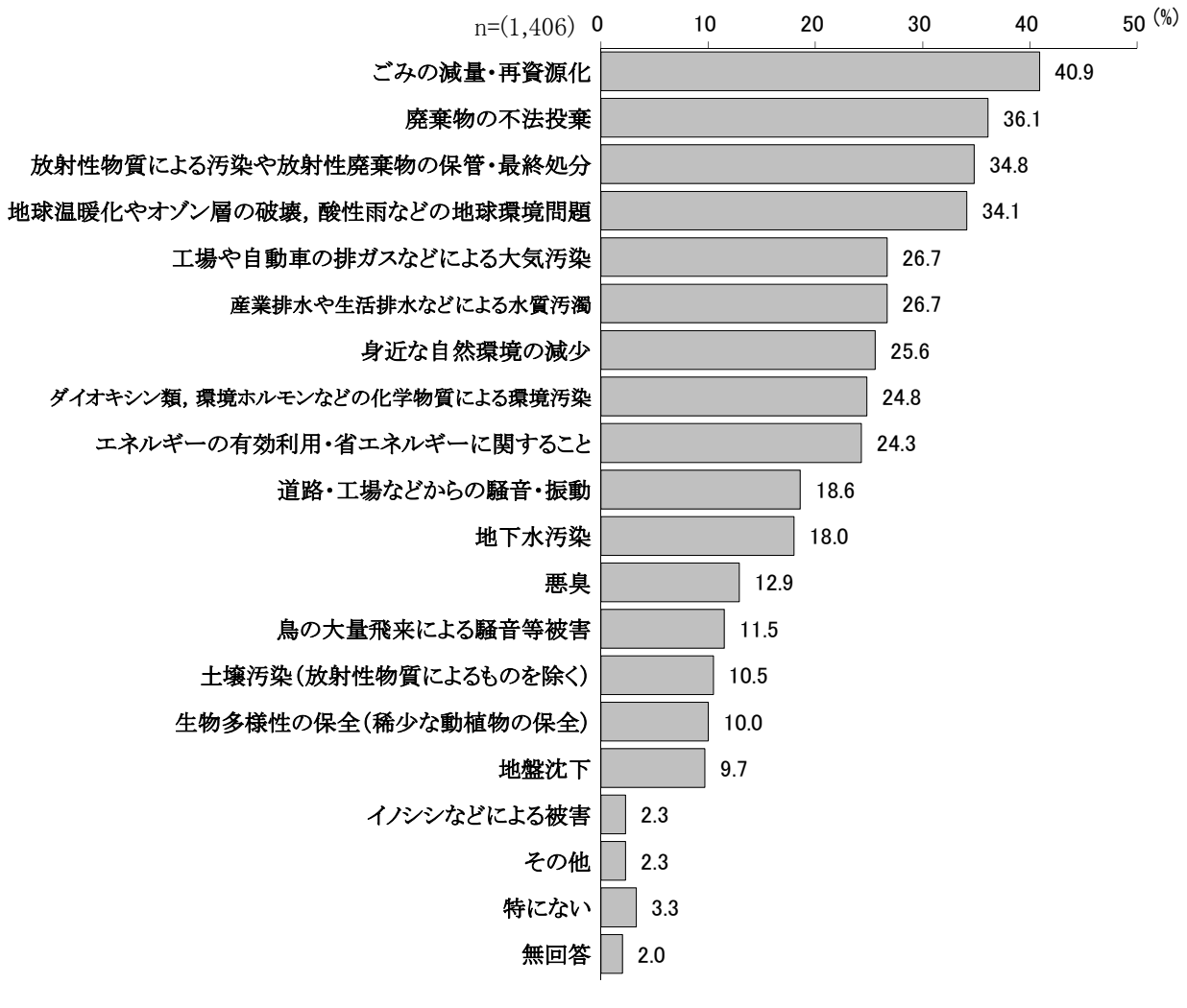
7 環境問題について

(1) 環境問題

◇「ごみの減量・再資源化」が4割

問11 あなたが特に興味を持っている環境問題は何ですか。(〇はいくつでも)

<図表 7-1> 環境問題 (複数回答)



関心を持っている環境問題は、「ごみの減量・再資源化」(40.9%)が4割で最も高く、次いで、「廃棄物の不法投棄」(36.1%)、「放射性物質による汚染や放射性廃棄物の保管・最終処分」(34.8%)で3割台半ばとなっている。(図表 7-1)

【性別・年齢別・居住地域別】

性別でみると、「放射性物質による汚染や放射性廃棄物の保管・最終処分」は、女性の方が男性よりも10ポイント高くなっている。また、「ダイオキシン類、環境ホルモンなどの化学物質による環境汚染」も女性が9ポイント高くなっている。

年齢別でみると、「ごみの減量・再資源化」は、年齢が上がるほど高くなり、70歳以上で4割台半ばと最も高くなっている。「廃棄物の不法投棄」は50歳代が4割台半ばで最も高く、最も低い29歳以下と比べると、21ポイントの差がある。

居住地域別でみると、「ごみの減量・再資源化」は、勝田台地域と村上地域が約5割で高くなっている。「廃棄物の不法投棄」は、睦地域が約5割で最も高く、最も低い高津・緑が丘地域と比べると、16ポイントの差がある。(図表7-2)

<図表7-2>性別・年齢別・居住地域別

上段：人数/下段：(%)

	調査数	ごみの減量・再資源化	廃棄物の不法投棄	放射性物質の保管・最終処分	地球温暖化やオゾン層の破壊、酸性雨などの地球環境問題	工場や自動車の排ガスなどによる大気汚染	産業排水や生活排水などによる水質汚濁	身近な自然環境の減少	ダイオキシン類、環境ホルモンの化学物質による環境汚染	エネルギーの有効利用・省エネルギーに関すること	道路・工場などからの騒音・振	地下水汚染	悪臭	鳥の大量飛来による騒音等被害
全体	1,406 100.0	575 40.9	508 36.1	489 34.8	480 34.1	375 26.7	376 26.7	360 25.6	348 24.8	341 24.3	262 18.6	253 18.0	181 12.9	162 11.5
男性	626 100.0	252 40.3	241 38.5	185 29.6	192 30.7	165 26.4	162 25.9	157 25.1	126 20.1	154 24.6	133 21.2	109 17.4	92 14.7	70 11.2
女性	754 100.0	314 41.6	259 34.4	298 39.5	281 37.3	205 27.2	207 27.5	199 26.4	219 29.0	182 24.1	124 16.4	141 18.7	88 11.7	88 11.7
29歳以下	108 100.0	34 31.5	26 24.1	31 28.7	29 26.9	36 33.3	23 21.3	28 25.9	22 20.4	29 26.9	24 22.2	12 11.1	21 19.4	10 9.3
30歳代	185 100.0	62 33.5	49 26.5	71 38.4	44 23.8	52 28.1	39 21.1	40 21.6	43 23.2	46 24.9	41 22.2	19 10.3	29 15.7	26 14.1
40歳代	247 100.0	96 38.9	78 31.6	111 44.9	80 32.4	72 29.1	56 22.7	57 23.1	71 28.7	68 27.5	42 17.0	49 19.8	30 12.1	29 11.7
50歳代	184 100.0	78 42.4	83 45.1	61 33.2	71 38.6	48 26.1	71 38.6	51 27.7	59 32.1	56 30.4	32 17.4	37 20.1	25 13.6	23 12.5
60歳代	273 100.0	117 42.9	107 39.2	86 31.5	102 37.4	62 22.7	76 27.8	70 25.6	71 26.0	64 23.4	47 17.2	54 19.8	29 10.6	36 13.2
70歳以上	379 100.0	177 46.7	155 40.9	121 31.9	146 38.5	100 26.4	103 27.2	109 28.8	79 20.8	72 19.0	69 18.2	78 20.6	46 12.1	33 8.7
大和田地域	316 100.0	118 37.3	108 34.2	126 39.9	110 34.8	86 27.2	91 28.8	82 25.9	82 25.9	74 23.4	52 16.5	55 17.4	46 14.6	26 8.2
高津・緑が丘地域	286 100.0	107 37.4	91 31.8	88 30.8	94 32.9	77 26.9	71 24.8	77 26.9	70 24.5	77 26.9	62 21.7	45 15.7	37 12.9	55 19.2
八千代台地域	255 100.0	94 36.9	93 36.5	82 32.2	82 32.2	63 24.7	61 23.9	67 26.3	57 22.4	58 22.7	45 17.6	42 16.5	15 5.9	25 9.8
勝田台地域	140 100.0	68 48.6	47 33.6	57 40.7	55 39.3	34 24.3	32 22.9	46 32.9	36 25.7	43 30.7	28 20.0	33 23.6	13 9.3	8 5.7
村上地域	245 100.0	116 47.3	97 39.6	85 34.7	93 38.0	73 29.8	74 30.2	56 22.9	72 29.4	59 24.1	48 19.6	47 19.2	41 16.7	20 8.2
阿蘇地域	62 100.0	27 43.5	26 41.9	19 30.6	22 35.5	12 19.4	19 30.6	8 12.9	13 21.0	8 12.9	7 11.3	15 24.2	9 14.5	4 6.5
睦地域	46 100.0	17 37.0	22 47.8	15 32.6	12 26.1	15 32.6	15 32.6	9 19.6	9 19.6	10 21.7	12 26.1	10 21.7	15 32.6	12 26.1

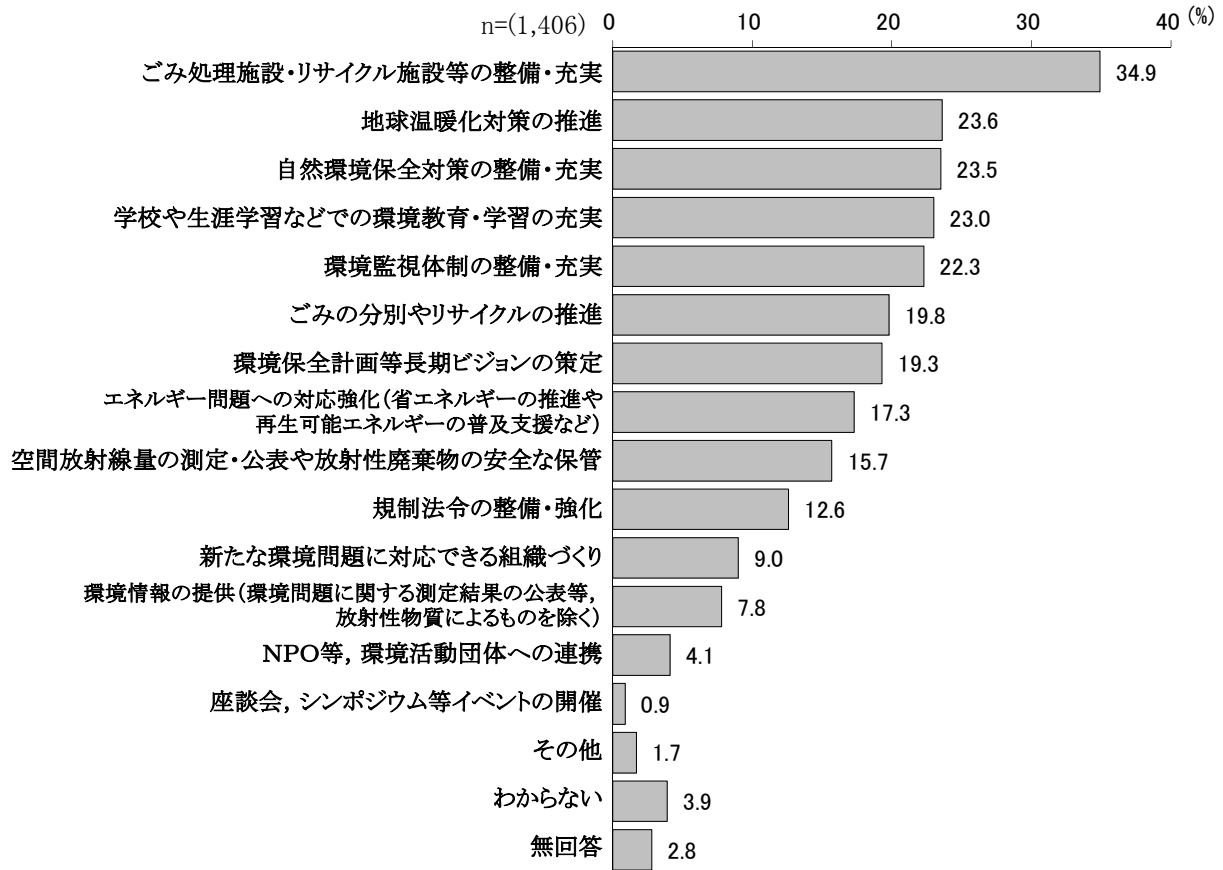
(注) 紙面の都合上、上位14項目以下は表記を省略している。

(2) 環境行政への期待

◇「ごみ処理施設・リサイクル施設等の整備・充実」が3割台半ば

問12 あなたは、環境行政に何を期待しますか。(○は3つまで)

<図表7-3> 環境行政への期待 (複数回答)



環境行政に期待していることは、「ごみ処理施設・リサイクル施設等の整備・充実」(34.9%)が3割台半ばで最も高く、次いで、「地球温暖化対策の推進」(23.6%)、「自然環境保全対策の整備・充実」(23.5%)が2割台半ばとなっている。(図表7-3)

【性別・年齢別・居住地域別】

性別でみると、「環境保全計画等長期ビジョンの策定」は、男性の方が女性よりも9ポイント高く、「環境監視体制の整備・充実」も、男性が7ポイント高くなっている。一方、「地球温暖化対策の推進」は、女性の方が男性よりも6ポイント高くなっている。

年齢別でみると、「ごみ処理施設・リサイクル施設等の整備・充実」は、50歳代が4割を超えて最も高く、最も低い30歳代と比べると、13ポイントの差がある。「地球温暖化対策の推進」は、70歳以上が約3割で最も高く、最も低い30歳代と比べると、10ポイントの差がある。

居住地域別でみると、「ごみ処理施設・リサイクル施設等の整備・充実」は、勝田台地域が4割を超えて最も高くなっている。「地球温暖化対策の推進」も、勝田台地域が3割で最も高くなっている。

(図表7-4)

<図表7-4>性別・年齢別・居住地域別

上段：人数／下段：(%)

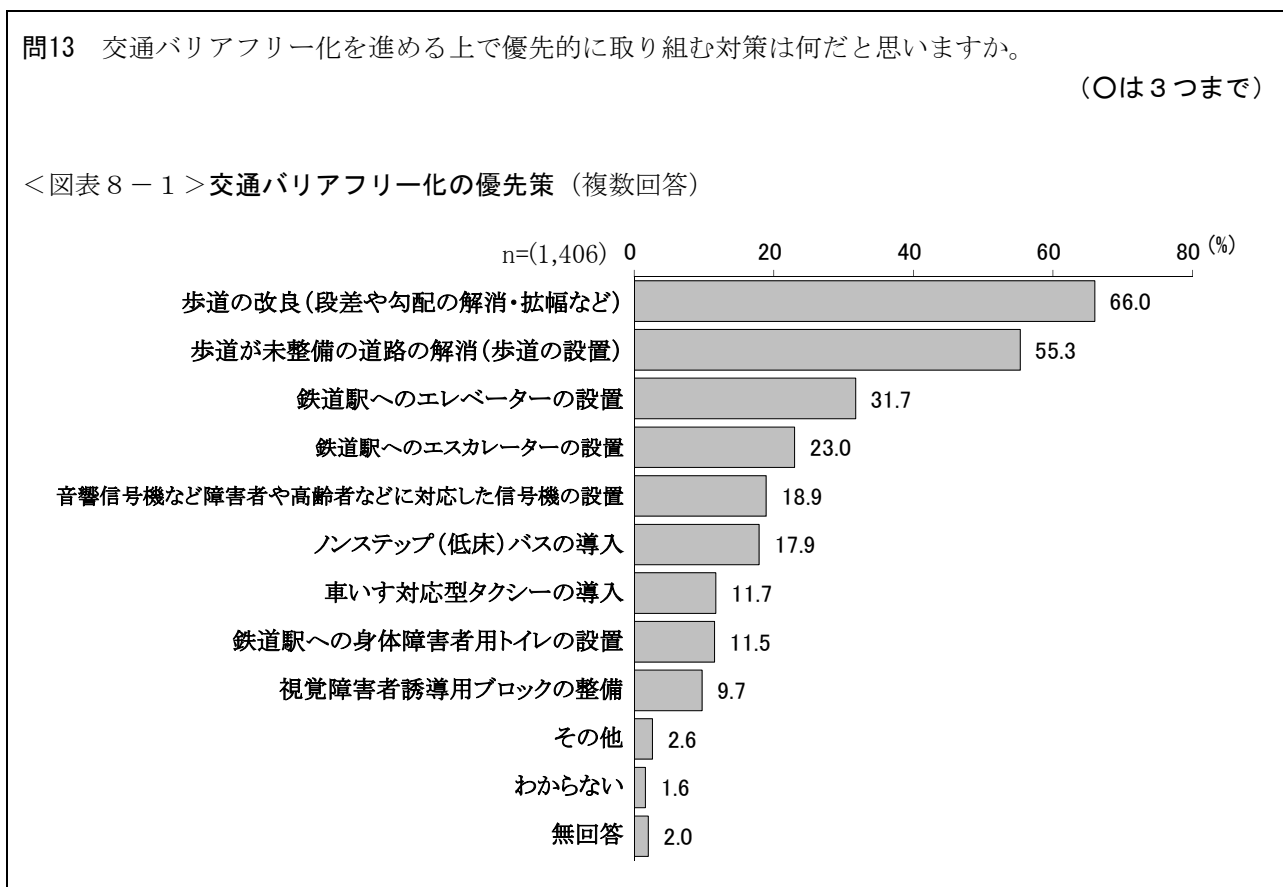
	調査数	ごみ処理施設・リサイクル施設等の整備・充実	地球温暖化対策の推進	自然環境保全対策の整備・充実	学校や生涯学習などでの環境教育・学習の充実	環境監視体制の整備・充実	ごみの分別やリサイクルの推進	環境保全計画等長期ビジョンの策定	エネルギー問題への対応強化(省エネの普及支援など)	空間放射線量の測定・公表や放射性廃棄物の安全な保管	規制法令の整備・強化	新たな環境問題に対応できる組織づくり	環境情報の提供(環境問題に関する測定結果の公表等、放射性物質によるものを除く)	NPO等、環境活動団体への連携	の座談会、シンポジウム等イベントの開催
全体	1,406 100.0	490 34.9	332 23.6	331 23.5	324 23.0	314 22.3	279 19.8	271 19.3	243 17.3	221 15.7	177 12.6	126 9.0	110 7.8	58 4.1	13 0.9
男性	626 100.0	223 35.6	130 20.8	149 23.8	132 21.1	165 26.4	131 20.9	153 24.4	116 18.5	73 11.7	104 16.6	55 8.8	48 7.7	33 5.3	6 1.0
女性	754 100.0	262 34.7	199 26.4	178 23.6	187 24.8	143 19.0	147 19.5	115 15.3	125 16.6	147 19.5	71 9.4	66 8.8	60 8.0	23 3.1	7 0.9
29歳以下	108 100.0	33 30.6	23 21.3	18 16.7	28 25.9	17 15.7	27 25.0	13 12.0	26 24.1	15 13.9	15 13.9	9 8.3	8 7.4	5 4.6	1 0.9
30歳代	185 100.0	54 29.2	33 17.8	28 15.1	52 28.1	35 18.9	27 14.6	31 16.8	38 20.5	37 20.0	28 15.1	12 6.5	14 7.6	8 4.3	1 0.5
40歳代	247 100.0	80 32.4	55 22.3	61 24.7	60 24.3	50 20.2	48 19.4	32 13.0	62 25.1	51 20.6	27 10.9	25 10.1	19 7.7	14 5.7	2 0.8
50歳代	184 100.0	77 41.8	43 23.4	43 23.4	44 23.9	42 22.8	38 20.7	44 23.9	33 17.9	23 12.5	31 16.8	15 8.2	18 9.8	7 3.8	2 1.1
60歳代	273 100.0	100 36.6	68 24.9	80 29.3	60 22.0	71 26.0	55 20.1	58 21.2	32 11.7	46 16.8	30 11.0	26 9.5	22 8.1	8 2.9	3 1.1
70歳以上	379 100.0	140 36.9	106 28.0	97 25.6	74 19.5	91 24.0	83 21.9	89 23.5	50 13.2	48 12.7	44 11.6	33 8.7	27 7.1	14 3.7	4 1.1
大和田地域	316 100.0	91 28.8	79 25.0	69 21.8	85 26.9	74 23.4	49 15.5	66 20.9	66 20.9	54 17.1	38 12.0	31 9.8	31 9.8	17 5.4	3 0.9
高津・緑が丘地域	286 100.0	100 35.0	69 24.1	75 26.2	68 23.8	63 22.0	57 19.9	53 18.5	52 18.2	41 14.3	31 10.8	24 8.4	29 10.1	11 3.8	-
八千代台地域	255 100.0	93 36.5	48 18.8	55 21.6	52 20.4	54 21.2	56 22.0	46 18.0	36 14.1	40 15.7	29 11.4	23 9.0	17 6.7	13 5.1	3 1.2
勝田台地域	140 100.0	59 42.1	43 30.7	36 25.7	23 16.4	32 22.9	36 25.7	34 24.3	26 18.6	25 17.9	10 7.1	14 10.0	8 5.7	1 0.7	-
村上地域	245 100.0	96 39.2	59 24.1	57 23.3	62 25.3	58 23.7	48 19.6	45 18.4	40 16.3	39 15.9	44 18.0	20 8.2	17 6.9	10 4.1	4 1.6
阿蘇地域	62 100.0	24 38.7	13 21.0	15 24.2	7 11.3	11 17.7	17 27.4	9 14.5	8 12.9	9 14.5	9 14.5	7 11.3	2 3.2	2 3.2	1 1.6
睦地域	46 100.0	11 23.9	13 28.3	14 30.4	14 30.4	11 23.9	10 21.7	8 17.4	4 8.7	8 17.4	7 15.2	1 2.2	2 4.3	2 4.3	2 4.3

(注) 紙面の都合上、表頭の「その他」・「わからない」・「無回答」は表記を省略している。

8 交通に関することについて

(1) 交通バリアフリー化の優先策

◇「歩道の改良」が6割台半ば



交通バリアフリー化の優先策は、「歩道の改良（段差や勾配の解消・拡幅など）」（66.0%）が6割台半ばで最も高く、次いで、「歩道が未整備の道路の解消（歩道の設置）」（55.3%）が5割台半ば、「鉄道駅へのエレベーターの設置」（31.7%）が3割を超えている。（図表 8-1）

【性別・年齢別・居住地域別】

性別でみると、「歩道が未整備の道路の解消（歩道の設置）」は、男性の方が女性よりも7ポイント高くなっている。一方、「鉄道駅へのエレベーターの設置」は、女性の方が男性よりも6ポイント高くなっている。

年齢別でみると、「歩道の改良（段差や勾配の解消・拡幅など）」は、50歳代が7割を超えて最も高く、最も低い29歳以下と比べると15ポイントの差がある。「歩道が未整備の道路の解消（歩道の設置）」も、50歳代が6割台半ばで最も高くなっている。

居住地域別でみると、「歩道の改良（段差や勾配の解消・拡幅など）」は、高津・緑が丘地域と八千代台地域が7割を超えて高くなっている。「歩道が未整備の道路の解消（歩道の設置）」は、睦地域が約7割で最も高く、最も低い阿蘇地域と比べると、34ポイントの差がある。（図表 8-2）

<図表 8 - 2>性別・年齢別・居住地域別

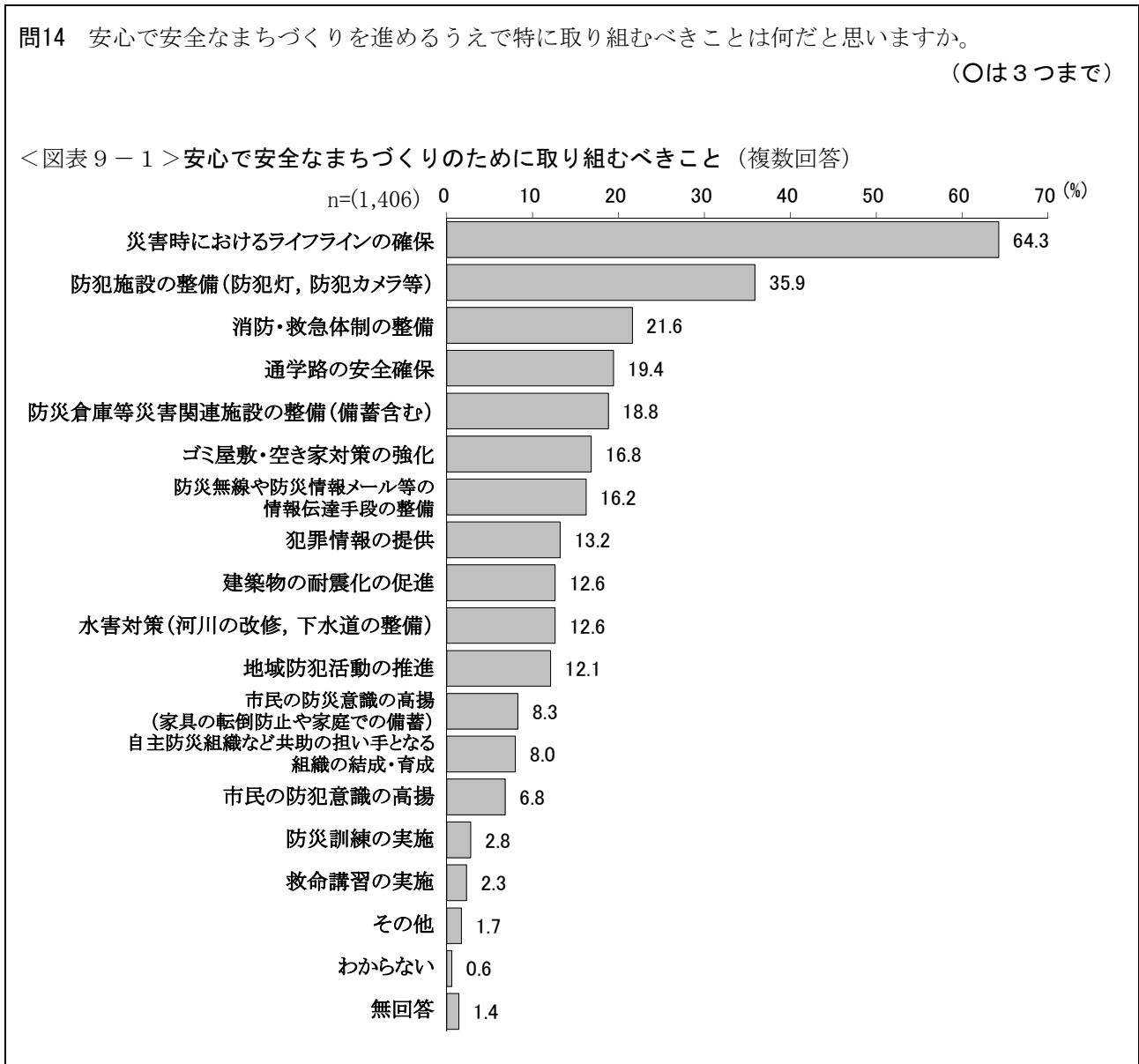
上段：人数／下段：(%)

	調査数	歩道の改良（段差や勾配の解消・拡幅など）	歩道が未整備の道路の解消（歩道の設置）	鉄道駅へのエレベーターの設置	鉄道駅へのエスカレーター	音響信号機など障害者や高齢者などに対応した信号機の設置	ノンステップ（低床）バスの導入	車いす対応型タクシーの導入	鉄道駅への身体障害者用トイレの設置	視覚障害者誘導用ブロックの整備	その他	わからない	無回答
全体	1,406 100.0	928 66.0	777 55.3	446 31.7	323 23.0	266 18.9	251 17.9	164 11.7	162 11.5	137 9.7	37 2.6	22 1.6	28 2.0
男性	626 100.0	410 65.5	371 59.3	180 28.8	147 23.5	121 19.3	100 16.0	67 10.7	70 11.2	69 11.0	13 2.1	7 1.1	10 1.6
女性	754 100.0	507 67.2	395 52.4	259 34.4	169 22.4	141 18.7	147 19.5	97 12.9	88 11.7	65 8.6	22 2.9	14 1.9	15 2.0
29歳以下	108 100.0	61 56.5	55 50.9	39 36.1	30 27.8	18 16.7	25 23.1	13 12.0	16 14.8	7 6.5	2 1.9	1 0.9	2 1.9
30歳代	185 100.0	128 69.2	111 60.0	68 36.8	36 19.5	28 15.1	31 16.8	17 9.2	24 13.0	16 8.6	6 3.2	1.1 1.1	2 1.1
40歳代	247 100.0	170 68.8	153 61.9	98 39.7	41 16.6	35 14.2	43 17.4	27 10.9	16 6.5	25 10.1	11 4.5	3 1.2	-
50歳代	184 100.0	132 71.7	116 63.0	64 34.8	36 19.6	25 13.6	34 18.5	26 14.1	23 12.5	13 7.1	5 2.7	4 2.2	1 0.5
60歳代	273 100.0	177 64.8	157 57.5	74 27.1	62 22.7	61 22.3	51 18.7	33 12.1	25 9.2	27 9.9	7 2.6	7 2.6	3 1.1
70歳以上	379 100.0	246 64.9	171 45.1	96 25.3	110 29.0	94 24.8	63 16.6	47 12.4	54 14.2	46 12.1	3 0.8	4 1.1	17 4.5
大和田地域	316 100.0	209 66.1	193 61.1	96 30.4	64 20.3	60 19.0	53 16.8	42 13.3	37 11.7	36 11.4	7 2.2	5 1.6	4 1.3
高津・緑が丘地域	286 100.0	205 71.7	172 60.1	90 31.5	49 17.1	54 18.9	55 19.2	31 10.8	29 10.1	24 8.4	11 3.8	4 1.4	4 1.4
八千代台地域	255 100.0	182 71.4	144 56.5	83 32.5	58 22.7	42 16.5	37 14.5	31 12.2	34 13.3	24 9.4	3 1.2	3 1.2	3 1.2
勝田台地域	140 100.0	87 62.1	57 40.7	52 37.1	56 40.0	31 22.1	24 17.1	15 10.7	15 10.7	12 8.6	5 3.6	2 1.4	3 2.1
村上地域	245 100.0	159 64.9	131 53.5	80 32.7	54 22.0	49 20.0	45 18.4	34 13.9	32 13.1	21 8.6	7 2.9	4 1.6	3 1.2
阿蘇地域	62 100.0	32 51.6	22 35.5	16 25.8	19 30.6	16 25.8	16 25.8	5 8.1	6 9.7	8 12.9	1 1.6	2 3.2	2 3.2
睦地域	46 100.0	23 50.0	32 69.6	17 37.0	7 15.2	6 13.0	13 28.3	3 6.5	5 10.9	5 10.9	-	1 2.2	3 6.5

9 安心して安全なまちづくりについて

(1) 安心して安全なまちづくりのために取り組むべきこと

◇「災害時におけるライフラインの確保」が6割台半ば



安心して安全なまちづくりのために取り組むべきことは、「災害時におけるライフラインの確保」(64.3%)が6割台半ばで最も高く、次いで、「防犯施設の整備(防犯灯, 防犯カメラ等)」(35.9%)が3割台半ば、「消防・救急体制の整備」(21.6%)が2割を超えている。(図表9-1)

【性別・年齢別・居住地域別】

性別でみると、「防犯施設の整備（防犯灯，防犯カメラ等）」は，男性の方が女性よりも6ポイント高くなっている。一方，「災害時におけるライフラインの確保」は，女性の方が男性よりも5ポイント高くなっている。

年齢別でみると，「災害時におけるライフラインの確保」は，全ての年齢で6割以上となっている。「防犯施設の整備（防犯灯，防犯カメラ等）」は，40歳代以下が2割台半ばから約3割となっているが，50歳代以上は4割を超えて高くなっている。

居住地域別でみると，「災害時におけるライフラインの確保」は，勝田台地域が7割で最も高く，最も低い睦地域と比べると，27ポイントの差がある。（図表9-2）

<図表9-2>性別・年齢別・居住地域別

上段：人数／下段：(%)

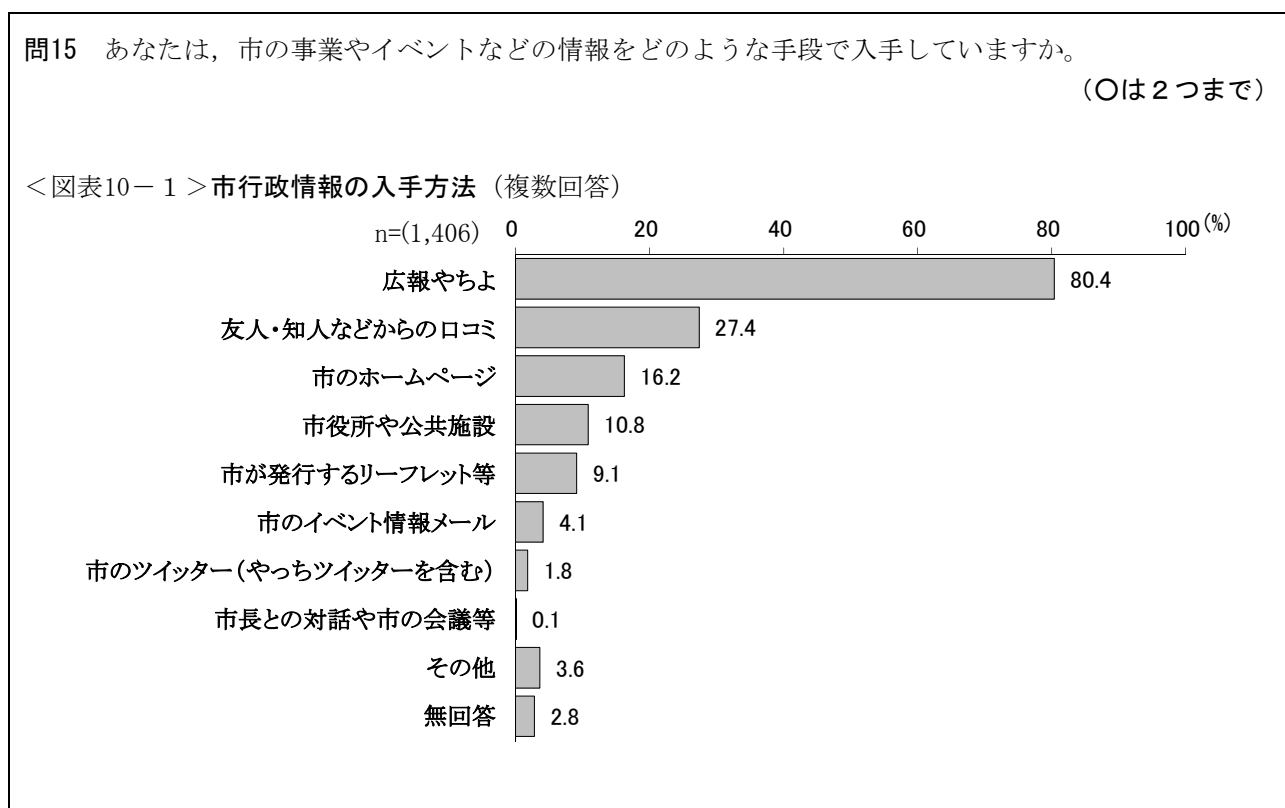
	調査数	災害時におけるライフラインの確保	防犯施設の整備（防犯灯、防犯カメラ等）	消防・救急体制の整備	通学路の安全確保	防災倉庫等災害関連施設の整備（備蓄含む）	ゴミ屋敷・空き家対策の強化	防災無線や防災情報メール等の情報伝達手段の整備	犯罪情報の提供	建築物の耐震化の促進	水害対策（河川の改修、下水道の整備）	地域防犯活動の推進	市民の防災意識の高揚（家具の転倒防止や家庭での備蓄）	自主防災組織など共助の担い手となる組織の結成・育成	市民の防犯意識の高揚	防災訓練の実施	救命講習の実施	その他
全体	1,406 100.0	904 64.3	505 35.9	303 21.6	273 19.4	265 18.8	236 16.8	228 16.2	185 13.2	177 12.6	177 12.6	170 12.1	116 8.3	112 8.0	96 6.8	40 2.8	32 2.3	24 1.7
男性	626 100.0	386 61.7	246 39.3	146 23.3	113 18.1	104 16.6	111 17.7	103 16.5	83 13.3	87 13.9	61 9.7	96 15.3	52 8.3	50 8.0	45 7.2	18 2.9	13 2.1	12 1.9
女性	754 100.0	502 66.6	251 33.3	153 20.3	157 20.8	156 20.7	123 16.3	120 15.9	99 13.1	88 11.7	111 14.7	71 9.4	63 8.4	61 8.1	49 6.5	22 2.9	19 2.5	12 1.6
29歳以下	108 100.0	70 64.8	28 25.9	21 19.4	31 28.7	13 12.0	20 18.5	12 11.1	19 17.6	21 19.4	16 14.8	11 10.2	8 7.4	3 2.8	6 5.6	4 3.7	5 4.6	-
30歳代	185 100.0	115 62.2	46 24.9	28 15.1	56 30.3	41 22.2	37 20.0	21 11.4	32 17.3	37 20.0	27 14.6	30 16.2	16 8.6	9 4.9	13 7.0	4 2.2	5 2.7	2 1.1
40歳代	247 100.0	170 68.8	71 28.7	47 19.0	67 27.1	42 17.0	40 16.2	43 17.4	41 16.6	26 10.5	40 16.2	29 11.7	15 6.1	11 4.5	13 5.3	2 0.8	8 3.2	13 5.3
50歳代	184 100.0	118 64.1	76 41.3	49 26.6	24 13.0	30 16.3	29 15.8	35 19.0	26 14.1	24 13.0	26 14.1	19 10.3	15 8.2	20 10.9	14 7.6	7 3.8	3 1.6	3 1.6
60歳代	273 100.0	182 66.7	117 42.9	54 19.8	41 15.0	56 20.5	49 17.9	39 14.3	36 13.2	24 8.8	31 11.4	33 12.1	21 7.7	33 12.1	25 9.2	10 3.7	6 2.2	4 1.5
70歳以上	379 100.0	230 60.7	158 41.7	100 26.4	51 13.5	78 20.6	58 15.3	73 19.3	27 7.1	42 11.1	31 8.2	45 11.9	40 10.6	35 9.2	22 5.8	13 3.4	5 1.3	2 0.5
大和田地域	316 100.0	208 65.8	115 36.4	55 17.4	62 19.6	60 19.0	56 17.7	49 15.5	48 15.2	31 9.8	46 14.6	50 15.8	22 7.0	30 9.5	22 7.0	6 1.9	16 5.1	4 1.3
高津・緑が丘地域	286 100.0	198 69.2	105 36.7	59 20.6	52 18.2	41 14.3	34 11.9	45 15.7	47 16.4	47 16.4	41 14.3	24 8.4	23 8.0	26 9.1	22 7.7	15 5.2	3 1.0	10 3.5
八千代台地域	255 100.0	155 60.8	91 35.7	56 22.0	48 18.8	51 20.0	51 20.0	53 20.8	24 9.4	31 12.2	31 12.2	32 12.5	25 9.8	9 3.5	17 6.7	8 3.1	4 1.6	4 1.6
勝田台地域	140 100.0	98 70.0	59 42.1	30 21.4	13 9.3	41 29.3	30 21.4	22 15.7	15 10.7	17 12.1	7 5.0	16 11.4	6 4.3	13 9.3	11 7.9	3 2.1	2 1.4	2 1.4
村上地域	245 100.0	159 64.9	85 34.7	59 24.1	63 25.7	48 19.6	35 14.3	38 15.5	30 12.2	34 13.9	29 11.8	27 11.0	23 9.4	22 9.0	15 6.1	6 2.4	4 1.6	2 0.8
阿蘇地域	62 100.0	37 59.7	22 35.5	21 33.9	8 12.9	10 16.1	8 12.9	6 9.7	5 8.1	7 11.3	9 14.5	10 16.1	9 14.5	6 9.7	4 6.5	-	1 1.6	-
睦地域	46 100.0	20 43.5	10 21.7	15 32.6	17 37.0	10 21.7	13 28.3	5 10.9	8 17.4	4 8.7	6 13.0	8 17.4	3 6.5	2 4.3	3 6.5	1 2.2	1 2.2	1 2.2

(注) 紙面の都合上、表頭の「その他」・「わからない」・「無回答」は表記を省略

10 情報化の推進に関することについて

(1) 市行政情報の入手方法

◇「広報やちよ」が8割



市行政情報の入手方法としては、「広報やちよ」(80.4%)が8割で最も高く、次いで、「友人・知人などからの口コミ」(27.4%)が約3割、「市のホームページ」(16.2%)が1割台半ばとなっている。

(図表10-1)

【性別・年齢別・居住地域別】

性別でみると、「市のホームページ」は、男性の方が女性よりも9ポイント高くなっている。

年齢別でみると、「広報やちよ」は、おおむね年齢が上がるほど増加し、60歳以上では9割以上となっている。「市のホームページ」は、40歳代が2割台半ばで最も高く、最も低い70歳以上と比べると、16ポイントの差がある。

居住地域別でみると、「広報やちよ」は、勝田台地域と阿蘇地域が8割台半ばで高くなっている。最も高い勝田台地域と最も低い高津・緑が丘地域を比べると、8ポイントの差がある。(図表10-2)

<図表10-2>性別・年齢別・居住地域別

上段：人数／下段：(%)

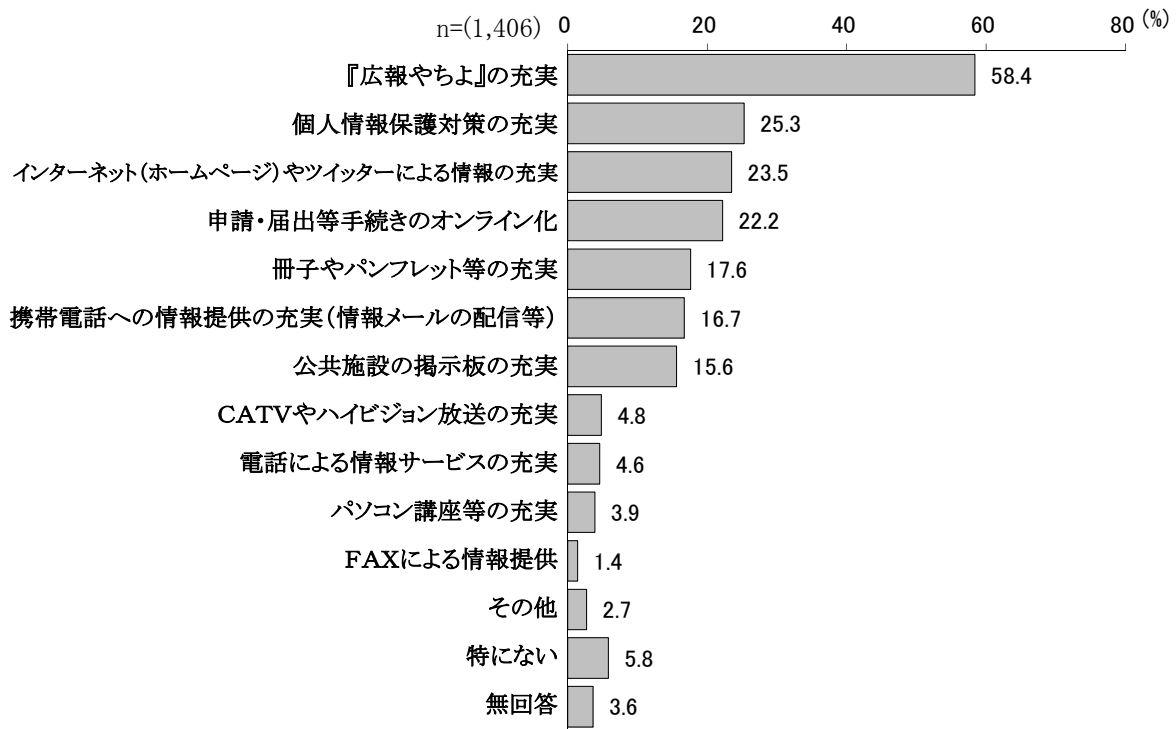
	調査数	広報やちよ	友人・知人などからの口コミ	市のホームページ	市役所や公共施設	市が発行するリーフレット等	市のイベント情報メール	市のツイッター（やっちツイッターを含む）	市長との対話や市の会議等	その他	無回答
全体	1,406 100.0	1,131 80.4	385 27.4	228 16.2	152 10.8	128 9.1	57 4.1	25 1.8	2 0.1	51 3.6	40 2.8
男性	626 100.0	508 81.2	160 25.6	133 21.2	62 9.9	59 9.4	19 3.0	8 1.3	1 0.2	20 3.2	15 2.4
女性	754 100.0	604 80.1	220 29.2	95 12.6	85 11.3	67 8.9	38 5.0	16 2.1	-	30 4.0	21 2.8
29歳以下	108 100.0	61 56.5	26 24.1	20 18.5	13 12.0	8 7.4	3 2.8	8 7.4	-	10 9.3	-
30歳代	185 100.0	109 58.9	58 31.4	41 22.2	18 9.7	19 10.3	12 6.5	5 2.7	-	10 5.4	5 2.7
40歳代	247 100.0	192 77.7	63 25.5	59 23.9	16 6.5	13 5.3	21 8.5	5 2.0	1 0.4	15 6.1	5 2.0
50歳代	184 100.0	155 84.2	52 28.3	34 18.5	16 8.7	13 7.1	5 2.7	2 1.1	-	4 2.2	3 1.6
60歳代	273 100.0	251 91.9	68 24.9	43 15.8	30 11.0	25 9.2	7 2.6	2 0.7	-	3 1.1	7 2.6
70歳以上	379 100.0	341 90.0	113 29.8	30 7.9	54 14.2	47 12.4	9 2.4	2 0.5	-	8 2.1	15 4.0
大和田地域	316 100.0	250 79.1	85 26.9	70 22.2	39 12.3	24 7.6	17 5.4	4 1.3	1 0.3	12 3.8	11 3.5
高津・緑が丘地域	286 100.0	222 77.6	75 26.2	39 13.6	25 8.7	31 10.8	11 3.8	8 2.8	-	19 6.6	5 1.7
八千代台地域	255 100.0	207 81.2	77 30.2	43 16.9	26 10.2	27 10.6	7 2.7	4 1.6	-	5 2.0	5 2.0
勝田台地域	140 100.0	120 85.7	44 31.4	11 7.9	11 7.9	15 10.7	9 6.4	1 0.7	-	8 5.7	3 2.1
村上地域	245 100.0	200 81.6	61 24.9	40 16.3	30 12.2	18 7.3	10 4.1	3 1.2	-	3 1.2	4 1.6
阿蘇地域	62 100.0	52 83.9	20 32.3	9 14.5	9 14.5	5 8.1	-	-	-	1 1.6	3 4.8
睦地域	46 100.0	38 82.6	12 26.1	10 21.7	3 6.5	3 6.5	2 4.3	3 6.5	-	3 6.5	-

(2) 情報化施策への希望

◇ 『広報やちよ』の充実」が約6割

問16 今後、市に取り組んでほしい情報化施策は何ですか。(〇は3つまで)

<図表10-3> 情報化施策への希望 (複数回答)



情報化施策への希望は、「『広報やちよ』の充実」(58.4%)が約6割で最も高く、次いで、「個人情報保護対策の充実」(25.3%)、「インターネット(ホームページ)やツイッターによる情報の充実」(23.5%)が2割台半ばとなっている。(図表10-3)

【性別・年齢別・居住地域別】

性別で見ると、「インターネット（ホームページ）やツイッターによる情報の充実」は、男性の方が女性よりも8ポイント高くなっている。一方、「個人情報保護対策の充実」は、女性の方が男性よりも6ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、「『広報やちよ』の充実」は、年齢が上がるほど増加し、70歳以上で7割台半ばとなっている。逆に、「インターネット（ホームページ）やツイッターによる情報の充実」は、年齢が下がるほど増加し、29歳以下が約4割と最も高くなっている。

居住地域別で見ると、「『広報やちよ』の充実」は、阿蘇地域が7割台半ばで最も高く、次いで、勝田台が約7割となっている。「個人情報保護対策の充実」は、勝田台地域が3割を超えて最も高くなっている。（図表10-4）

<図表10-4>性別・年齢別・居住地域別

上段：人数／下段：(%)

	調査数	『広報やちよ』の充実	個人情報保護対策の充実	インターネット（ホームページ）による情報の充実	申請・届出等手続きのオンライン化	冊子やパンフレット等の充実	携帯電話への情報提供の充実（情報メールの配信等）	公共施設の掲示板の充実	CATVやハイビジョン放送の充実	電話による情報サービスの充実	パソコン講座等の充実	FAXによる情報提供	その他	特にない	無回答
全体	1,406 100.0	821 58.4	356 25.3	330 23.5	312 22.2	247 17.6	235 16.7	219 15.6	68 4.8	64 4.6	55 3.9	20 1.4	38 2.7	81 5.8	50 3.6
男性	626 100.0	367 58.6	138 22.0	177 28.3	152 24.3	127 20.3	113 18.1	97 15.5	45 7.2	23 3.7	24 3.8	12 1.9	17 2.7	33 5.3	16 2.6
女性	754 100.0	434 57.6	213 28.2	153 20.3	160 21.2	117 15.5	118 15.6	118 15.6	23 3.1	39 5.2	31 4.1	8 1.1	21 2.8	48 6.4	29 3.8
29歳以下	108 100.0	35 32.4	18 16.7	40 37.0	32 29.6	11 10.2	12 11.1	17 15.7	5 4.6	-	3 2.8	1 0.9	2 1.9	11 10.2	2 1.9
30歳代	185 100.0	77 41.6	40 21.6	64 34.6	48 25.9	25 13.5	35 18.9	21 11.4	6 3.2	2 1.1	8 4.3	1 0.5	7 3.8	21 11.4	2 1.1
40歳代	247 100.0	107 43.3	67 27.1	78 31.6	94 38.1	27 10.9	60 24.3	25 10.1	17 6.9	6 2.4	4 1.6	-	11 4.5	12 4.9	4 1.6
50歳代	184 100.0	104 56.5	47 25.5	56 30.4	46 25.0	26 14.1	51 27.7	29 15.8	13 7.1	7 3.8	9 4.9	1 0.5	2 1.1	10 5.4	3 1.6
60歳代	273 100.0	187 68.5	78 28.6	55 20.1	57 20.9	55 20.1	35 12.8	43 15.8	10 3.7	8 2.9	15 5.5	4 1.5	8 2.9	12 4.4	7 2.6
70歳以上	379 100.0	289 76.3	100 26.4	37 9.8	34 9.0	98 25.9	38 10.0	80 21.1	17 4.5	39 10.3	15 4.0	13 3.4	8 2.1	14 3.7	27 7.1
大和田地域	316 100.0	165 52.2	79 25.0	86 27.2	79 25.0	52 16.5	64 20.3	47 14.9	14 4.4	12 3.8	10 3.2	3 0.9	11 3.5	23 7.3	10 3.2
高津・緑が丘地域	286 100.0	158 55.2	75 26.2	74 25.9	63 22.0	38 13.3	44 15.4	39 13.6	16 5.6	14 4.9	13 4.5	5 1.7	10 3.5	20 7.0	7 2.4
八千代台地域	255 100.0	154 60.4	62 24.3	59 23.1	59 23.1	48 18.8	45 17.6	41 16.1	9 3.5	10 3.9	12 4.7	2 0.8	6 2.4	10 3.9	6 2.4
勝田台地域	140 100.0	94 67.1	46 32.9	21 15.0	27 19.3	36 25.7	20 14.3	20 14.3	9 6.4	11 7.9	5 3.6	2 1.4	4 2.9	6 4.3	9 6.4
村上地域	245 100.0	150 61.2	65 26.5	60 24.5	59 24.1	48 19.6	37 15.1	47 19.2	12 4.9	9 3.7	8 3.3	3 1.2	4 1.6	9 3.7	7 2.9
阿蘇地域	62 100.0	46 74.2	11 17.7	10 16.1	12 19.4	11 17.7	8 12.9	13 21.0	3 4.8	2 3.2	3 4.8	2 3.2	2 3.2	2 3.2	3 4.8
睦地域	46 100.0	25 54.3	5 10.9	13 28.3	8 17.4	8 17.4	9 19.6	4 8.7	3 6.5	2 4.3	2 4.3	1 2.2	-	5 10.9	2 4.3

11 国際化推進に関することについて

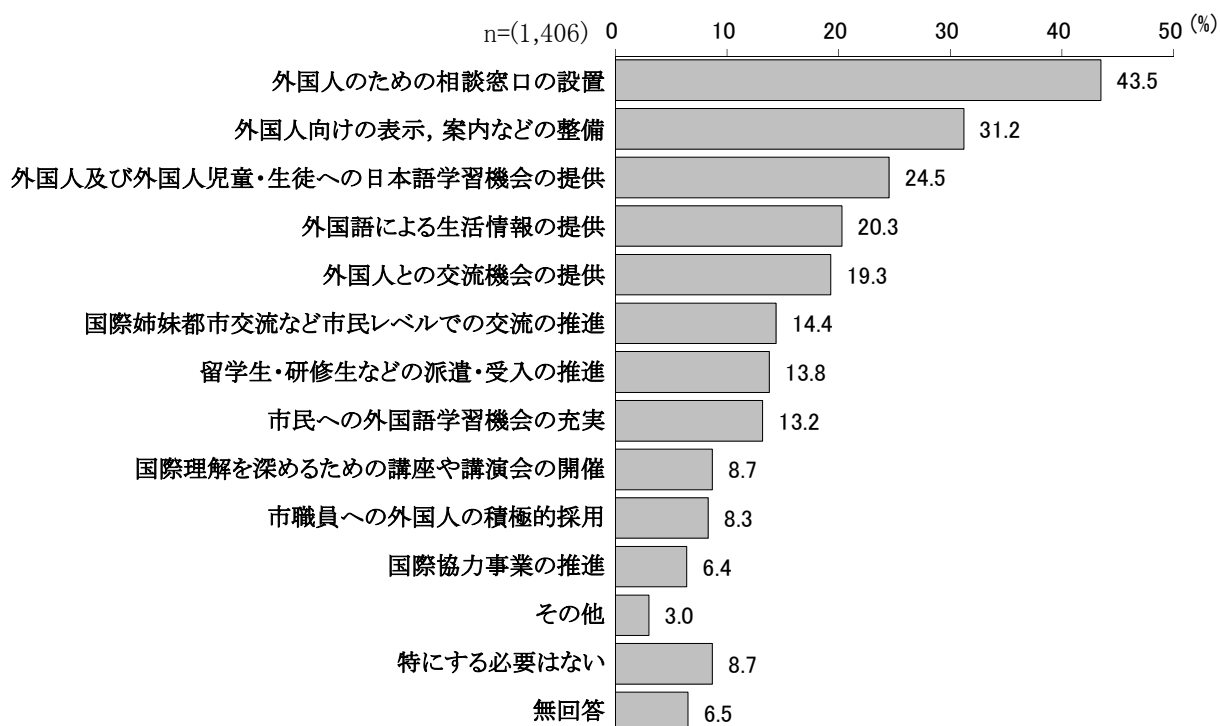
(1) 国際化に関する施策

◇「外国人のための相談窓口の設置」が4割台半ば

問17 八千代市は、アメリカ合衆国テキサス州タイラー市と国際姉妹都市提携、タイ王国バンコク都と友好都市提携をしています。また、市内に住む外国人は、7月末現在、3,900人を超えています。このように、国際化が進む中で、今後、市としてどのような施策を行っていくべきだと思いますか。

(○は3つまで)

<図表11-1> 国際化に関する施策（複数回答）



国際化に関する施策は、「外国人のための相談窓口の設置」（43.5%）が4割台半ばで最も高く、次いで、「外国人向けの表示、案内などの整備」（31.2%）が3割を超え、「外国人及び外国人児童・生徒への日本語学習機会の提供」（24.5%）が2割台半ばとなっている。（図表11-1）

【性別・年齢別・居住地域別】

性別で見ると、男女で大きな差はみられない。

年齢別で見ると、「外国人のための相談窓口の設置」は、70歳以上が約5割で最も高く、次いで、50歳代が4割台半ばとなっている。「外国人向けの表示、案内などの整備」は、29歳以下が3割台半ばで高くなっている。

居住地域別で見ると、「外国人のための相談窓口の設置」は、阿蘇地域が5割台半ばで最も高く、最も低い睦地域比べると、18ポイントの差がある。「外国人向けの表示、案内などの整備」は、勝田台地域、村上地域、阿蘇地域が3割台半ばで高くなっている。（図表11-2）

<図表11-2>性別・年齢別・居住地域別

上段：人数／下段：（％）

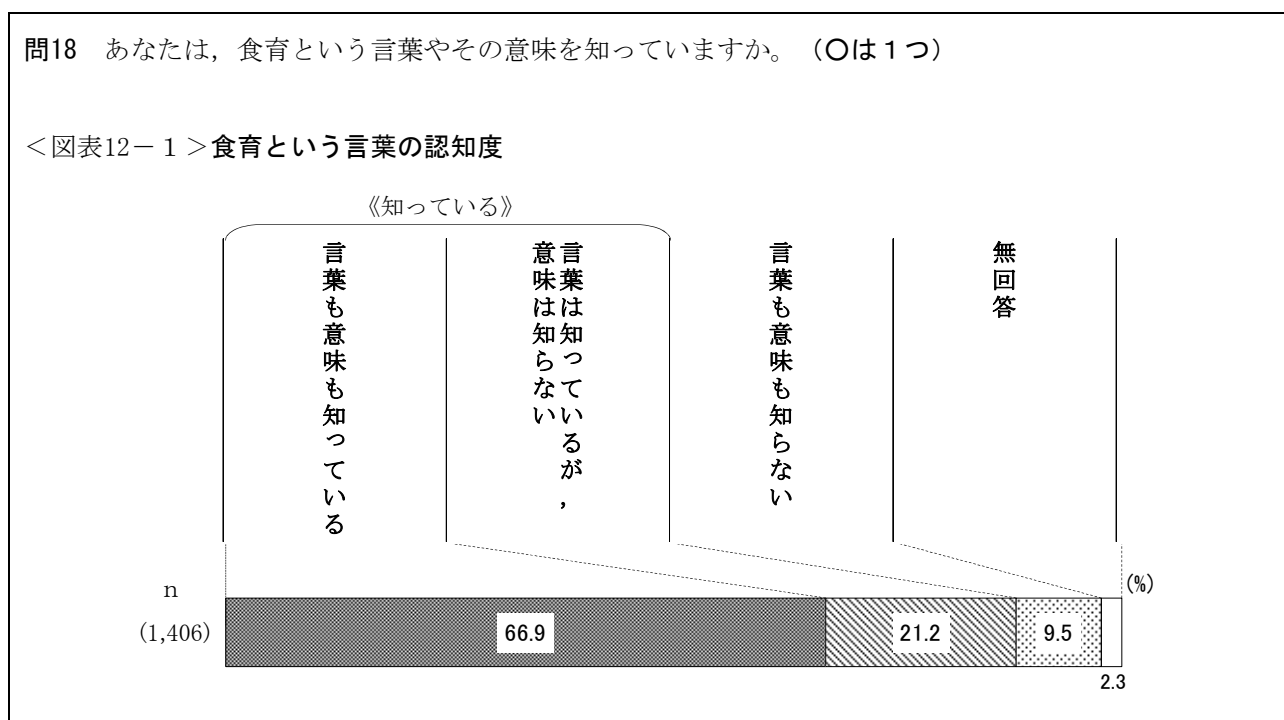
	調査数	外国人のための相談窓口の設置	外国人向けの表示，案内などの整備	外国人及び外国人児童・生徒への日本語学習機会の提供	外国語による生活情報の提供	外国人との交流機会の提供	国際姉妹都市交流など市民レベルでの交流の推進	留学生・研修生などの派遣・受入の推進	市民への外国語学習機会の充実	国際理解を深めるための講座や講演会の開催	市職員への外国人の積極的採用	国際協力事業の推進
全体	1,406 100.0	611 43.5	438 31.2	345 24.5	285 20.3	271 19.3	202 14.4	194 13.8	185 13.2	122 8.7	117 8.3	90 6.4
男性	626 100.0	266 42.5	202 32.3	163 26.0	128 20.4	133 21.2	99 15.8	103 16.5	73 11.7	45 7.2	66 10.5	52 8.3
女性	754 100.0	336 44.6	229 30.4	180 23.9	155 20.6	136 18.0	99 13.1	89 11.8	111 14.7	75 9.9	48 6.4	38 5.0
29歳以下	108 100.0	40 37.0	38 35.2	20 18.5	23 21.3	22 20.4	20 18.5	21 19.4	17 15.7	9 8.3	12 11.1	10 9.3
30歳代	185 100.0	79 42.7	43 23.2	45 24.3	43 23.2	45 24.3	27 14.6	29 15.7	30 16.2	10 5.4	16 8.6	13 7.0
40歳代	247 100.0	105 42.5	71 28.7	55 22.3	57 23.1	62 25.1	36 14.6	46 18.6	49 19.8	18 7.3	17 6.9	19 7.7
50歳代	184 100.0	81 44.0	64 34.8	54 29.3	45 24.5	41 22.3	24 13.0	22 12.0	19 10.3	23 12.5	10 5.4	12 6.5
60歳代	273 100.0	111 40.7	86 31.5	71 26.0	55 20.1	45 16.5	36 13.2	30 11.0	36 13.2	21 7.7	25 9.2	9 3.3
70歳以上	379 100.0	185 48.8	127 33.5	98 25.9	60 15.8	53 14.0	54 14.2	44 11.6	32 8.4	37 9.8	33 8.7	27 7.1
大和田地域	316 100.0	134 42.4	99 31.3	95 30.1	65 20.6	61 19.3	43 13.6	45 14.2	46 14.6	30 9.5	35 11.1	21 6.6
高津・緑が丘地域	286 100.0	118 41.3	84 29.4	64 22.4	48 16.8	62 21.7	54 18.9	45 15.7	37 12.9	18 6.3	25 8.7	21 7.3
八千代台地域	255 100.0	110 43.1	71 27.8	57 22.4	51 20.0	57 22.4	35 13.7	32 12.5	42 16.5	26 10.2	10 3.9	12 4.7
勝田台地域	140 100.0	68 48.6	50 35.7	33 23.6	28 20.0	23 16.4	15 10.7	19 13.6	19 13.6	13 9.3	14 10.0	11 7.9
村上地域	245 100.0	111 45.3	87 35.5	65 26.5	60 24.5	45 18.4	31 12.7	32 13.1	25 10.2	22 9.0	18 7.3	15 6.1
阿蘇地域	62 100.0	33 53.2	22 35.5	13 21.0	17 27.4	7 11.3	13 21.0	8 12.9	4 6.5	6 9.7	4 6.5	6 9.7
睦地域	46 100.0	16 34.8	9 19.6	8 17.4	8 17.4	13 28.3	6 13.0	8 17.4	7 15.2	4 8.7	1 2.2	4 8.7

(注) 紙面の都合上，表頭の「その他」・「わからない」・「無回答」は表記を省略している。

12 食育について

(1) 食育という言葉の認知度

◇《知っている》が約9割



食育という言葉の認知度は、「言葉も意味も知っている」(66.9%)が6割台半ばで最も高く、次いで、「言葉は知っているが、意味は知らない」(21.2%)が2割を超えており、これらを合わせた、《知っている》(88.1%)は、約9割となっている。

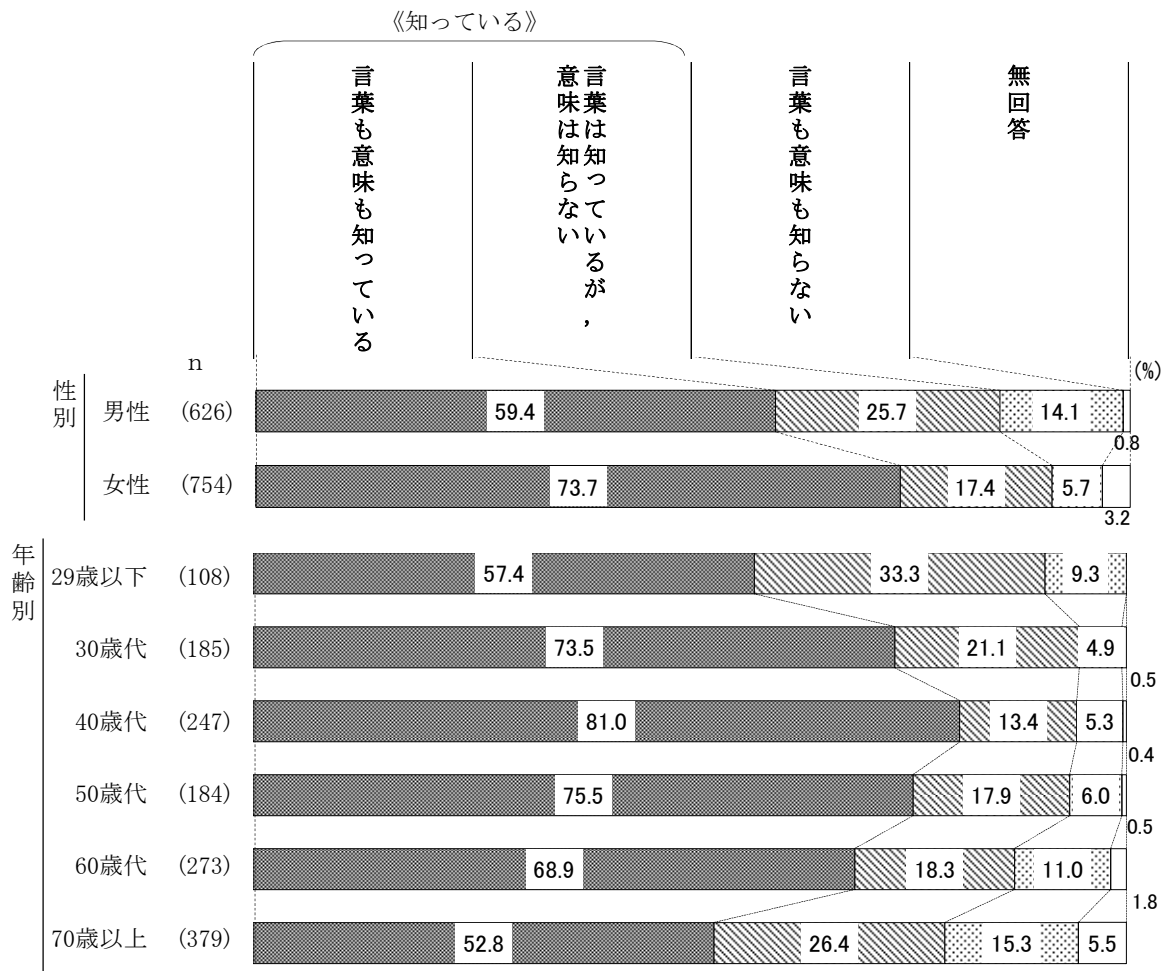
一方、「言葉も意味も知らない」(9.5%)は1割未満となっている。(図表12-1)

【性別・年齢別】

性別でみると、「知っている」は、女性の方が男性よりも6ポイント高くなっている。

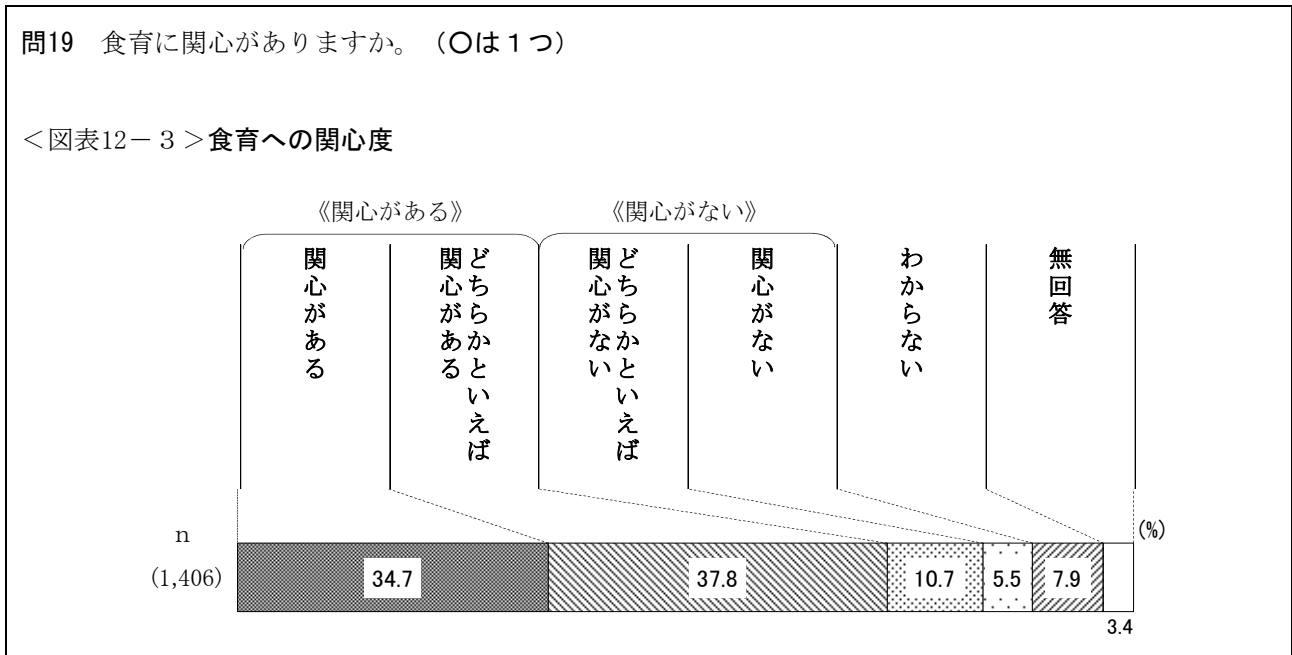
年齢別でみると、「知っている」は、30～50歳代が9割台半ばで並んでいる。最も高い30歳代と最も低い70歳以上を比べると、15ポイントの差がある。(図表12-2)

<図表12-2>性別・年齢別



(2) 食育への関心度

◇《関心がある》が7割を超えている



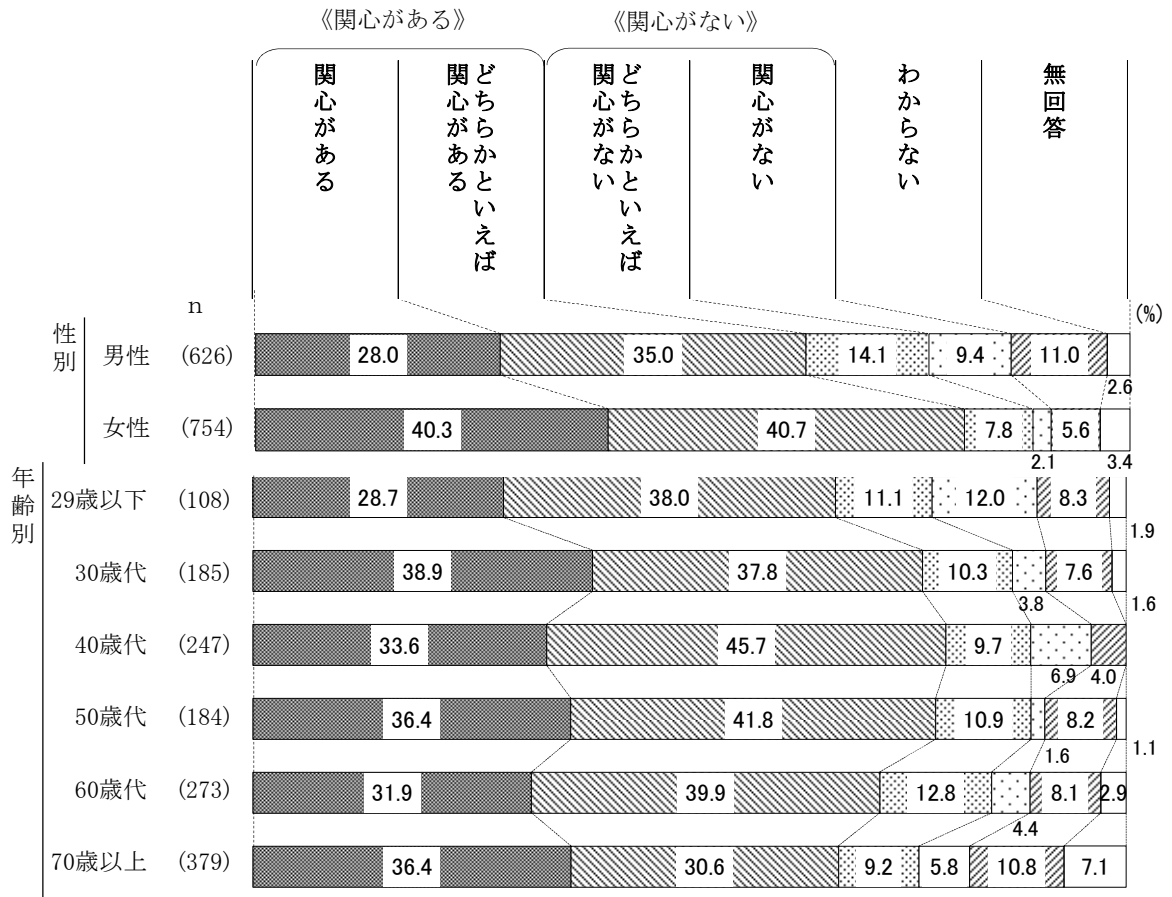
食育への関心度は、「関心がある」(34.7%)、「どちらかといえば関心がある」(37.8%)となっており、これらを合わせた、《関心がある》(72.5%)は、7割を超えている。一方、「どちらかといえば関心がない」(10.7%)、「関心がない」(5.5%)を合わせた、《関心がない》(16.2%)は、1割台半ばとなっている。(図表12-3)

【性別・年齢別】

性別でみると、「関心がある」は、女性の方が男性よりも18ポイント高くなっている。

年齢別でみると、「関心がある」は、40歳代と50歳代が約8割で最も高くなっている。一方、29歳以下と70歳以上は6割台半ばから約7割と低くなっている。(図表12-4)

<図表12-4>性別・年齢別



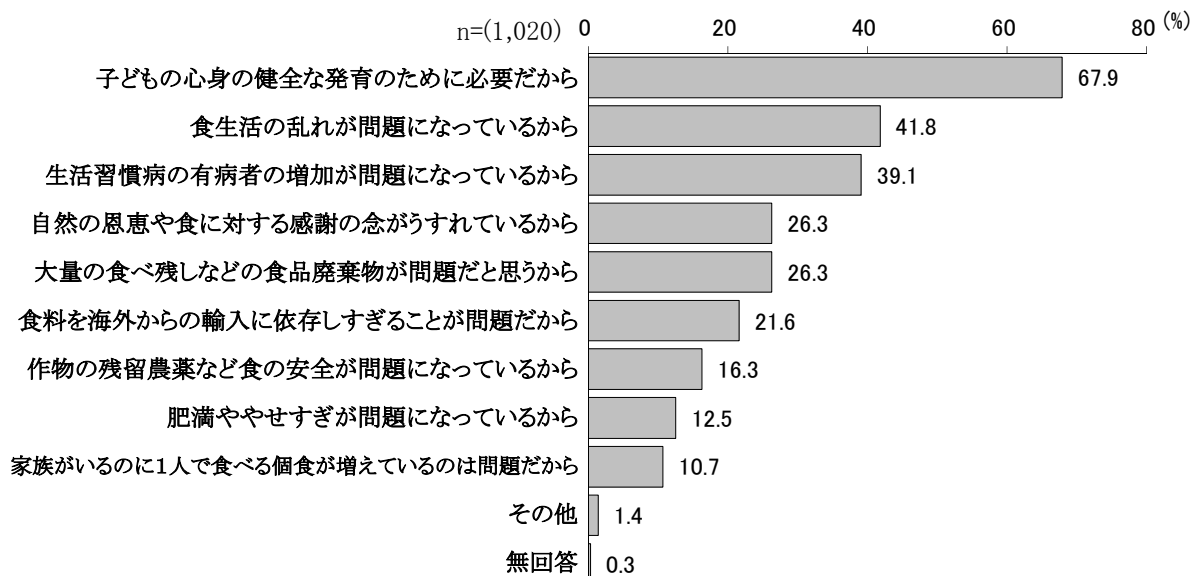
(2-1) 食育に関心がある理由

◇「子どもの心身の健全な発育のために必要だから」が約7割

(問19で「1 関心がある」「2 どちらかといえば関心がある」とお答えの方にお尋ねします)

問19-1 あなたが、食育に関心がある理由は何ですか。(〇は3つまで)

<図表12-5> 食育に関心がある理由 (複数回答)



問19で、「関心がある」、「どちらかといえば関心がある」と答えた方に食育に関心がある理由について尋ねた。その結果、「子どもの心身の健全な発育のために必要だから」(67.9%)が約7割で最も高く、次いで、「食生活の乱れが問題になっているから」(41.8%)が4割を超え、「生活習慣病の有病者の増加が問題になっているから」(39.1%)が約4割となっている。(図表12-5)

【性別・年齢別】

性別でみると、「子どもの心身の健全な発育のために必要だから」は、女性の方が男性よりも12ポイント高くなっている。一方、「生活習慣病の有病者の増加が問題になっているから」は、男性の方が女性よりも10ポイント高くなっている。

年齢別でみると、「子どもの心身の健全な発育のために必要だから」は、30歳代と40歳代が8割を超えて高くなっている。「食生活の乱れが問題になっているから」は、50歳代が4割台半ばで最も高くなっている。(図表12-6)

<図表12-6>性別・年齢別

		上段：人数／下段：(%)										
	調査数	に子ども の心身の 健全な発 育のため に必要だ から	か生活 の乱れが 問題にな っている から	に生活 習慣病の 有病者の 増加が問 題になっ ているか ら	が自然 の恵みや 食から 感謝の念 が	が大量 の食べ残 しなど の食品 廃棄物 が問題 だと思 うから	ぎ食料 を海外 からの輸 入に依 存し ず	題作物 の残留 農薬な ど食の 安全が 問	る肥満 ややせ すぎが 問題に なっ てい	が家族 が増え ている のには 1人で 食べる 個食	その他	無回答
全体	1,020 100.0	693 67.9	426 41.8	399 39.1	268 26.3	268 26.3	220 21.6	166 16.3	127 12.5	109 10.7	14 1.4	3 0.3
男性	394 100.0	240 60.9	166 42.1	179 45.4	102 25.9	112 28.4	89 22.6	66 16.8	63 16.0	28 7.1	6 1.5	-
女性	611 100.0	444 72.7	253 41.4	218 35.7	162 26.5	152 24.9	129 21.1	98 16.0	63 10.3	80 13.1	7 1.1	2 0.3
29歳以下	72 100.0	43 59.7	31 43.1	29 40.3	15 20.8	24 33.3	13 18.1	10 13.9	15 20.8	5 6.9	2 2.8	-
30歳代	142 100.0	117 82.4	53 37.3	40 28.2	35 24.6	28 19.7	21 14.8	20 14.1	19 13.4	12 8.5	3 2.1	-
40歳代	196 100.0	160 81.6	73 37.2	52 26.5	60 30.6	46 23.5	24 12.2	28 14.3	17 8.7	23 11.7	4 2.0	1 0.5
50歳代	144 100.0	97 67.4	66 45.8	63 43.8	37 25.7	36 25.0	24 16.7	21 14.6	21 14.6	19 13.2	3 2.1	1 0.7
60歳代	196 100.0	129 65.8	84 42.9	84 42.9	49 25.0	53 27.0	60 30.6	44 22.4	26 13.3	20 10.2	1 0.5	-
70歳以上	254 100.0	137 53.9	112 44.1	129 50.8	68 26.8	76 29.9	76 29.9	41 16.1	28 11.0	29 11.4	-	-

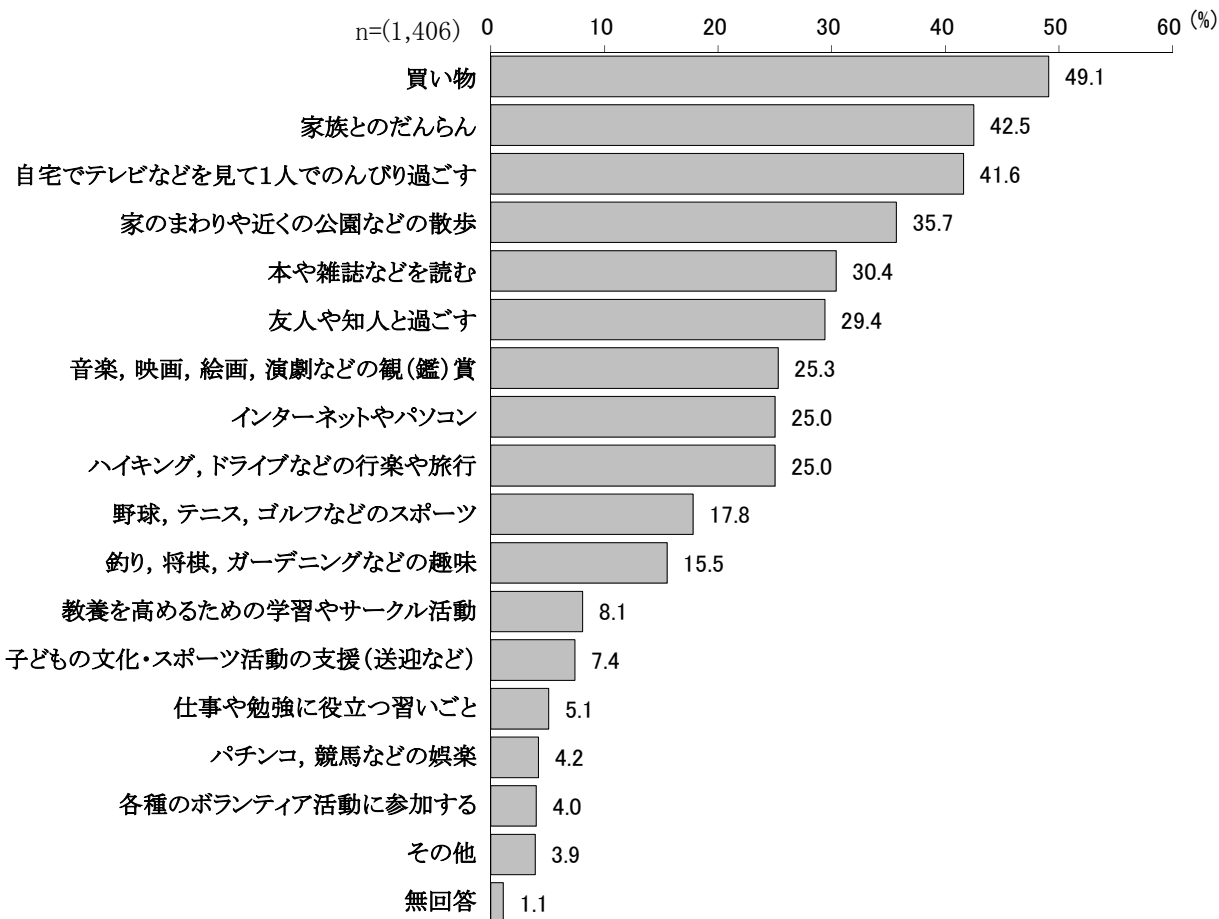
13 余暇の過ごし方について

(1) 余暇時間の過ごし方

◇「買い物」が約5割

問20 余暇時間の過ごし方として、よく行っていることは、何ですか。(〇はいくつでも)

<図表13-1>余暇時間の過ごし方(複数回答)



余暇時間の過ごし方は、「買い物」(49.1%)が約5割と最も高く、次いで、「家族とのだんらん」(42.5%)、「自宅でテレビなどを見て1人でのんびり過ごす」(41.6%)が4割を超え、「家のまわりや近くの公園などの散歩」(35.7%)が3割台半ばとなっている。(図表13-1)

【性別・年齢別】

性別でみると、差の大きいものも多く、中でも、「友人や知人と過ごす」は女性の方が男性よりも20ポイント高くなっている。

年齢別でみると、「買い物」は、30歳代、40歳代で6割を超えている。最も高い40歳代と最も低い70歳以上を比べると、28ポイントの差がある。「家族とのだんらん」は、30歳代が6割台半ばで最も高く、次いで、40歳代が約6割となっている。(図表13-2)

<図表13-2>性別・年齢別

上段：人数／下段：(%)

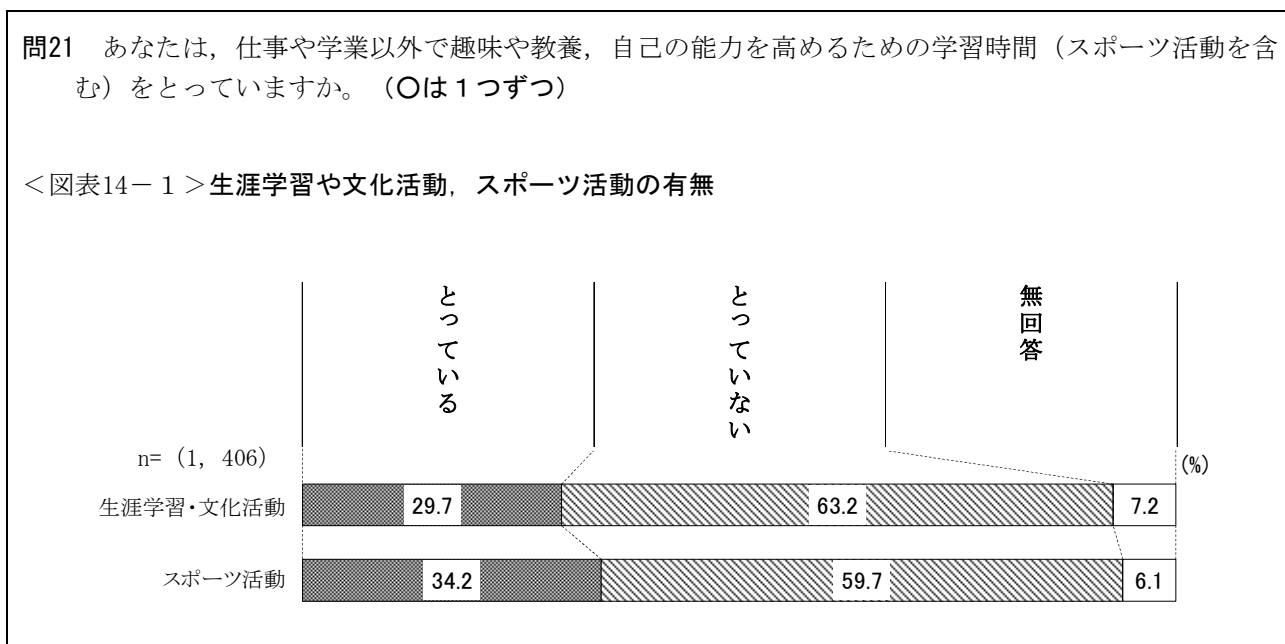
	調査数	買い物	家族とのだんらん	自宅テレビなどを見て1人で のんびり過ごす	家のまわりや近くの公園などの 散歩	本や雑誌などを読む	友人や知人と過ごす	観音(鑑)賞、映画、絵画、演劇などの 音楽	インターネットやパソコン	ハイキング、ドライブなどの行 楽や旅行	野球、テニス、ゴルフなどのス ポーツ
全体	1,406 100.0	691 49.1	598 42.5	585 41.6	502 35.7	428 30.4	413 29.4	356 25.3	352 25.0	351 25.0	250 17.8
男性	626 100.0	252 40.3	250 39.9	236 37.7	241 38.5	175 28.0	117 18.7	148 23.6	204 32.6	159 25.4	165 26.4
女性	754 100.0	431 57.2	341 45.2	337 44.7	249 33.0	247 32.8	291 38.6	206 27.3	146 19.4	187 24.8	81 10.7
29歳以下	108 100.0	58 53.7	50 46.3	50 46.3	13 12.0	31 28.7	48 44.4	32 29.6	45 41.7	30 27.8	14 13.0
30歳代	185 100.0	112 60.5	120 64.9	55 29.7	70 37.8	42 22.7	53 28.6	41 22.2	65 35.1	44 23.8	16 8.6
40歳代	247 100.0	154 62.3	142 57.5	91 36.8	54 21.9	57 23.1	41 16.6	55 22.3	75 30.4	59 23.9	50 20.2
50歳代	184 100.0	107 58.2	89 48.4	86 46.7	42 22.8	51 27.7	44 23.9	58 31.5	49 26.6	57 31.0	43 23.4
60歳代	273 100.0	121 44.3	95 34.8	121 44.3	124 45.4	93 34.1	90 33.0	77 28.2	63 23.1	76 27.8	59 21.6
70歳以上	379 100.0	130 34.3	94 24.8	169 44.6	186 49.1	146 38.5	132 34.8	91 24.0	51 13.5	79 20.8	64 16.9

(注) 紙面の都合上、上位11項目以下は表記を省略している。

14 生涯学習や文化活動、スポーツ活動について

(1) 生涯学習や文化活動、スポーツ活動の有無

◇生涯学習・文化活動「とっていない」が6割台半ば



生涯学習や文化活動、スポーツ活動の有無は，“生涯学習や文化活動”では「とっていない」(63.2%)が6割台半ば，“スポーツ活動”では「とっていない」(59.7%)が約6割となっており，それぞれ「とっている」を上回っている。

(図表14-1)

□生涯学習・文化活動

【性別・年齢別・職業別】

性別でみると「とっていない」は、男性の方が女性よりも7ポイント高くなっている。

年齢別でみると、「とっている」は、60歳以上で3割台半ばと高くなっている。「とっていない」は、29歳以下で約8割と最も高くなっている。次いで、30歳代で7割台半ばとなっている。

職業別でみると、「とっている」は、その他、学生で4割台半ばと最も高く、次いで、専業主婦で約4割となっている。一方、「とっていない」は、会社員で7割台半ばとなっている。(図表14-2)

□スポーツ活動

【性別・年齢別・職業別】

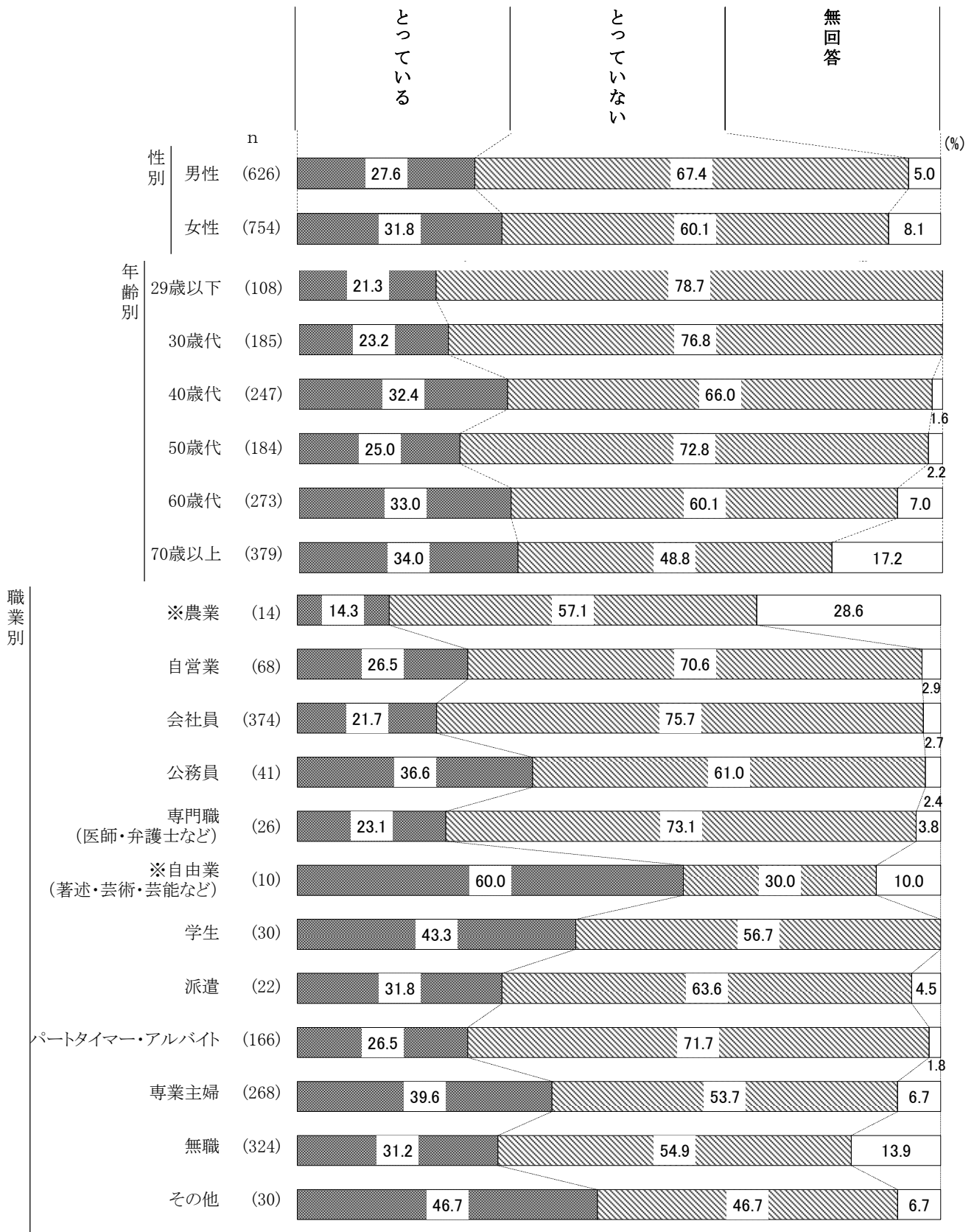
性別でみると、「とっている」は、男性の方が女性よりも9ポイント高くなっている。

年齢別でみると、「とっている」は60歳代で4割を超えて最も高く、最も低い30歳代と比べると17ポイントの差がある。一方、「とっていない」は20歳代、30歳代で7割を超えて高くなっている。

職業別でみると、「とっている」は、公務員で約5割と最も高くなっている。一方、「とっていない」は、パートタイマー・アルバイトで7割を超えている。(図表14-3)

□生涯学習・文化活動

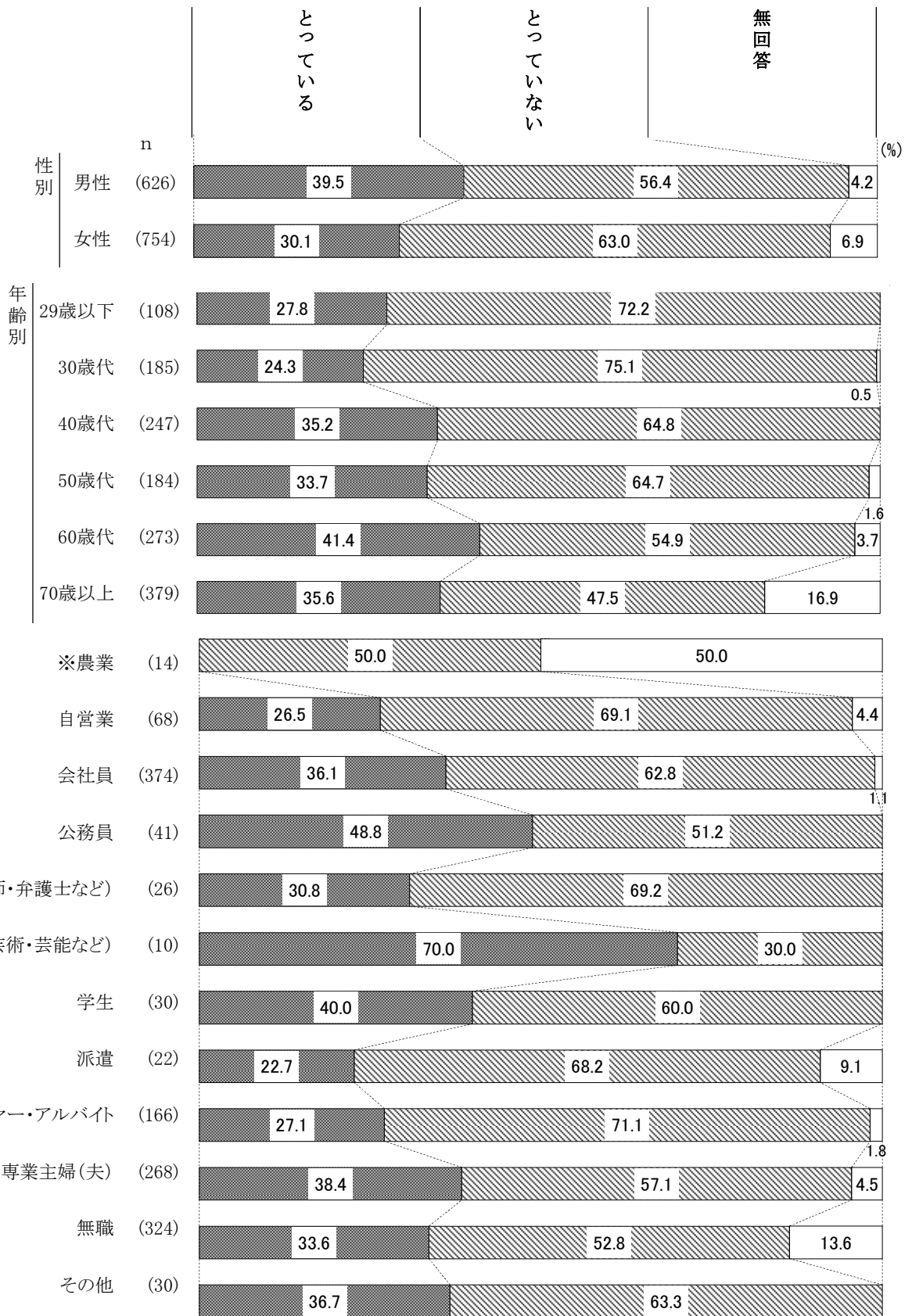
<図表14-2>性別・年齢別・職業別



(注) ※印は、調査数が少ないので参考として図示するに留め、文中では述べていない。

□スポーツ活動

<図表14-3>性別・年齢別・職業別



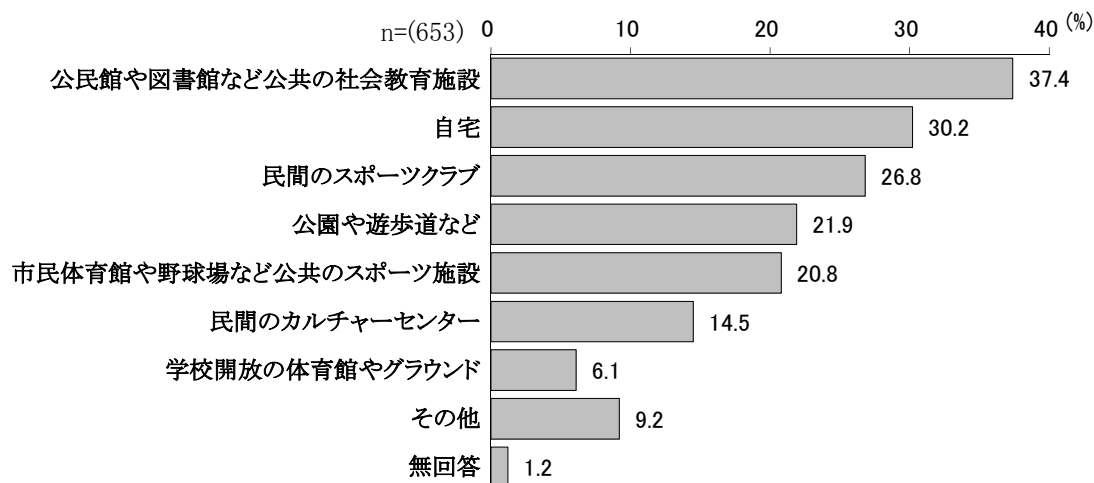
(注) ※印は、調査数が少ないので参考として図示するに留め、文中では述べていない。

(1-1) 生涯学習や文化活動，スポーツ活動で使用した場所

◇「公民館や図書館など公共の社会教育施設」が約4割

(問21で (1) か (2) のどちらか1つでも「1 とっている」とお答えの方にお尋ねします)
問21-1 あなたが、学習や文化、スポーツ活動するために使っている場所はどのようなところですか。
(〇はいくつでも)

<図表14-4>生涯学習や文化活動，スポーツ活動で使用した場所 (複数回答)



問21で生涯学習や文化活動かスポーツ活動のどちらか1つでも「とっている」と答えた方に、使用している場所について尋ねた。その結果、「公民館や図書館など公共の社会教育施設」(37.4%)が約4割で最も高く、次いで、「自宅」(30.2%)が3割、「民間のスポーツクラブ」(26.8%)が2割台半ばとなっている。(図表14-4)

【性別・年齢別・職業別】

性別で見ると、「公民館や図書館など公共の社会教育施設」は、女性の方が男性よりも16ポイント高くなっている。一方、「市民体育館や野球場など公共のスポーツ施設」は、男性の方が女性よりも12ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、「公民館や図書館など公共の社会教育施設」は70歳以上で約5割と最も高く、次いで、60歳代で4割台半ばと高くなっている。「自宅」は、30歳代が4割台半ばで最も高く、最も低い60歳代と比べると、22ポイントの差がある。

職業別で見ると、「公民館や図書館など公共の社会教育施設」は専業主婦(夫)で5割台半ばと最も高く、次いで、無職で約5割と高くなっている。「民間のスポーツクラブ」は公務員で4割台半ばとなっている。(図表14-5)

<図表14-5>性別・年齢別・職業別

上段：人数／下段：(%)

	調査数	公民館や図書館などの社会教育施設など	自宅	民間のスポーツクラブ	公園や遊歩道など	市民体育館や野球場など	民間のカルチャーセンター	その他	学校開放の体育館やグラウンド	無回答
全体	653 100.0	244 37.4	197 30.2	175 26.8	143 21.9	136 20.8	95 14.5	60 9.2	40 6.1	8 1.2
男性	299 100.0	86 28.8	104 34.8	87 29.1	83 27.8	80 26.8	23 7.7	28 9.4	20 6.7	4 1.3
女性	346 100.0	155 44.8	92 26.6	87 25.1	58 16.8	53 15.3	72 20.8	31 9.0	19 5.5	4 1.2
29歳以下	39 100.0	7 17.9	12 30.8	10 25.6	4 10.3	9 23.1	2 5.1	4 10.3	4 10.3	-
30歳代	60 100.0	20 33.3	26 43.3	12 20.0	13 21.7	14 23.3	7 11.7	6 10.0	4 6.7	1 1.7
40歳代	122 100.0	38 31.1	37 30.3	33 27.0	24 19.7	29 23.8	17 13.9	15 12.3	11 9.0	1 0.8
50歳代	80 100.0	17 21.3	25 31.3	31 38.8	11 13.8	17 21.3	16 20.0	4 5.0	6 7.5	1 1.3
60歳代	142 100.0	62 43.7	31 21.8	44 31.0	37 26.1	30 21.1	29 20.4	11 7.7	5 3.5	1 0.7
70歳以上	200 100.0	95 47.5	65 32.5	44 22.0	51 25.5	33 16.5	24 12.0	19 9.5	9 4.5	4 2.0
※農業	2 100.0	-	-	-	-	1 50.0	1 50.0	-	-	-
自営業	28 100.0	9 32.1	7 25.0	7 25.0	5 17.9	6 21.4	4 14.3	1 3.6	3 10.7	1 3.6
会社員	163 100.0	32 19.6	53 32.5	56 34.4	34 20.9	42 25.8	8 4.9	15 9.2	10 6.1	2 1.2
公務員	23 100.0	7 30.4	6 26.1	10 43.5	7 30.4	8 34.8	5 21.7	1 4.3	1 4.3	-
※専門職（医師・弁護士など）	10 100.0	1 10.0	2 20.0	3 30.0	2 20.0	3 30.0	3 30.0	1 10.0	1 10.0	-
※自由業（著述・芸術・芸能など）	9 100.0	4 44.4	4 44.4	3 33.3	1 11.1	1 11.1	2 22.2	1 11.1	-	-
※学生	17 100.0	3 17.6	7 41.2	1 5.9	2 11.8	2 11.8	1 5.9	2 11.8	3 17.6	-
※派遣	10 100.0	2 20.0	3 30.0	1 10.0	2 20.0	3 30.0	5 50.0	1 10.0	-	-
パートタイマー・アルバイト	69 100.0	28 40.6	19 27.5	20 29.0	5 7.2	12 17.4	17 24.6	7 10.1	5 7.2	1 1.4
専業主婦（夫）	145 100.0	77 53.1	43 29.7	34 23.4	32 22.1	22 15.2	26 17.9	10 6.9	9 6.2	-
無職	150 100.0	72 48.0	48 32.0	36 24.0	47 31.3	28 18.7	20 13.3	16 10.7	6 4.0	3 2.0
※その他	18 100.0	6 33.3	4 22.2	3 16.7	4 22.2	4 22.2	3 16.7	4 22.2	1 5.6	1 5.6

(注) ※印は、調査数が少ないので参考として図示するに留め、文中では述べていない。

(1-2) 生涯学習を充実させるために望むこと

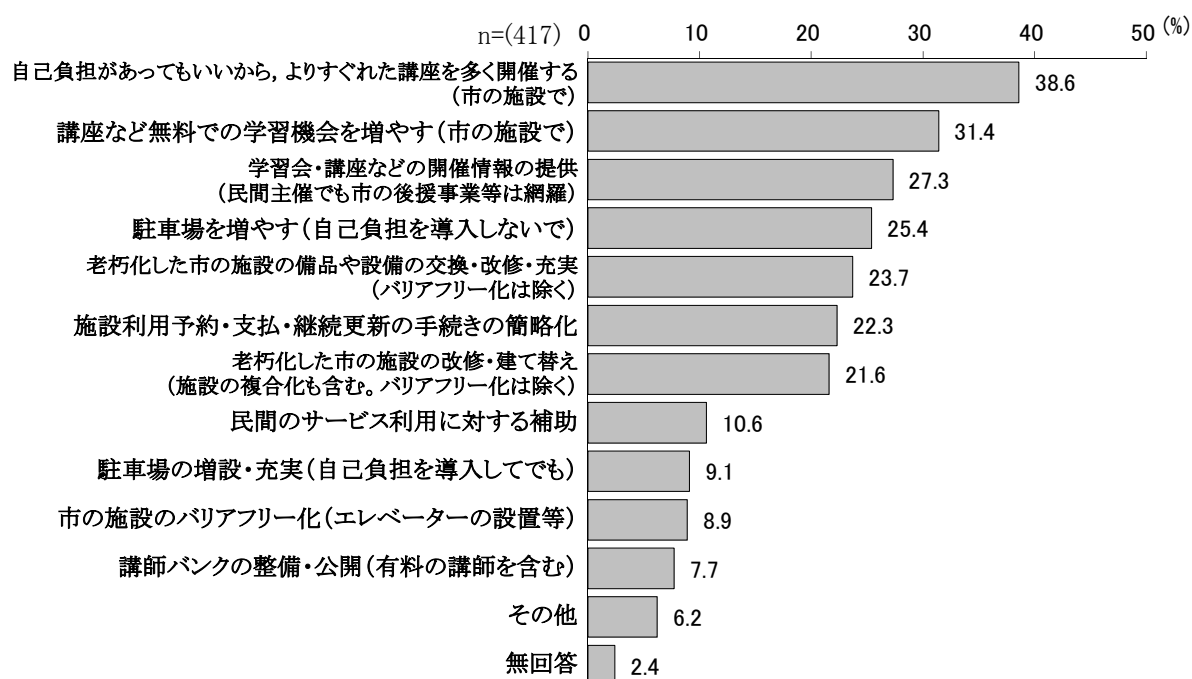
◇「自己負担があってもいいから、よりすぐれた講座を多く開催する（市の施設で）」が約4割

(問21の(1)で「1」とっている」とお答えの方にお尋ねします)

問21-2 生涯学習・文化活動の推進のために必要なことはどのようなことだと思いますか。

(〇は3つまで)

<図表14-6>生涯学習等を充実させるために望むこと（複数回答）



問21で生涯学習や文化活動を「とっている」と答えた方に、生涯学習や文化活動の推進のために必要なことについて尋ねた。その結果、「自己負担があってもいいから、よりすぐれた講座を多く開催する（市の施設で）」(38.6%)が約4割で最も高く、次いで、「講座など無料での学習機会を増やす（市の施設で）」(31.4%)が3割を超え、「学習会・講座などの開催情報の提供（民間主催でも市の後援事業等は網羅）」(27.3%)が約3割となっている。(図表14-6)

【性別・年齢別・職業別】

性別でみると、「老朽化した市の施設の備品や設備の交換・改修・充実を（バリアフリー化は除く）」は、男性の方が女性よりも11ポイント高くなっている。一方、「講座など無料での学習機会を増やす（市の施設で）」は、女性の方が男性よりも6ポイント高くなっている。

年齢別でみると、「自己負担があってもいいから、よりすぐれた講座を多く開催する（市の施設で）」は40歳代、60歳代で4割台半ばと高くなっている。

職業別でみると、「自己負担があってもいいから、よりすぐれた講座を多く開催する（市の施設で）」は、パートタイマー・アルバイトで4割台半ばと最も高く、無職で約4割となっている。(図表14-7)

<図表14-7>性別・年齢別・職業別

上段：人数／下段：(%)

	調査数	自己負担があつてもいいから、より市で実施する、よ	講座など無料での学習機会を増やす(市の施設で)	学習会・講座なども市の後援情報等は(網羅)	駐車場を増やす(自己負担を導しない)	老朽化した市の施設の備品や設備の交換・改修・充実(パリアフリー化は除く)	施設利用予約・支払・継続更新のスキームの簡略化	老朽化した市の施設の改修・建て替え(施設の複合化も含む。パリアフリー化は除く)	民間のサービス利用に対する補助	駐車場の増設・充実(自己負担を導入れて)	市の施設のバリアフリー化(エレベーターの設置等)	講師バンクの整備・公開(有料の講師を含む)	その他	無回答
全体	417 100.0	161 38.6	131 31.4	114 27.3	106 25.4	99 23.7	93 22.3	90 21.6	44 10.6	38 9.1	37 8.9	32 7.7	26 6.2	10 2.4
男性	173 100.0	64 37.0	48 27.7	44 25.4	39 22.5	52 30.1	33 19.1	37 21.4	22 12.7	15 8.7	11 6.4	15 8.7	12 6.9	4 2.3
女性	240 100.0	97 40.4	81 33.8	70 29.2	65 27.1	46 19.2	60 25.0	52 21.7	22 9.2	23 9.6	26 10.8	17 7.1	13 5.4	6 2.5
29歳以下	23 100.0	6 26.1	3 13.0	6 26.1	3 13.0	4 17.4	5 21.7	5 21.7	3 13.0	-	5 21.7	1 4.3	3 13.0	1 4.3
30歳代	43 100.0	16 37.2	12 27.9	10 23.3	17 39.5	10 23.3	7 16.3	8 18.6	7 16.3	2 4.7	5 11.6	4 9.3	7 16.3	-
40歳代	80 100.0	36 45.0	21 26.3	19 23.8	22 27.5	17 21.3	17 21.3	18 22.5	10 12.5	10 12.5	6 7.5	5 6.3	6 7.5	1 1.3
50歳代	46 100.0	18 39.1	11 23.9	11 23.9	12 26.1	11 23.9	11 23.9	8 17.4	7 15.2	8 17.4	2 4.3	5 10.9	4 8.7	1 2.2
60歳代	90 100.0	39 43.3	36 40.0	23 25.6	25 27.8	21 23.3	22 24.4	16 17.8	5 5.6	9 10.0	6 6.7	6 6.7	2 2.2	2 2.2
70歳以上	129 100.0	44 34.1	45 34.9	45 34.9	25 19.4	33 25.6	30 23.3	34 26.4	12 9.3	9 7.0	13 10.1	11 8.5	3 2.3	5 3.9
※農業	2 100.0	-	-	-	1 50.0	1 50.0	-	1 50.0	1 50.0	1 50.0	-	-	-	-
※自営業	18 100.0	7 38.9	5 27.8	2 11.1	8 44.4	4 22.2	5 27.8	3 16.7	3 16.7	3 16.7	1 5.6	1 5.6	1 5.6	-
会社員	81 100.0	28 34.6	22 27.2	16 19.8	22 27.2	16 19.8	20 24.7	20 24.7	14 17.3	12 14.8	4 4.9	5 6.2	9 11.1	-
※公務員	15 100.0	7 46.7	3 20.0	3 20.0	3 20.0	6 40.0	2 13.3	4 26.7	3 20.0	-	2 13.3	3 20.0	-	-
※専門職 (医師・弁護士など)	6 100.0	2 33.3	2 33.3	2 33.3	2 33.3	-	1 16.7	1 16.7	-	-	-	1 16.7	2 33.3	-
※自由業(著述・ 芸術・芸能など)	6 100.0	2 33.3	2 33.3	1 16.7	3 50.0	2 33.3	3 50.0	-	-	1 16.7	-	1 16.7	1 16.7	-
※学生	13 100.0	4 30.8	2 15.4	3 23.1	2 15.4	3 23.1	2 15.4	2 15.4	2 15.4	-	4 30.8	-	1 7.7	1 7.7
※派遣	7 100.0	6 85.7	2 28.6	3 42.9	1 14.3	1 14.3	1 14.3	-	-	-	-	1 14.3	-	-
パートタイマー・ アルバイト	44 100.0	19 43.2	15 34.1	12 27.3	14 31.8	11 25.0	6 13.6	8 18.2	6 13.6	3 6.8	4 9.1	3 6.8	4 9.1	-
専業主婦(夫)	106 100.0	40 37.7	40 37.7	38 35.8	33 31.1	22 20.8	33 31.1	21 19.8	6 5.7	10 9.4	13 12.3	7 6.6	1 0.9	4 3.8
無職	101 100.0	40 39.6	31 30.7	28 27.7	13 12.9	28 27.7	19 18.8	26 25.7	9 8.9	6 5.9	9 8.9	9 8.9	5 5.0	5 5.0
※その他	14 100.0	6 42.9	5 35.7	6 42.9	2 14.3	4 28.6	1 7.1	3 21.4	-	2 14.3	-	1 7.1	1 7.1	-

(注) ※印は、調査数が少ないので参考として図示するに留め、文中では述べていない。

(1-3) スポーツ活動を充実させるために望むこと

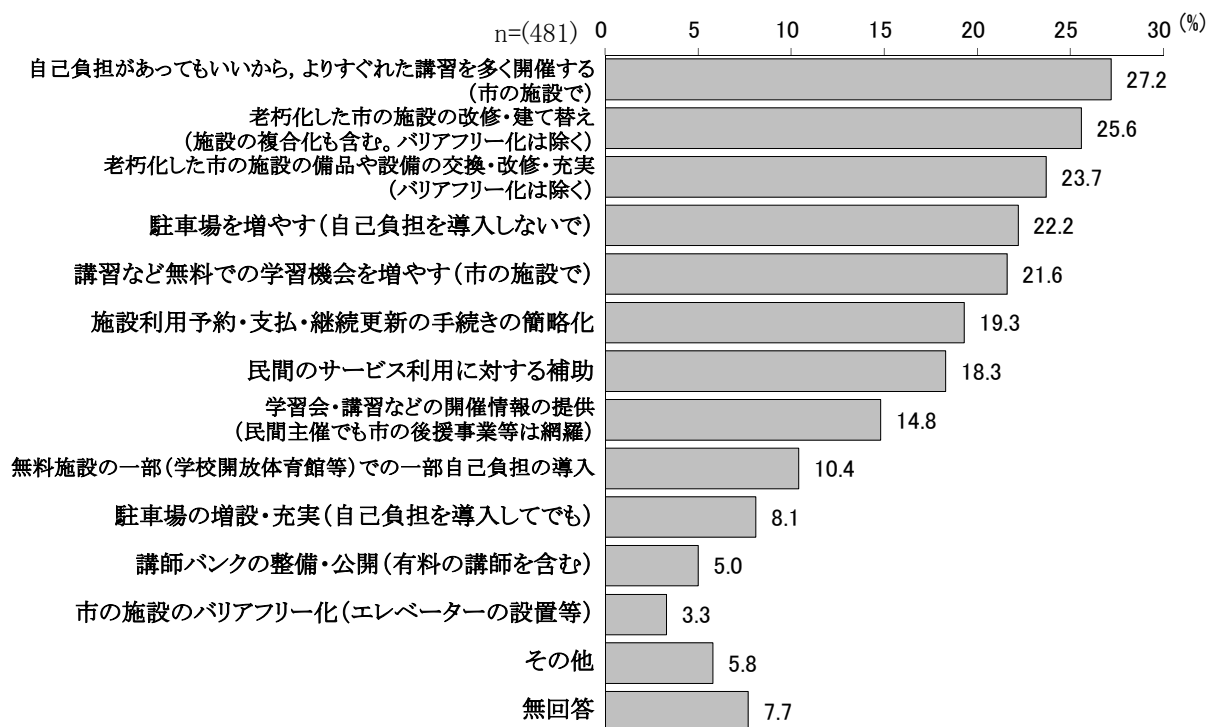
◇「自己負担があってもいいから、よりすぐれた講習を多く開催する（市の施設で）」が約3割

(問21の(2)で「1 とっている」とお答えの方にお尋ねします)

問21-3 スポーツ活動の推進のために必要なことはどのようなことだと思いますか。

(○は3つまで)

<図表14-8>スポーツ活動を充実させるために望むこと(複数回答)



問21でスポーツ活動を「とっている」と答えた方に、スポーツ活動の推進のために必要なことについて尋ねた。その結果、「自己負担があってもいいから、よりすぐれた講習を多く開催する（市の施設で）」(27.2%)が約3割で最も高く、次いで、「老朽化した市の施設の改修・建て替え（施設の複合化も含む。バリアフリー化は除く）」(25.6%)、「老朽化した市の施設の備品や設備の交換・改修・充実（バリアフリー化は除く）」(23.7%)が2割台半ばとなっている。(図表14-8)

【性別・年齢別・職業別】

性別でみると、「講習など無料での学習機会を増やす」は、女性の方が男性よりも10ポイント高くなっている。「自己負担があってもいいから、よりすぐれた講習を多く開催する（市の施設で）」も女性の方が6ポイント高くなっている。

年齢別でみると、「自己負担があってもいいから、よりすぐれた講習を多く開催する（市の施設で）」は60歳代で3割を超えて最も高くなっている。

職業別でみると、「自己負担があってもいいから、よりすぐれた講習を多く開催する（市の施設で）」は、パートタイマー・アルバイトで4割を超えて最も高くなっている。次いで、専業主婦（夫）で3割となっている。(図表14-9)

<図表14-9>性別・年齢別・職業別

上段：人数／下段：（%）

調査数	市の施設で （市の施設で）	自己負担があつてもいいから、よりすぐれた講習を多く開催する、よ	アフリ化は除く）	老朽化した市の施設の改修・建て替え（施設の複合化も含む。パリ	リ化は除く）	老朽化した市の施設の備品や設備の交換・改修・充実（バリアア	駐車場の増やす（自己負担を導入しない）	講習など無料で学習機会を増やす（市の施設で）	施設利用予約・支払・継続更新のスキームの簡略化	民間のサービス利用に対する補助	は（民間主催でも市の後援情報等の提供）	学習会・講習などの開催情報の提供（民間主催でも市の後援情報等の提供）	料の講師を含む）	等）の一部（学校開放体育館等）	無料施設の一部（自己負担の導入（有料の講師を含む）	駐車場の増設・充実（自己負担を導入してでも）	講師バンクの整備・公開（有料の講師を含む）	市の施設のバリアフリー化（エレベーターの設置等）	その他	無回答
全体	481 100.0	131 27.2	123 25.6	114 23.7	107 22.2	104 21.6	93 19.3	88 18.3	71 14.8	50 10.4	39 8.1	24 5.0	16 3.3	28 5.8	37 7.7					
男性	247 100.0	61 24.7	65 26.3	61 24.7	54 21.9	42 17.0	45 18.2	52 21.1	37 15.0	27 10.9	24 9.7	11 4.5	3 1.2	18 7.3	20 8.1					
女性	227 100.0	69 30.4	57 25.1	51 22.5	52 22.9	62 27.3	48 21.1	35 15.4	34 15.0	23 10.1	15 6.6	13 5.7	13 5.7	9 4.0	14 6.2					
29歳以下	30 100.0	7 23.3	8 26.7	7 23.3	4 13.3	5 16.7	6 20.0	3 10.0	3 10.0	3 10.0	2 6.7	2 6.7	1 3.3	2 6.7	3 10.0					
30歳代	45 100.0	12 26.7	15 33.3	12 26.7	13 28.9	8 17.8	7 15.6	10 22.2	2 4.4	3 6.7	4 8.9	4 8.9	-	5 11.1	4 8.9					
40歳代	87 100.0	26 29.9	24 27.6	15 17.2	20 23.0	18 20.7	19 21.8	23 26.4	10 11.5	14 16.1	12 13.8	4 4.6	2 2.3	6 6.9	1 1.1					
50歳代	62 100.0	19 30.6	21 33.9	17 27.4	15 24.2	11 17.7	16 25.8	14 22.6	6 9.7	6 9.7	4 6.5	2 3.2	2 3.2	4 6.5	1 1.6					
60歳代	113 100.0	35 31.0	28 24.8	31 27.4	19 16.8	24 21.2	26 23.0	17 15.0	22 19.5	10 8.8	6 5.3	7 6.2	2 1.8	7 6.2	6 5.3					
70歳以上	135 100.0	30 22.2	26 19.3	28 20.7	34 25.2	36 26.7	19 14.1	20 14.8	28 20.7	14 10.4	11 8.1	5 3.7	9 6.7	3 2.2	19 14.1					
※農業	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-					
※自営業	18 100.0	2 11.1	4 22.2	2 11.1	5 27.8	4 22.2	4 22.2	6 33.3	2 11.1	2 11.1	2 11.1	-	-	1 5.6	3 16.7					
会社員	135 100.0	31 23.0	38 28.1	29 21.5	31 23.0	19 14.1	35 25.9	35 25.9	10 7.4	17 12.6	13 9.6	5 3.7	3 2.2	11 8.1	9 6.7					
公務員	20 100.0	7 35.0	7 35.0	8 40.0	4 20.0	4 20.0	2 10.0	3 15.0	2 10.0	1 5.0	2 10.0	3 15.0	1 5.0	-	-					
※専門職 (医師・弁護士など)	8 100.0	2 25.0	4 50.0	1 12.5	-	2 25.0	1 12.5	1 12.5	-	4 50.0	-	1 12.5	-	2 25.0	-					
※自由業（著述・ 芸術・芸能など）	7 100.0	1 14.3	3 42.9	3 42.9	2 28.6	-	3 42.9	1 14.3	1 14.3	1 14.3	1 14.3	-	-	1 14.3	-					
※学生	12 100.0	3 25.0	2 16.7	4 33.3	1 8.3	2 16.7	2 16.7	1 8.3	1 8.3	2 16.7	1 8.3	1 8.3	-	1 8.3	1 8.3					
※派遣	5 100.0	2 40.0	2 40.0	-	1 20.0	2 40.0	1 20.0	-	1 20.0	-	1 20.0	-	-	-	-					
パートタイマー・ アルバイト	45 100.0	19 42.2	14 31.1	11 24.4	7 15.6	11 24.4	10 22.2	5 11.1	9 20.0	5 11.1	4 8.9	2 4.4	-	2 4.4	2 4.4					
専業主婦（夫）	103 100.0	31 30.1	24 23.3	28 27.2	31 30.1	28 27.2	23 22.3	18 17.5	18 17.5	9 8.7	6 5.8	6 5.8	6 5.8	-	5 4.9					
無職	109 100.0	25 22.9	20 18.3	21 19.3	22 20.2	30 27.5	11 10.1	16 14.7	25 22.9	9 8.3	9 8.3	6 5.5	6 5.5	7 6.4	14 12.8					
※その他	11 100.0	7 63.6	4 36.4	4 36.4	2 18.2	2 18.2	1 9.1	1 9.1	2 18.2	-	-	-	-	2 18.2	-					

(注) ※印は、調査数が少ないので参考として図示するに留め、文中では述べていない。

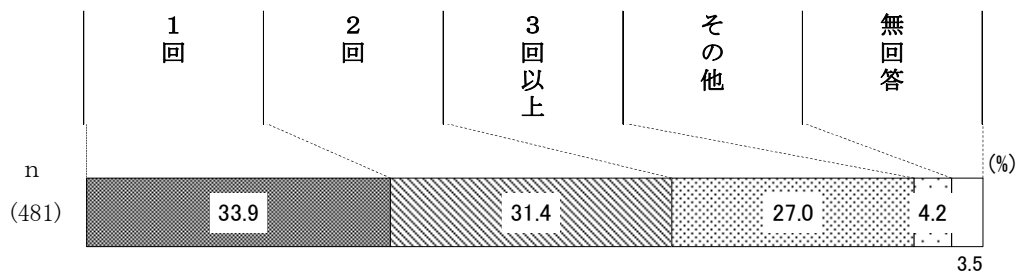
(1-4) スポーツ活動の回数

◇「1回」が3割台半ば

(問21の(2)で「1 回」とお答えの方にお尋ねします)

問21-4 1週間のうち、30分以上のスポーツ活動を何回ぐらい行っていますか。(○は1つ)

<図表14-10> スポーツ活動の回数



問 21 でスポーツ活動を「とっている」と答えた方に、スポーツ活動の回数について尋ねた。その結果、「1回」(33.9%)が3割台半ばで最も高く、次いで、「2回」(31.4%)が3割を超え、「3回以上」(27.0%)が約3割となっている。(図表14-10)

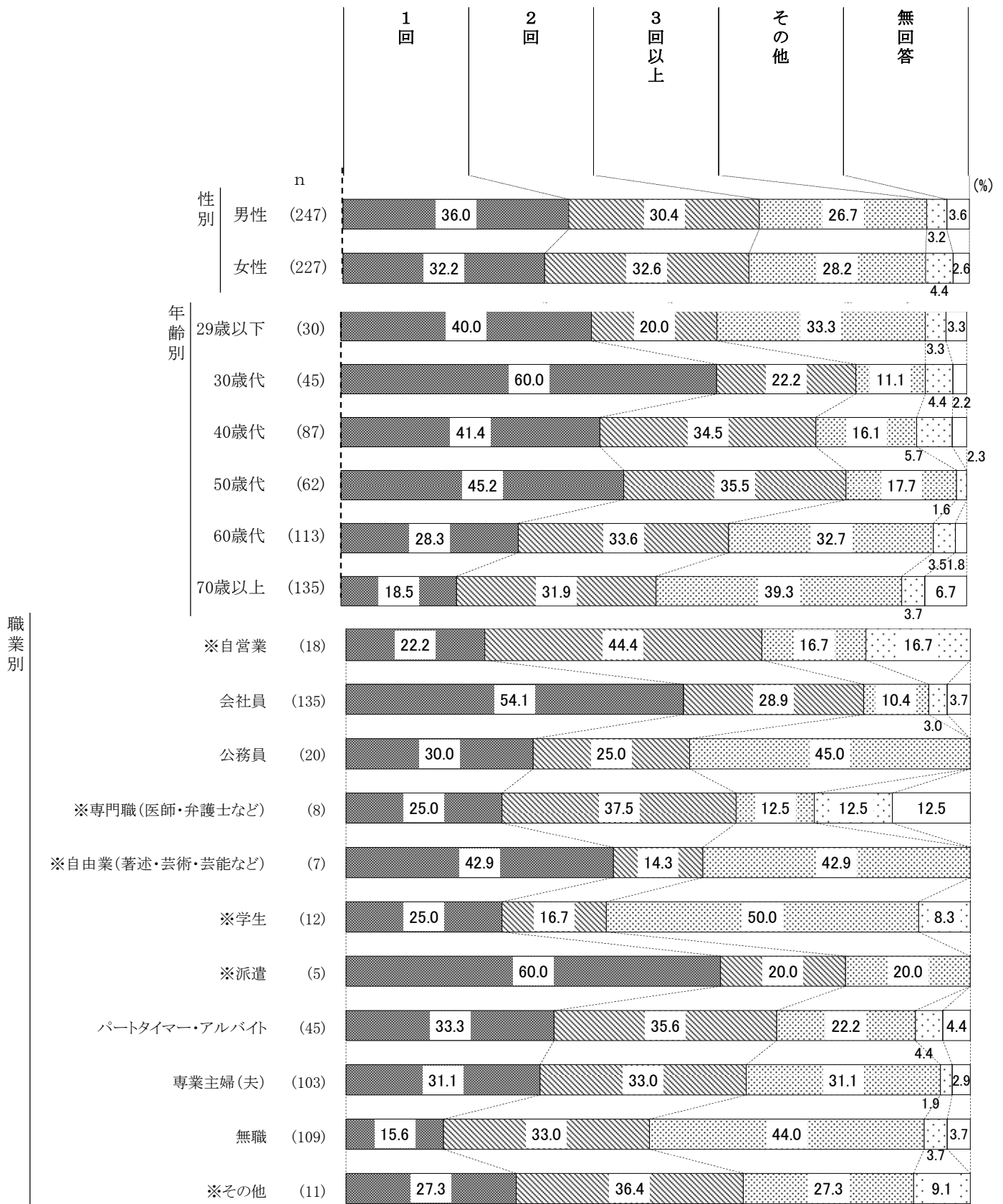
【性別・年齢別・職業別】

性別で見ると、男女で大きな差はみられない。

年齢別で見ると、「1回」は30歳代で6割と最も高く、「2回」は50歳代で3割台半ば、「3回以上」は70歳以上で約4割と最も高くなっている。

職業別で見ると、「1回」は会社員で5割台半ばと最も高く、「2回」はパートタイマー・アルバイトで3割台半ばと最も高くなっている。(図表14-11)

<図表14-11>性別・年齢別・職業別



(注) ※印は、調査数が少ないので参考として図示するに留め、文中では述べていない。

(1-5) 生涯学習や文化活動，スポーツ活動を行っていない理由

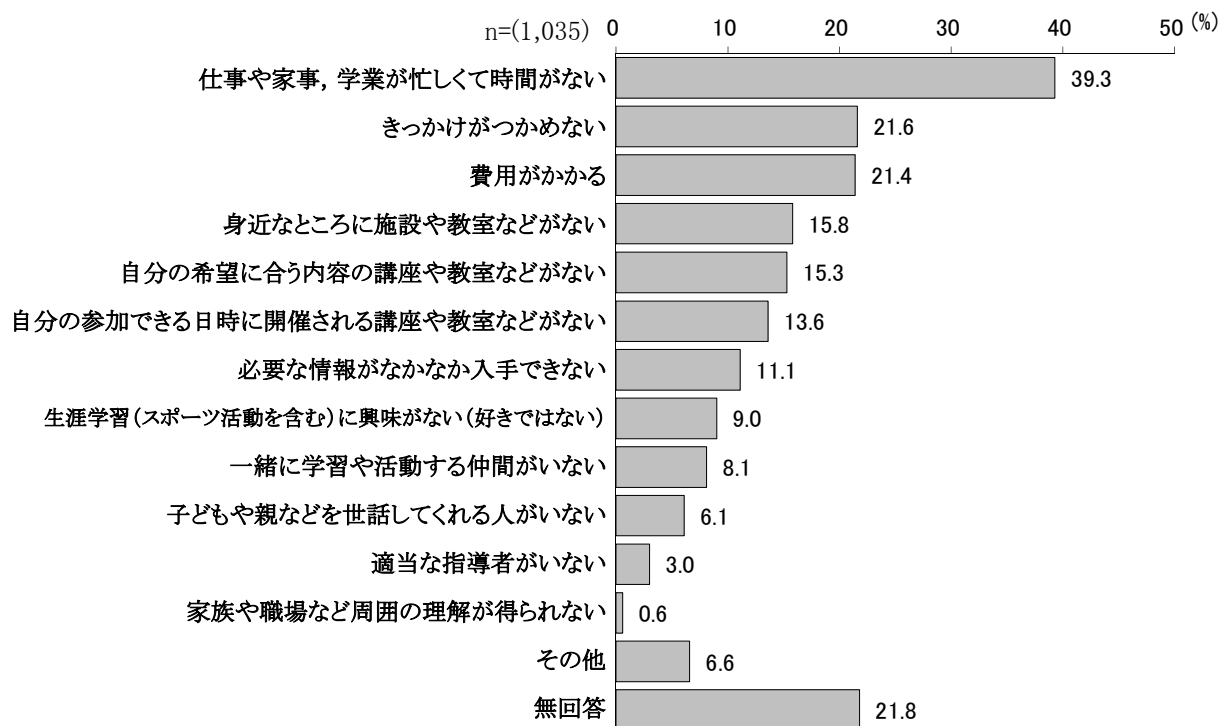
◇「仕事や家事，学業が忙しくて時間がない」が約4割

(問21で(1)か(2)のどちらか1つでも「2 とっていない」とお答えの方にお尋ねします)

問21-5 あなたが，学習や文化，スポーツ活動を行っていない理由は何ですか。

(○はいくつでも)

<図表14-12>生涯学習や文化活動，スポーツ活動を行っていない理由(複数回答)



問21で生涯学習や文化活動かスポーツ活動のどちらか1つでも「とっていない」と答えた方に，生涯学習や文化活動かスポーツ活動を行っていない理由について尋ねた。その結果，「仕事や家事，学業が忙しくて時間がない」(39.3%)が約4割で最も高く，次いで，「きっかけがつかめない」(21.6%)，「費用がかかる」(21.4%)が2割を超えている。(図表14-12)

【性別・年齢別・職業別】

性別でみると，「自分の参加できる日時に開催される講座や教室がない」は女性の方が男性よりも11ポイント高くなっている。一方，「きっかけがつかめない」は，男性の方が女性よりも6ポイント高くなっている。

年齢別でみると，「仕事や家事，学業が忙しくて時間がない」は30歳代で約6割と最も高くなっている。「きっかけがつかめない」は60歳代で約3割と高くなっている。

職業別でみると，「きっかけがつかめない」は，無職で2割台半ばと最も高くなっている。

(図表14-13)

<図表14-13>性別・年齢別・職業別

上段：人数／下段：(%)

	調査数	が仕事や家事，学業が忙しくて時間	きつかけがつかめない	費用がかかる	ない身近なところに施設や教室などが	室などの希望に合う内容の講座や教室	自分の参加できる日時開催される講座や教室がない	必要な情報がなかなか入手できない	に生涯学習（スポーツ活動を含む）に興味がない（好きではない）	一緒に学習や活動する仲間がいな	子どもや親などを世話してくれる人がいない
全体	1,035 100.0	407 39.3	224 21.6	222 21.4	164 15.8	158 15.3	141 13.6	115 11.1	93 9.0	84 8.1	63 6.1
男性	467 100.0	179 38.3	116 24.8	80 17.1	71 15.2	65 13.9	36 7.7	56 12.0	52 11.1	36 7.7	10 2.1
女性	554 100.0	224 40.4	106 19.1	138 24.9	91 16.4	91 16.4	102 18.4	56 10.1	40 7.2	48 8.7	53 9.6
29歳以下	94 100.0	47 50.0	20 21.3	21 22.3	11 11.7	8 8.5	11 11.7	7 7.4	10 10.6	9 9.6	5 5.3
30歳代	156 100.0	89 57.1	32 20.5	50 32.1	26 16.7	17 10.9	23 14.7	17 10.9	12 7.7	17 10.9	22 14.1
40歳代	198 100.0	112 56.6	38 19.2	52 26.3	21 10.6	26 13.1	26 13.1	14 7.1	11 5.6	8 4.0	24 12.1
50歳代	152 100.0	68 44.7	37 24.3	37 24.3	26 17.1	25 16.4	28 18.4	19 12.5	15 9.9	12 7.9	5 3.3
60歳代	191 100.0	49 25.7	55 28.8	36 18.8	34 17.8	35 18.3	26 13.6	23 12.0	21 11.0	14 7.3	2 1.0
70歳以上	228 100.0	37 16.2	40 17.5	22 9.6	44 19.3	45 19.7	24 10.5	31 13.6	22 9.6	24 10.5	5 2.2
※農業	8 100.0	5 62.5	1 12.5	-	2 25.0	-	1 12.5	-	-	-	-
自営業	57 100.0	31 54.4	11 19.3	13 22.8	8 14.0	10 17.5	12 21.1	6 10.5	4 7.0	2 3.5	4 7.0
会社員	311 100.0	174 55.9	65 20.9	71 22.8	48 15.4	44 14.1	43 13.8	29 9.3	28 9.0	25 8.0	15 4.8
公務員	28 100.0	13 46.4	10 35.7	2 7.1	7 25.0	3 10.7	5 17.9	2 7.1	2 7.1	4 14.3	1 3.6
専門職 (医師・弁護士な	21 100.0	13 61.9	4 19.0	6 28.6	3 14.3	2 9.5	6 28.6	1 4.8	2 9.5	1 4.8	1 4.8
※自由業（著述・ 芸術・芸能など）	5 100.0	2 40.0	1 20.0	-	-	-	-	1 20.0	-	-	2 40.0
学生	22 100.0	9 40.9	6 27.3	2 9.1	1 4.5	1 4.5	3 13.6	4 18.2	1 4.5	3 13.6	1 4.5
※派遣	17 100.0	7 41.2	4 23.5	8 47.1	6 35.3	5 29.4	5 29.4	6 35.3	1 5.9	2 11.8	-
パートタイマー・ アルバイト	140 100.0	63 45.0	30 21.4	41 29.3	16 11.4	16 11.4	25 17.9	12 8.6	6 4.3	14 10.0	10 7.1
専業主婦（夫）	179 100.0	57 31.8	30 16.8	44 24.6	26 14.5	30 16.8	22 12.3	21 11.7	17 9.5	9 5.0	25 14.0
無職	209 100.0	21 10.0	54 25.8	31 14.8	43 20.6	43 20.6	15 7.2	27 12.9	29 13.9	23 11.0	4 1.9
※その他	21 100.0	7 33.3	6 28.6	-	2 9.5	2 9.5	1 4.8	2 9.5	1 4.8	1 4.8	-

(注) 紙面の都合上，上位11項目以下は表記を省略している。

(注) ※印は，調査数が少ないので参考として図示するに留め，文中では述べていない。

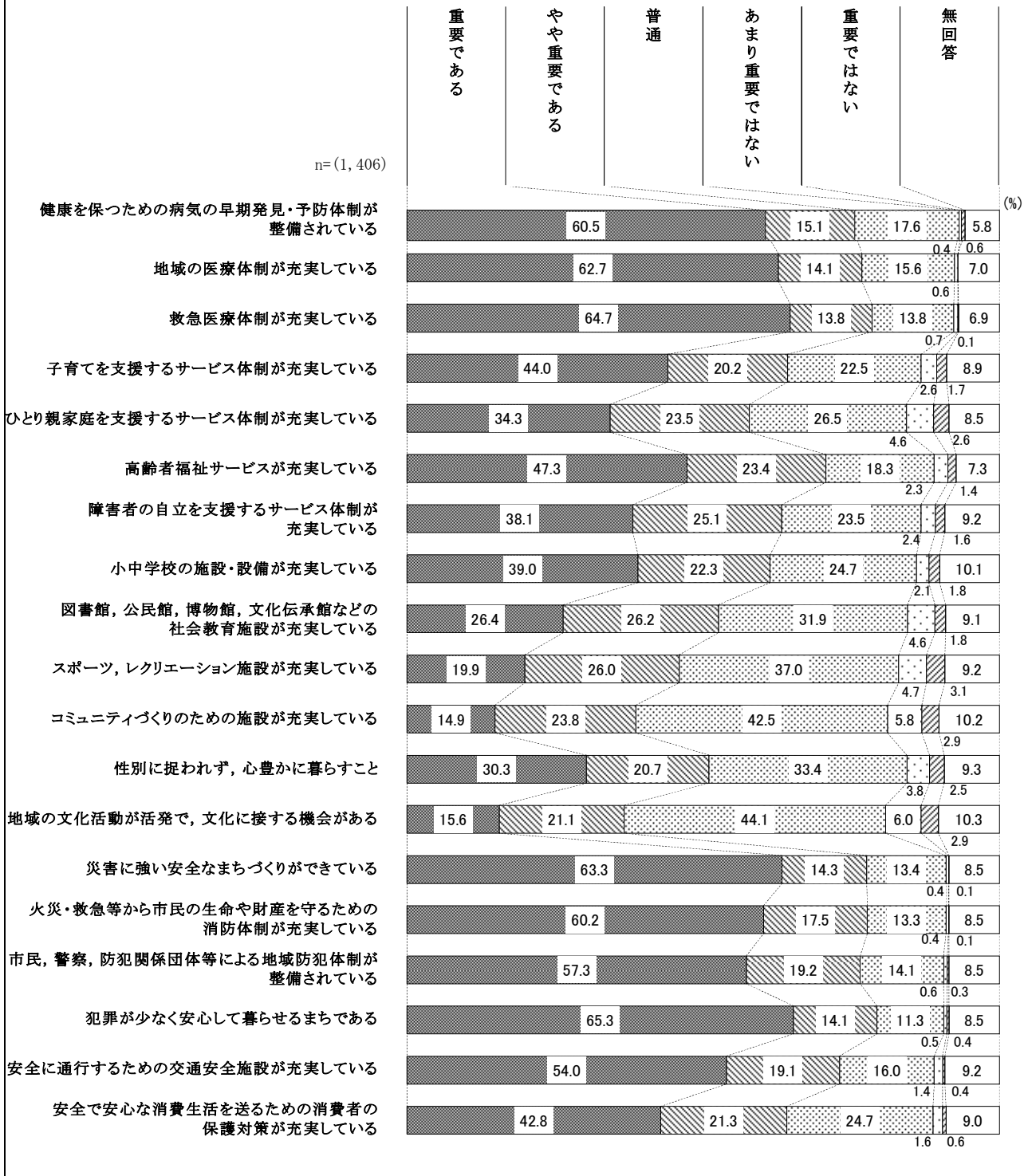
15 施策の重要度・事業主体

(1) 施策の重要度

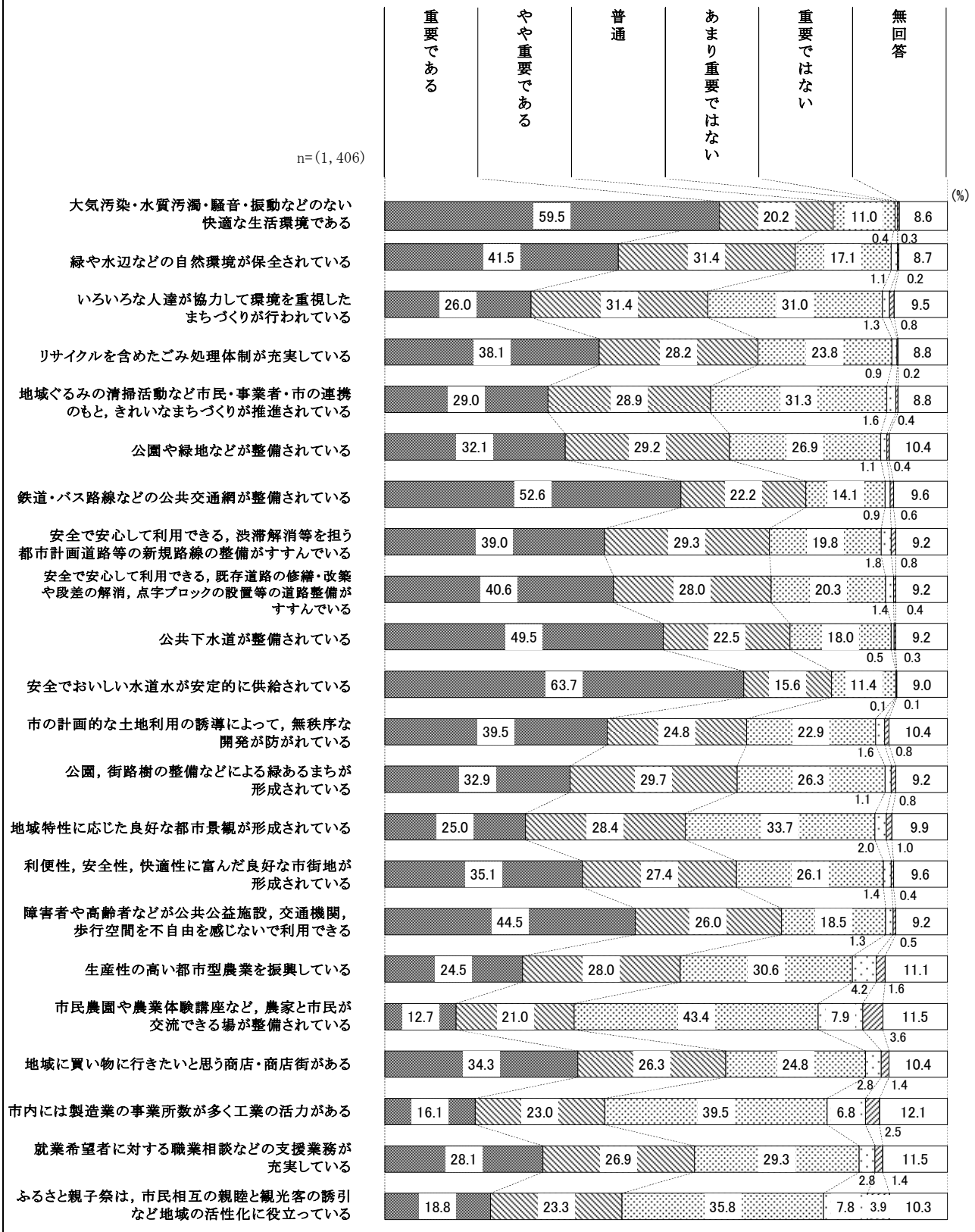
◇「大気汚染・水質汚濁・騒音・振動などのない快適な生活環境である」で《重要》が約8割

問22 下の表に示した各項目について、あなたの生活にとってどのくらい重要だと思いますか。また、事業主体について誰が中心となって行ふべきだとお考えですか。あてはまるものを1つずつ選び、番号に○印をつけてください。

<図表15-1> 施策の重要度①



<図表15-2> 施策の重要度②



◆重要度

施策の重要度を41の項目に分け、それぞれの評価を尋ねた。

「重要である」と「やや重要である」の評価を《重要》、「あまり重要ではない」と「重要ではない」の評価を《非重要》と仮定して、それぞれの上位5項目を列挙すると次のようになる。(図表15-1, 15-2)

◎《重要》

①	20	快適な生活環境	79.7
②	17	安心して暮らせるまち	79.4
③	30	水道水が安定的に供給されている	79.3
④	3	救急医療体制が充実している	78.5
⑤	15	消防体制が充実している	77.7

×《非重要》

①	41	ふるさと親子祭	11.7
②	37	農家と市民交流の場	11.5
③	39	工業の活力	9.3
④	13	文化に接する機会	8.9
⑤	11	コミュニティづくりのための施設	8.7

次に、《健康福祉都市づくり》、《教育文化都市づくり》、《安心安全都市づくり》、《環境自然共生都市づくり》、《快適生活空間都市づくり》、《産業活力都市づくり》の6つの政策ごとに、施策重要度の分析をすることとした。なお、ここでは、各項目の後の括弧書きに(重:〇〇.〇%)や(非:〇〇.〇%)と記載し、(重:〇〇.〇%)は「重要である」+「やや重要である」を、(非:〇〇.〇%)は「あまり重要ではない」+「重要ではない」を表している。

《健康福祉都市づくり》

《重要》は、「救急医療体制が充実している」（重：78.5%）が約8割と最も高く、次いで、「地域の医療体制が充実している」（重：76.8%）、「健康を保つための病気の早期発見・予防体制が整備されている」（重：75.6%）などとなっている。《重要》がどの項目でも、5割以上である。

《非重要》は、「ひとり親家庭を支援するサービス体制が充実している」（非：7.2%）が最も高い。

（図表15-3）

《教育文化都市づくり》

《重要》は、「小中学校の施設・設備が充実している」（重：61.3%）が6割を超えて最も高くなっている。次いで、「図書館、公民館、博物館、文化伝承間などの生涯学習施設が充実している」（重：52.6%）、「性別に捉われず、心豊かに暮らすこと」（重：51.0%）などとなっている。

《非重要》は、「地域の文化活動が活発で、文化に接する機会がある」（非：8.9%）が最も高い。

（図表15-4）

《安心安全都市づくり》

《重要》は、「犯罪が少なく安心して暮らせるまちである」（重：79.4%）と「火災・救急等から市民の生命や財産を守るための消防体制が充実している」（重：77.7%）と「災害に強い安全なまちづくりができています」（重：77.6%）が約8割と高くなっている。次いで、「市民、警察、防犯関係団体等による地域防犯体制が整備されている」（重：76.5%）などとなっている。《重要》がどの項目でも、6割以上である。

《非重要》は、どの項目でも低くなっている。（図表15-5）

《環境自然共生都市づくり》

《重要》は、「大気汚染・水質汚濁・騒音・振動などのない快適な生活環境である」（重：79.7%）が約8割と最も高くなっている。次いで、「緑や水辺などの自然環境が保全されている」（重：72.9%）、「リサイクルを含めたごみ処理体制が充実している」（重：66.3%）などとなっている。《重要》がどの項目でも、5割以上である。

《非重要》は、どの項目でも低くなっている。（図表15-6）

《快適生活空間都市づくり》

《重要》は、「安全でおいしい水道水が安定的に供給されている」（重：79.3%）が約8割と最も高くなっている。次いで、「鉄道・バス路線などの公共交通網が整備されている」（重：74.8%）、「公共下水道が整備されている」（重：72.0%）などとなっている。《重要》がどの項目でも5割以上である。

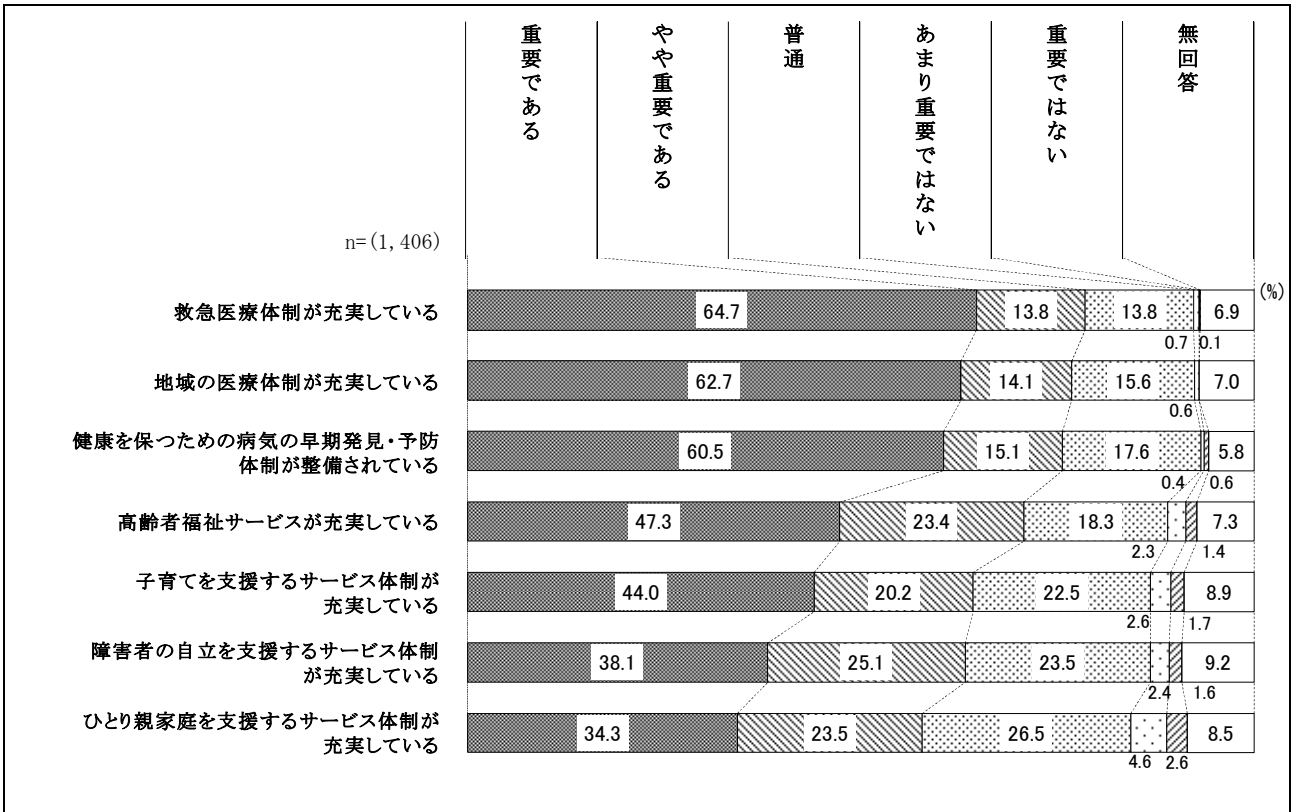
《非重要》は、どの項目でも低くなっている。（図表15-7）

《産業活力都市づくり》

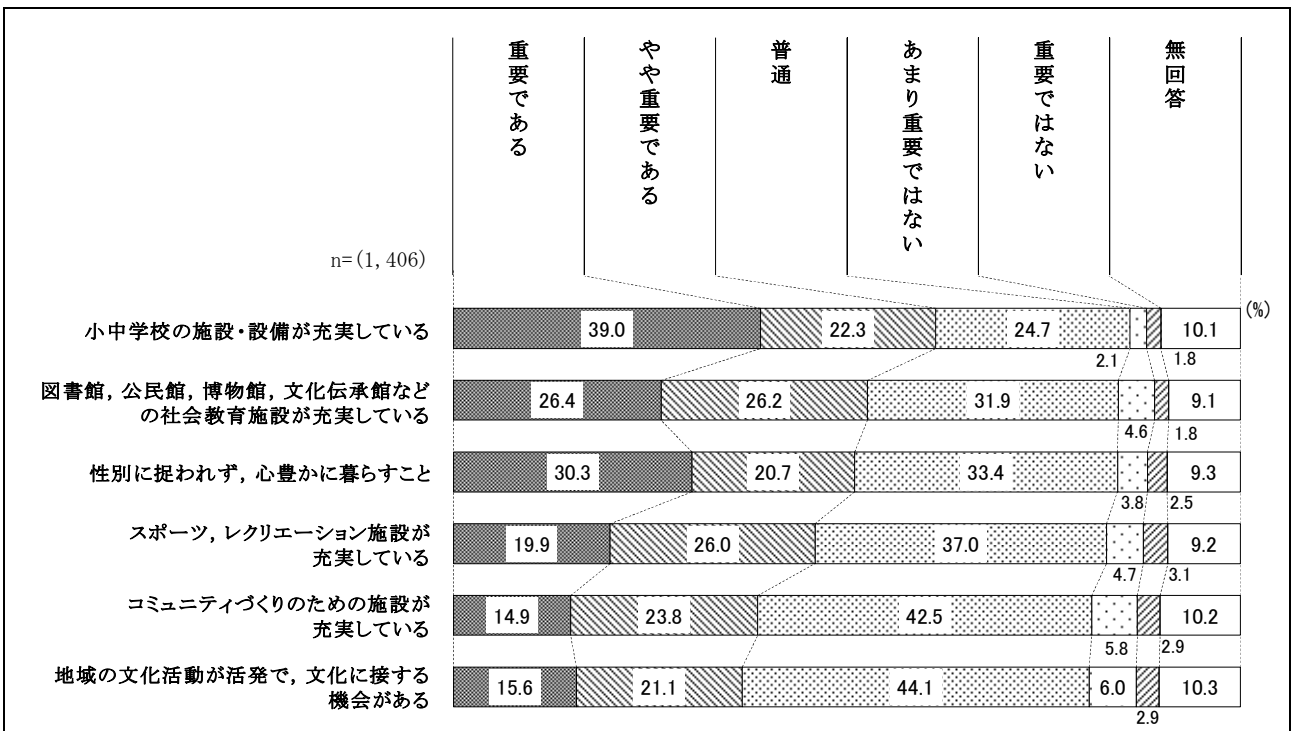
《重要》は、「地域に買い物に行きたいと思う商店・商店街がある」（重：60.6%）が6割と最も高くなっている。次いで、「就業希望者に対する職業相談などの支援業務が充実している」（重：55.0%）、「生産性の高い都市型農業を振興している」（重：52.5%）などとなっている。

《非重要》は、「ふるさと親子祭は、市民相互の親睦と観光客を誘引するなど地域の活性化に役立っている」（非：11.7%）が最も高くなっている。（図表15-8）

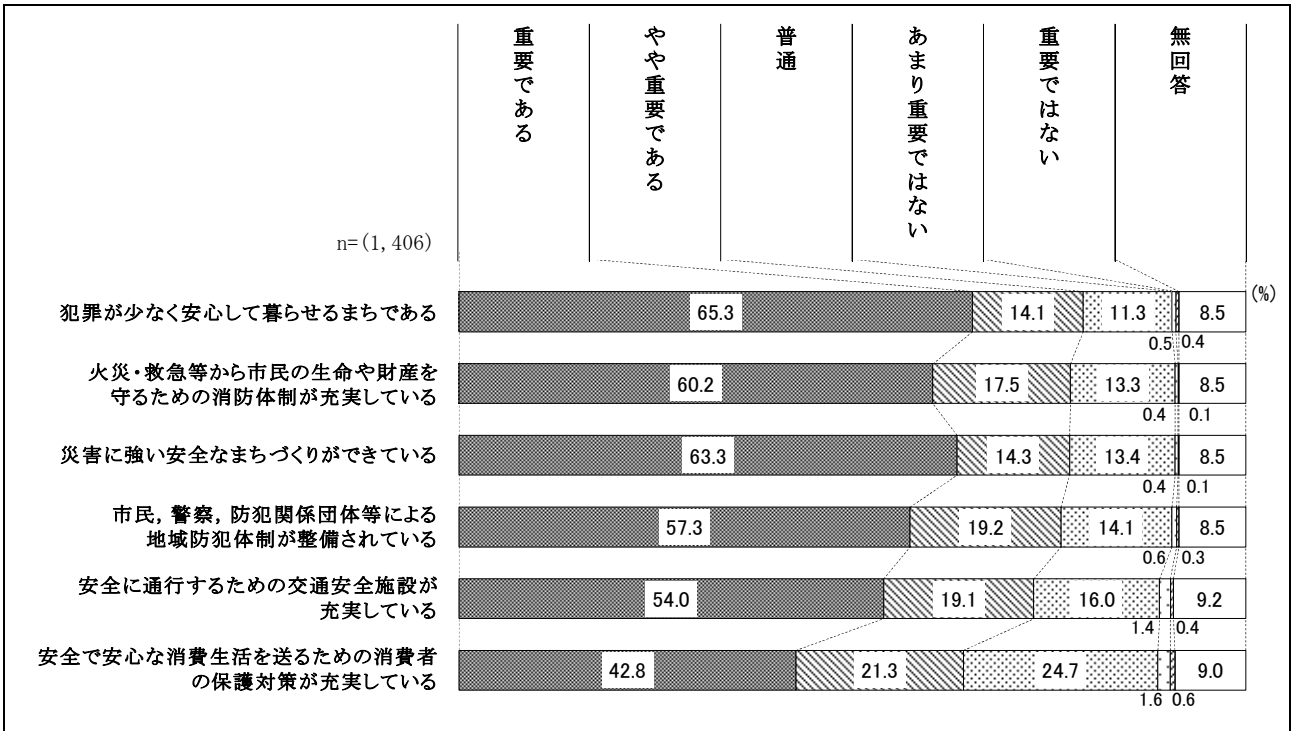
<図表15-3>健康福祉都市づくり



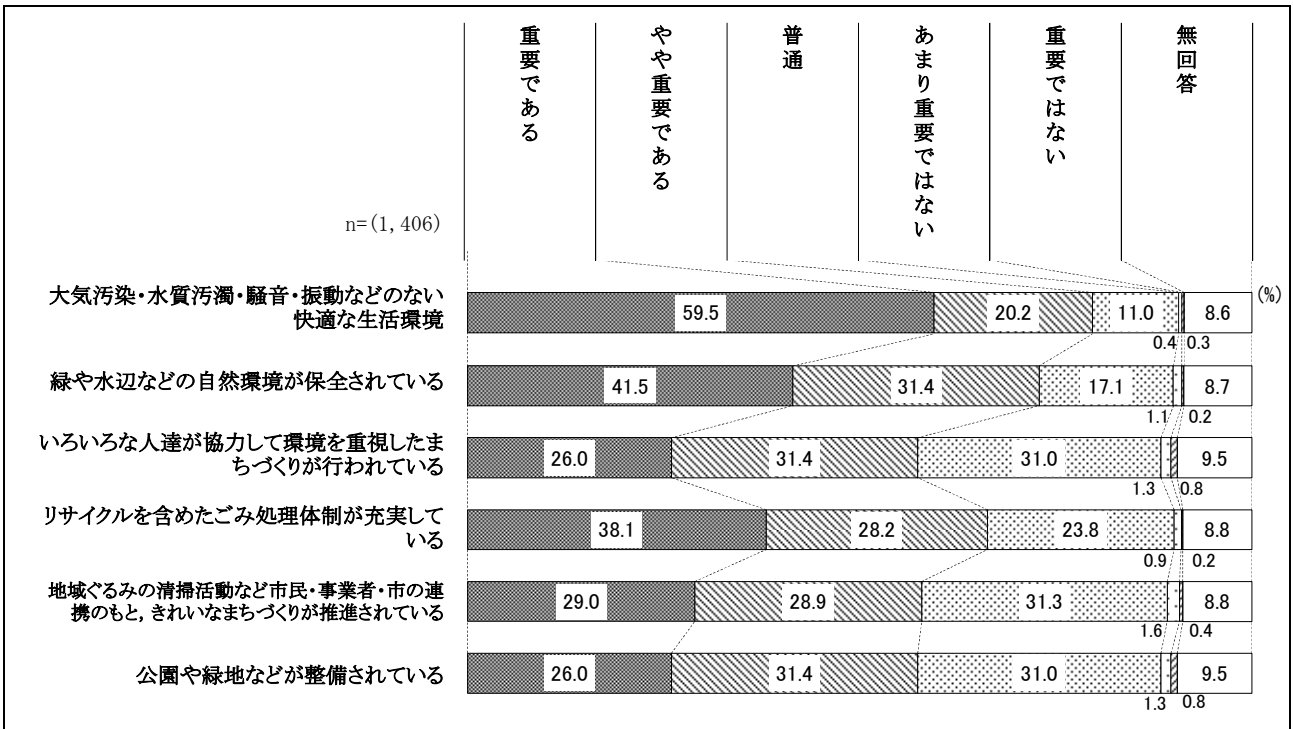
<図表15-4>教育文化都市づくり



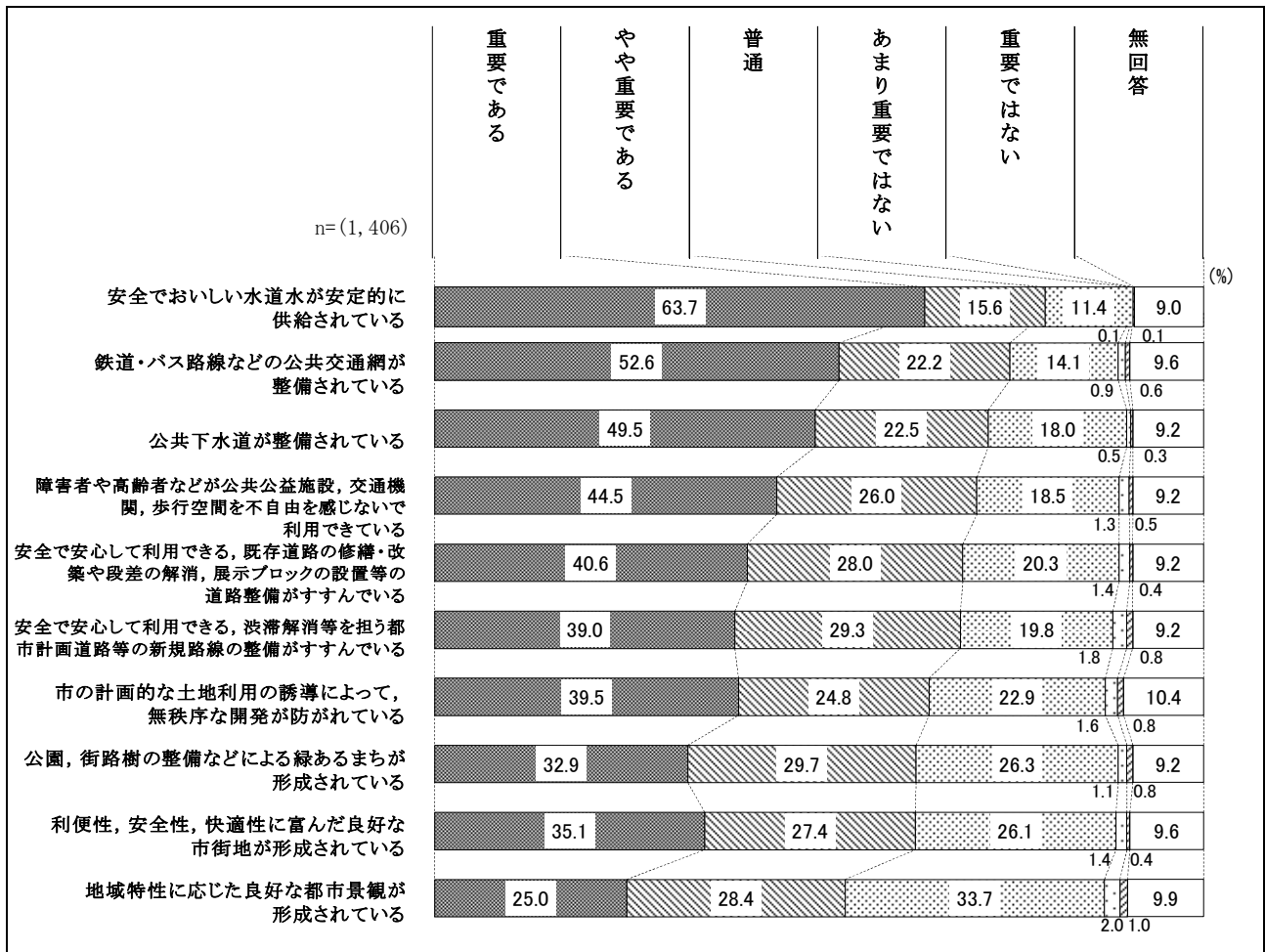
<図表15-5>安心安全都市づくり



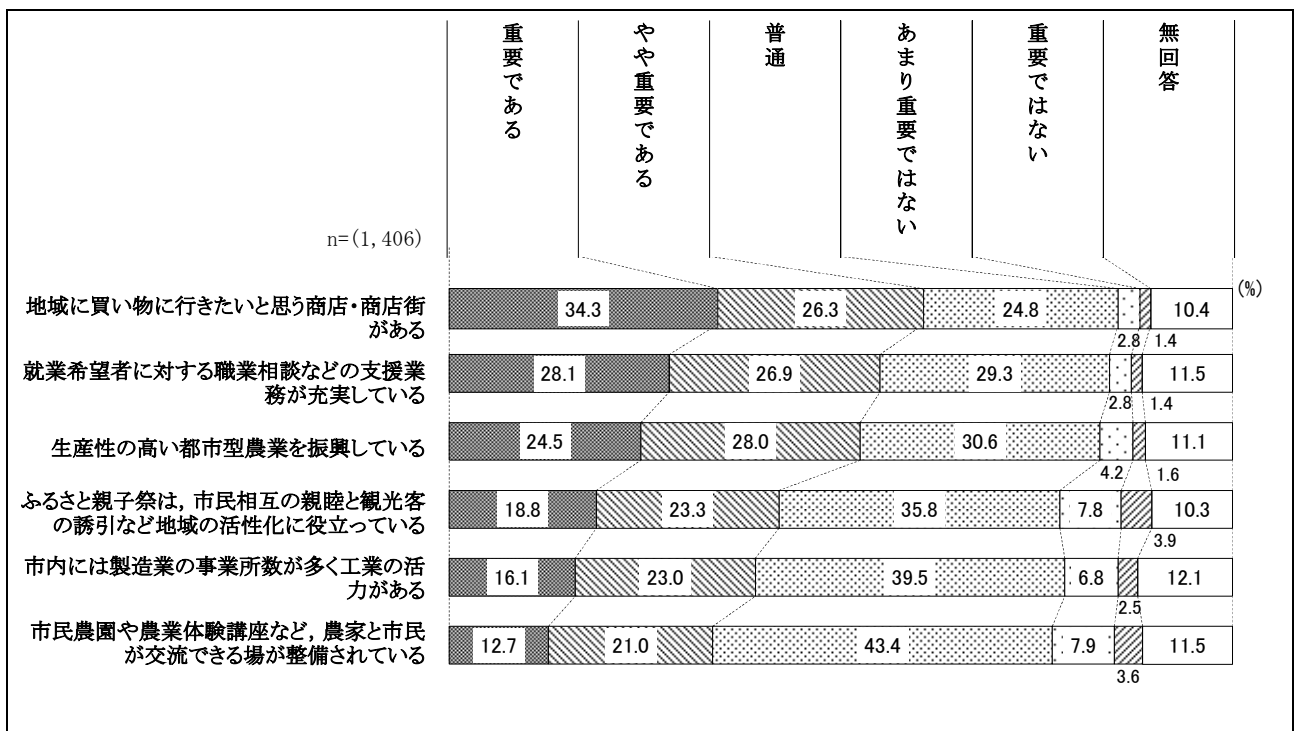
<図表15-6>環境自然共生都市づくり



<図表15-7>快適生活空間都市づくり



<図表15-8>産業活力都市づくり

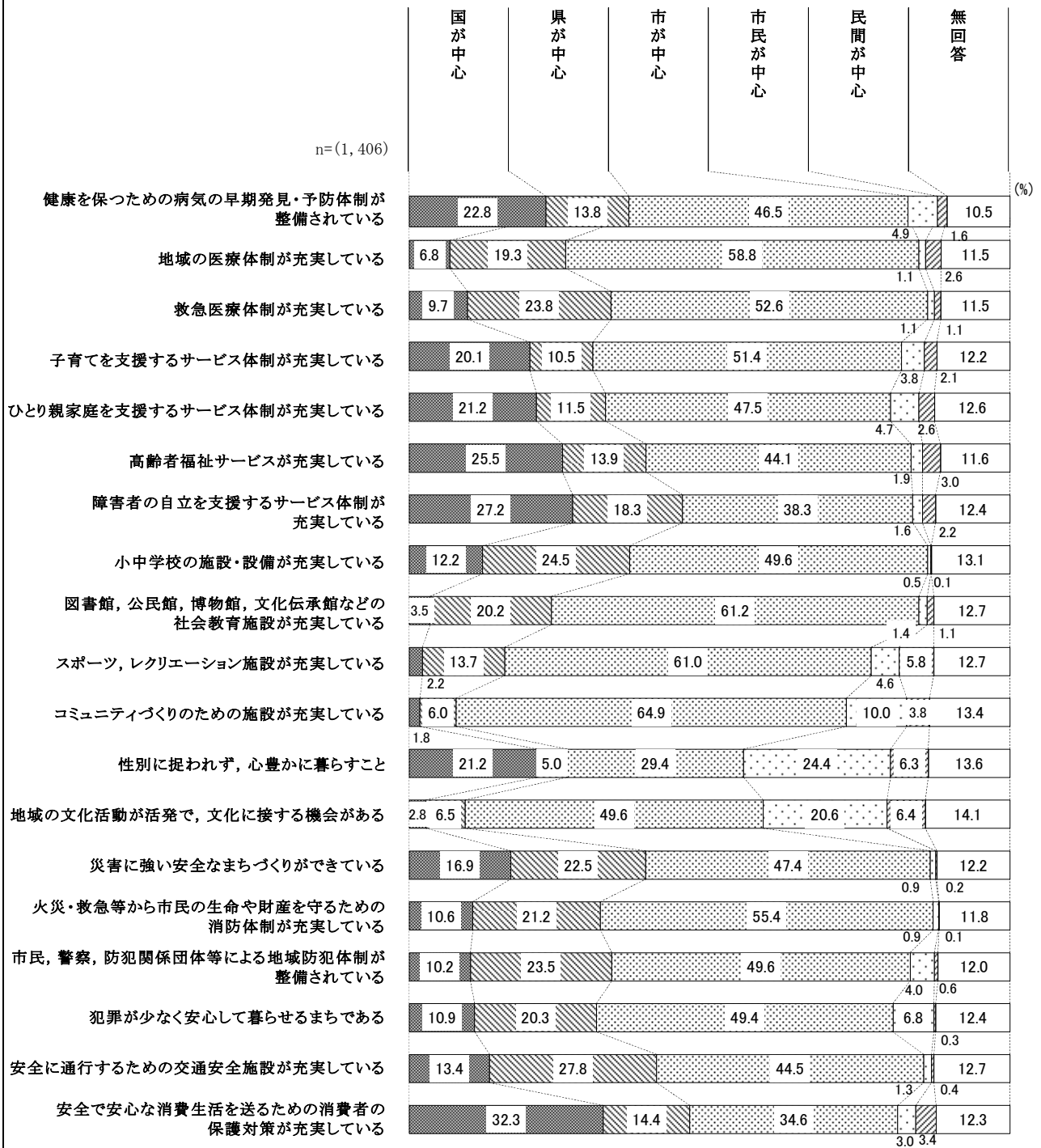


(2) 施策の事業主体

◇「緑あるまちが形成されている」と「公園や緑地などが整備されている」で《市が中心》が約7割

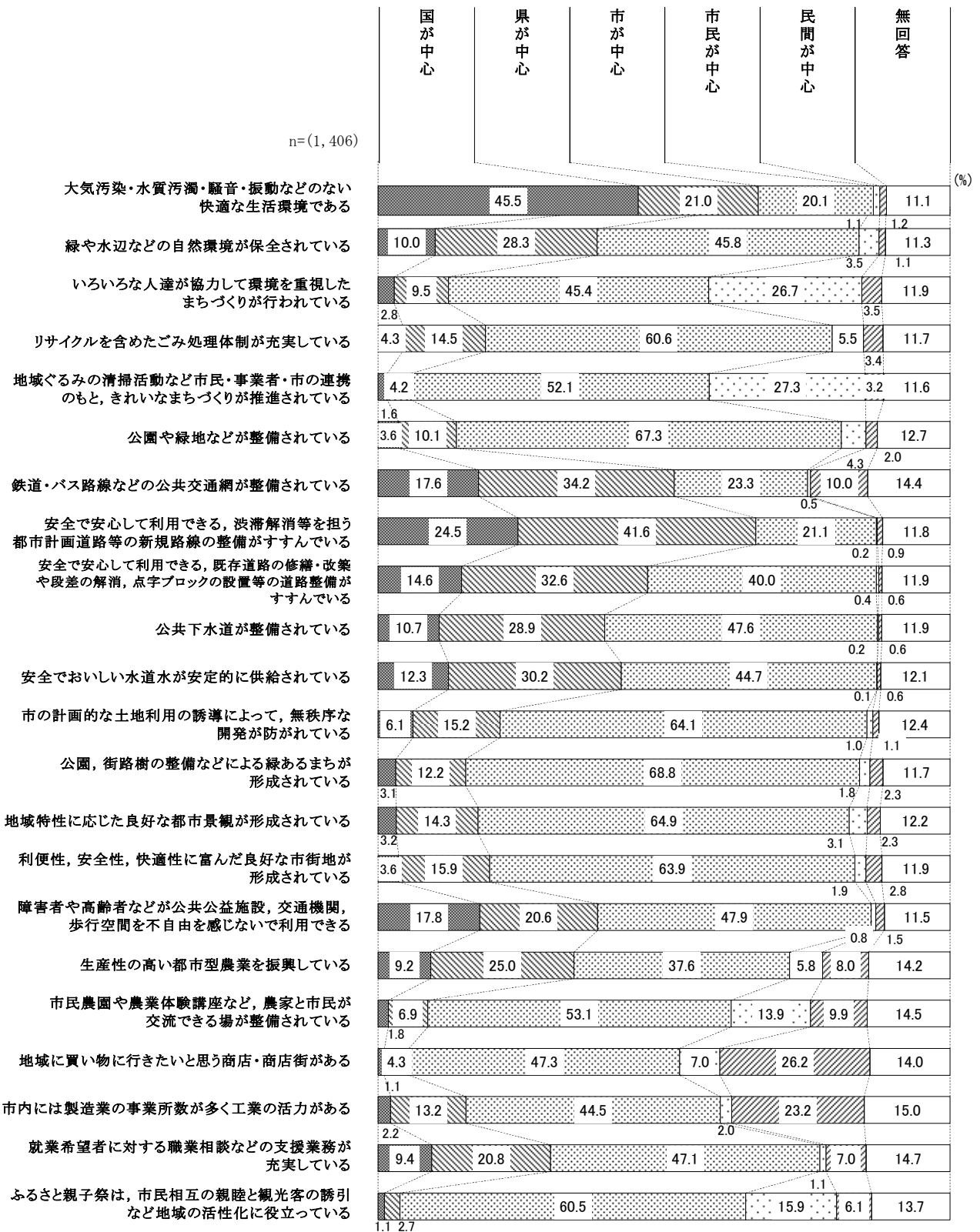
問22 下の表に示した各項目について、あなたの生活にとってどのくらい重要だと思いますか。また、事業主体について誰が中心となって行うべきだとお考えですか。あてはまるものを1つずつ選び、番号に○印をつけてください。

<図表15-9> 施策の事業主体①



<図表15-10> 施策の事業主体②

n=(1,406)



◆事業主体

施策の事業主体を41の項目に分け、それぞれの主体を尋ねた。
それぞれの上位5項目を挙げると次のようになる。(図表15-9, 15-10)

「国が中心」

①	20	大気汚染などのない生活環境	45.5
②	19	安全で安心な消費生活	32.3
③	7	障害者の自立支援	27.2
④	6	高齢者福祉サービスが充実している	25.5
⑤	27	新規道路の整備がすすんでいる	24.5

「県が中心」

①	27	新規路線の整備がすすんでいる	41.6
②	26	公共交通網が整備されている	34.2
③	28	道路整備がすすんでいる	32.6
④	30	水道水が安定的に供給されている	30.2
⑤	29	下水道が整備されている	28.9

「市が中心」

①	32	緑あるまちが形成されている	68.8
②	25	公園や緑地などが整備されている	67.3
③	11	コミュニティづくりのための施設が充実している	64.9
③	33	良好な都市景観が形成されている	64.9
⑤	31	無秩序な開発が防がれている	64.1

「市民が中心」

①	24	きれいなまちづくりが推進されている	27.3
②	22	環境を重視したまちづくりが行われている	26.7
③	12	性別に捉われず豊かに暮らすこと	24.4
④	13	文化に接する機会がある	20.6
⑤	41	ふるさと親子祭	15.9

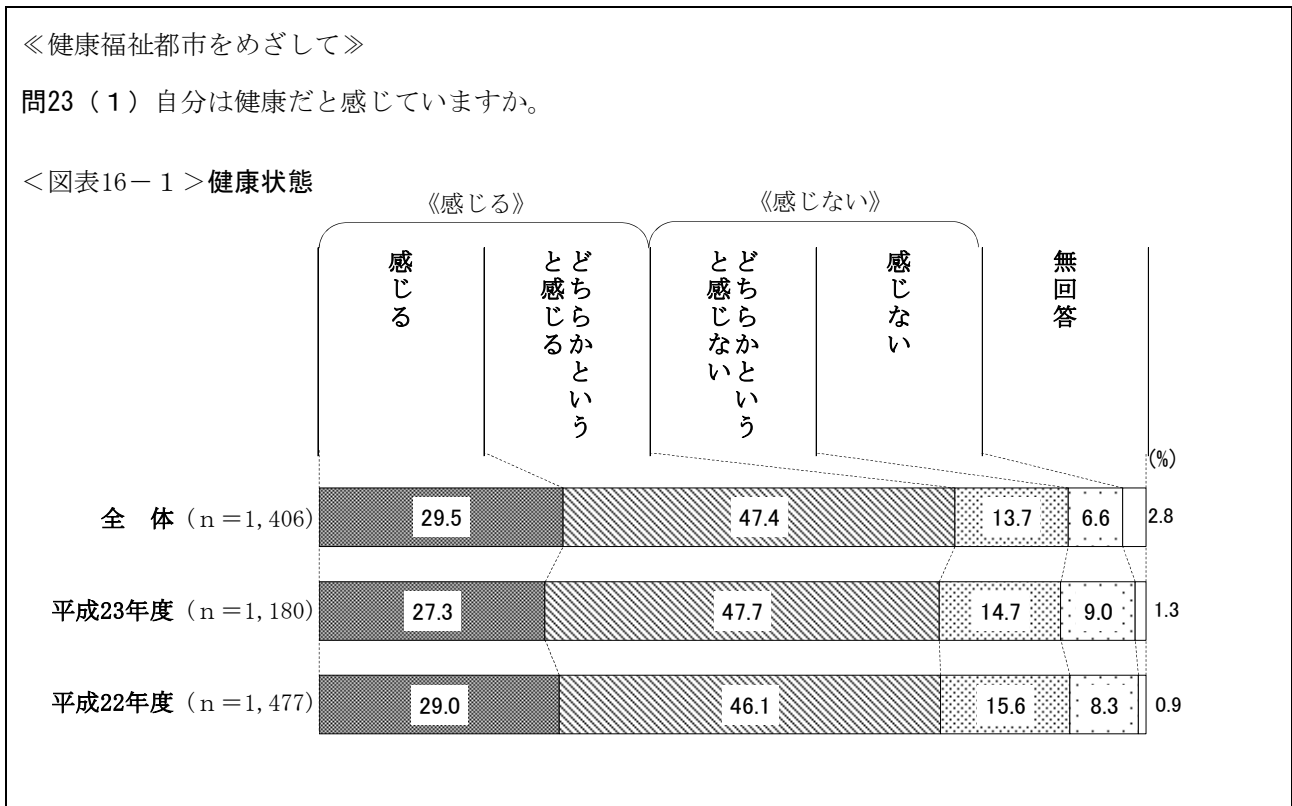
「民間が中心」

①	38	買い物に行きたいと思う商店・商店街	26.2
②	39	工業の活力	23.2
③	26	公共交通網が整備されている	10.0
④	37	農家と市民が交流できる場	9.9
⑤	36	都市型農業	8.0

16 前期基本計画における指標について

(1) 健康状態

◇《感じる》が7割台半ば



健康状態は、「感じる」(29.5%)、「どちらかというと感じる」(47.4%)となっており、これらを合わせた、《感じる》(76.9%)は、7割台半ばとなっている。一方、「どちらかというと感じない」(13.7%)、「感じない」(6.6%)を合わせた、《感じない》(20.3%)は、2割となっている。過去の調査と比べると大きな差はみられない。(図表16-1)

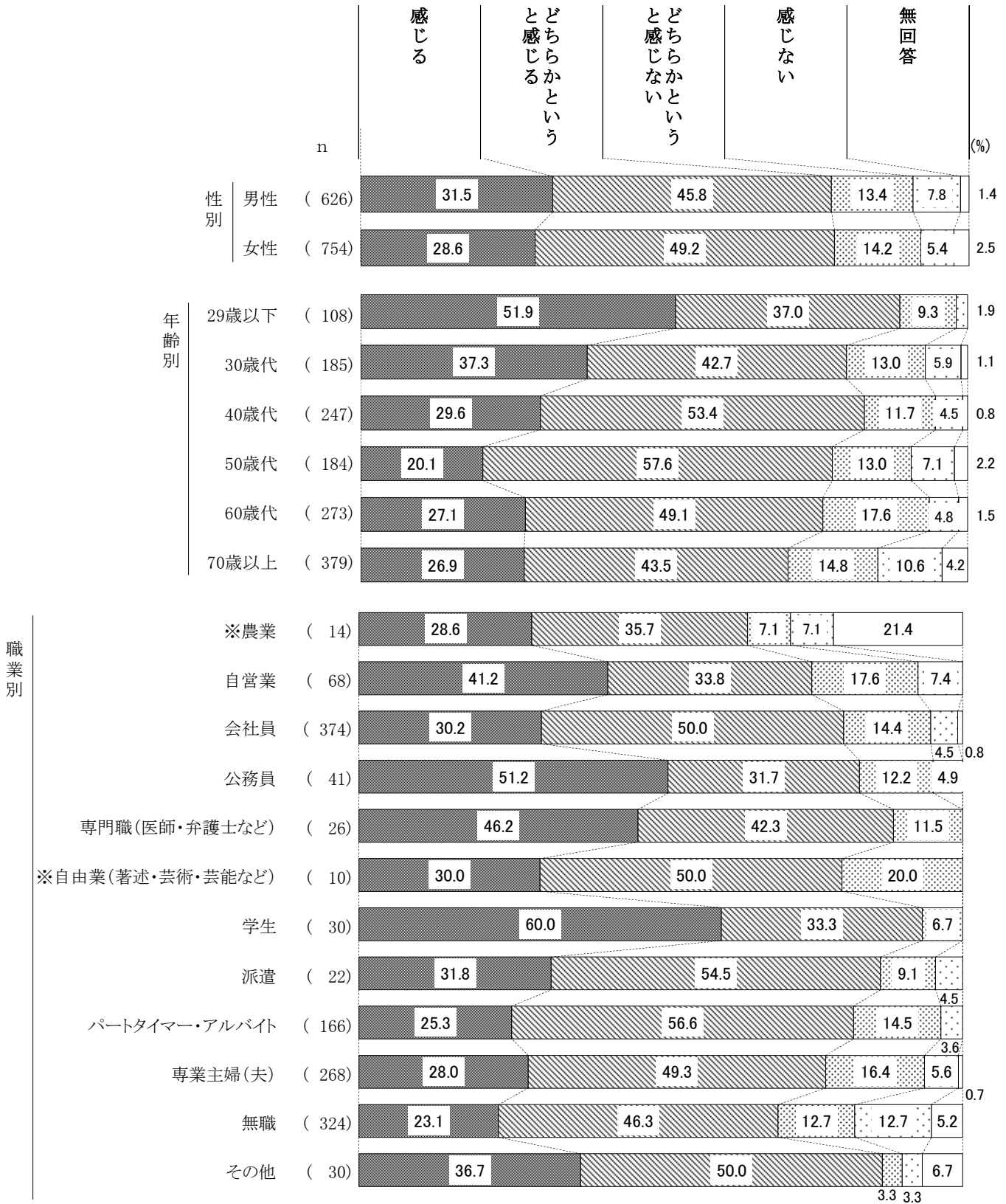
【性別・年齢別・職業別】

性別でみると、男女で大きな差はみられない。

年齢別でみると、《感じる》は、29歳以下で約9割と最も高く、次いで、40歳代で8割台半ばとなっている。一方、《感じない》は、70歳以上で2割台半ばとなっている。

職業別でみると、《感じる》は、学生で9割台半ばと最も高く、次いで、専門職が約9割となっている。最も高い学生と最も低い無職を比べると24ポイントの差がある。(図表16-2)

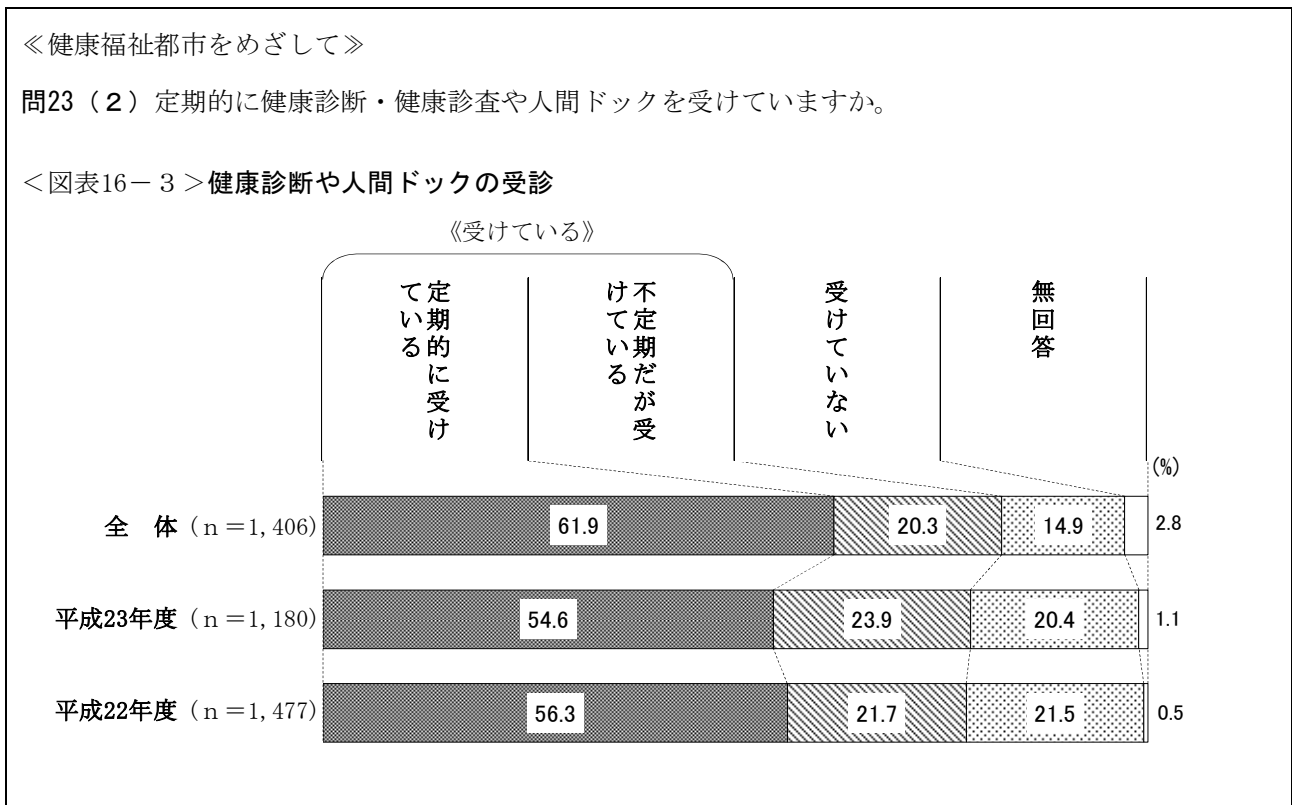
<図表16-2>性別・年齢別・職業別



(注) ※印は、調査数が少ないので参考として図示するに留め、文中では述べていない。

(2) 健康診断や人間ドックの受診

◇《受けている》が8割超え



健康診断や人間ドックの受診は、「定期的に受けている」(61.9%)、「不定期だが受けている」(20.3%)となっており、これらを合わせた、《受けている》(82.2%)は、8割を超えている。一方、「受けていない」(14.9%)は、1割台半ばとなっている。

過去の調査と比べると大きな差はみられない。(図表16-3)

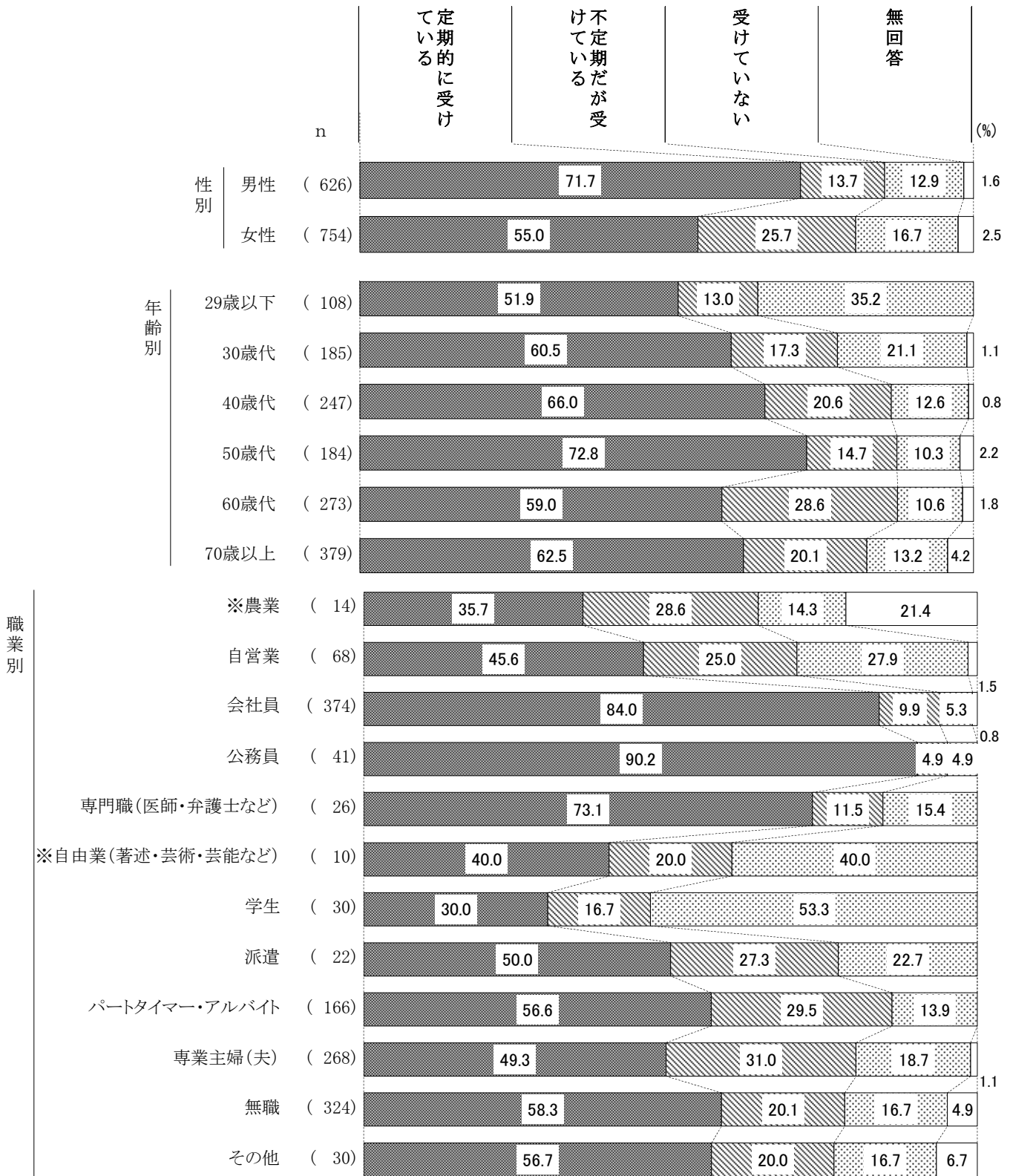
【性別・年齢別・職業別】

性別でみると、《受けている》は、男性の方が女性よりも5ポイント高くなっている。

年齢別でみると、《受けている》は、50歳代、60歳代で約9割と高く、最も高い60歳代と最も低い29歳以下を比べると23ポイントの差がある。

職業別でみると、《受けている》は、公務員で9割台半ばと最も高く、「定期的に受けている」が9割を占めている。「受けていない」は、学生で5割台半ばと最も高く、次いで、自営業で約3割となっている。(図表16-4)

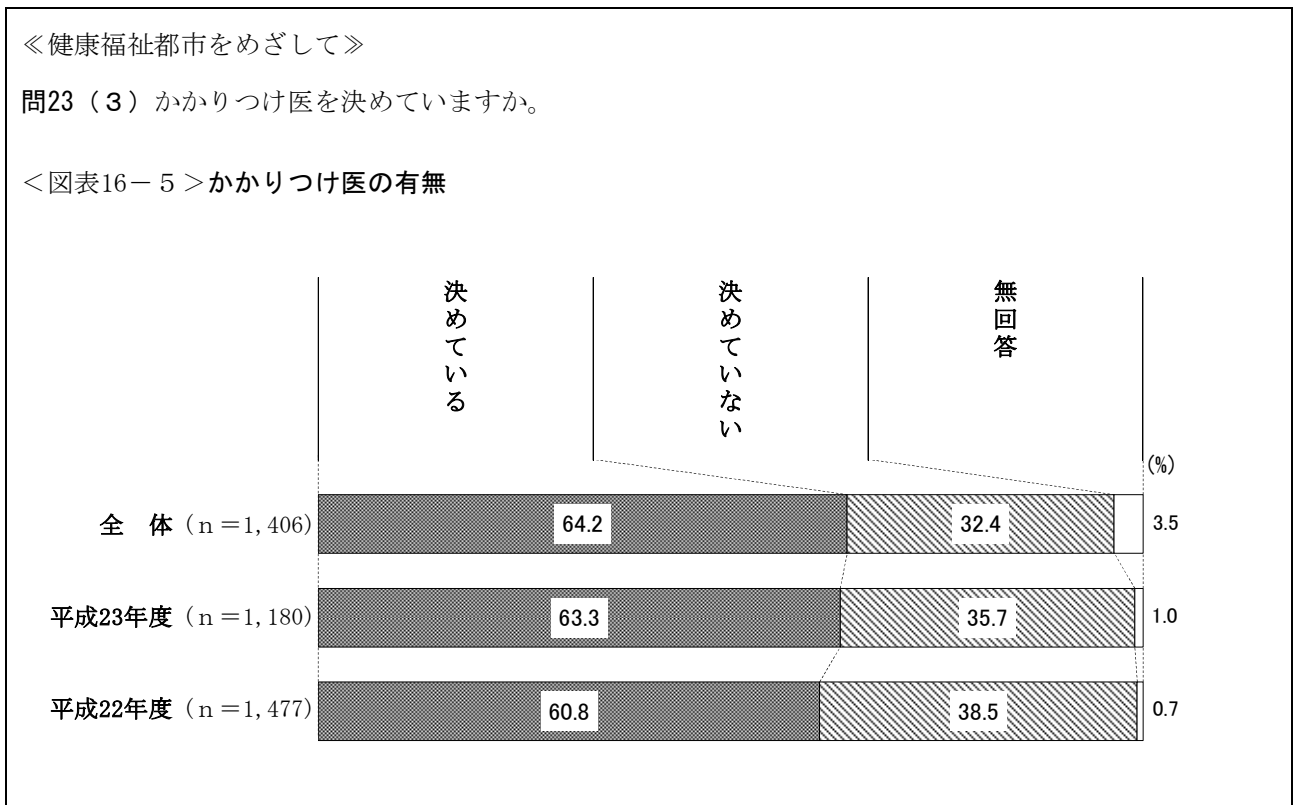
<図表16-4>性別・年齢別・職業別



(注) ※印は、調査数が少ないので参考として図示するに留め、文中では述べていない。

(3) かかりつけ医の有無

◇「決めている」が6割台半ば



かかりつけ医の有無は、「決めている」(64.2%)が6割台半ばとなっている。一方、「決めていない」(32.4%)は3割を超えている。

過去の調査と比べると、「決めていない」は、平成22年度から6ポイント低くなっている。

(図表16-5)

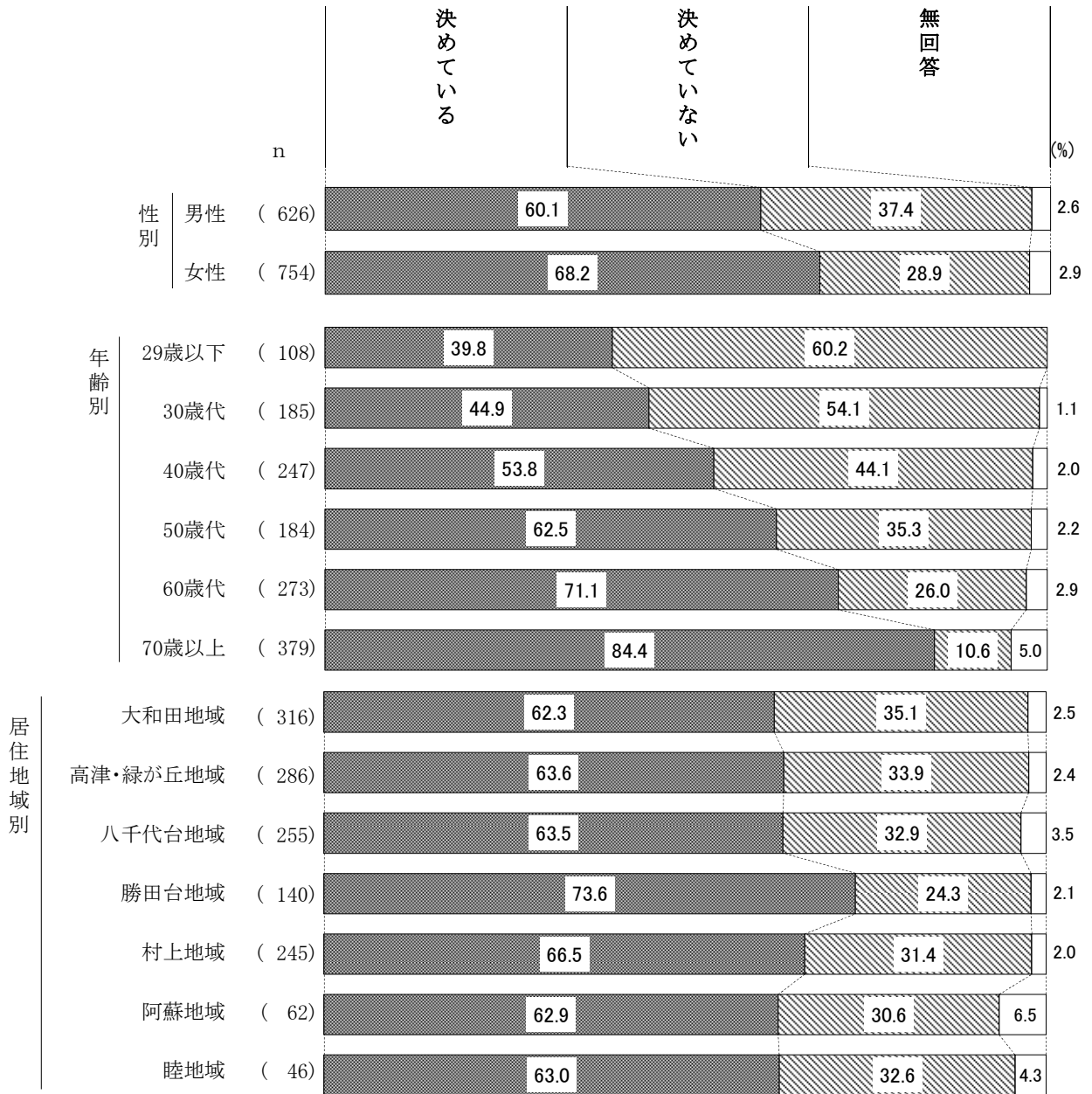
【性別・年齢別・居住地域別】

性別で見ると、「決めている」は、女性の方が男性よりも8ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、「決めている」は、年齢が上がるほど高くなり、70歳以上で8割台半ばと最も高くなっている。「決めていない」は、29歳以下で6割と最も高くなっている。

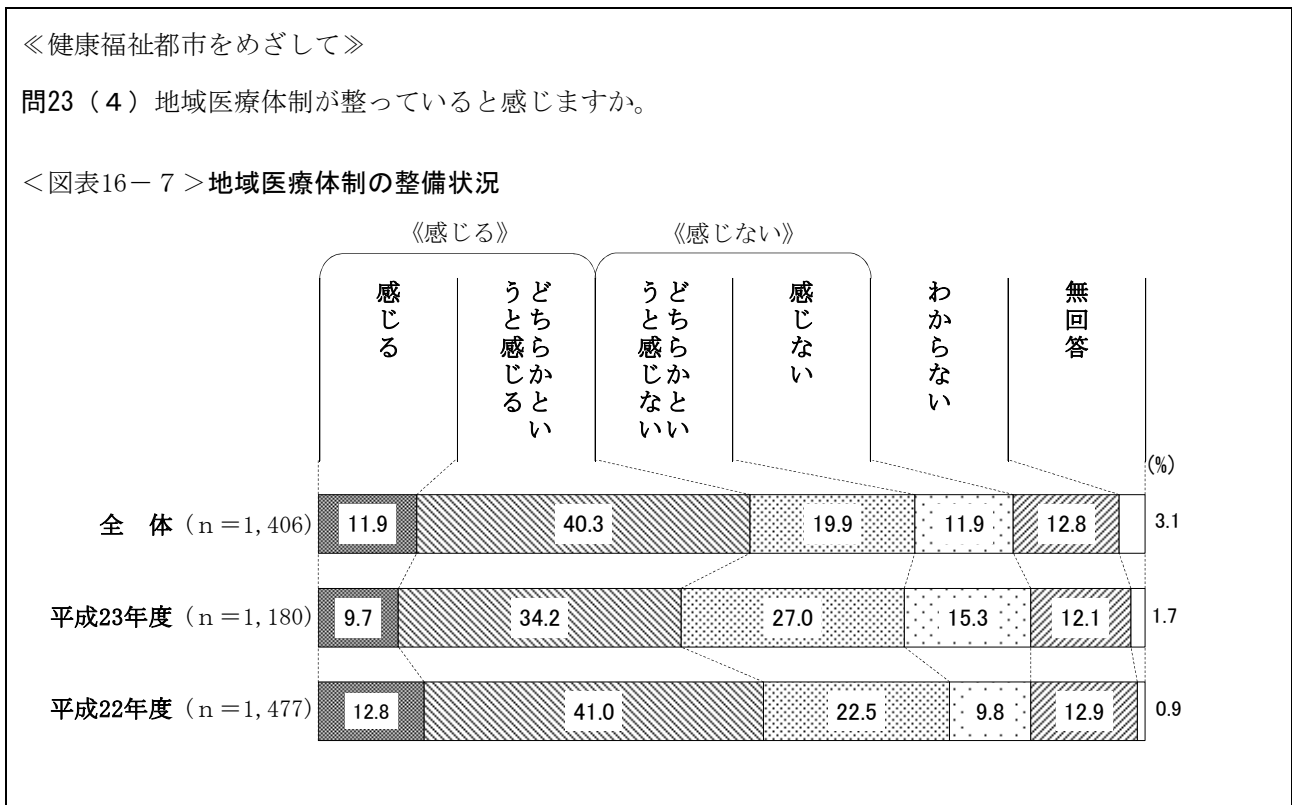
居住地域別で見ると、「決めている」は、勝田台地域で7割台半ばと最も高く、次いで高い村上地域と比べると、7ポイントの差がある。(図表16-6)

<図表16-6>性別・年齢別・居住地域別



(4) 地域医療体制の整備状況

◇《感じる》が5割超え



地域医療体制の整備状況は、「感じる」(11.9%)、「どちらかというを感じる」(40.3%)となっており、これらを合わせた、《感じる》(52.2%)は、5割を超えている。一方、「どちらかというと感じない」(19.9%)、「感じない」(11.9%)を合わせた、《感じない》(31.8%)は、3割を超えている。過去の調査と比べると、《感じる》は、平成23年度から8ポイント高くなっている。(図表16-7)

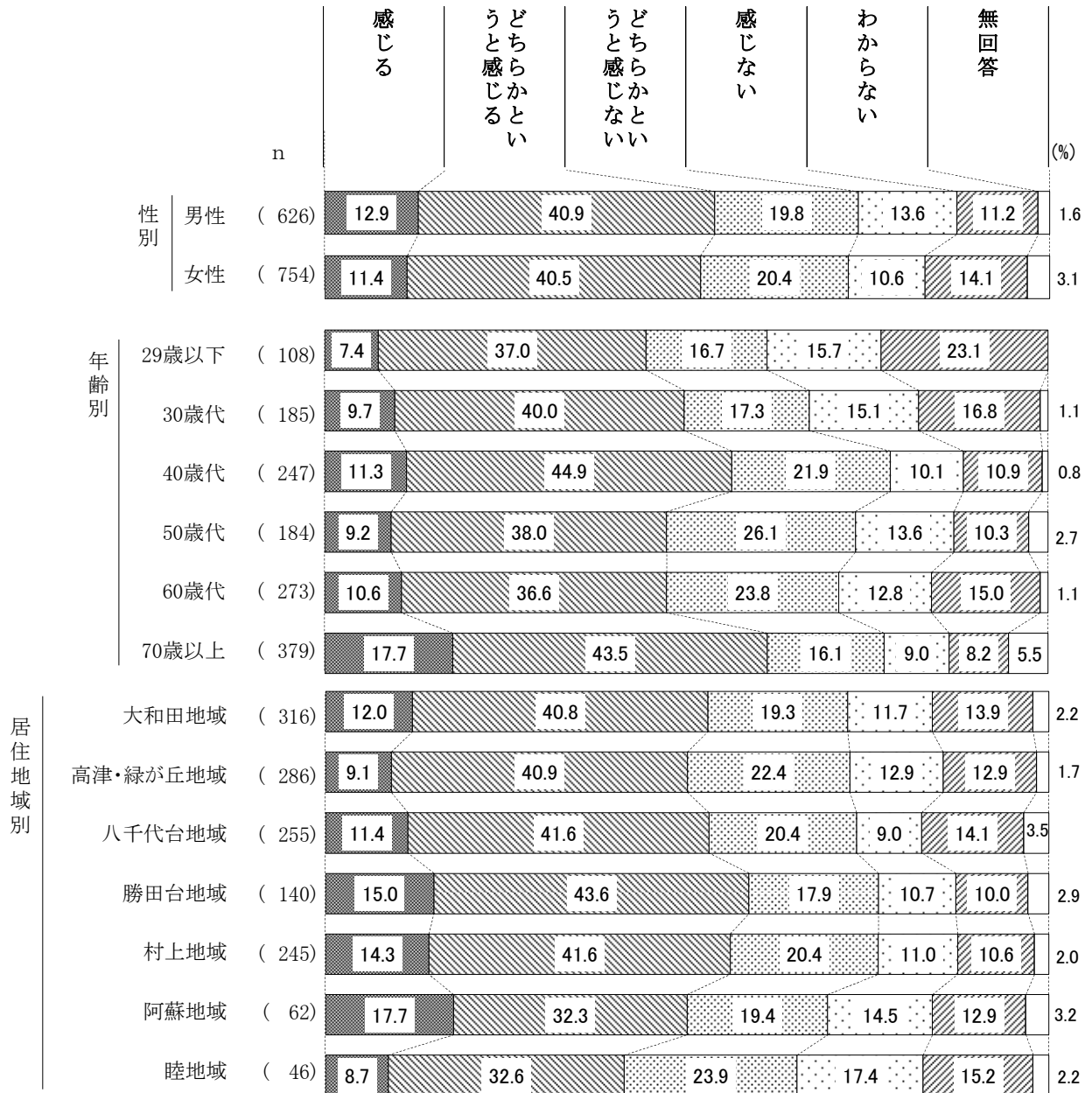
【性別・年齢別・居住地域別】

性別でみると、男女で大きな差はみられない。

年齢別でみると、《感じる》は、70歳以上で6割を超えて最も高く、次いで、40歳代で5割台半ばとなっている。

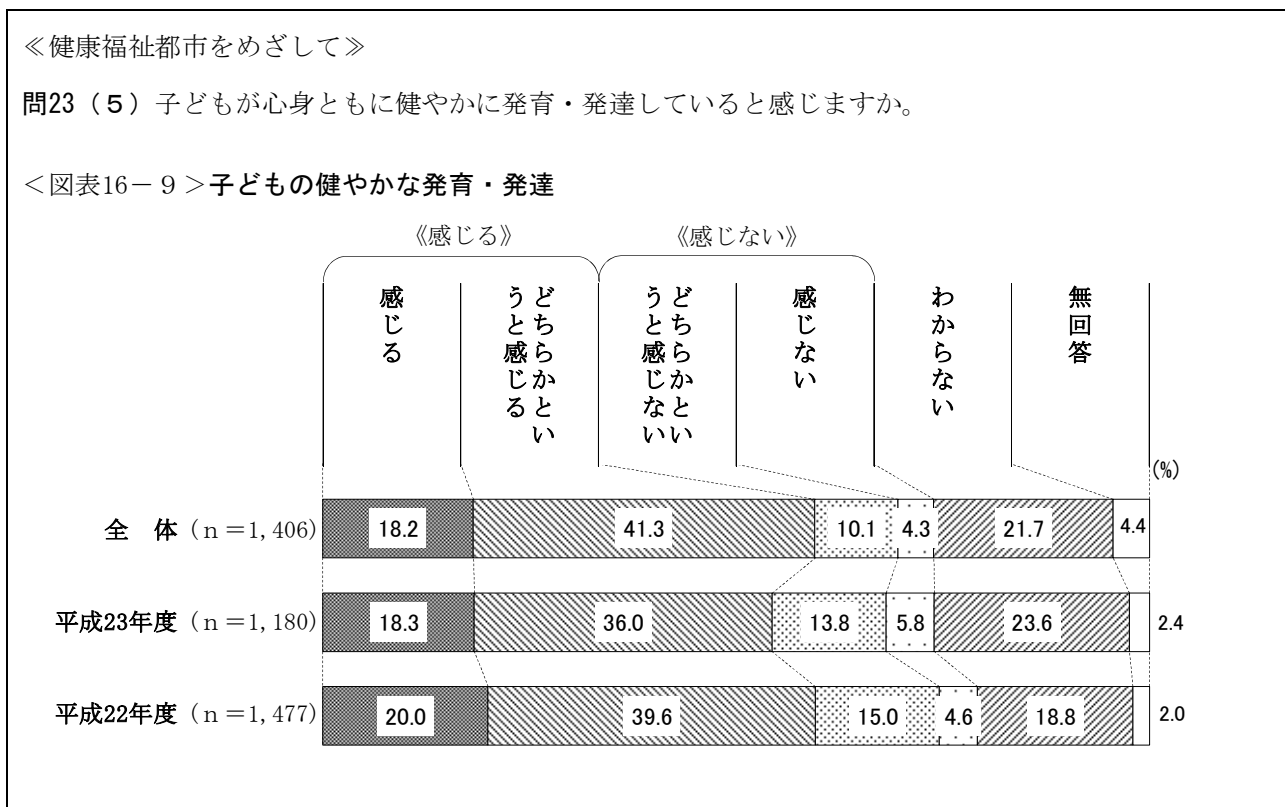
居住地域別でみると、《感じる》は、勝田台地域で約6割と最も高く、次いで、村上地域で5割台半ばとなっている。(図表16-8)

<図表16-8>性別・年齢別・居住地域別



(5) 子どもの健やかな発育・発達

◇《感じる》が約6割



子どもの健やかな発育・発達は、「感じる」(18.2%)、「どちらかというを感じる」(41.3%)となっており、これらを合わせた，《感じる》(59.5%)は、約6割となっている。一方、「どちらかというと感じない」(10.1%)、「感じない」(4.3%)を合わせた，《感じない》(14.4%)は、1割台半ばとなっている。

過去の調査と比べると，《感じる》は、平成23年度から5ポイント高くなっている。(図表16-9)

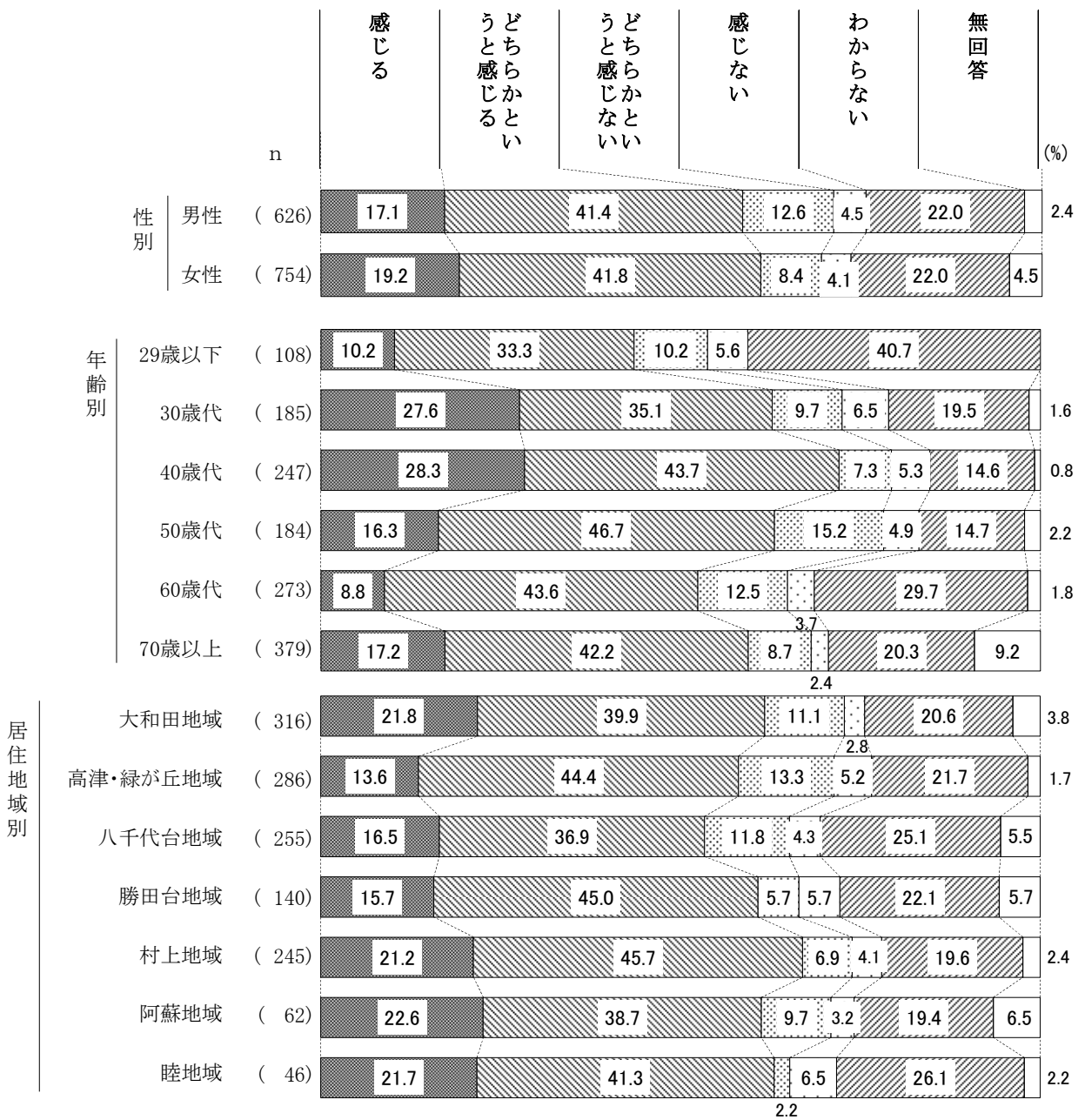
【性別・年齢別・居住地域別】

性別で見ると，《感じない》は、男性の方が女性よりも5ポイント高くなっている。

年齢別で見ると，《感じる》は、40歳代で7割を超えて最も高く、次いで、30歳代、50歳代で6割を超えている。

居住地域別で見ると，《感じる》は、村上地域で6割台半ばと最も高く、最も低い八千代台地域と比べると14ポイントの差がある。(図表16-10)

<図表16-10>性別・年齢別・居住地域別



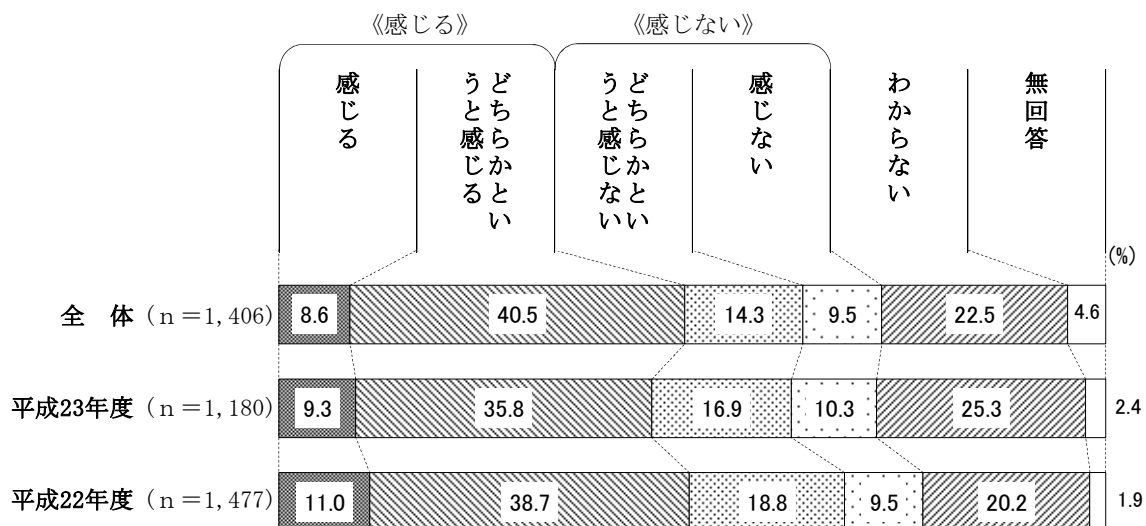
(6) 子育てしやすいまち

◇《感じる》が約5割

《健康福祉都市をめざして》

問23 (6) 子育てしやすいまちと感じていますか。

<図表16-11> 子育てしやすいまち



子育てしやすいまちは、「感じる」(8.6%)、「どちらかというと感じる」(40.5%)となっており、これらを合わせた、《感じる》(49.1%)は、約5割となっている。一方、「どちらかというと感じない」(14.3%)、「感じない」(9.5%)を合わせた、《感じない》(23.8%)は、2割台半ばとなっている。過去の調査と比べると、《感じない》は、平成22年度から5ポイント低くなっている。(図表16-11)

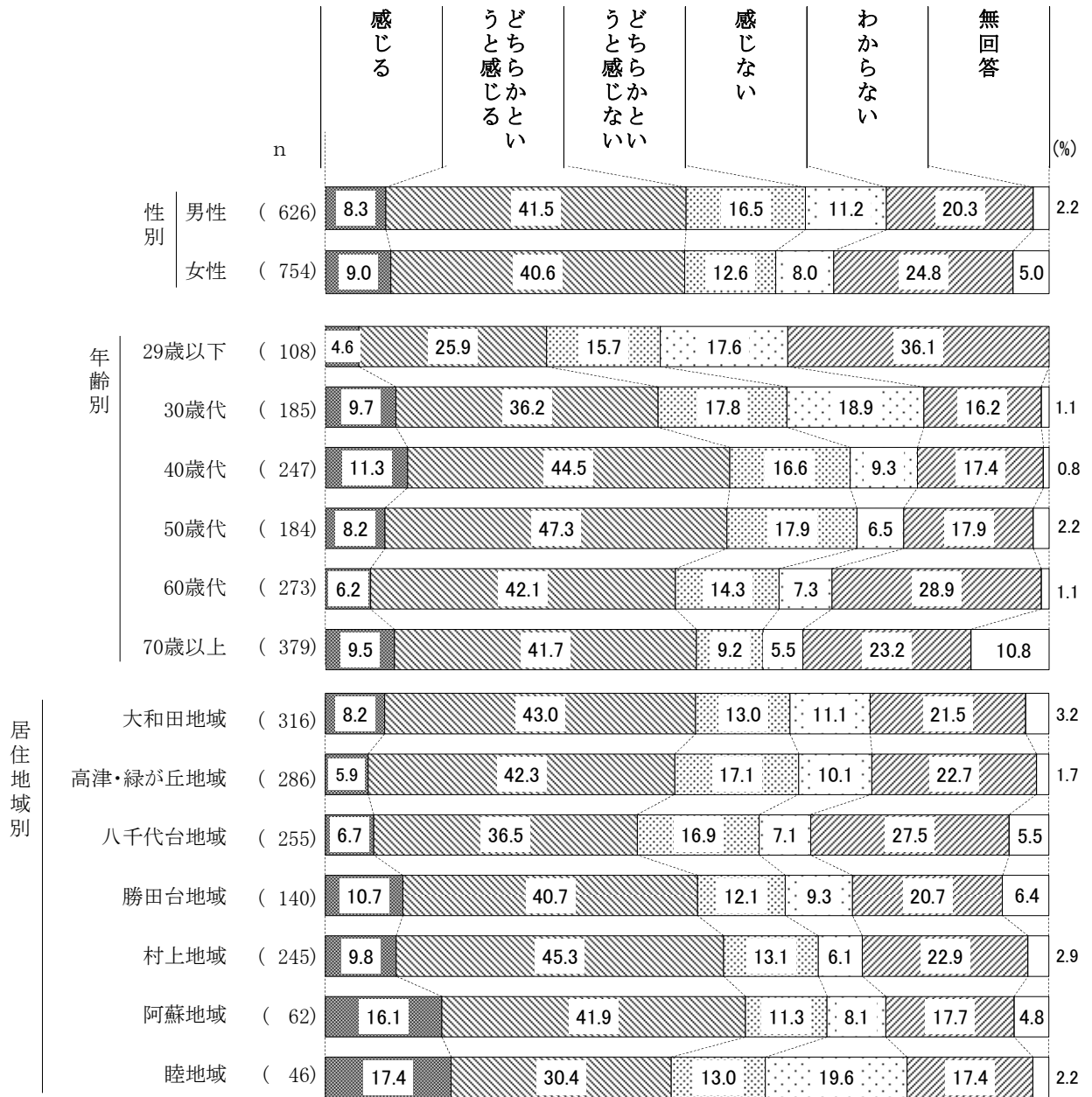
【性別・年齢別・居住地域別】

性別でみると、《感じない》は、男性の方が女性よりも7ポイント高くなっている。

年齢別でみると、《感じる》は、40歳代、50歳代で5割台半ばと最も高くなっている。

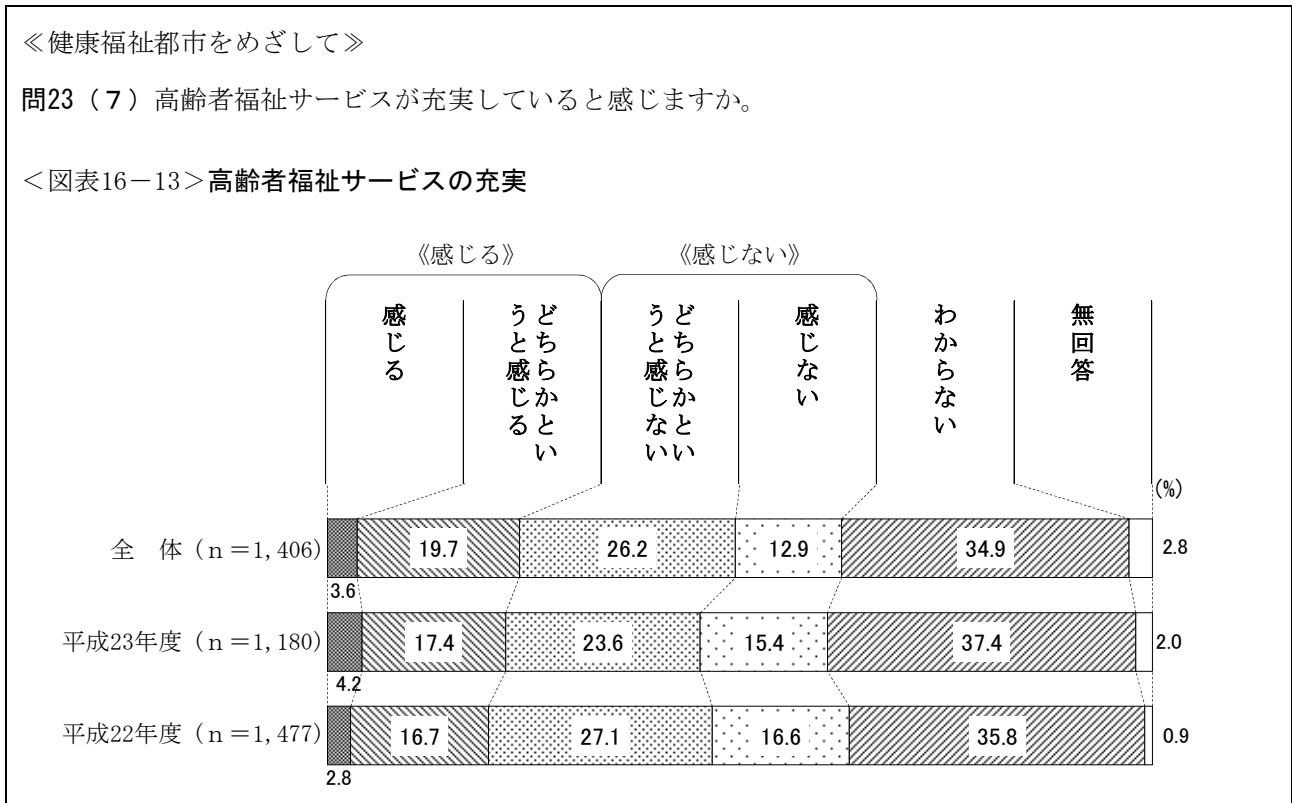
居住地域別でみると、《感じる》は、阿蘇地域で約6割と最も高く、最も低い八千代台地域と比べると15ポイントの差がある。(図表16-12)

<図表16-12>性別・年齢別・居住地域別



(7) 高齢者福祉サービスの充実

◇《感じない》が約4割



高齢者福祉サービスの充実度は、「感じる」(3.6%)、「どちらかというと感じる」(19.7%)となっており、これらを合わせた、《感じる》(23.3%)は、2割台半ばとなっている。一方、「どちらかというと感じない」(26.2%)、「感じない」(12.9%)を合わせた、《感じない》(39.1%)は、約4割となっている。

過去の調査と比べると、《感じない》は、平成22年度から5ポイント低くなっている。(図表16-13)

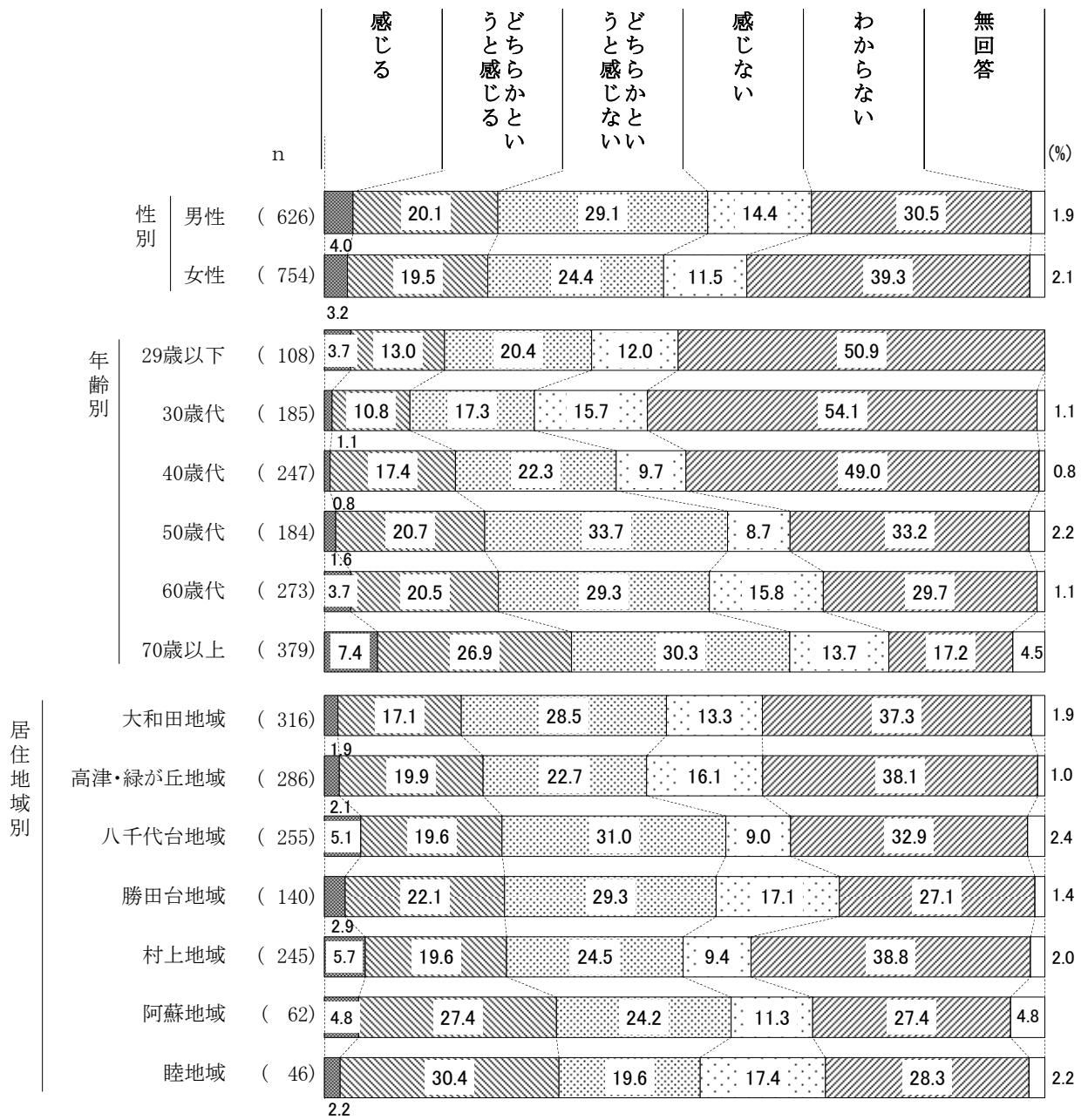
【性別・年齢別・居住地域別】

性別で見ると、《感じない》は、男性の方が女性よりも8ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、《感じる》は、70歳以上で3割台半ばと最も高くなっている。一方、《感じない》は、60歳代で4割台半ばと最も高くなっている。

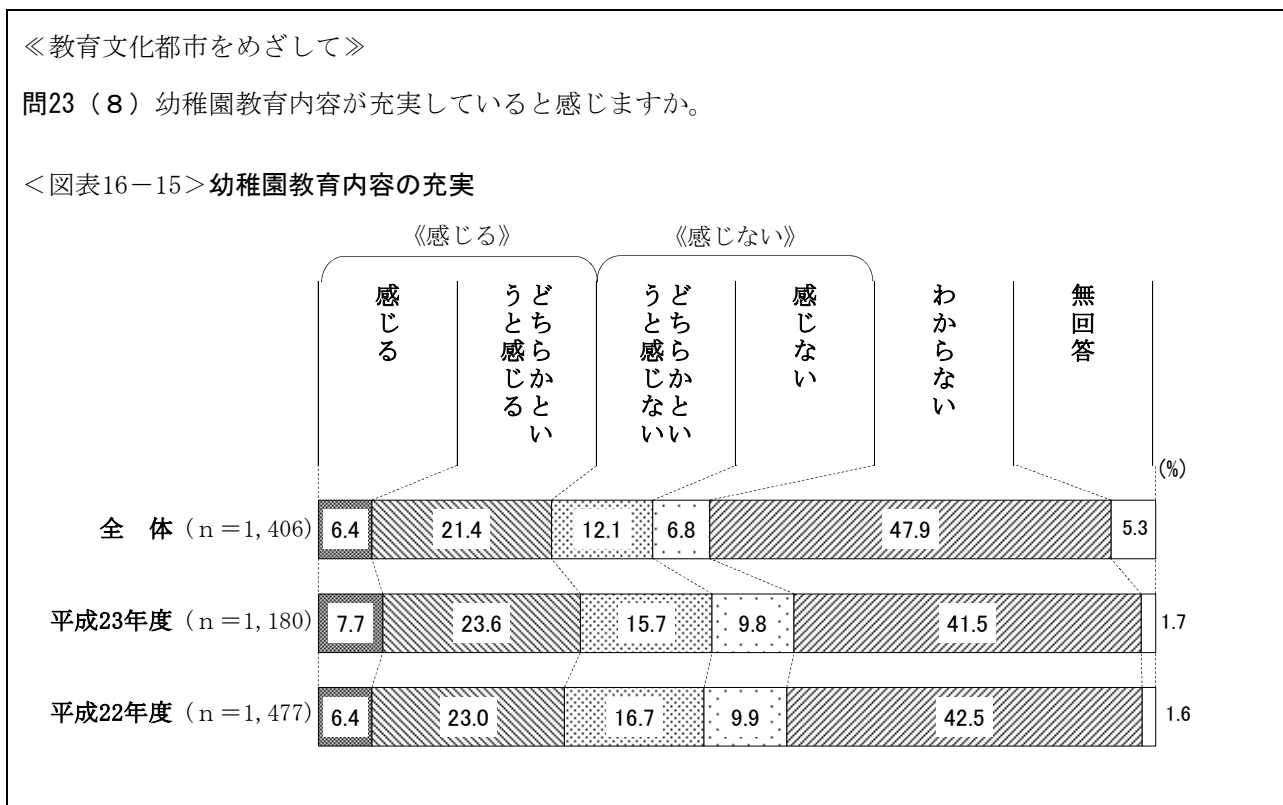
居住地域別で見ると、《感じる》は、睦地域、阿蘇地域で3割を超えて高くなっている。一方、《感じない》は、勝田台地域が4割台半ばで最も高くなっている。(図表16-14)

<図表16-14>性別・年齢別・居住地域別



(8) 幼稚園教育内容の充実

◇《感じる》が約3割



幼稚園教育内容の充実は、「感じる」(6.4%)、「どちらかというと感じる」(21.4%)となっており、これらを合わせた、《感じる》(27.8%)は、約3割となっている。一方、「どちらかというと感じない」(12.1%)、「感じない」(6.8%)を合わせた、《感じない》(18.9%)は、約2割となっている。

過去の調査と比べると、《感じない》は、平成23年度から7ポイント、平成22年度から8ポイント低くなっている。(図表16-15)

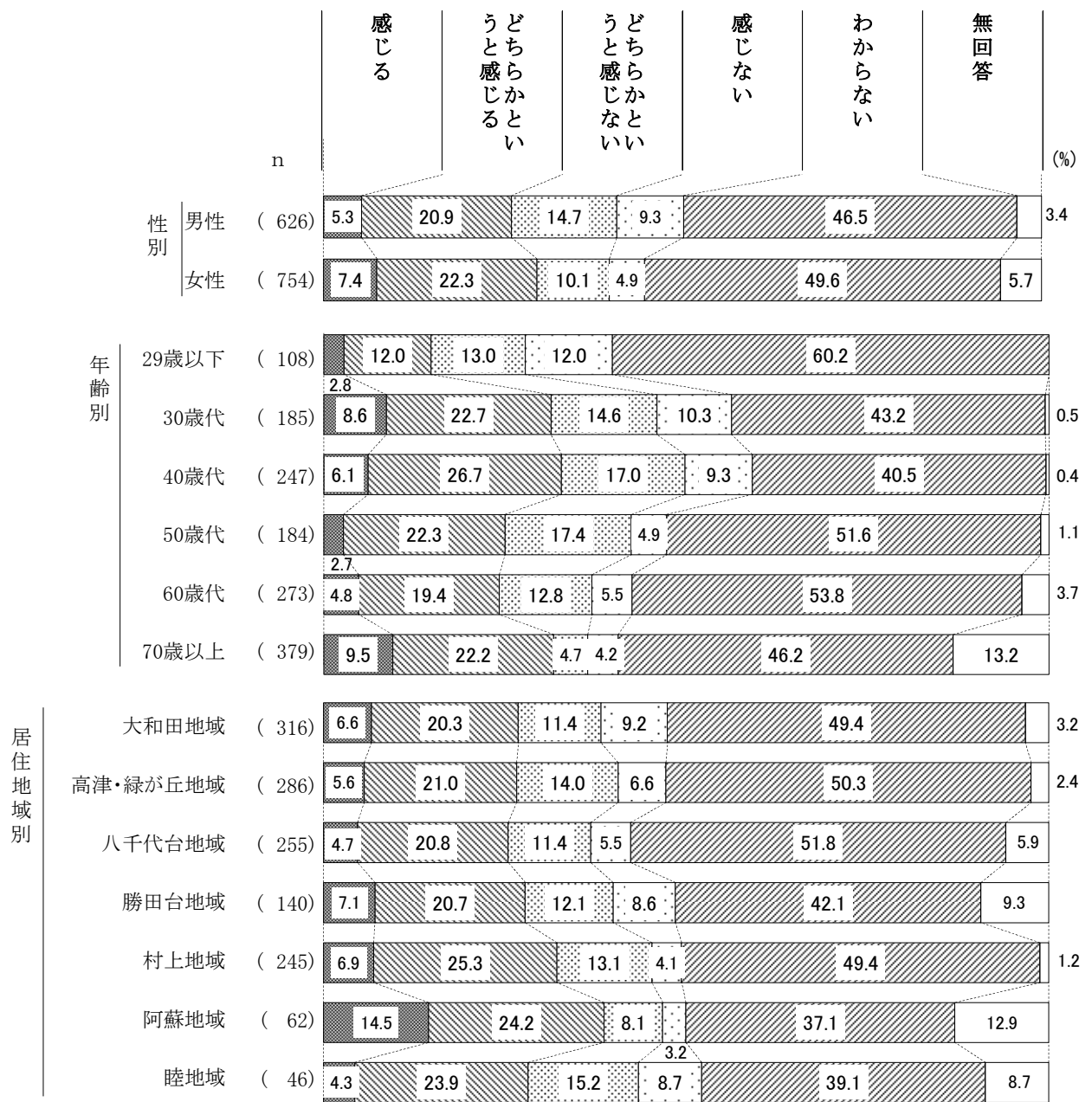
【性別・年齢別・居住地域別】

性別でみると、《感じない》は、男性の方が女性よりも9ポイント高くなっている。

年齢別でみると、《感じる》は、30歳代、40歳代、70歳代で3割を超えて高く、最も高い40歳代と最も低い29歳以下を比べると18ポイント高くなっている。

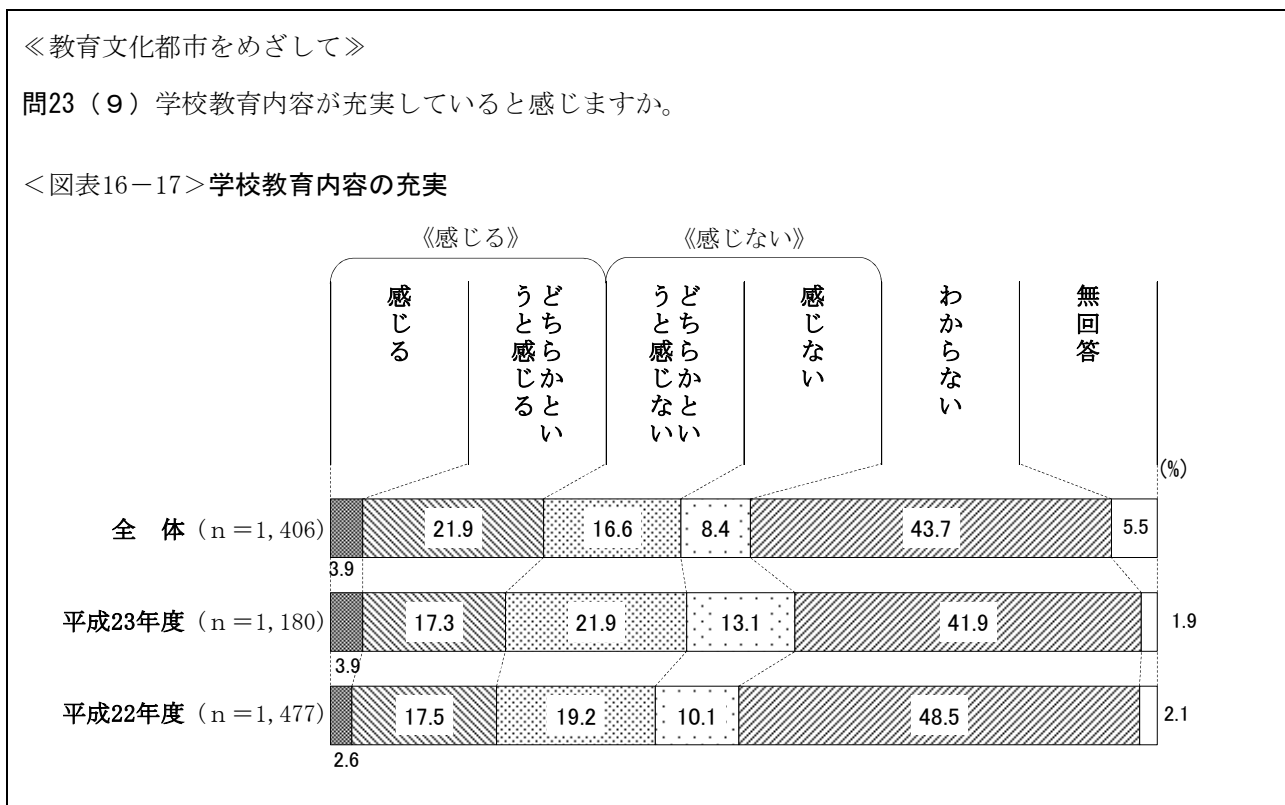
居住地域別でみると、《感じる》は、阿蘇地域で約4割と最も高く、次いで、村上地域で3割を超えている。(図表16-16)

<図表16-16>性別・年齢別・居住地域別



(9) 学校教育内容の充実

◇《感じる》、《感じない》ともに2割台半ば



学校教育内容の充実は、「感じる」(3.9%)、「どちらかというと感じる」(21.9%)となっており、これらを合わせた、《感じる》(25.8%)は、2割台半ばとなっている。一方、「どちらかというと感じない」(16.6%)、「感じない」(8.4%)を合わせた、《感じない》(25.0%)は、2割台半ばとなっている。

過去の調査と比べると、《感じる》は、平成23年度から5ポイント、平成22年度から6ポイント高くなっている。(図表16-17)

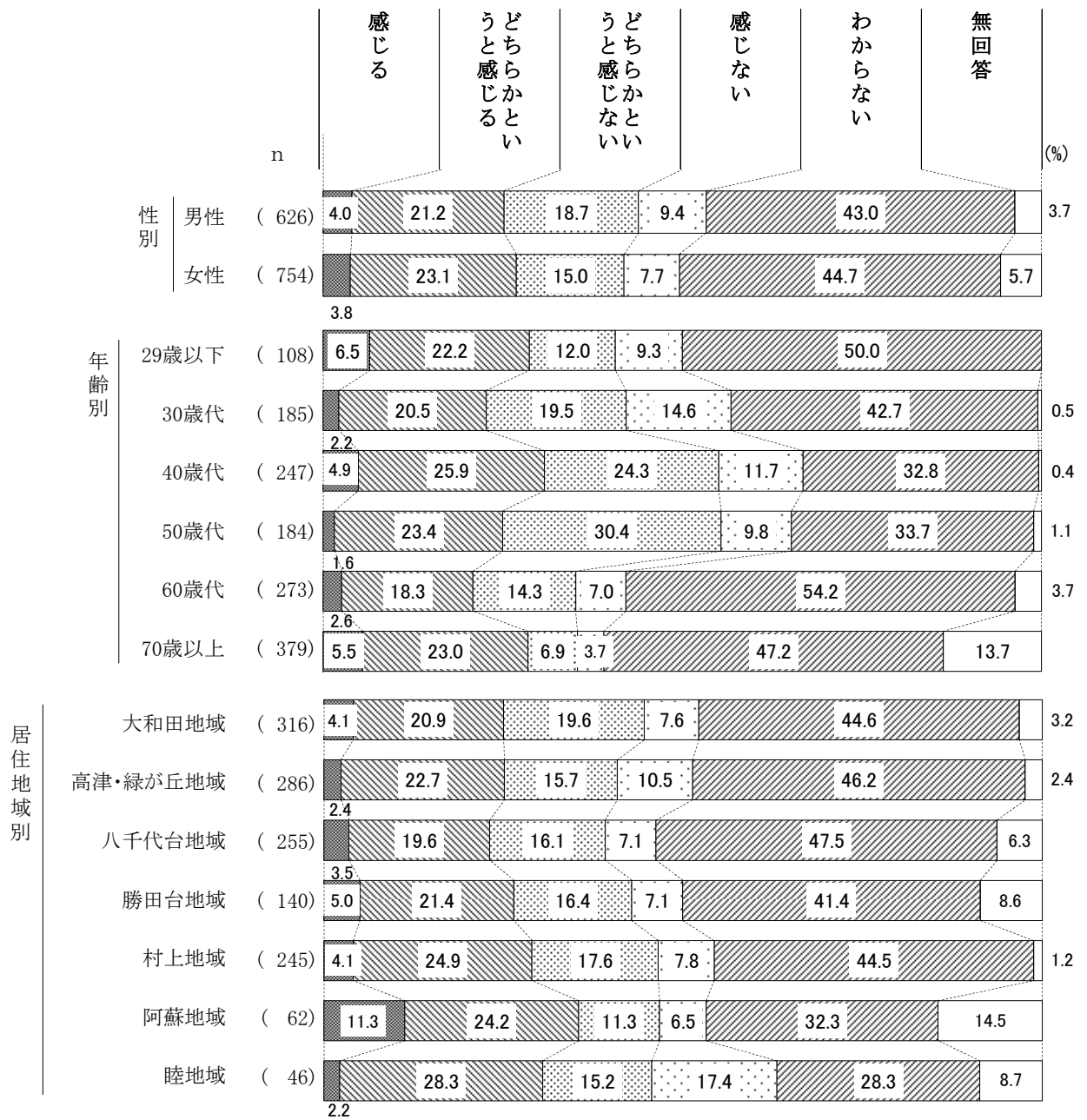
【性別・年齢別・居住地域別】

性別で見ると、《感じない》は、男性の方が女性よりも5ポイント高くなっている。男女で大きな差はみられない。

年齢別で見ると、《感じる》は、40歳代で3割と最も高く、次いで、70歳以上で約3割となっている。一方、《感じない》は、50歳代で4割と最も高く、最も低い70歳以上と比べると30ポイントの差がある。

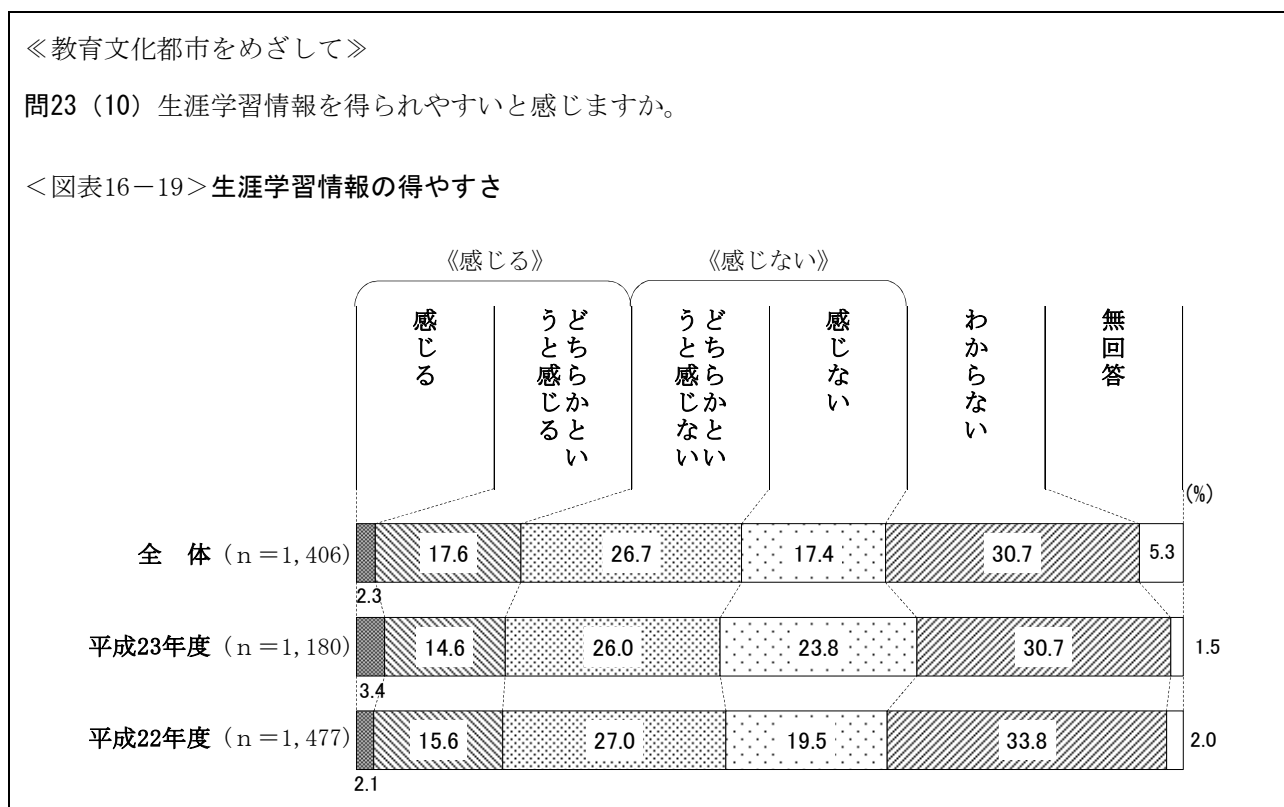
居住地域別で見ると、《感じる》は、阿蘇地域で3割台半ばと最も高く、次いで、睦地域で3割となっている。一方、《感じない》は、睦地域で3割を超えて最も高く、次いで、大和田地域で約3割となっている。(図表16-18)

<図表16-18>性別・年齢別・居住地域別



(10) 生涯学習情報の得やすさ

◇《感じない》が4割台半ば



生涯学習情報の得やすさは、「感じる」(2.3%)、「どちらかというと感じる」(17.6%)となっており、これらを合わせた、《感じる》(19.9%)は、約2割となっている。一方、「どちらかというと感じない」(26.7%)、「感じない」(17.4%)を合わせた、《感じない》(44.1%)は、4割台半ばとなっている。

過去の調査と比べると、《感じない》は、平成23年度から6ポイント低くなっている。(図表16-19)

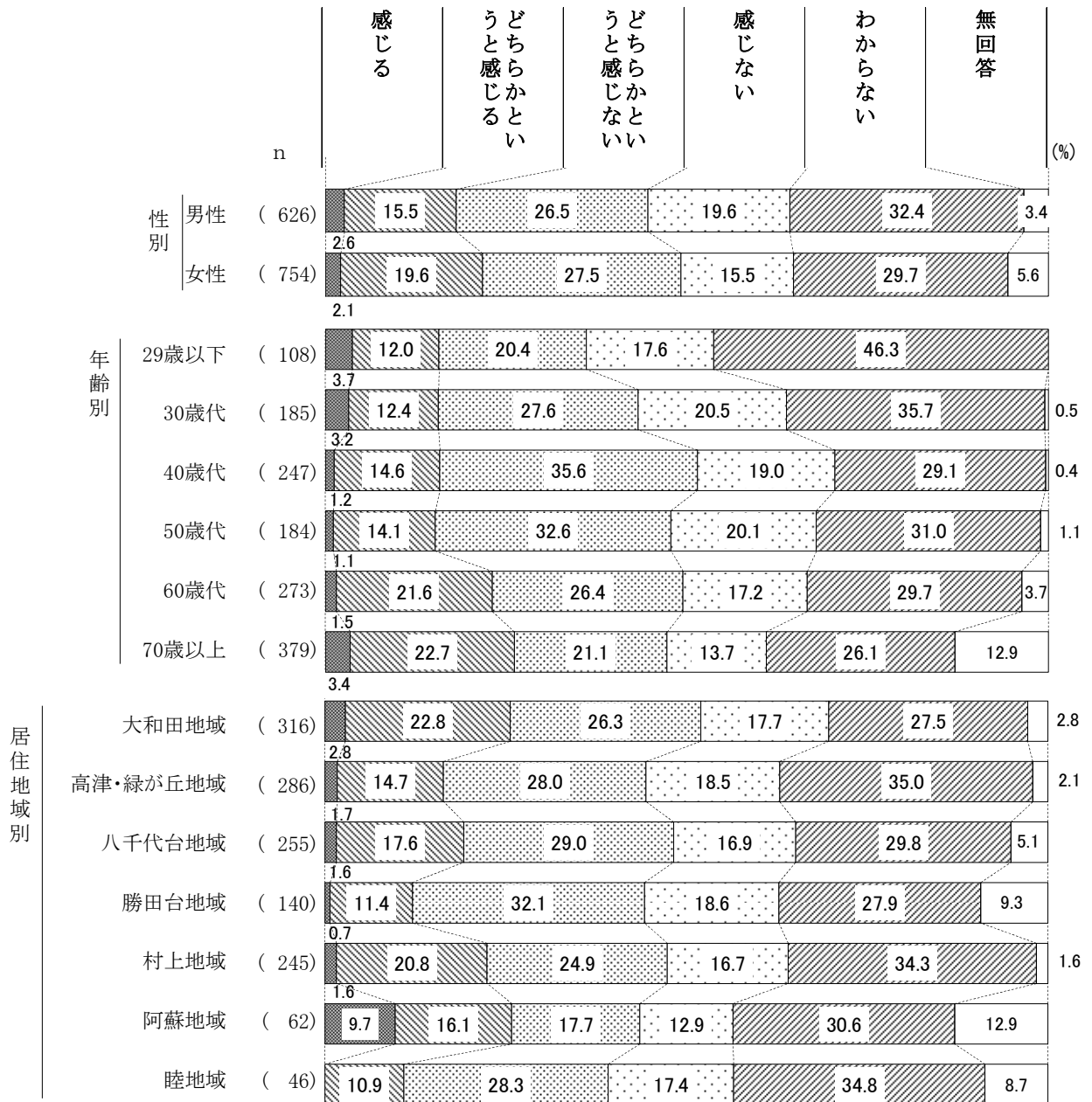
【性別・年齢別・居住地域別】

性別で見ると、男女で大きな差はみられない。

年齢別で見ると、《感じる》は、70歳以上で2割台半ばと最も高くなっている。一方、《感じない》は、40歳代、50歳代で5割を超えている。

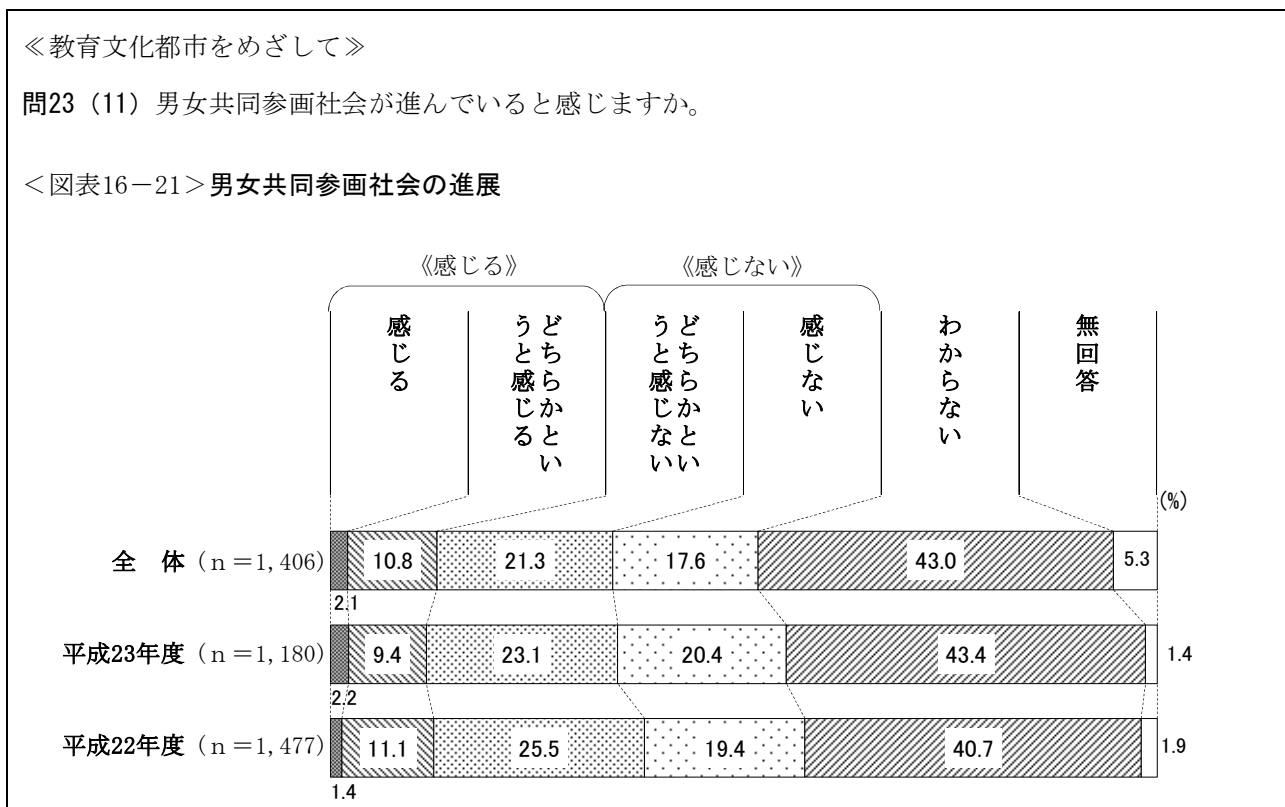
居住地域別で見ると、《感じない》は、勝田台地域で5割と最も高く、次いで、高津・緑が丘地域、八千代台地域、睦地域で4割台半ばとなっている。(図表16-20)

<図表16-20>性別・年齢別・居住地域別



(11) 男女共同参画社会の進展

◇《感じない》が約4割



男女共同参画社会の進展は、「感じる」(2.1%),「どちらかというと感じる」(10.8%)となっており、これらを合わせた、《感じる》(12.9%)は、1割を超えている。一方、「どちらかというと感じない」(21.3%),「感じない」(17.6%)を合わせた、《感じない》(38.9%)は、約4割となっている。

過去の調査と比べると、《感じない》は、平成23年度から5ポイント、平成22年度から6ポイント低くなっている。(図表16-21)

【性別・年齢別・職業別】

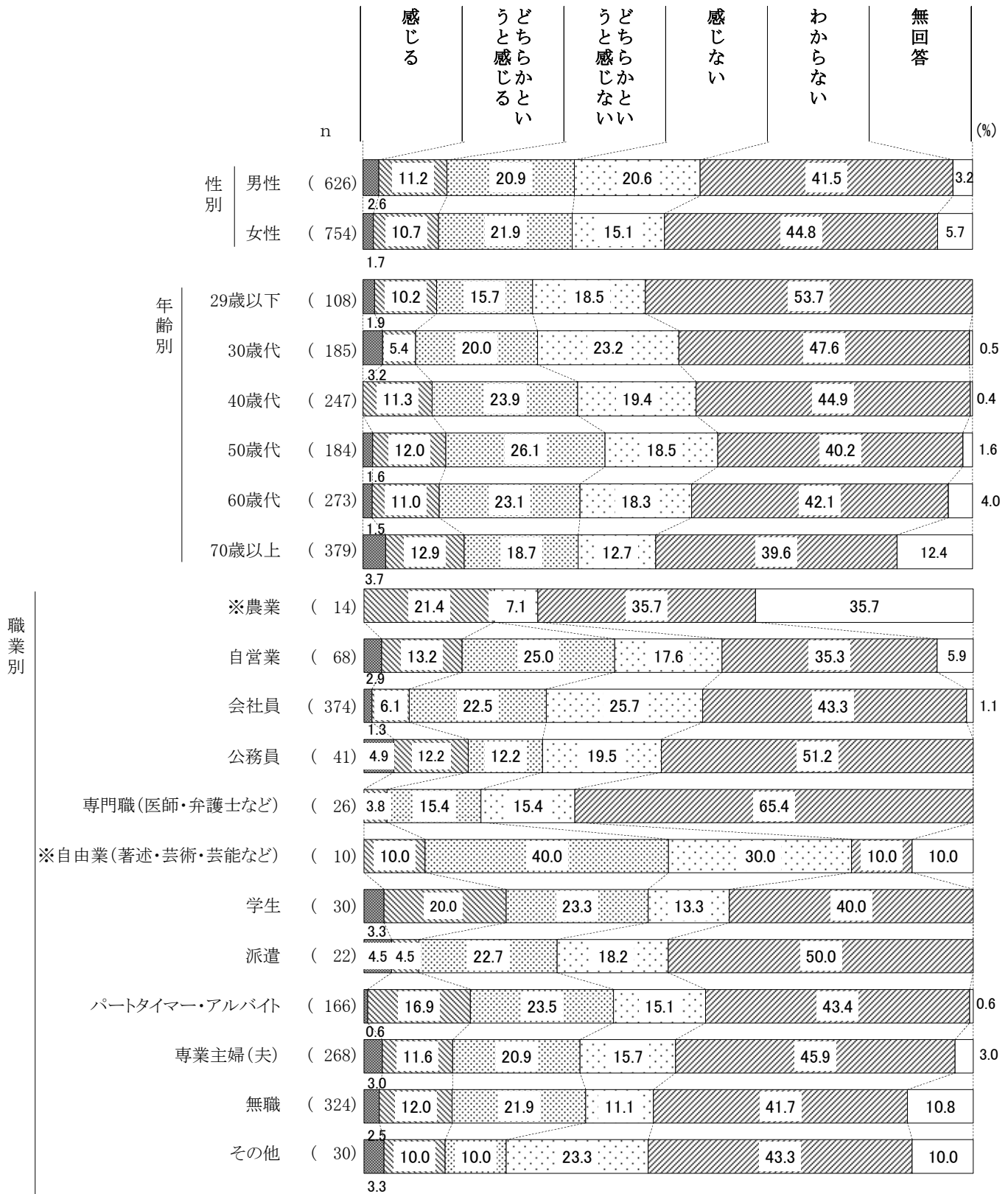
性別で見ると、《感じない》は、男性の方が女性よりも5ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、《感じない》は、30～50歳代で4割台半ばと高くなっている。

職業別で見ると、《感じない》は、会社員で約5割と最も高く、次いで、自営業で4割を超えている。

(図表16-22)

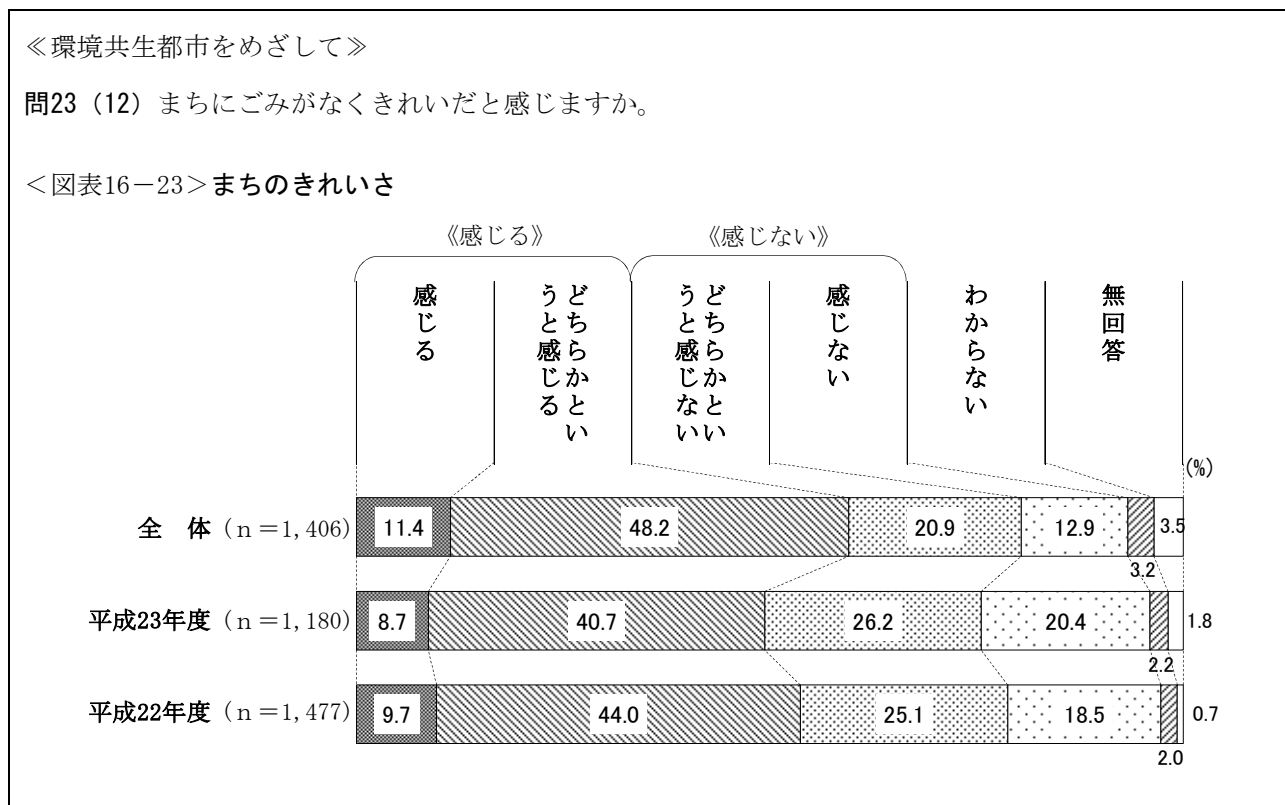
<図表16-22>性別・年齢別・職業別



(注) ※印は、調査数が少ないので参考として図示するに留め、文中では述べていない。

(12) まちのきれいさ

◇《感じる》が約6割



まちのきれいさは、「感じる」(11.4%)、「どちらかというと感じる」(48.2%)となっており、これらを合わせた、《感じる》(59.6%)は、約6割となっている。一方、「どちらかというと感じない」(20.9%)、「感じない」(12.9%)を合わせた、《感じない》(33.8%)は、3割台半ばとなっている。過去の調査と比べると、《感じる》は、平成23年度から10ポイント高くなっている。(図表16-23)

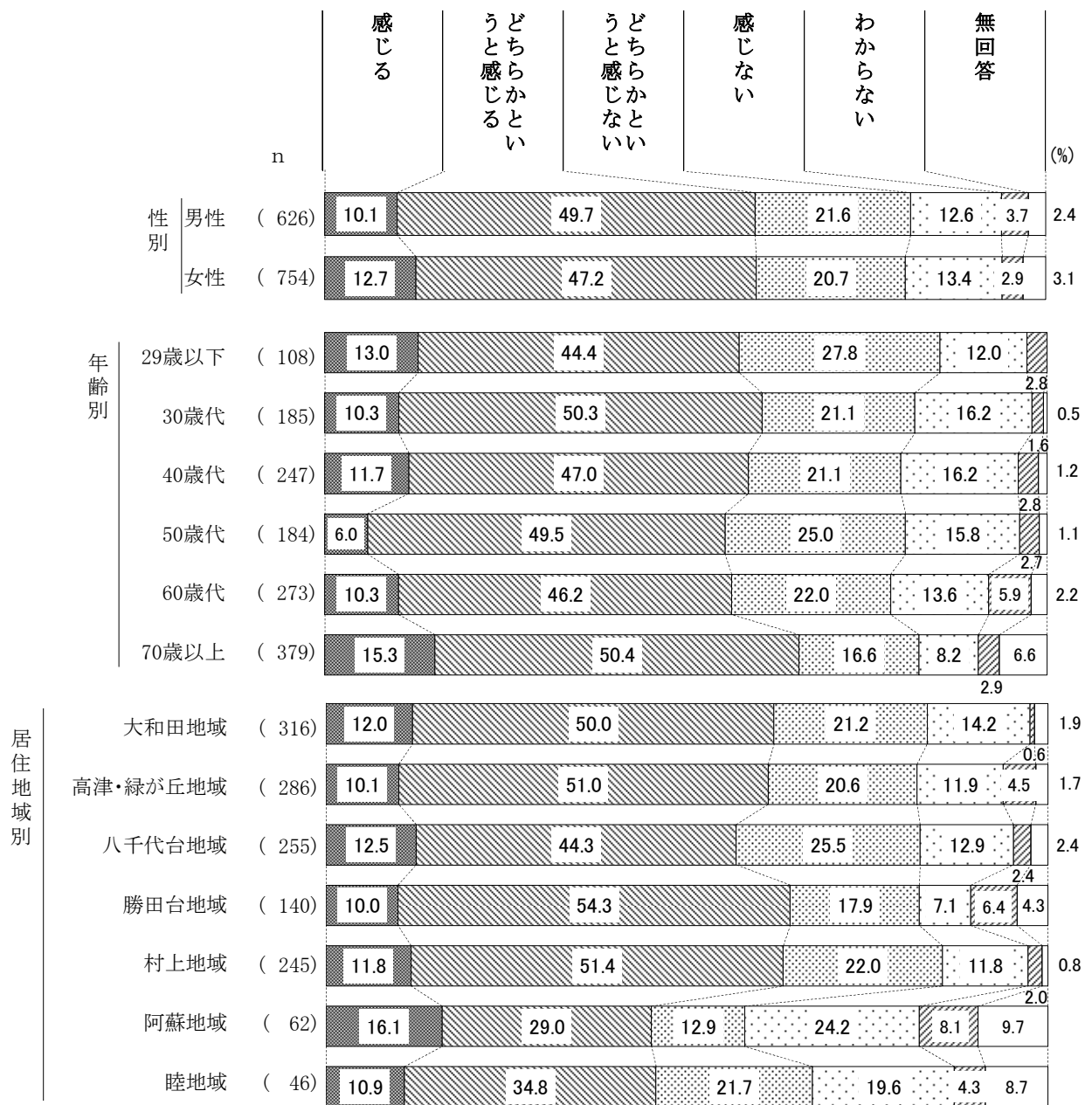
【性別・年齢別・居住地域別】

性別でみると、男女で大きな差はみられない。

年齢別でみると、《感じる》は、70歳以上で6割台半ばと最も高く、次いで、30歳代で6割となっている。一方、《感じない》は、50歳代で4割と最も高くなっている。

居住地域別でみると、《感じる》は、勝田台地域、村上地域で6割台半ばと高くなっている。阿蘇地域、睦地域は、4割台半ばと低くなっている。(図表16-24)

<図表16-24>性別・年齢別・居住地域別



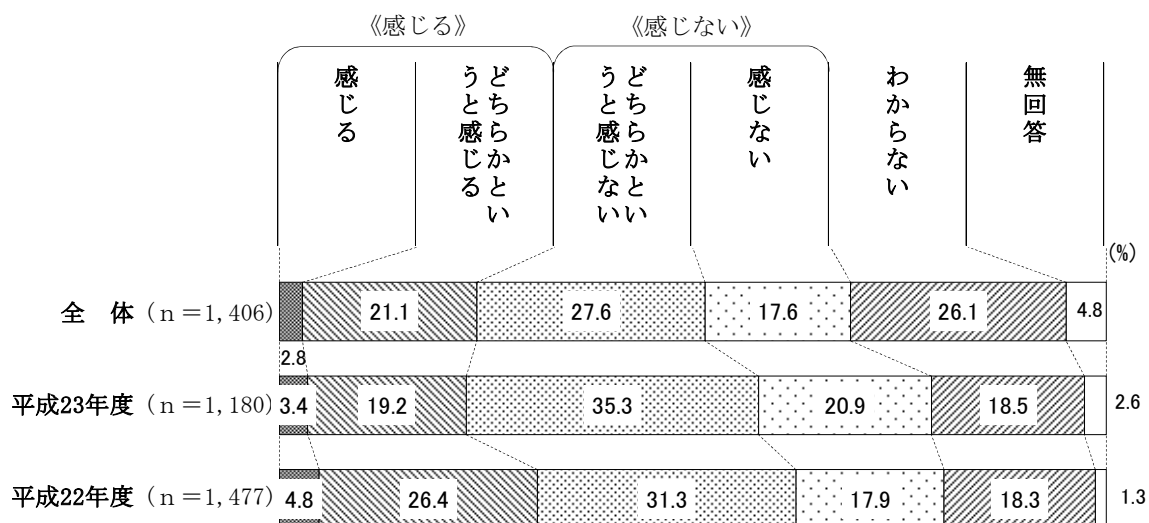
(13) 消費生活情報の得やすさ

◇《感じない》が4割台半ば

《環境共生都市をめざして》

問23 (13) 消費生活情報の提供が適切に行われていると感じますか。

<図表16-25> 消費生活情報の提供



消費生活情報の得やすさは、「感じる」(2.8%)、「どちらかというと感じる」(21.1%)となっており、これらを合わせた、《感じる》(23.9%)は、2割台半ばとなっている。一方、「どちらかというと感じない」(27.6%)、「感じない」(17.6%)を合わせた、《感じない》(45.2%)は、4割台半ばとなっている。

過去の調査と比べると、《感じない》は、平成23年度から11ポイント低くなっている。

(図表16-25)

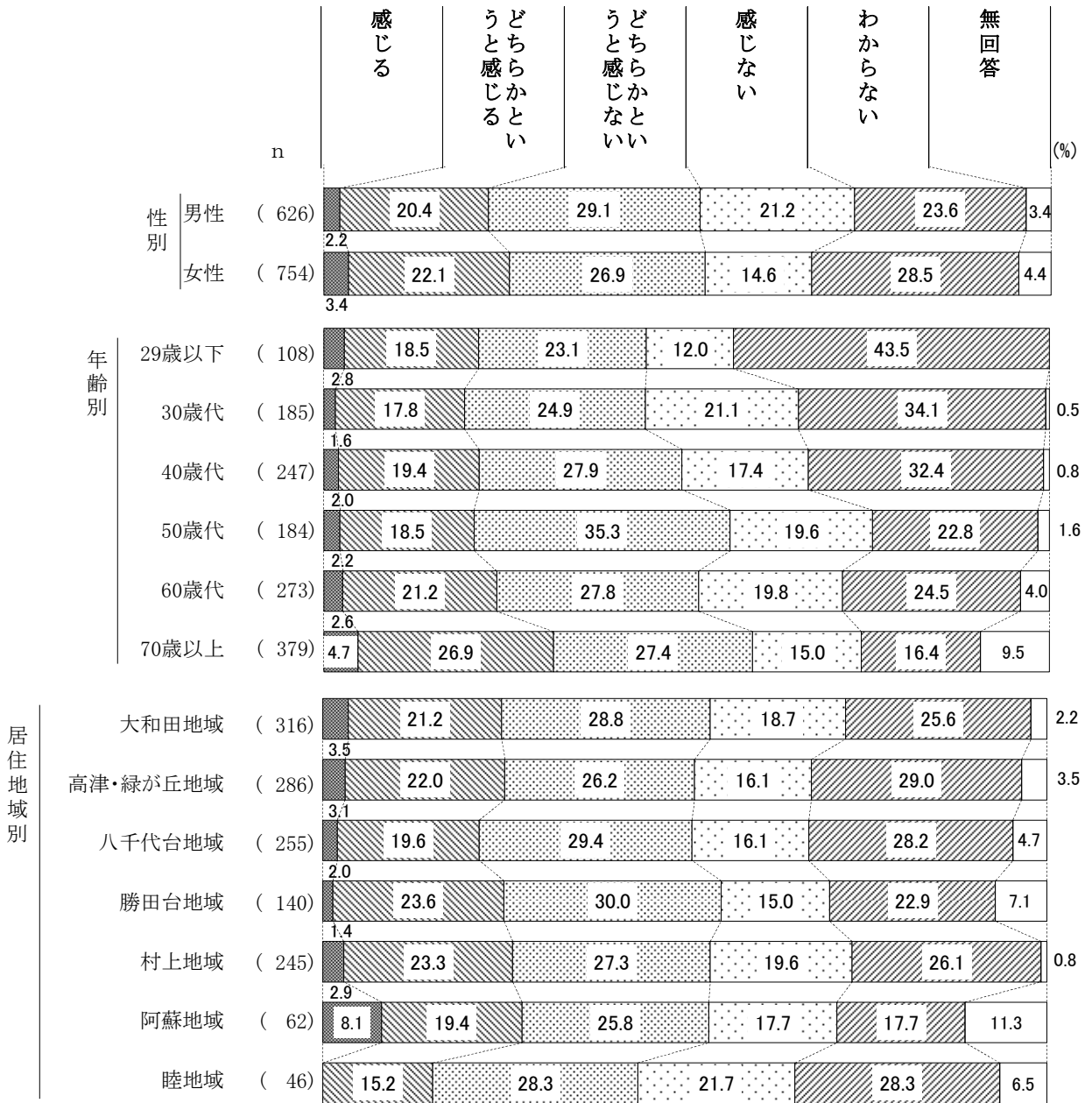
【性別・年齢別・居住地域別】

性別で見ると、《感じない》は、男性の方が女性よりも9ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、《感じる》は、70歳以上で3割を超えて最も高くなっている。一方、《感じない》は、50歳代で5割台半ばと最も高く、次いで60歳代で約5割となっている。

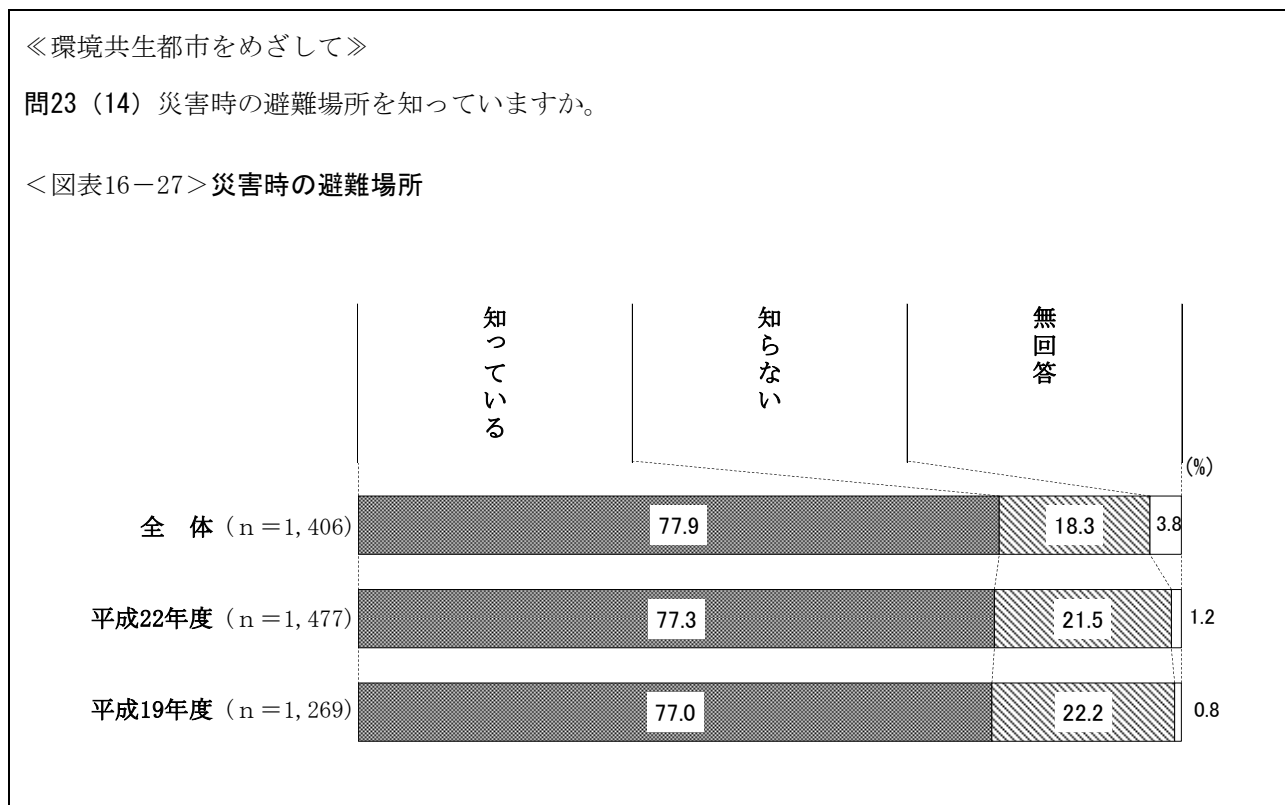
居住地域別で見ると、《感じる》は、阿蘇地域で約3割と最も高く、次いで、村上地域で2割台半ばとなっている。一方、《感じない》は、睦地域で5割と最も高くなっているが、全ての地域で4割を超えている。(図表16-26)

<図表16-26>性別・年齢別・居住地域別



(14) 災害時の避難場所

◇「知っている」が約8割



災害時の避難場所は、「知っている」(77.9%)が約8割となっている。一方、「知らない」(18.3%)は約2割となっている。

過去の調査と比べると大きな差はみられない。(図表16-27)

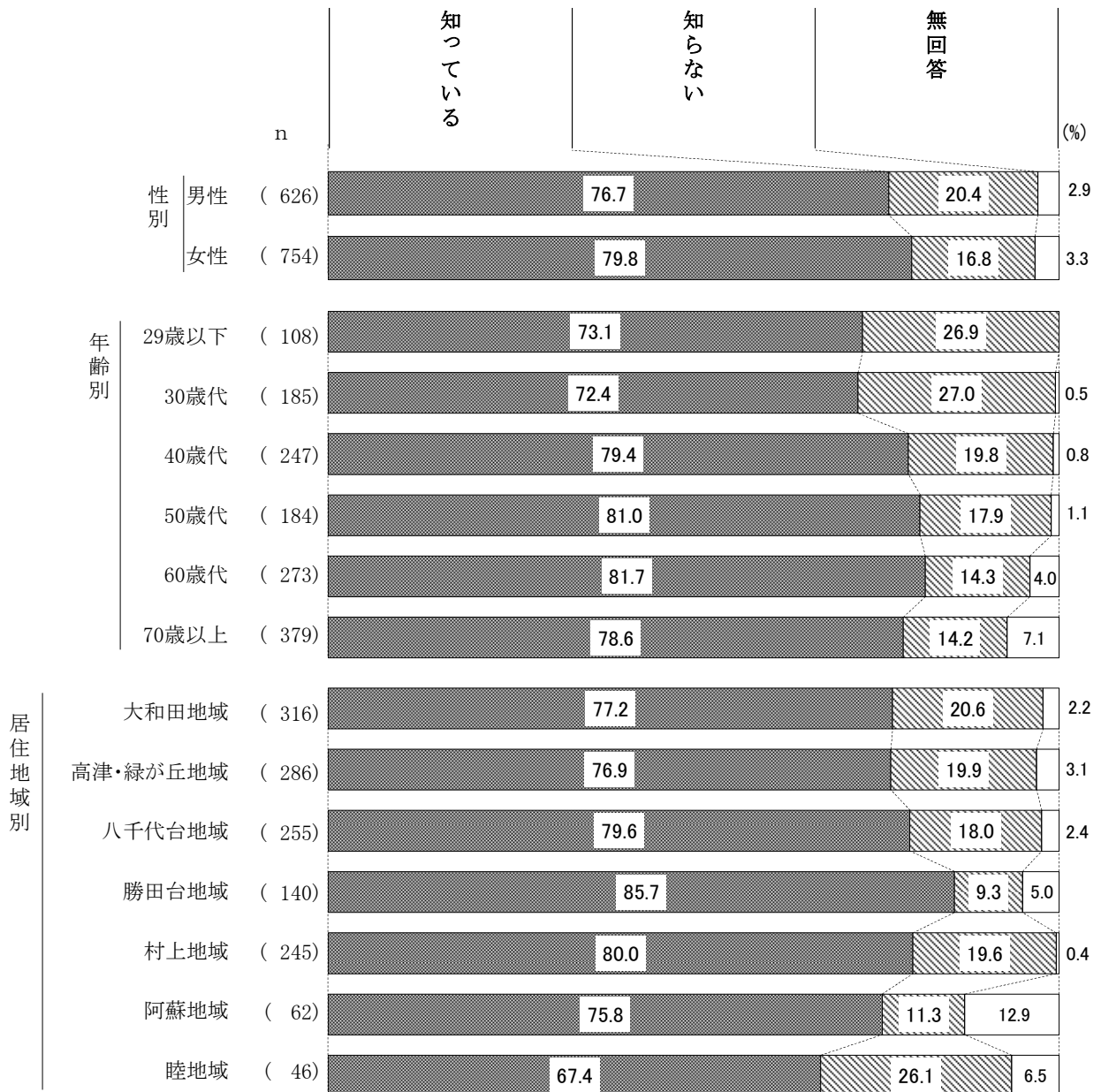
【性別・年齢別・居住地域別】

性別で見ると、「知らない」は、男性の方が女性よりも4ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、「知っている」は、50歳代、60歳代で8割を超えて高く、最も高い60歳代と最も低い30歳代を比較すると、9ポイントの差がある。

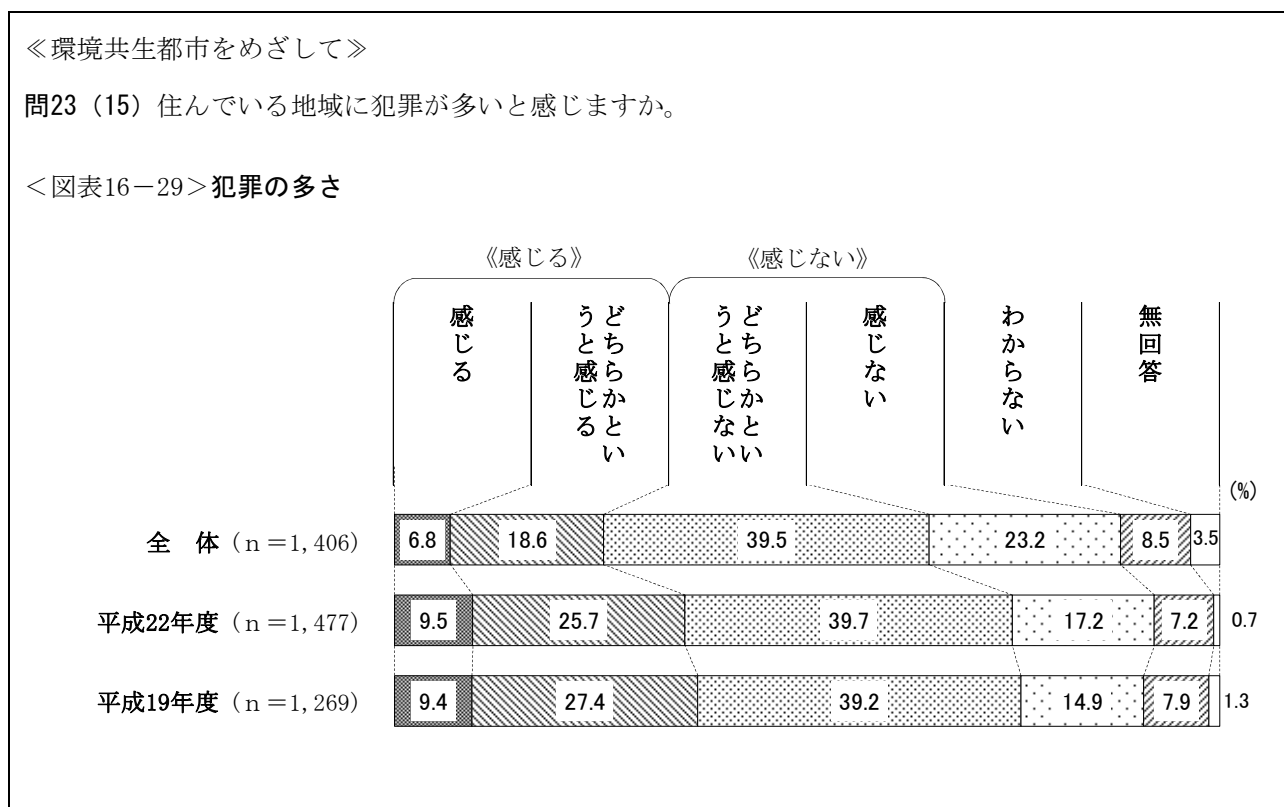
居住地域別で見ると、「知っている」は、勝田台地域で8割台半ばと最も高く、最も低い睦地域と比べると18ポイントの差がある。(図表16-28)

<図表16-28>性別・年齢別・居住地域別



(15) 犯罪の多さ

◇《感じない》が6割超え



犯罪の多さは、「感じる」(6.8%)、「どちらかというと感じる」(18.6%)となっており、これらを合わせた、《感じる》(25.4%)は、2割台半ばとなっている。一方、「どちらかというと感じない」(39.5%)、「感じない」(23.2%)を合わせた、《感じない》(62.7%)は、6割を超えている。

過去の調査と比べると、《感じない》は、平成22年度から6ポイント、平成19年度から9ポイント高くなっている。(図表16-29)

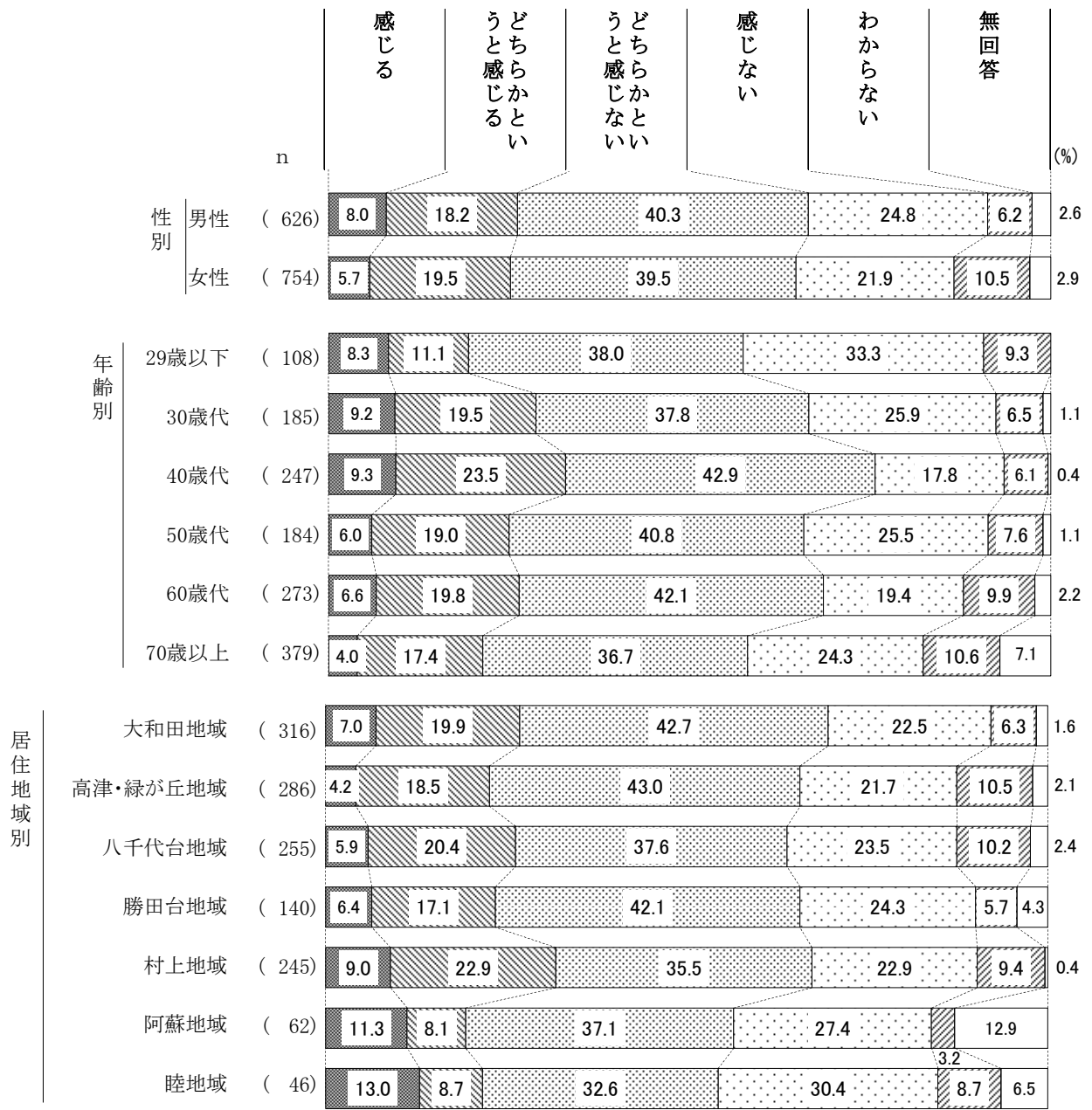
【性別・年齢別・居住地域別】

性別で見ると、《感じない》は、男性の方が女性よりも4ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、《感じる》は、40歳代で3割を超えて最も高く、次いで、30歳代で約3割となっている。一方、《感じない》は、29歳以下で7割を超えて最も高く、次いで、50歳代で6割台半ばとなっている。

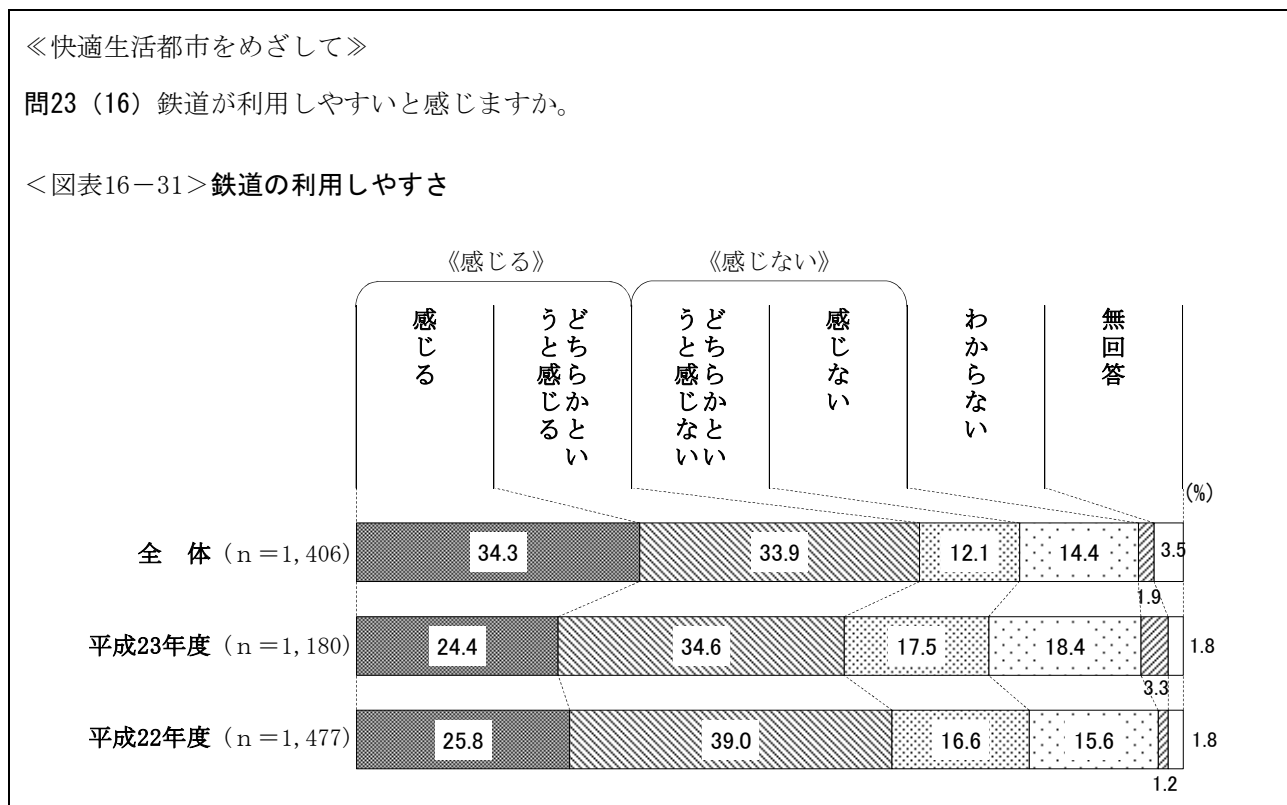
居住地域別で見ると、《感じる》は、村上地域で3割を超えて最も高く、最も低い阿蘇地域と比べると、13ポイントの差がある。(図表16-30)

<図表16-30>性別・年齢別・居住地域別



(16) 鉄道の利用しやすさ

◇《感じる》が約7割



鉄道の利用しやすさは、「感じる」(34.3%)、「どちらかというを感じる」(33.9%)となっており、これらを合わせた、《感じる》(68.2%)は、約7割となっている。一方、「どちらかというと感じない」(12.1%)、「感じない」(14.4%)を合わせた、《感じない》(26.5%)は、2割台半ばとなっている。

過去の調査と比べると、《感じる》は、平成23年度から9ポイント高くなっている。(図表16-31)

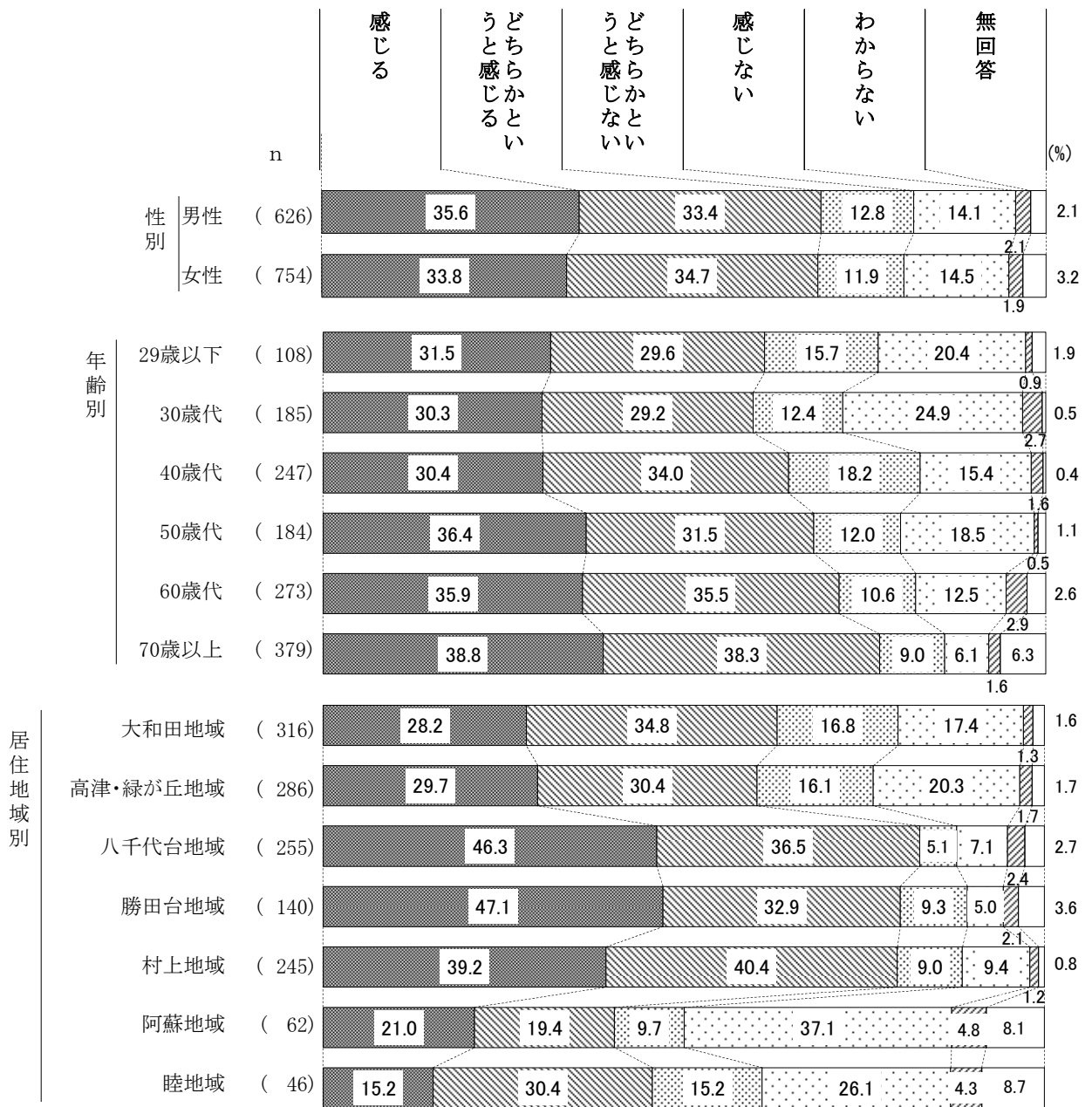
【性別・年齢別・居住地域別】

性別でみると、男女で大きな差はみられない。

年齢別でみると、《感じる》は、70歳以上で約8割と最も高く、次いで、60歳代で7割を超えている。一方、《感じない》は、30歳代で約4割と最も高く、最も低い70歳以上と比べると22ポイントの差がある。

居住地域別でみると、《感じる》は、八千代台地域で8割を超えて最も高く、最も低い阿蘇地域と比べると42ポイントの差がある。(図表16-32)

<図表16-32>性別・年齢別・居住地域別



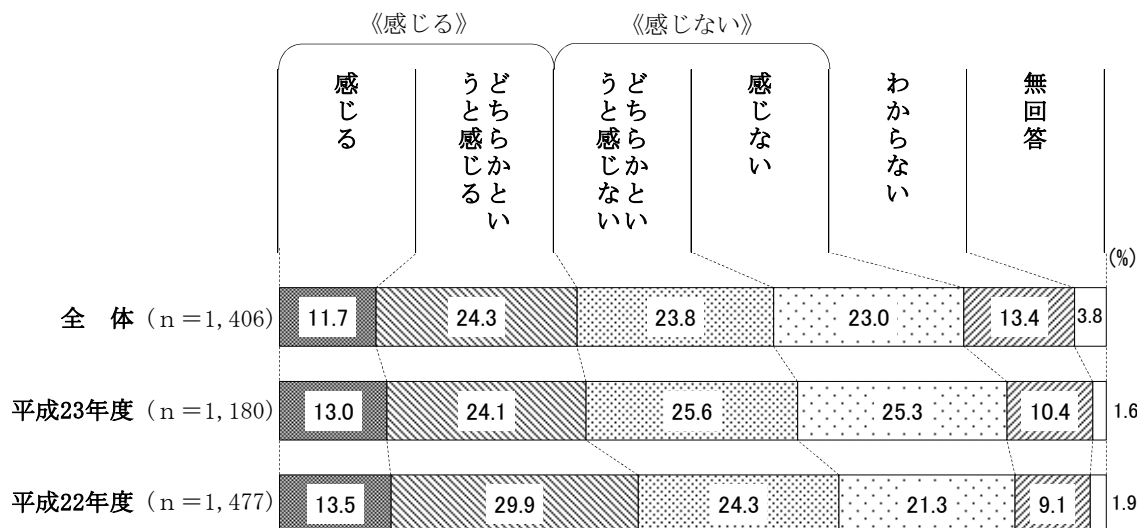
(17) バスの利用しやすさ

◇《感じる》が4割台半ば

《快適生活都市をめざして》

問23 (17) 市内のバスが利用しやすいと感じますか。

<図表16-33> バスの利用しやすさ



バスの利用しやすさは、「感じる」(11.7%)、「どちらかというを感じる」(24.3%)となっており、これらを合わせた、《感じる》(36.0%)は、3割台半ばとなっている。一方、「どちらかというと感じない」(23.8%)、「感じない」(23.0%)を合わせた、《感じない》(46.8%)は、4割台半ばとなっている。

過去の調査と比べると、《感じる》は、平成22年度から7ポイント低くなっている。(図表16-33)

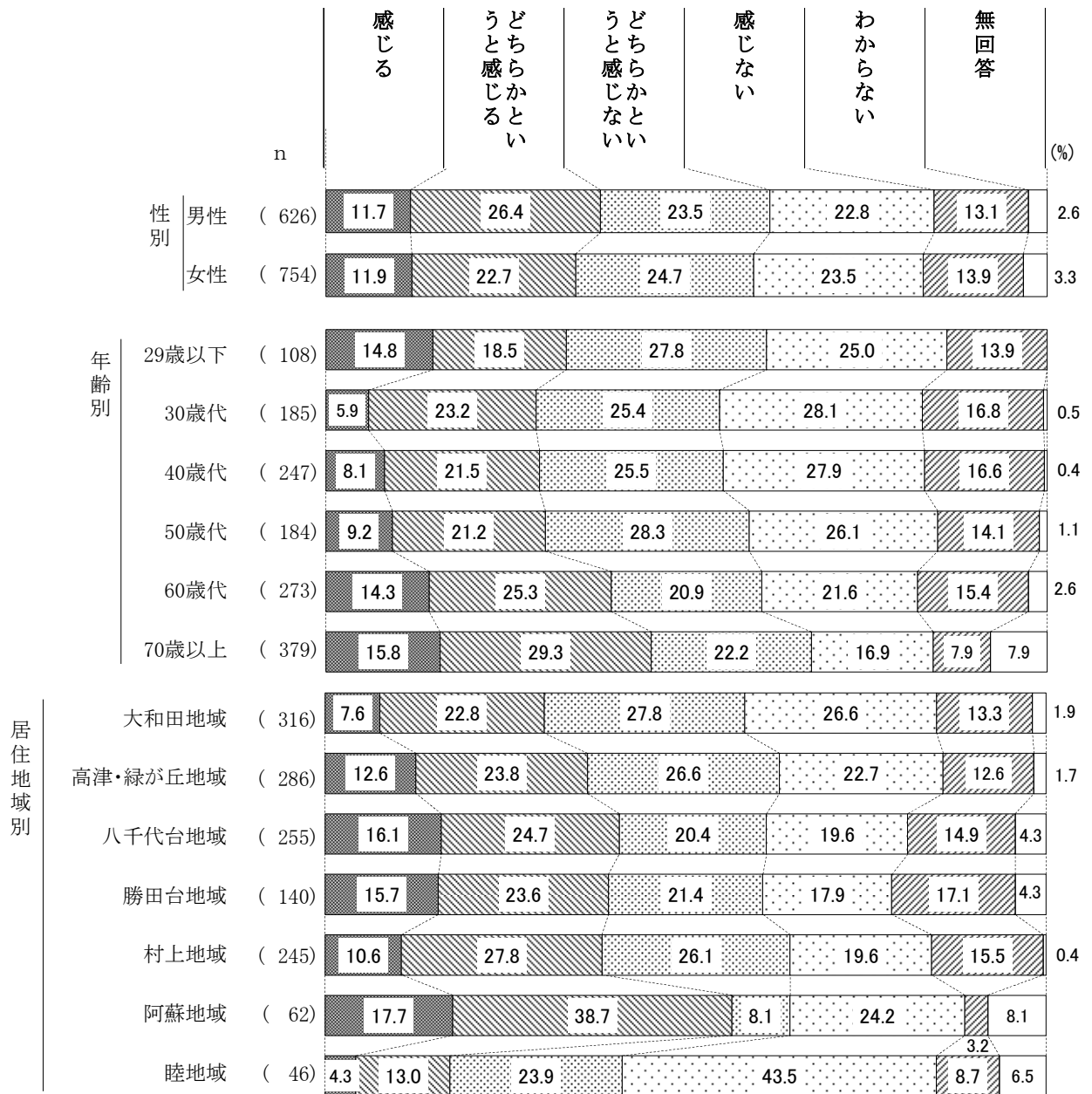
【性別・年齢別・居住地域別】

性別でみると、男女で大きな差はみられない。

年齢別でみると、《感じる》は、70歳以上で4割台半ばと最も高く、次いで、60歳代で約4割となっている。一方、《感じない》は、30~50歳代で5割台半ばと高くなっている。

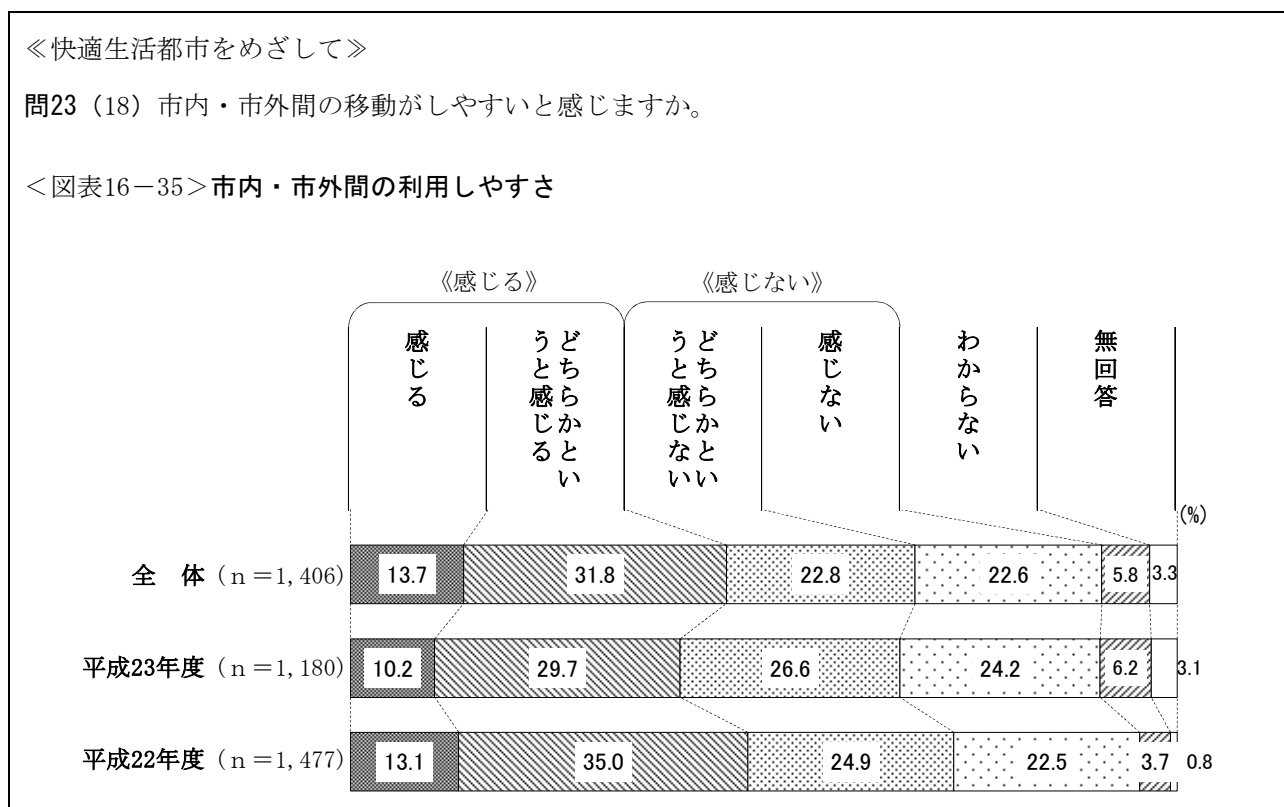
居住地域別でみると、《感じる》は、阿蘇地域で5割台半ばと最も高く、次いで、八千代台地域で4割となっている。一方、《感じない》は、睦地域で約7割と最も高く、最も低い阿蘇地域と比べると、35ポイントの差がある。(図表16-34)

<図表16-34>性別・年齢別・居住地域別



(18) 市内・市外間の移動のしやすさ

◇《感じる》、《感じない》ともに4割台半ば



市内・市外間の移動のしやすさは、「感じる」(13.7%)、「どちらかというと感じる」(31.8%)となっており、これらを合わせた、《感じる》(45.5%)は、4割台半ばとなっている。一方、「どちらかというと感じない」(22.8%)、「感じない」(22.6%)を合わせた、《感じない》(45.4%)も、4割台半ばとなっている。

過去の調査と比べると、《感じる》は、平成23年度から6ポイント高くなっている。(図表16-35)

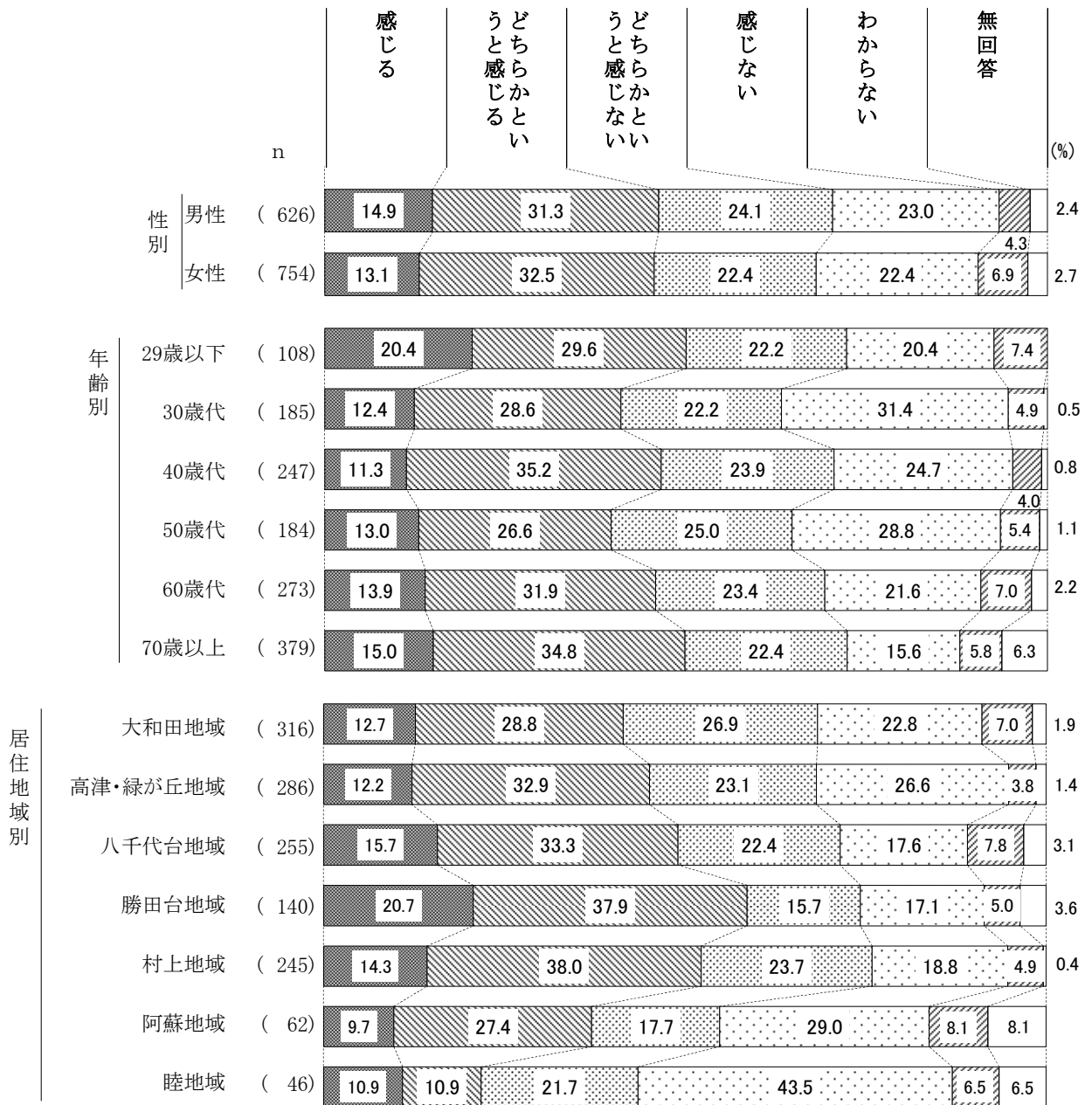
【性別・年齢別・居住地域別】

性別で見ると、男女で大きな差はみられない。

年齢別で見ると、《感じる》は、29歳以下で5割と最も高く、次いで、70歳以上で約5割となっている。《感じない》は、30歳代、50歳代で5割台半ばと高くなっている。

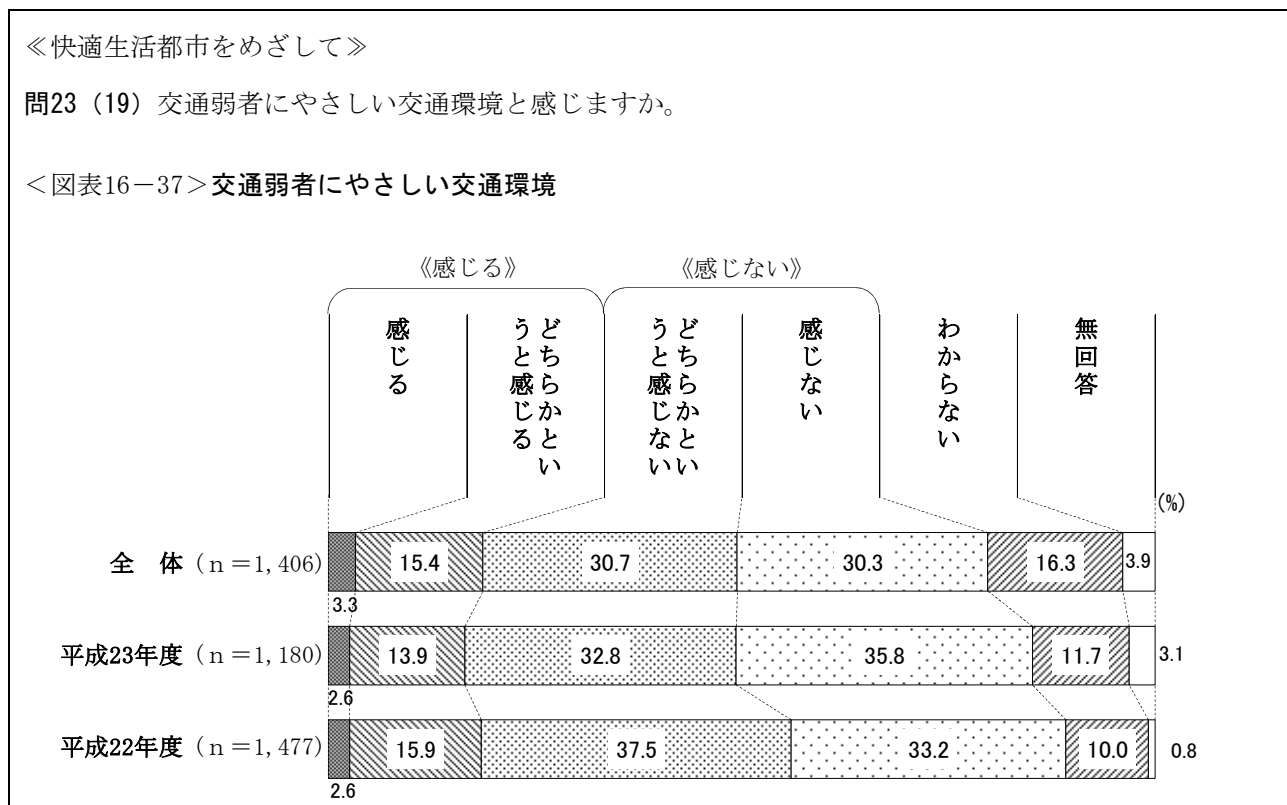
居住地域別で見ると、《感じる》は、勝田台地域で約6割と最も高く、次いで、村上地域で5割を超えている。一方、《感じない》は、睦地域で6割台半ばと最も高く、次いで、大和田地域、高津・緑が丘地域で約5割となっている。(図表16-36)

<図表16-36>性別・年齢別・居住地域別



(19) 交通弱者にやさしい交通環境

◇《感じない》が6割超え



交通弱者にやさしい交通環境は、「感じる」(3.3%)、「どちらかというと感じる」(15.4%)となっており、これらを合わせた、《感じる》(18.7%)は、約2割となっている。一方、「どちらかというと感じない」(30.7%)、「感じない」(30.3%)を合わせた、《感じない》(61.0%)は、6割を超えている。

過去の調査と比べると、《感じない》は、平成23年度から8ポイント、平成22年度から10ポイント低くなっている。(図表16-37)

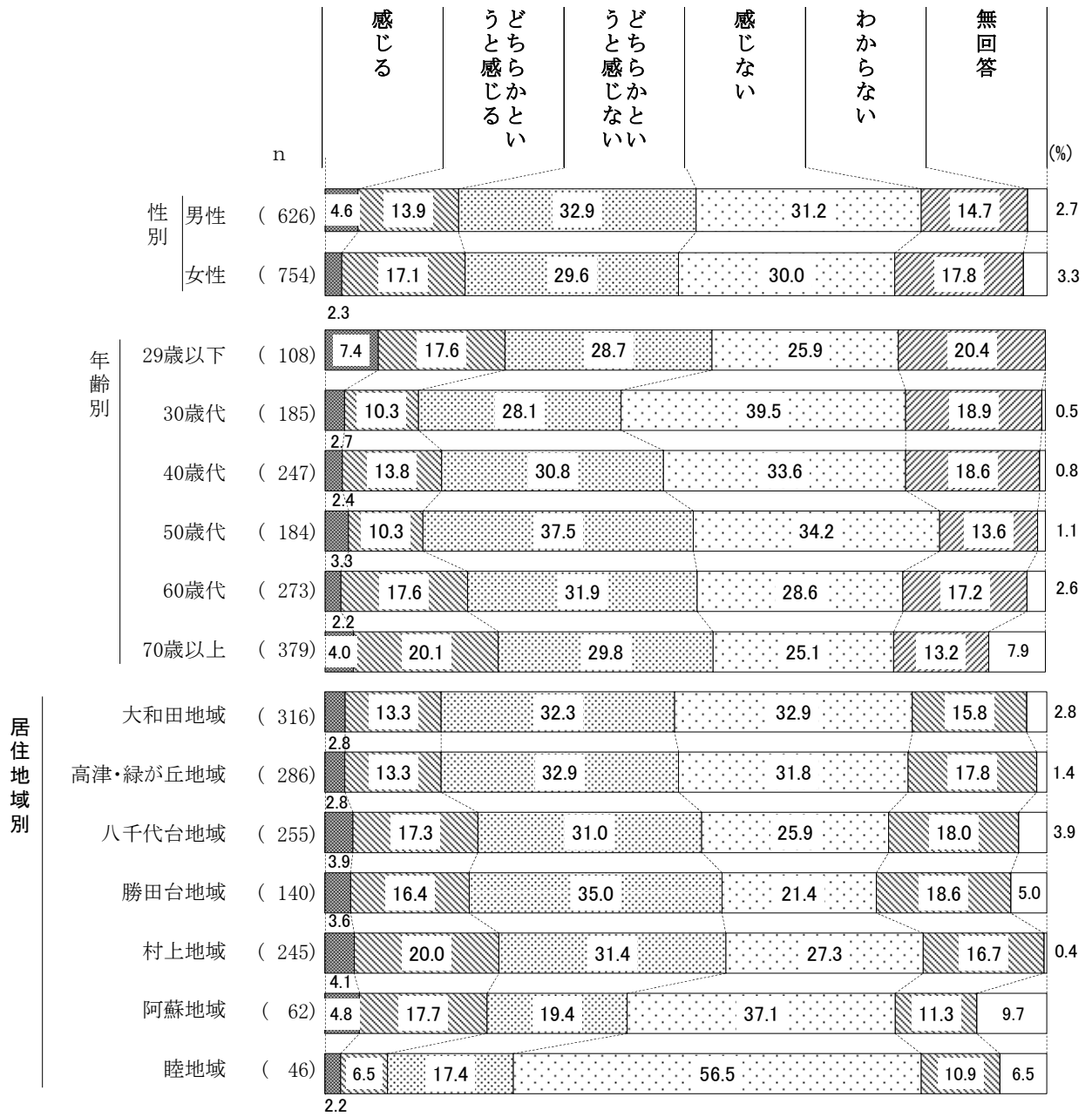
【性別・年齢別・居住地域別】

性別で見ると、《感じない》は、男性の方が女性よりも5ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、《感じない》は、50歳代で7割を超えて最も高く、次いで、30歳代で約7割と高くなっている。

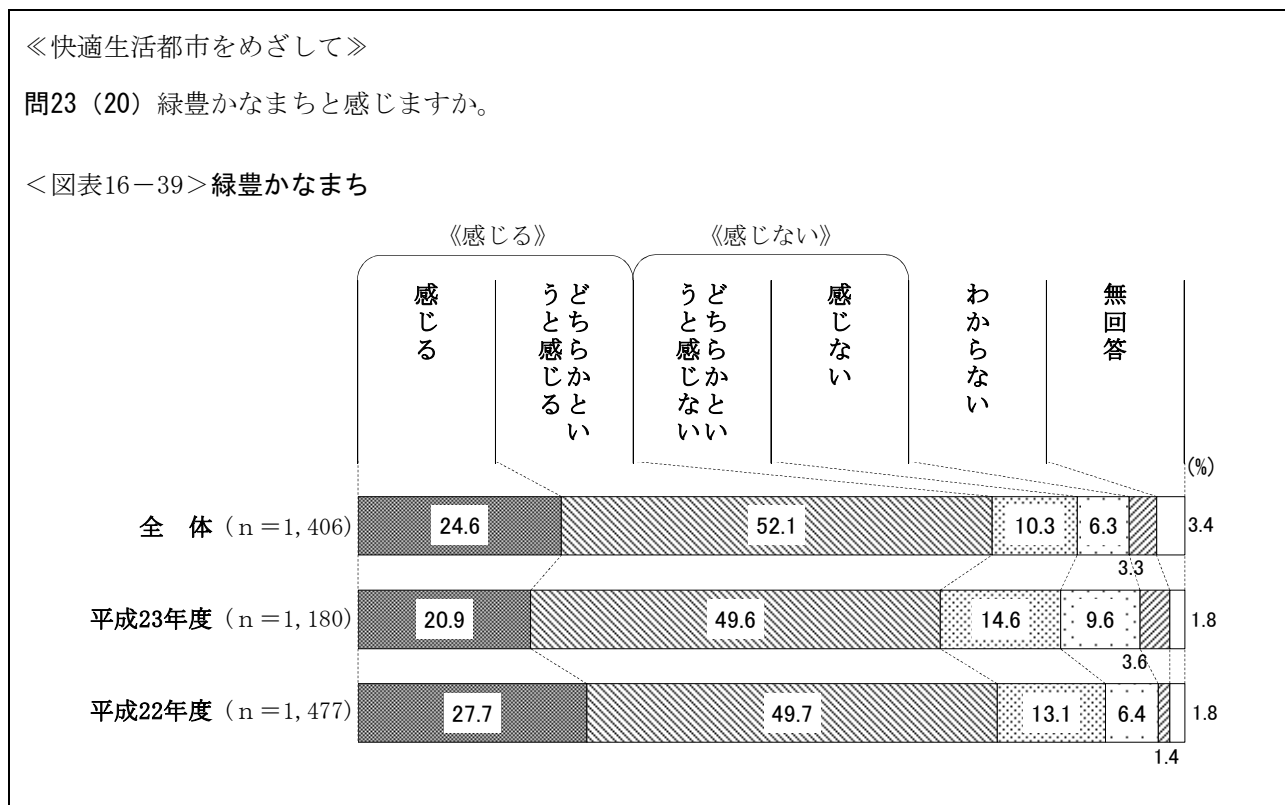
居住地域別で見ると、《感じる》は、村上地域が2割台半ばで最も高くなっている。一方、《感じない》は、睦地域が7割台半ばで最も高く、次いで高い大和田地域と比べると、9ポイント高くなっている。(図表16-38)

<図表16-38>性別・年齢別・居住地域別



(20) 緑豊かなまち

◇《感じる》が7割台半ば



緑豊かなまちは、「感じる」(24.6%)、「どちらかというと感じる」(52.1%)となっており、これらを合わせた、《感じる》(76.7%)は、7割台半ばとなっている。一方、「どちらかというと感じない」(10.3%)、「感じない」(6.3%)を合わせた、《感じない》(16.6%)は、1割台半ばとなっている。過去の調査と比べると、《感じる》は、平成23年度から6ポイント高くなっている。(図表16-39)

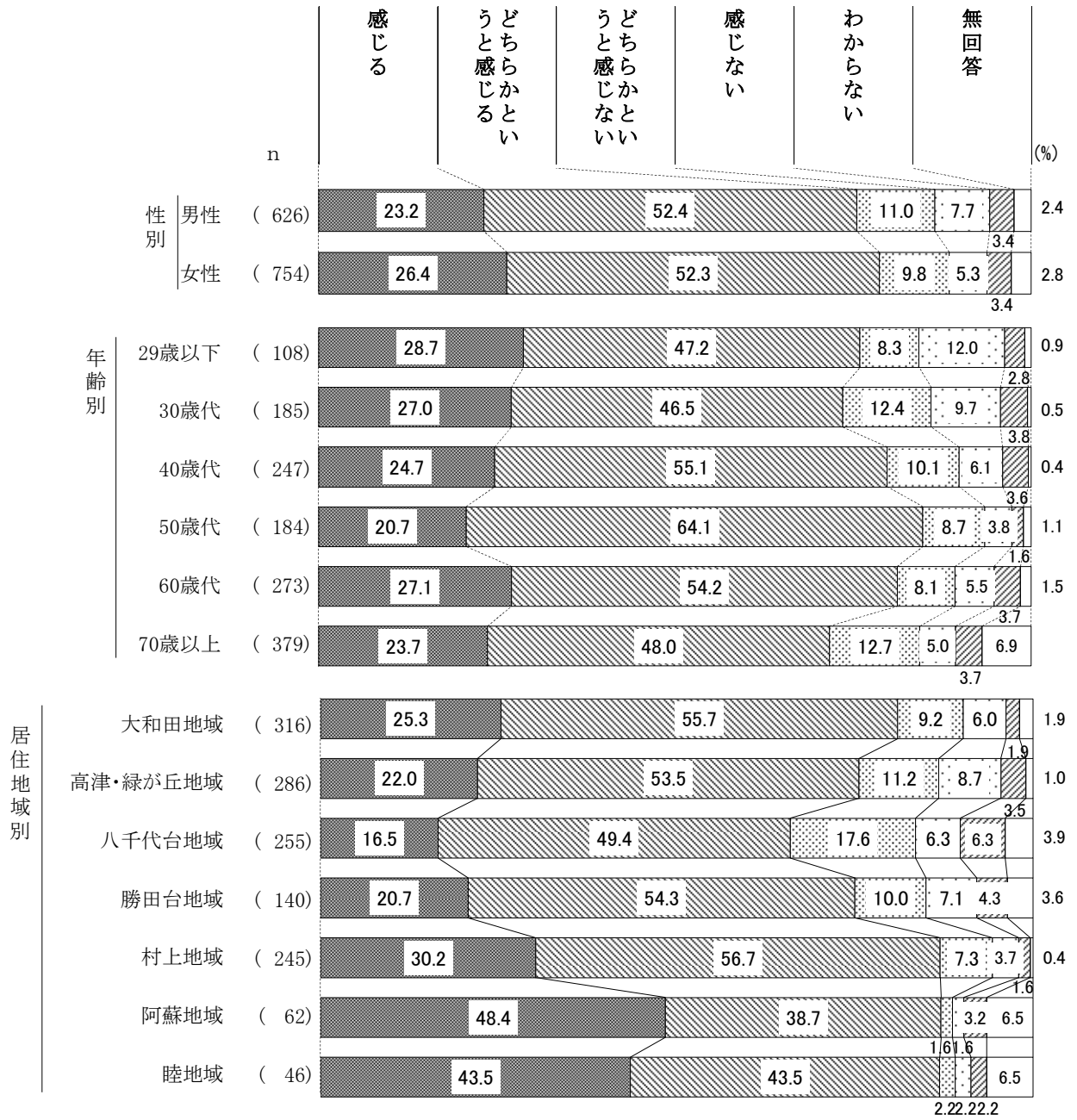
【性別・年齢別・居住地域別】

性別でみると、男女で大きな差はみられない。

年齢別でみると、《感じる》は、50歳代が8割台半ばで最も高く、次いで、60歳代が8割を超えている。また、全ての年齢で7割を超えている。

居住地域別でみると、《感じる》は、阿蘇地域、睦地域で約9割と高く、最も低い八千代台地域と比べると21ポイントの差がある。(図表16-40)

<図表16-40>性別・年齢別・居住地域別



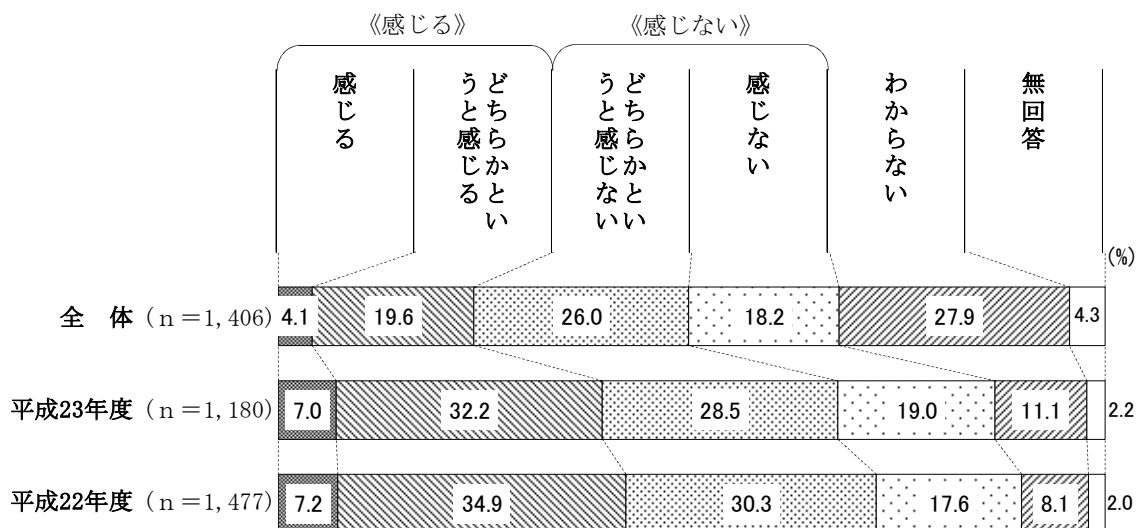
(21) 市街地整備

◇《感じない》が4割台半ば

《快適生活都市をめざして》

問23 (21) 市街地整備の誘導が適切に図られていると感じますか。

<図表16-41> 市街地整備



市街地整備は、「感じる」(4.1%)、「どちらかというと感じる」(19.6%)となっており、これらを合わせた、《感じる》(23.7%)は、2割台半ばとなっている。一方、「どちらかというと感じない」(26.0%)、「感じない」(18.2%)を合わせた、《感じない》(44.2%)は、4割台半ばとなっている。

過去の調査と比べると、《感じる》は、平成23年度から16ポイント、平成22年度から18ポイント低くなっている。(図表16-41)

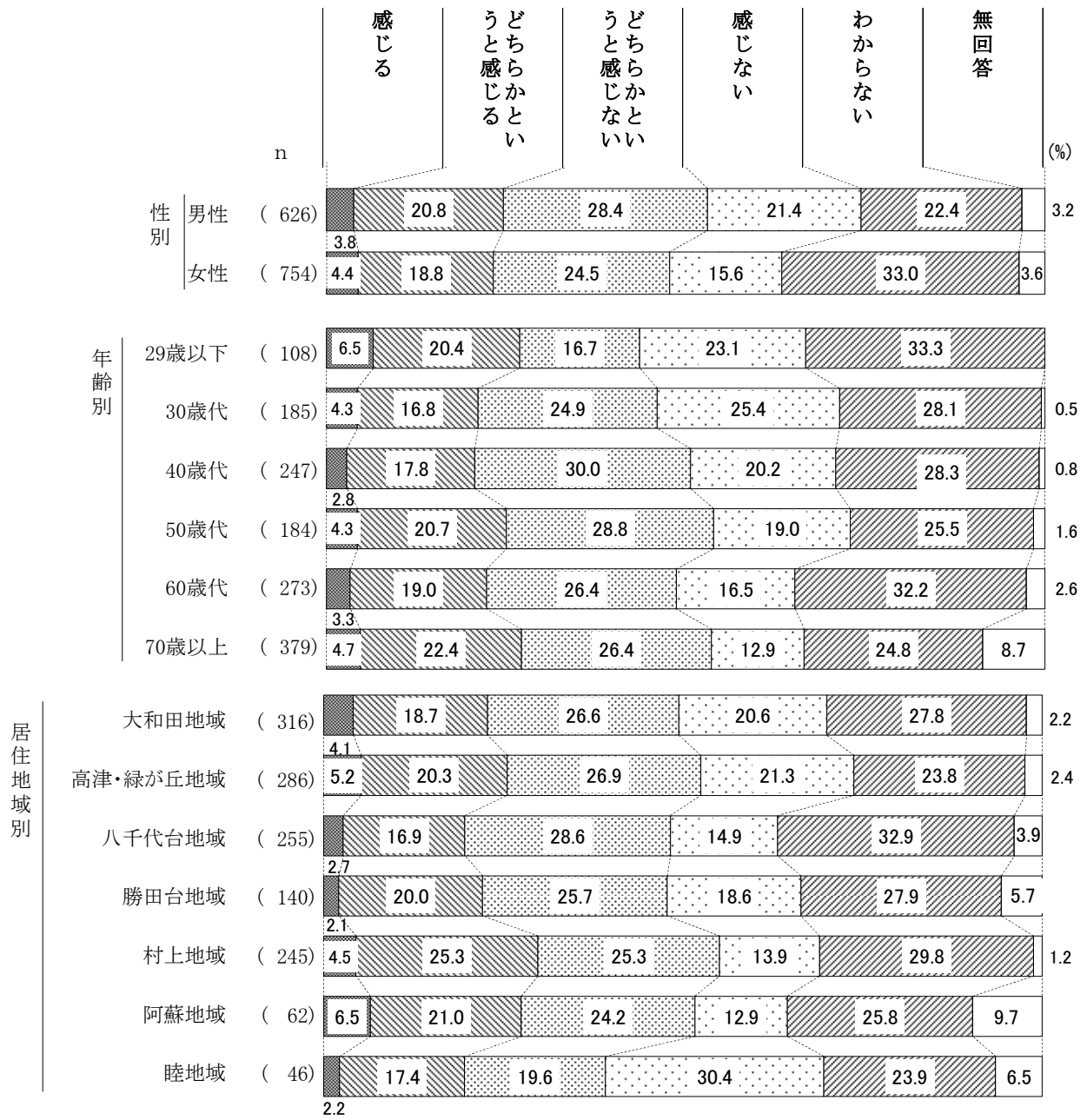
【性別・年齢別・居住地域別】

性別でみると、《感じない》は、男性の方が女性よりも10ポイント高くなっている。

年齢別でみると、《感じない》は、30歳代、40歳代が5割で最も高くなっている。29歳以下、70歳以上では約4割と低くなっている。

居住地域別でみると、《感じる》は、村上地域、阿蘇地域で約3割と高く、最も低い八千代台地域、睦地域と比べると10ポイントの差がある。(図表16-42)

<図表16-42>性別・年齢別・居住地域別



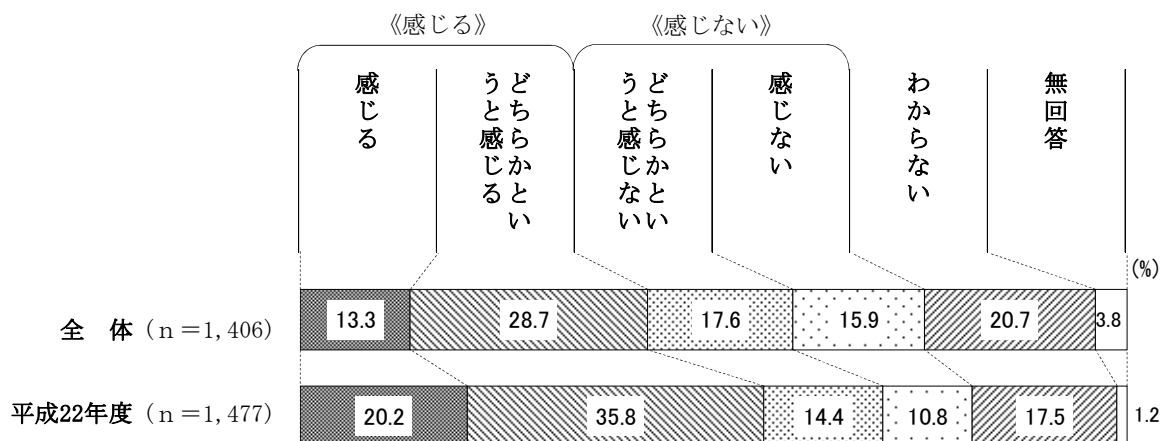
(22) ふるさと親子祭

◇《感じる》が4割超え

《産業活力都市をめざして》

問23 (22) ふるさと親子祭が、市民相互の親睦と地域の活性化に役立っていると感じますか。

<図表16-43> ふるさと親子祭



ふるさと親子祭は、「感じる」(13.3%)、「どちらかというを感じる」(28.7%)となっており、これらを合わせた、《感じる》(42.0%)は、4割を超えている。一方、「どちらかというと感じない」(17.6%)、「感じない」(15.9%)を合わせた、《感じない》(33.5%)は、3割台半ばとなっている。

過去の調査と比べると、《感じる》は、平成22年度から14ポイント低くなっている。(図表16-43)

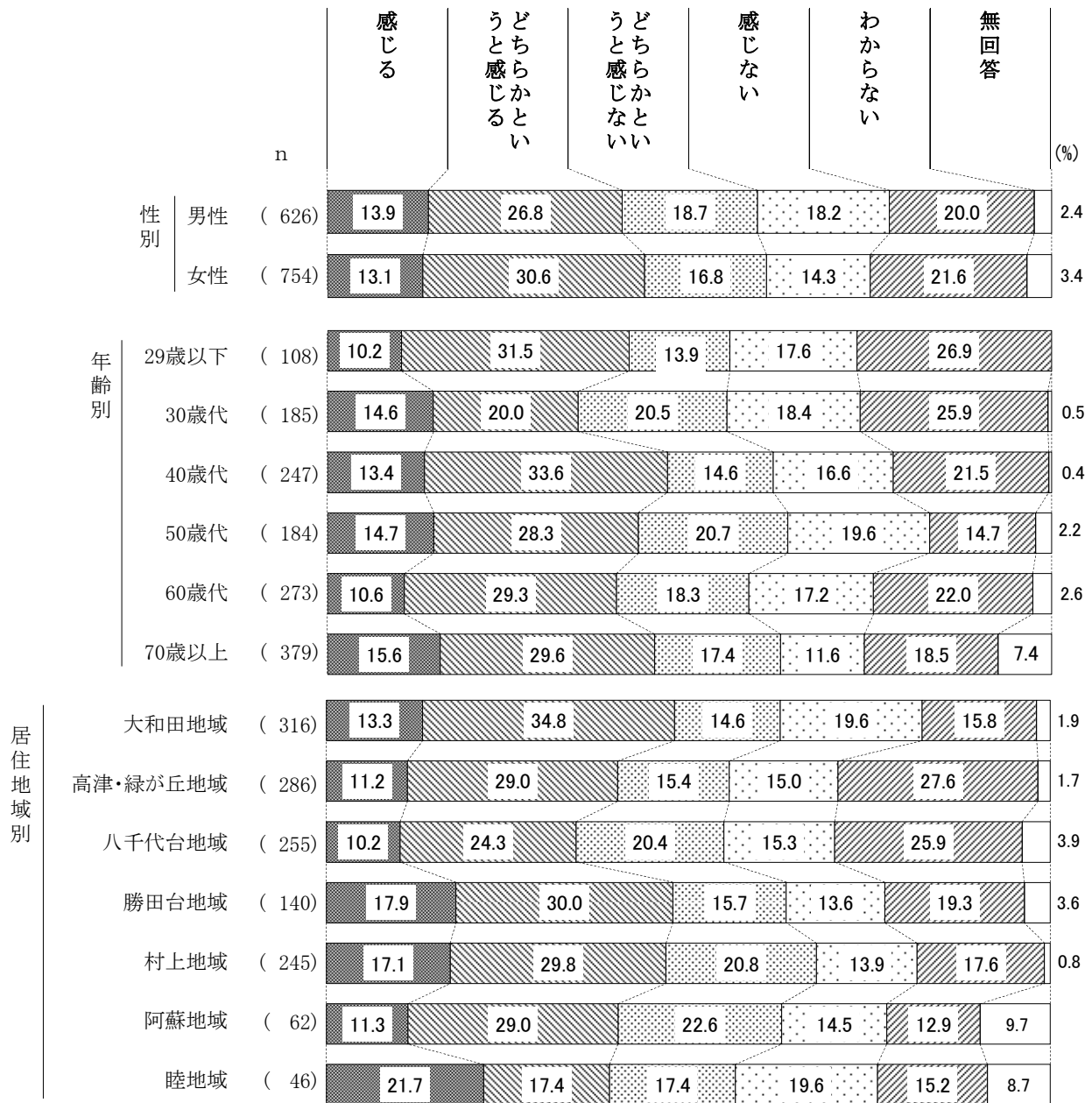
【性別・年齢別・居住地域別】

性別でみると、《感じない》は、男性の方が女性よりも6ポイント高くなっている。

年齢別でみると、《感じる》は、40歳代で約5割と最も高く、次いで、70歳以上で4割台半ばとなっている。一方、《感じない》は、50歳代で4割と最も高くなっている。

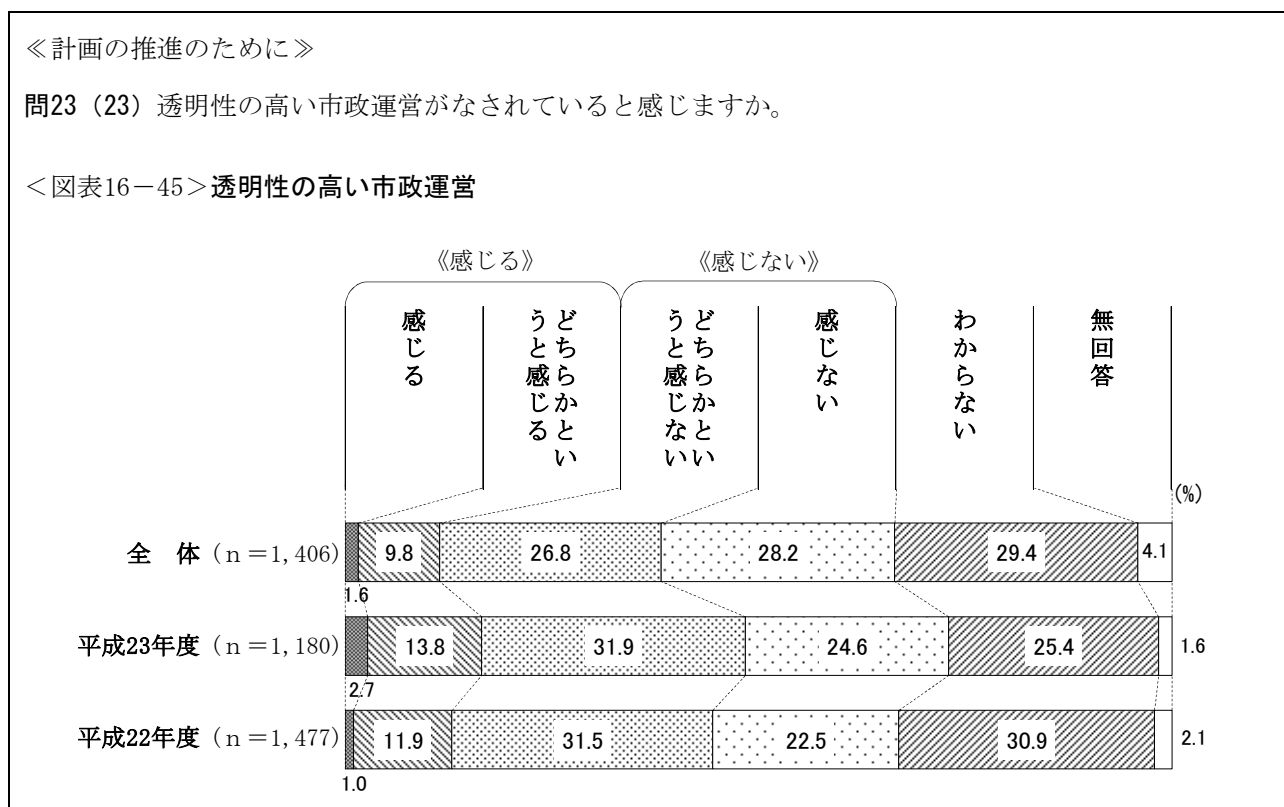
居住地域別でみると、《感じる》は、大和田地域、勝田台地域で約5割と高くなっている。最も低い八千代台地域比べると14ポイントの差がある。(図表16-44)

<図表16-44>性別・年齢別・居住地域別



(23) 透明性の高い市政運営

◇《感じない》が5割台半ば



透明性の高い市政運営は、「感じる」(1.6%)、「どちらかというと感じる」(9.8%)となっており、これらを合わせた、《感じる》(11.4%)は、1割を超えている。一方、「どちらかというと感じない」(26.8%)、「感じない」(28.2%)を合わせた、《感じない》(55.0%)は、5割台半ばとなっている。過去の調査と比べると、《感じる》は、平成23年度から5ポイント低くなっている。(図表16-45)

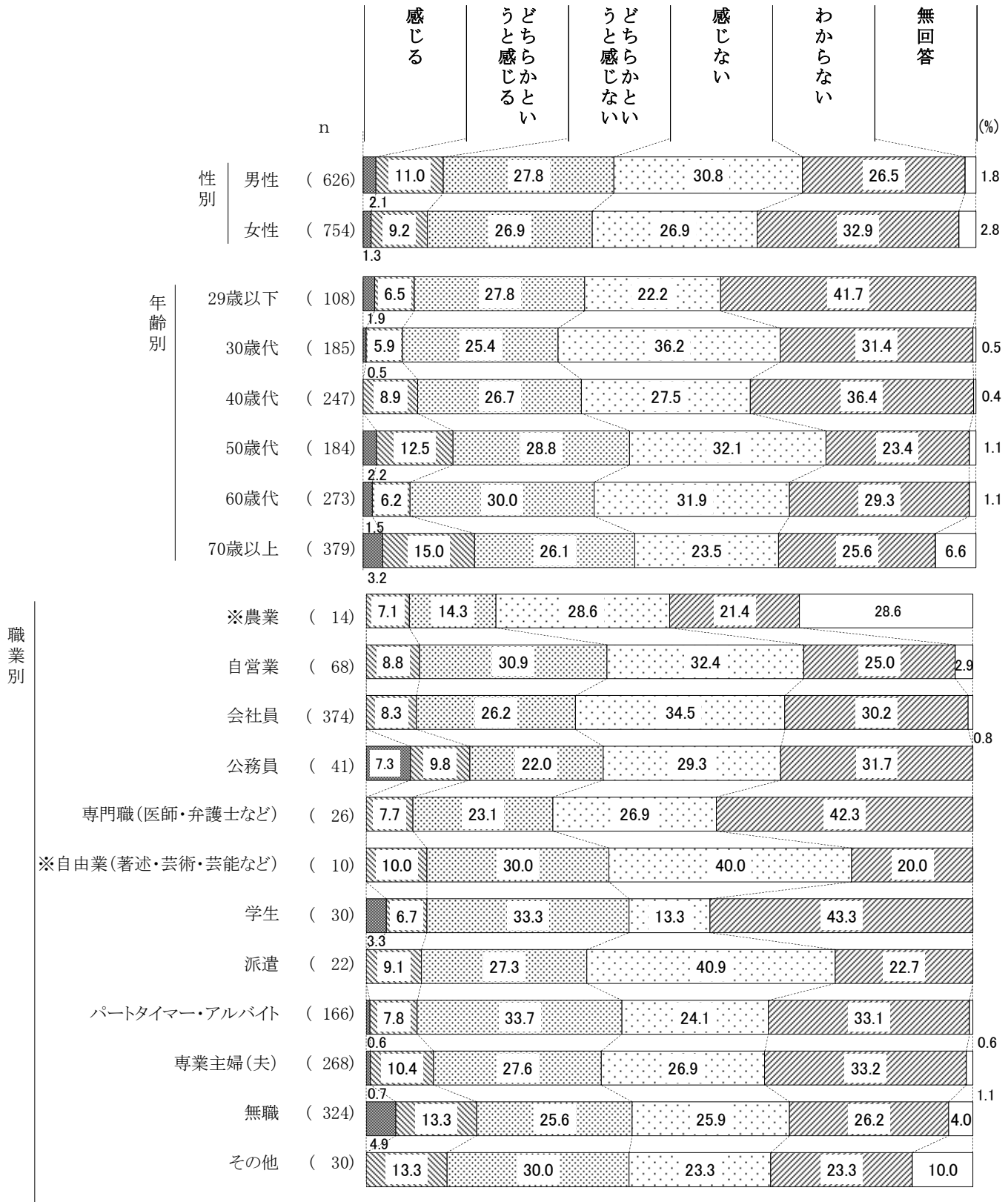
【性別・年齢別・職業別】

性別でみると、《感じない》は、男性の方が女性よりも5ポイント高くなっている。

年齢別でみると、《感じない》は、30歳代、60歳代で6割を超えて高く、最も高い60歳代と最も低い70歳以上を比べると、12ポイントの差がある。

職業別でみると、《感じない》は、派遣で約7割と最も高く、次いで、自営業が6割台半ばとなっている。また、ほとんどの職業で5割を超えている。(図表16-46)

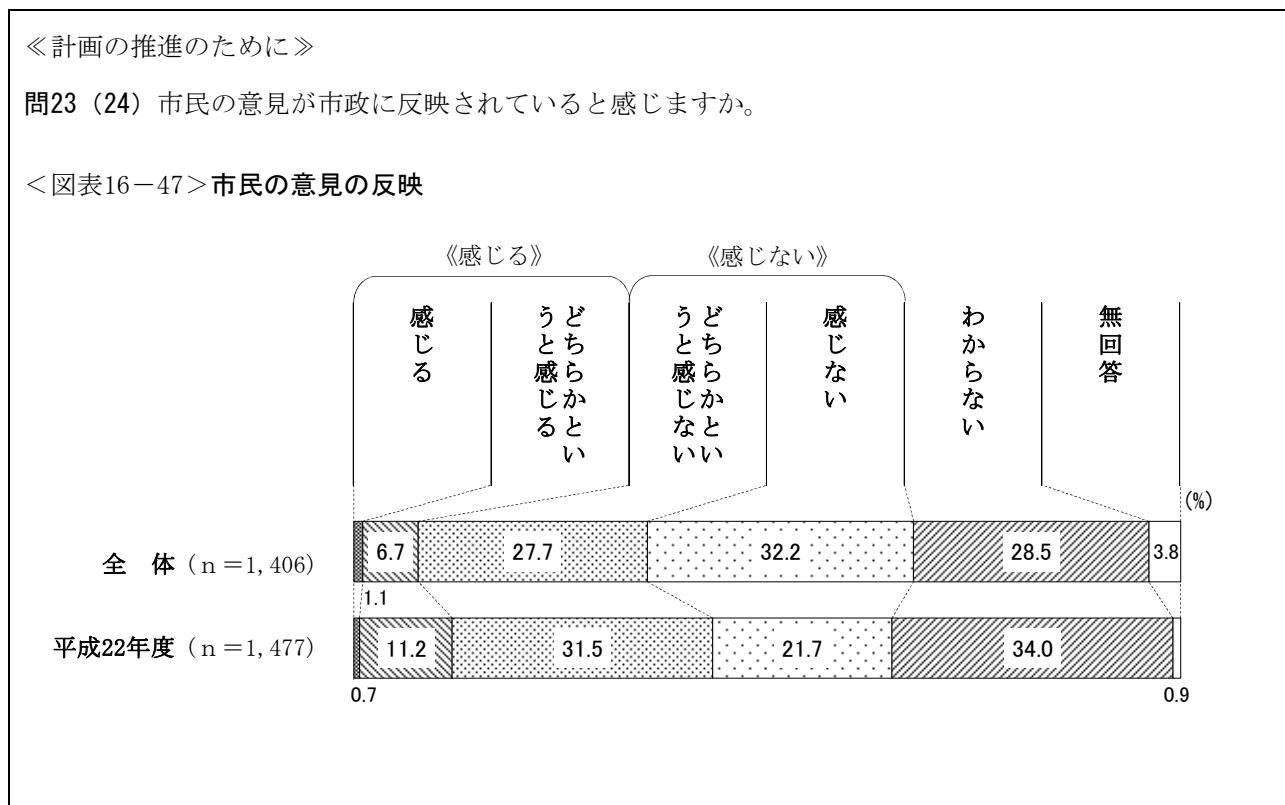
<図表16-46>性別・年齢別・職業別



(注) ※印は、調査数が少ないので参考として図示するに留め、文中では述べていない。

(24) 市民の意見の反映

◇《感じない》が約6割



市民の意見の反映は、「感じる」(1.1%)、「どちらかというと感じる」(6.7%)となっており、これらを合わせた、《感じる》(7.8%)は、約1割となっている。一方、「どちらかというと感じない」(27.7%)、「感じない」(32.2%)を合わせた、《感じない》(59.9%)は、約6割となっている。

過去の調査と比べると、《感じない》は、平成22年度から7ポイント高くなっている。

(図表16-47)

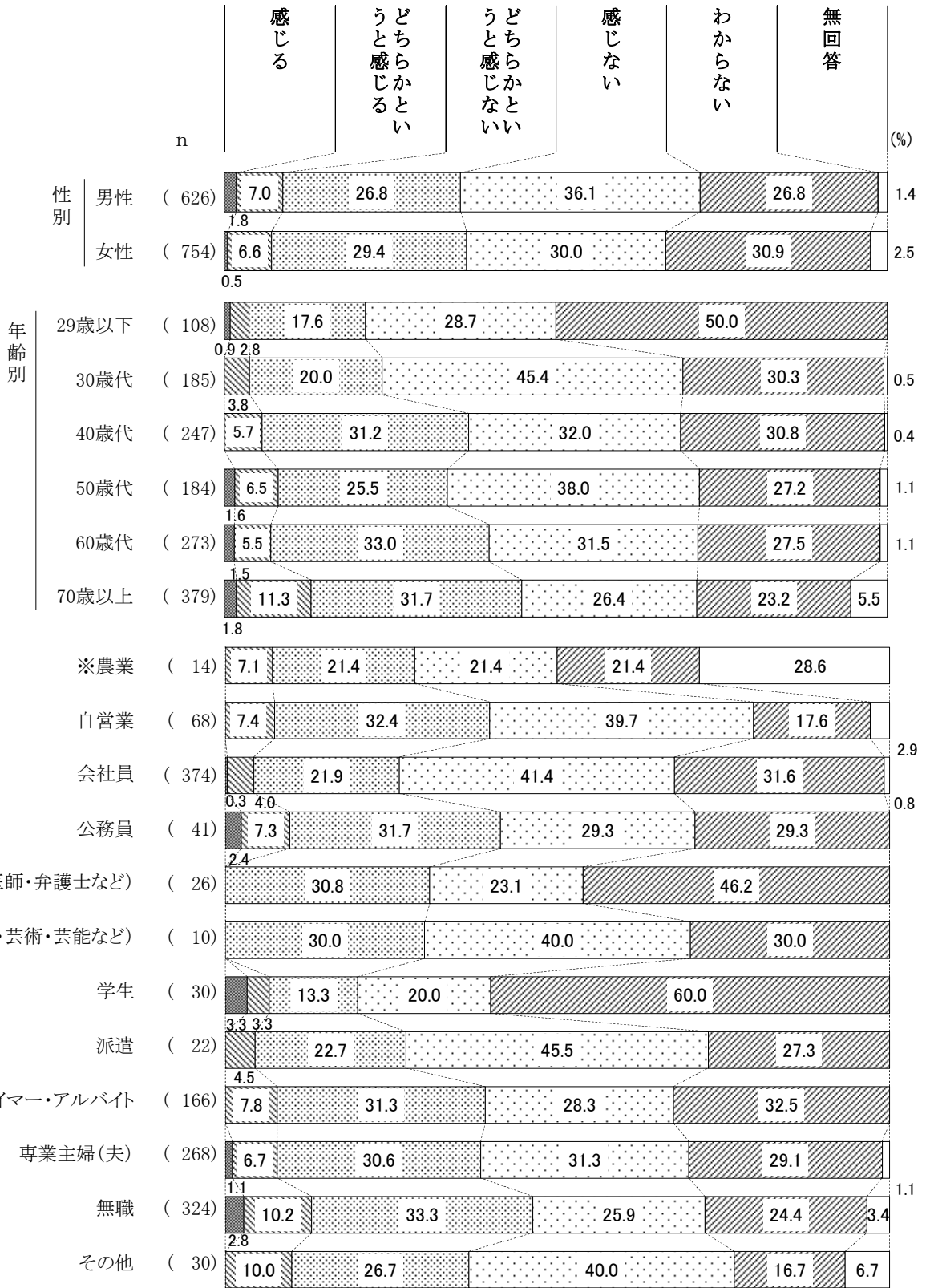
【性別・年齢別・職業別】

性別で見ると、男女で大きな差はみられない。

年齢別で見ると、《感じない》は、30～60歳代で6割台半ばと高くなっている。29歳以下は4割台半ばと最も低くなっている。

職業別で見ると、《感じない》は、自営業で7割を超えて最も高く、次いで、派遣で約7割となっている。(図表16-48)

<図表16-48>性別・年齢別・職業別



(注) ※印は、調査数が少ないので参考として図示するに留め、文中では述べていない。

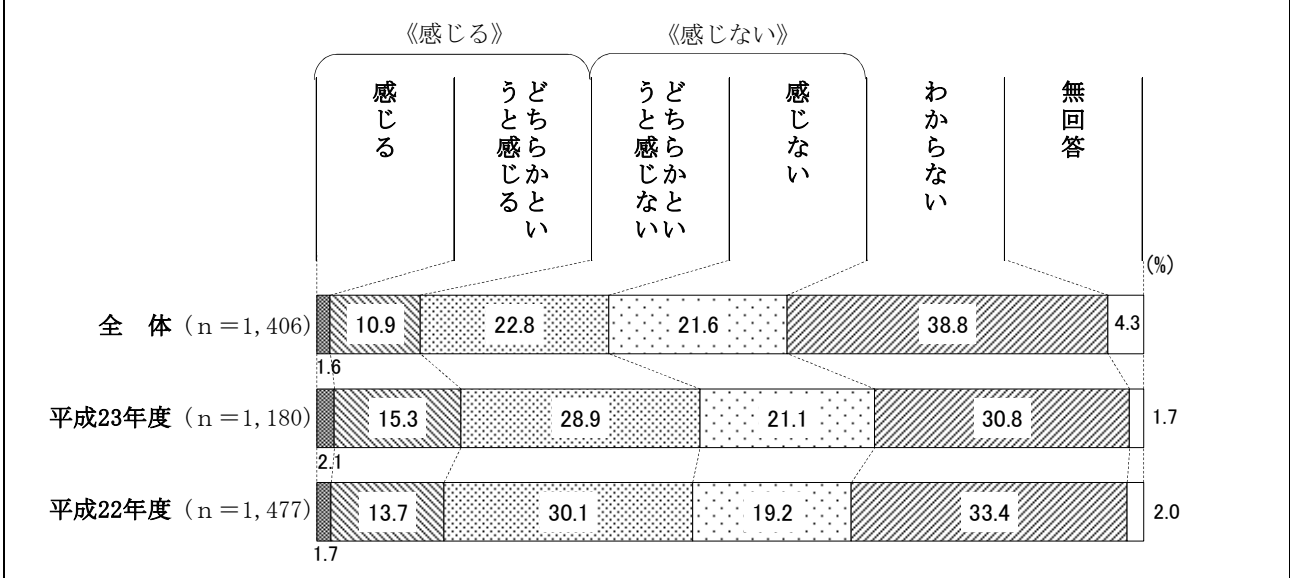
(25) 自立した市政運営

◇《感じない》が4割台半ば

《計画の推進のために》

問23 (25) 自立した市政運営が行われていると感じますか。

<図表16-49> 自立した市政運営



自立した市政運営は、「感じる」(1.6%)、「どちらかというと感じる」(10.9%)となっており、これらを合わせた、《感じる》(12.5%)は、1割を超えている。一方、「どちらかというと感じない」(22.8%)、「感じない」(21.6%)を合わせた、《感じない》(44.4%)は、4割台半ばとなっている。

過去の調査と比べると、《感じる》は、平成23年度から5ポイント低くなっている。(図表16-49)

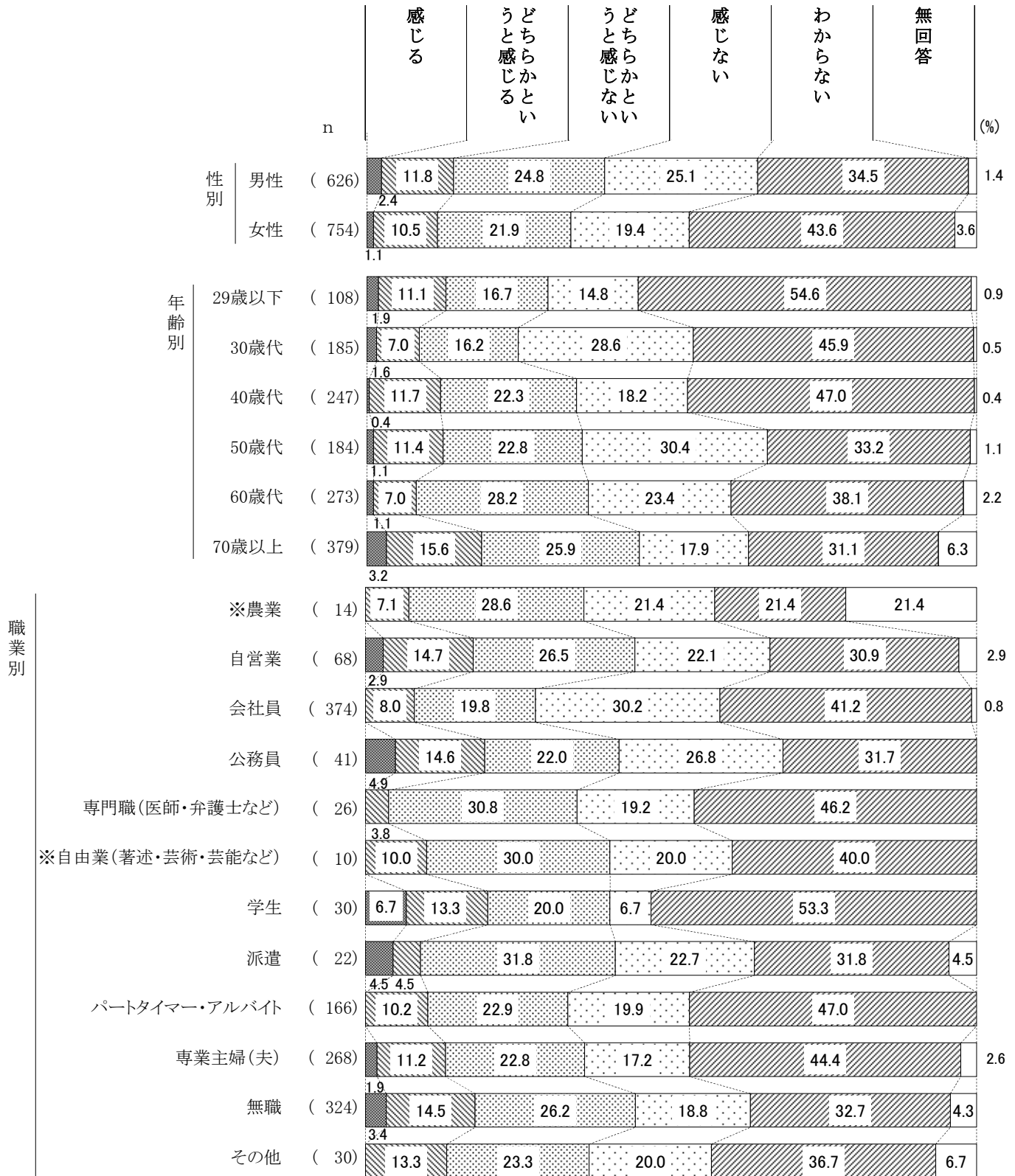
【性別・年齢別・職業別】

性別でみると、《感じない》は、男性の方が女性よりも9ポイント高くなっている。

年齢別でみると、《感じない》は、50歳代が5割台半ばで最も高く、次いで60歳代が5割を超えている。最も高い50歳代と最も低い29歳以下を比べると22ポイントの差がある。

職業別でみると、《感じない》は、派遣が5割台半ばで最も高く、次いで、会社員、専門職(医師・弁護士など)で5割となっている。(図表16-50)

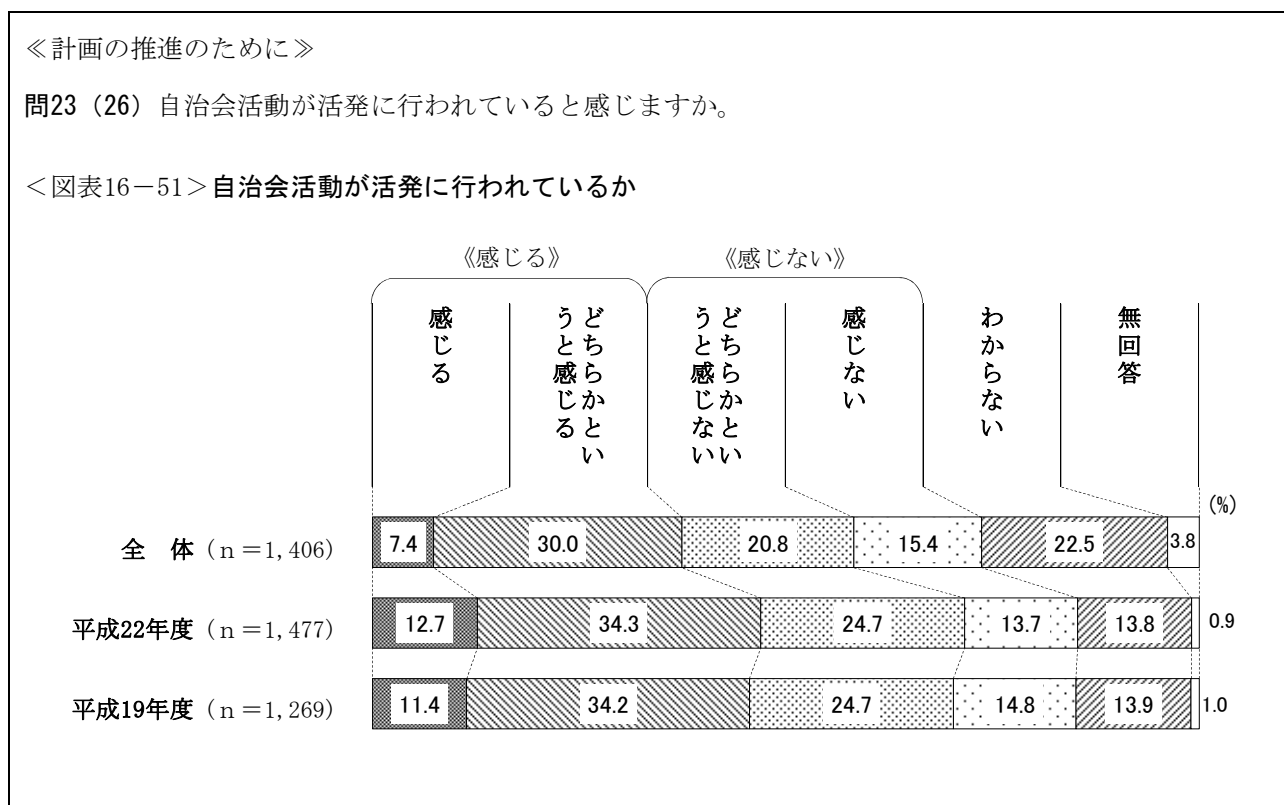
<図表16-50>性別・年齢別・職業別



(注) ※印は、調査数が少ないので参考として図示するに留め、文中では述べていない。

(26) 自治会活動が活発に行われているか

◇《感じる》が約4割



自治会活動が活発に行われていると感じるかは、「感じる」(7.4%)、「どちらかというと感じる」(30.0%)となっており、これらを合わせた、《感じる》(37.4%)は、約4割となっている。一方、「どちらかというと感じない」(20.8%)、「感じない」(15.4%)を合わせた、《感じない》(36.2%)は、3割台半ばとなっている。

過去の調査と比べると、《感じる》は、平成22年度から10ポイント低くなっている。(図表16-51)

【性別・年齢別・居住地域別】

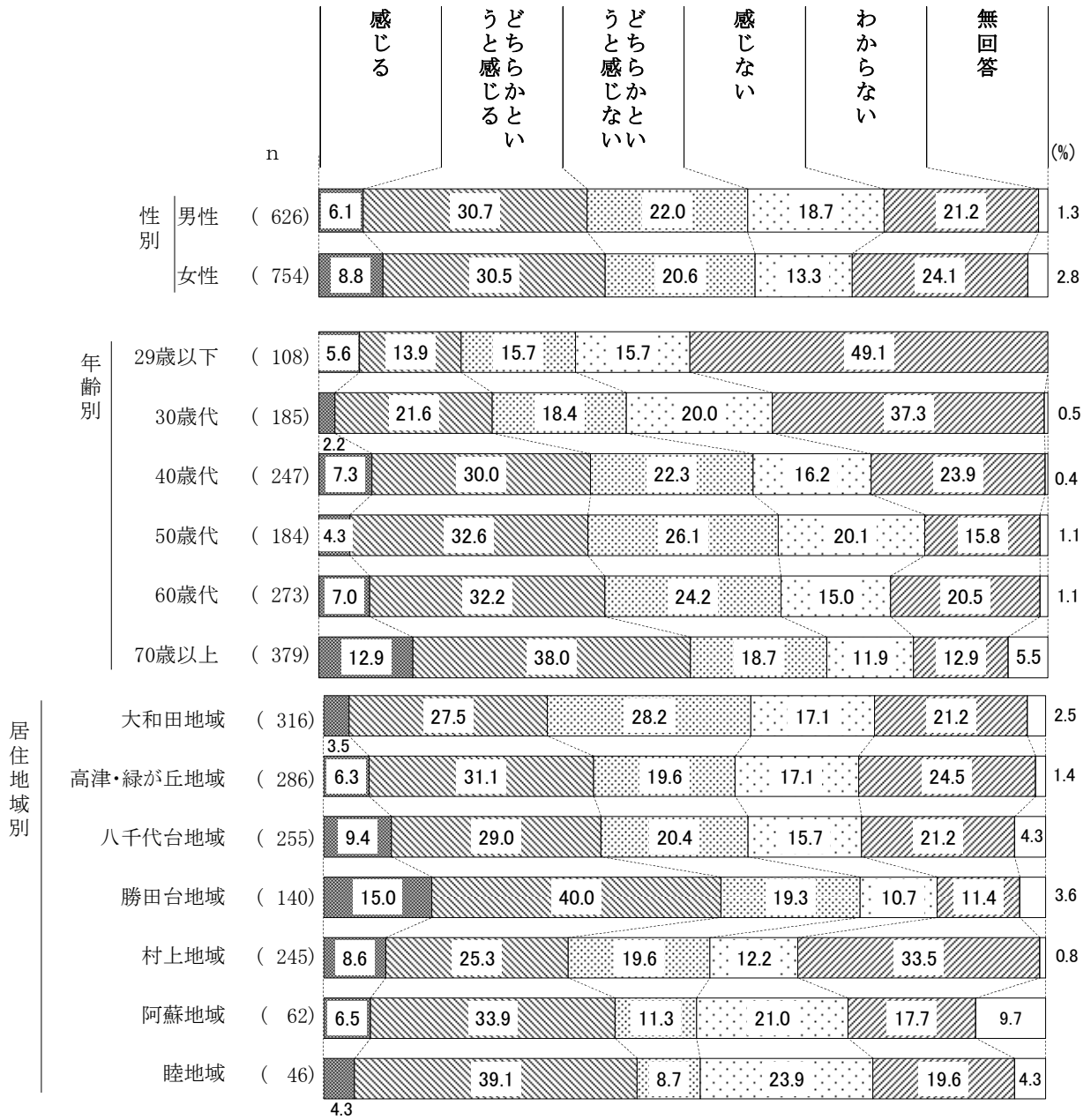
性別で見ると、《感じない》は、男性の方が女性よりも7ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、《感じる》は、70歳以上で5割と最も高く、次いで高い60歳代と比べても12ポイントの差がある。一方、《感じない》は、50歳代で4割台半ばと最も高くなっている。

居住地域別で見ると、《感じる》は、勝田台地域で5割台半ばと最も高く、最も低い大和田地域と比べると24ポイントの差がある。一方、《感じない》は、大和田地域で4割台半ばと最も高くなっている。

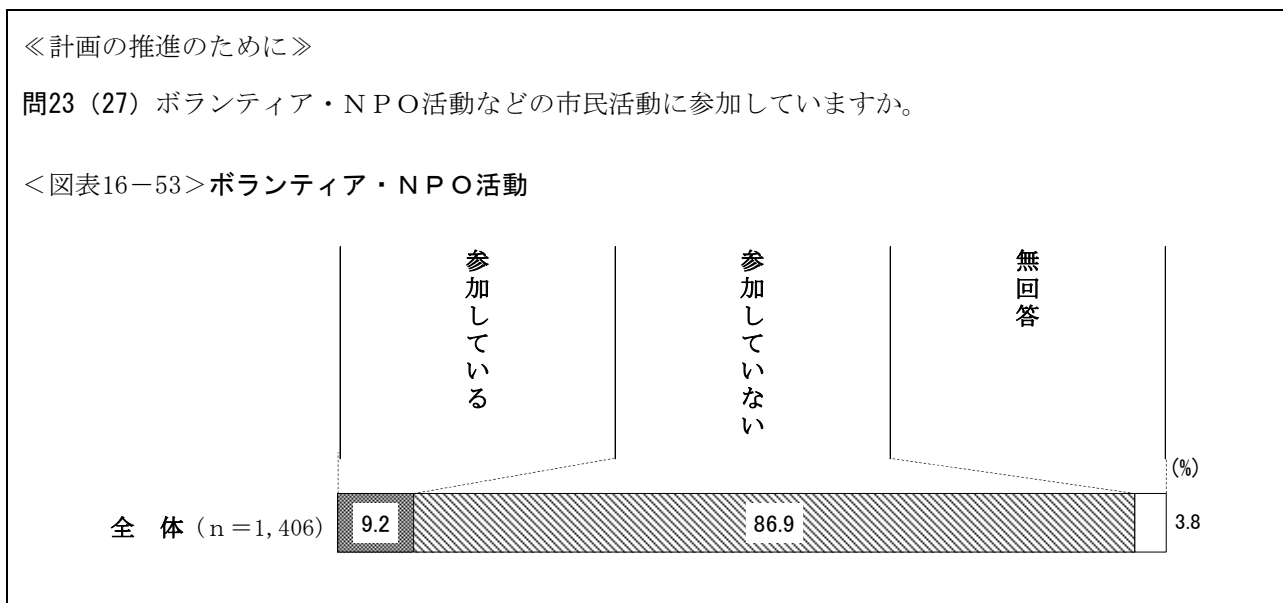
(図表16-52)

<図表16-52>性別・年齢別・居住地域別



(27) ボランティア・NPO活動

◇「参加していない」が8割台半ば



ボランティア・NPO活動は、「参加している」(9.2%)が約1割となっている。一方、「参加していない」(86.9%)は8割台半ばとなっている。(図表16-53)

【性別・年齢別・居住地域別】

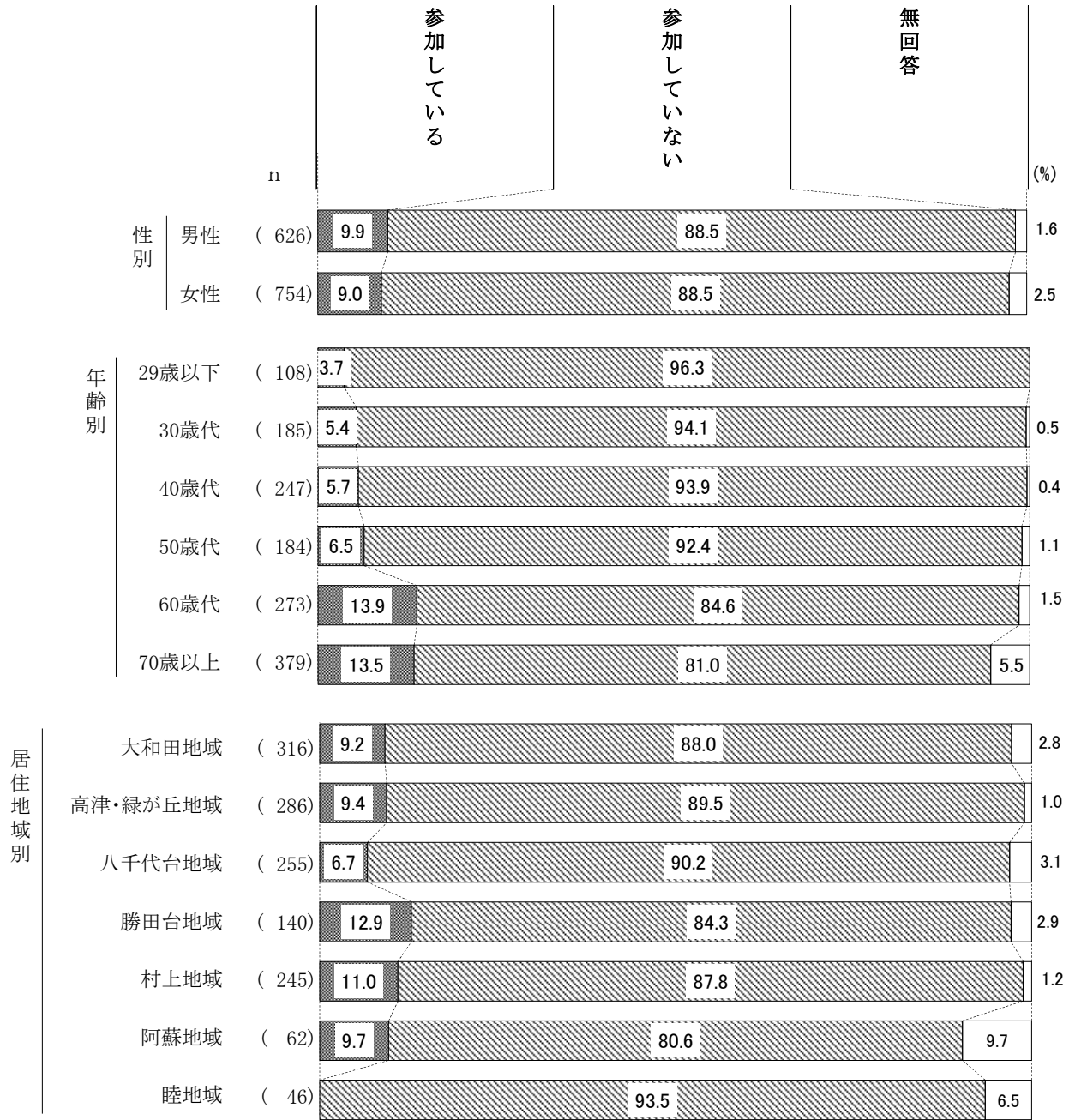
性別で見ると、男女で大きな差はみられない。

年齢別で見ると、「参加していない」は、50歳代以下で9割を超えて高くなっている。また、60歳以上でも8割を超えている。

居住地域別で見ると、「参加していない」は、睦地域で9割台半ばと最も高く、最も低い阿蘇地域と比べると13ポイントの差がある。

(図表16-54)

<図表16-54>性別・年齢別・居住地域別



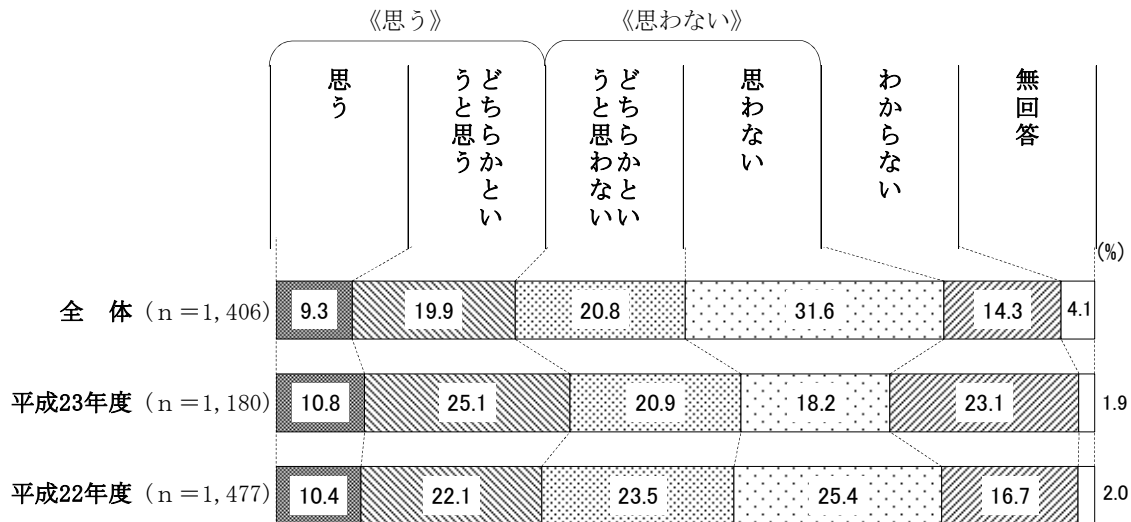
(28) 国際交流・協力

◇《思わない》が5割超え

《計画の推進のために》

問23 (28) 国際交流・協力に関する活動を行ってみたい、参加してみたいと思いますか。

<図表16-55> 国際交流・協力



国際交流・協力は、「思う」(9.3%)、「どちらかという思う」(19.9%)となっており、これらを合わせた、《思う》(29.2%)は、約3割となっている。一方、「どちらかという思わない」(20.8%)、「思わない」(31.6%)を合わせた、《思わない》(52.4%)は、5割を超えている。

過去の調査と比べると、《思う》は、平成23年度から7ポイント低くなっている。(図表16-55)

【性別・年齢別・居住地域別】

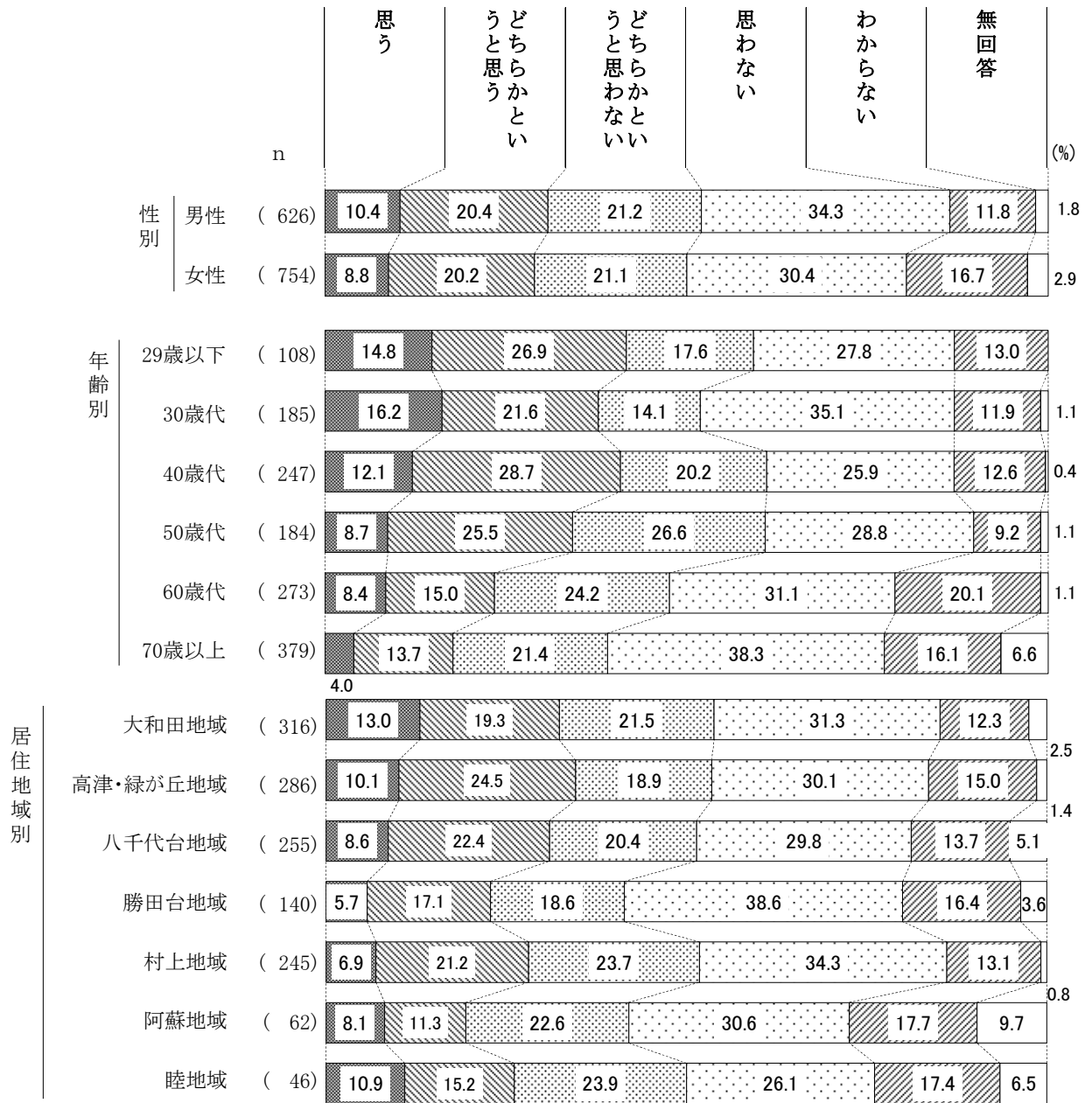
性別でみると、男女で大きな差はみられない。

年齢別でみると、《感じない》は、70歳以上で約6割と最も高く、次いで50歳代、60歳代で5割台半ばとなっている。29歳以下は4割台半ばと最も低くなっている。

居住地域別でみると、《思う》は、高津・緑が丘地域で3割台半ばと最も高く、次いで、大和田地域、八千代台地域で3割を超えている。一方、《思わない》は、村上地域、勝田台地域で約6割と高くなっている。

(図表16-56)

<図表16-56>性別・年齢別・居住地域別



17 回答者の地域について

お住まいの地区における、地域の課題やあなたが考える地域の将来像についてご自由にご記入ください。

地域の課題に対しては、591人から延べ798件の回答が得られた。ここでは、地域の課題を分類し、居住地域別で記載した。また、地域の将来像に対しては、373人から延べ485件の回答が得られた。なお、一人の回答が複数の内容にわたる場合には、複数回答としてそれぞれを各テーマに分類している。なお、具体的な内容については、別冊に全件の記述内容を掲載した。

<図表17-1>地域の課題（複数回答）

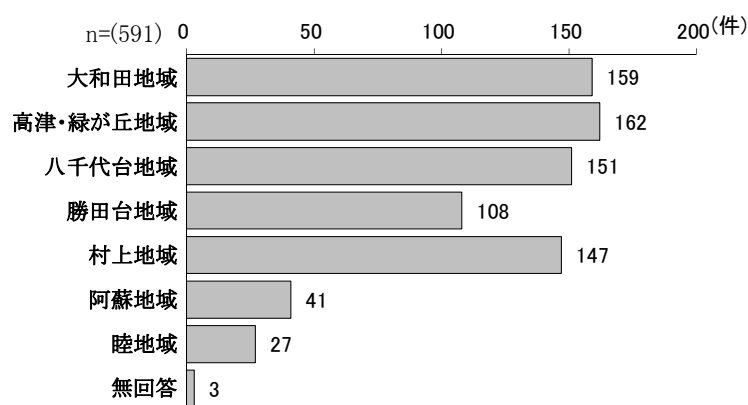
（件）

	大和田地域	高津・緑が丘	八千代台	勝田台地域	村上地域	阿蘇地域	睦地域	無回答	合計
《市政》	10	9	1	2	7	6	1	0	36
市の取組み全般	4	3	1	0	0	1	0	0	9
行財政改革	2	2	0	0	2	0	0	0	6
市役所職員の対応	2	1	0	0	0	0	0	0	3
広報	0	2	0	0	0	0	0	0	2
税金関連	2	1	0	1	1	1	1	0	7
国際化や国際交流	0	0	0	1	4	4	0	0	9
《地域福祉・保健医療》	7	11	10	7	13	2	1	0	51
子育て支援（保育所・幼稚園等を含む）	4	3	3	3	5	0	1	0	19
医療体制・医療機関	0	4	2	0	3	1	0	0	10
高齢者支援	3	1	4	4	5	1	0	0	18
福祉のまちづくり	0	3	1	0	0	0	0	0	4
《青少年・男女平等》	4	6	3	3	3	0	3	0	22
教育の施設と教育内容	4	6	2	3	2	0	3	0	20
青少年育成	0	0	1	0	1	0	0	0	2
《生涯学習・生涯スポーツ》	8	3	6	2	4	0	0	0	23
図書館、公民館、博物館など文化施設	5	1	3	1	3	0	0	0	13
スポーツ・レクリエーション活動施設	3	2	2	1	1	0	0	0	9
地域の文化、スポーツ活動	0	0	1	0	0	0	0	0	1
《環境》	27	24	17	21	20	6	4	0	119
ごみ対策	2	1	3	2	1	0	1	0	10
公園・緑地の整備	9	4	2	4	4	0	0	0	23
環境を守る人々の姿勢・マナー	9	7	9	7	10	5	0	0	47
自然環境保全	1	3	0	1	2	0	0	0	7
生活環境	6	9	3	6	3	1	3	0	31
リサイクル	0	0	0	1	0	0	0	0	1
《社会基盤・生活基盤》	83	87	92	63	73	18	18	2	436
道路の整備	26	25	24	9	18	0	7	0	109
電車やバスの利便性・要望	14	14	4	4	9	4	2	1	52
交通バリアフリー	2	3	5	1	0	0	1	0	12
防犯体制・設備	6	5	7	7	7	1	1	1	35
市街地形成	3	2	4	0	2	0	0	0	11
計画的な土地利用	0	1	0	0	0	0	0	0	1
駐車場・駐輪場対策	3	1	0	1	0	1	0	0	6
市内循環バス（ぐるっと号）	0	0	4	1	0	0	1	0	6
道路施設（歩道橋・ガードレール・信号機）	4	7	6	1	2	0	0	0	20
渋滞緩和	3	6	1	1	3	0	0	0	14
地域特性に応じた都市形成	0	0	1	0	1	0	0	0	2
防災体制	6	6	3	3	3	1	0	0	22
空き教室・空き店舗などの利用	1	0	1	0	0	0	0	0	2
高齢化したまちの活性化	0	0	2	0	0	0	0	0	2
安心して暮らせるまち・環境	2	3	0	0	1	3	1	0	10
子どもが外で安心して遊べる場所の確保	3	3	4	1	0	1	0	0	12
日常生活について（近所での買物等）	2	2	3	9	12	3	1	0	32
少子化・高齢化への不安	8	9	11	15	8	4	3	0	58
空家について	0	0	12	10	7	0	1	0	30

(件)

	大和田地域	高津・緑が丘地域	八千代台地域	勝田台地域	村上地域	阿蘇地域	睦地域	無回答	合計
《産業》	5	2	11	2	10	6	0	1	37
商業振興	4	2	10	1	9	4	0	0	30
失業者・就業希望者支援	1	0	1	0	1	1	0	1	5
農業振興	0	0	0	1	0	1	0	0	2
《地域活動》	11	12	10	6	10	2	0	0	51
地域活動の支援やボランティア活動	4	4	1	0	0	0	0	0	9
お祭り・イベント	2	0	0	0	1	0	0	0	3
地域の交流	5	8	9	5	9	2	0	0	38
地域の交流格差是正	0	0	0	1	0	0	0	0	1
《その他》	4	8	1	2	7	1	0	0	23
その他(個人的な所感や市への感謝など)	4	8	1	2	7	1	0	0	23
合計	159	162	151	108	147	41	27	3	798

<図表 17-2> 居住地域別件数分布 (複数回答)



<図表 17- 3 >地域の将来像（複数回答）

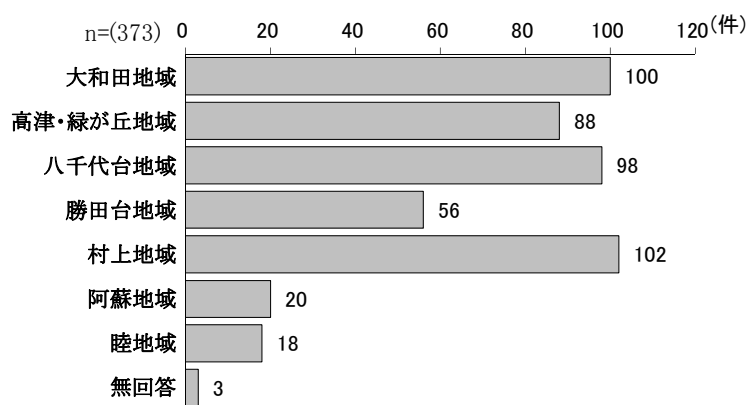
（件）

	大和 田地域	地高 津・ 緑が 丘	八千 代台 地域	勝 田台 地域	村 上地 域	阿蘇 地域	陸 地地 域	無 回 答	合 計
《市政》	6	5	3	1	1	0	0	0	16
市長への意見	3	4	3	1	1	0	0	0	12
市役所への意見	2	1	0	0	0	0	0	0	3
財政が健全な	1	0	0	0	0	0	0	0	1
《地域福祉・保健医療》	33	27	32	30	33	5	4	2	166
障害者・高齢者が住みやすい	2	1	1	1	8	1	0	0	14
安心して暮らせる	3	5	5	1	8	1	1	0	24
高齢化がすすむ	4	1	5	2	3	1	1	1	18
子どもから高齢者まで共存できる	7	5	7	6	4	1	0	0	30
安心して子育てできる	3	5	1	5	1	0	0	0	15
健康づくりを推進する	1	1	0	1	0	0	0	0	3
医療・福祉体制、サービスが充実した	9	3	4	3	2	0	0	1	22
若者が住みやすい（多い）	1	2	7	8	2	0	0	0	20
住みやすい	2	1	1	2	0	1	1	0	8
何世代にもわたって住み続けられる（住み続けたいと思う）	0	0	0	0	3	0	0	0	3
過疎化がすすむ	1	2	0	1	0	0	0	0	4
少子化	0	1	1	0	2	0	1	0	5
《青少年・男女平等》	5	7	4	2	4	1	0	0	23
教育環境にめぐまれた	1	1	1	0	1	0	0	0	4
子どもが住みやすい	4	6	3	2	3	1	0	0	19
《生涯学習・スポーツ活動》	0	0	0	0	1	0	0	0	1
スポーツ・レクリエーションが盛んな	0	0	0	0	1	0	0	0	1
《環境》	3	4	2	1	6	1	0	0	17
自然あふれる緑豊かな	3	4	2	1	6	1	0	0	17
《社会基盤・生活基盤》	31	33	30	13	29	4	7	0	147
事故・犯罪のない安全な	1	3	4	1	4	2	0	0	15
違法駐車・駐輪がない	0	1	0	0	0	0	0	0	1
交通機関が整備された利便性のよい	7	5	1	3	5	0	3	0	24
騒音や大気汚染など公害のない	0	0	0	0	1	0	0	0	1
住環境が整備された住みやすい	7	3	7	7	1	1	1	0	27
道路・歩道が整備された	6	13	7	1	8	0	2	0	37
ごみ置場などが整備された	0	1	0	0	0	0	0	0	1
交通バリアフリーが進んだ	2	0	0	0	0	0	0	0	2
防犯体制が整った	1	2	1	0	1	0	0	0	5
公共施設・サービスが充実した	6	5	9	1	6	1	1	0	29
災害対策がなされている	1	0	1	0	3	0	0	0	5
《産業》	6	1	16	0	10	2	0	0	35
地域の商店街など活気のある	5	0	14	0	5	2	0	0	26
商業施設がある（今より増える）	1	1	2	0	5	0	0	0	9

(件)

	大和田地域	高津・緑が丘地域	八千代台地域	勝田台地域	村上地域	阿蘇地域	陸地域	無回答	合計
《地域活動》	8	2	6	2	9	3	1	1	32
地域住民の交流を大切にする（住民同士が助け合える）	7	2	6	2	6	3	1	0	27
外国人との交流が活発な	1	0	0	0	3	0	0	1	5
《否定的な意見》	4	2	1	2	2	2	1	0	14
希望が持てない	2	1	1	1	1	1	0	0	7
今と変わらない（ずっとこのまま）	1	0	0	1	1	1	1	0	5
特にない	1	0	0	0	0	0	0	0	1
わからない	0	1	0	0	0	0	0	0	1
《その他》	4	7	4	5	7	2	5	0	34
愛着が持てる	1	0	0	0	1	0	0	0	2
観光地化した	0	0	0	0	1	0	0	0	1
その他（個人的な所感等）	3	7	4	5	5	2	5	0	31
合計	100	88	98	56	102	20	18	3	485

<図表17-4> 居住地域別件数分布（複数回答）



18 自由回答

◆市へのご意見や要望，まちづくりについてのアイデア等があればご自由にご記入ください。
 (例：商店街の活性化，商業・産業施設の誘致，スポーツ活動や健康増進，文化・芸術活動の促進，雇用・就労の促進，子育て支援の対策，美しい景観・住環境整備対策，税収を増やす施策，公共施設の複合化に関することなど)

市への意見や要望に対しては，543人から延べ908件の回答が得られた。ここでも，「17 回答者の地域について」と同様に，意見や要望を分類し，居住地域別で記載した。

一人の回答の内容が複数の内容にわたる場合には，複数回答として，それぞれを各テーマに分類している。

なお，具体的な内容については，別冊に全件の記述内容を掲載した。

<図表18-1>意見や要望（複数回答）

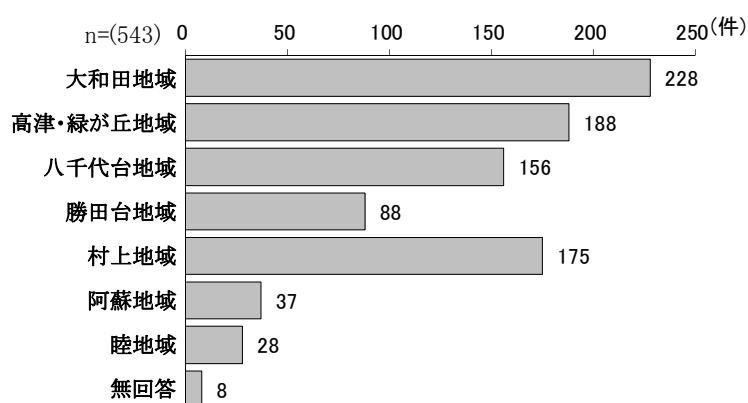
(件)

	大和田地域	高津・緑が丘地域	八千代台地域	勝田台地域	村上地域	阿蘇地域	睦地域	無回答	合計
《市政》	50	36	29	11	32	9	5	3	175
市の取組み全般	14	8	11	4	7	0	0	1	45
企業・病院の誘致	3	1	0	0	3	1	0	0	8
行財政改革	13	9	2	3	5	5	1	0	38
市役所職員の対応・窓口サービス	2	5	4	0	4	0	1	2	18
広報	2	2	3	1	4	1	1	0	14
税金関連	6	2	3	1	5	1	2	0	20
国際化や国際交流	3	0	2	1	1	0	0	0	7
情報化	0	0	1	0	1	1	0	0	3
市長	3	4	3	1	1	0	0	0	12
情報公開	4	5	0	0	1	0	0	0	10
《地域福祉・保健医療》	27	20	16	7	13	8	6	1	98
子育て支援（保育所・幼稚園等を含む）	13	7	10	7	4	3	3	1	48
医療体制・医療機関	6	6	2	0	3	1	1	0	19
高齢者支援	3	1	2	0	4	3	0	0	13
福祉のまちづくり	3	4	2	0	2	1	2	0	14
障害者支援	2	1	0	0	0	0	0	0	3
低所得者支援	0	1	0	0	0	0	0	0	1
《青少年・男女平等》	6	6	6	2	7	1	2	0	30
教育の施設と教育内容	4	5	5	2	5	1	2	0	24
青少年育成	1	1	1	0	2	0	0	0	5
男女平等参画	1	0	0	0	0	0	0	0	1
《生涯学習・生涯スポーツ》	44	23	17	16	29	3	2	2	136
図書館、公民館、博物館など文化施設	21	10	11	10	16	1	0	2	71
スポーツ・レクリエーション活動施設	13	8	2	3	11	2	2	0	41
地域の文化・スポーツ活動	10	5	4	3	2	0	0	0	24
《環境》	11	14	9	10	9	5	2	0	60
ごみ対策	4	1	3	1	0	1	0	0	10
公園・緑地の整備	3	5	1	3	4	2	1	0	19
環境を守る人々の姿勢・マナー	0	0	1	2	2	0	0	0	5
自然環境保全	2	1	0	0	1	1	0	0	5
生活環境	2	6	4	4	2	1	1	0	20
リサイクル	0	1	0	0	0	0	0	0	1

(件)

	大和田地域	地高 域津 ・緑 が丘	八千 代台 地域	勝 田台 地域	村 上地 域	阿蘇 地域	睦 地域	無 回 答	合 計
《社会基盤・生活基盤》	51	56	47	23	35	6	6	0	224
道路の整備	12	16	11	5	9	0	2	0	55
電車やバスの利便性・要望	8	14	6	1	4	3	0	0	36
交通バリアフリー	2	1	3	2	1	0	0	0	9
防犯体制・設備	4	4	3	2	4	1	0	0	18
市街地形成	7	7	15	6	8	1	0	0	44
計画的な土地利用	3	3	2	0	0	0	0	0	8
駐車場・駐輪場対策	1	0	2	2	3	0	0	0	8
市内循環バス（ぐるっと号）	0	0	0	0	1	0	2	0	3
道路施設（歩道橋・ガードレール・信号機）	3	5	1	2	2	0	0	0	13
渋滞緩和	2	2	3	1	1	0	2	0	11
水道水の供給	1	0	0	0	0	0	0	0	1
下水道設備	0	0	0	1	0	0	0	0	1
防災体制	8	4	1	1	2	1	0	0	17
《産業》	8	13	14	7	18	2	1	1	64
商業振興	5	6	8	5	15	1	1	0	41
失業者・就業希望者支援	2	5	5	2	2	1	0	1	18
農業振興	1	2	1	0	1	0	0	0	5
《地域活動》	27	8	8	10	15	1	2	0	71
地域活動の支援やボランティア活動	4	2	1	3	4	0	0	0	14
お祭り・イベント	23	6	7	7	11	1	2	0	57
《その他》	4	12	10	2	17	2	2	1	50
市以外の公共機関への要望等	0	0	1	0	1	0	0	0	2
アンケート	2	5	6	2	4	0	1	1	21
合併	0	1	0	0	1	0	0	0	2
老朽化した施設への対応（市役所等）	0	1	3	0	4	0	0	0	8
その他（個人的な所感や市への感謝等）	2	5	0	0	7	2	1	0	17
合計	228	188	156	88	175	37	28	8	908

<図表 18-2> 居住地域別件数分布（複数回答）



第10回八千代市市民意識調査

報 告 書

平成28年3月

発行 八千代市総務企画部総合企画課
〒276-8501 八千代市大和田新田 312-5
電話 047 (483) 1151 (代表)